

LIFEBOOK

取扱説明書

スタートガイド
活用ガイド

FUJITSU

サポート情報のご案内

紙
マニュアル

『取扱説明書＜スタートガイド＞』(本書)

本製品を使い始めるために必要な情報を中心に説明しています。

※お使いの機種により、これ以外にもマニュアルや重要なお知らせなどの紙・冊子類があります。

電子
マニュアル

インターネットに接続してください

『取扱説明書＜スタートガイド＞＜活用ガイド＞』

本書の内容に加え、本製品の取り扱い方法や、設定の変更方法などを説明しています。

『Windows 10 基本操作 クイックガイド』

Windows 10 の基本的な操作や、詳しい操作・便利な使い方などを紹介します。

※お使いの機種により、上記以外の電子マニュアルが用意されている場合があります。

電子マニュアルの参照方法については「マニュアルの表記」をご覧ください。



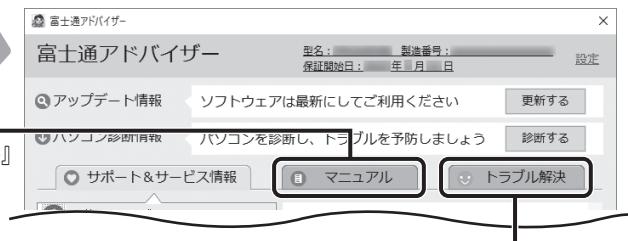
「富士通アドバイザー」からご覧ください。

デスクトップ画面の「富士通アドバイザー」のアイコンをダブルクリックします。

『取扱説明書 ＜スタートガイド＞＜活用ガイド＞』

『Windows 10 基本操作 クイックガイド』

クリックし、「トラブル解決」の一覧が表示されたら、「Windows 10 基本操作 クイックガイド」をクリックしてください。



FMV
サポート

インターネットに接続してください

サポートページ <http://azby.fmworld.net/support/>

FMVに関するQ&A事例や活用情報など、「知りたい・困った」ときに役立つ情報を提供しています。

このページの上部の入力欄に、知りたいことや困ったことに関連するキーワードやQ&Aナンバーを入力して「検索」ボタンをクリックします。

さまざまな使い方のご提案
「パソコン活用情報」

「富士通アドバイザー」の「サポート&サービス情報」タブからサポートページを開くこともできます。

豊富な「Q&A」で
トラブルを解決!

(この画面は、改善のために予告なく変更することがあります。あらかじめご了承ください。)

目次

スタートガイド

| | |
|------------------------|----|
| このパソコンをお使いになる前に | 7 |
| マニュアルの表記 | 10 |
| 安全上のご注意 | 13 |
| 取り扱い上のご注意 | 17 |
| パソコンの使用環境についての注意 | 17 |
| パソコンの取り扱いについての注意 | 18 |
| 疲れにくい使い方 | 19 |
| 各部の名称について | 20 |

セットアップする

| | |
|---|----|
| セットアップの流れを確認する | 21 |
| パソコンの準備をする | 22 |
| Windows のセットアップをする | 23 |
| インターネットに接続する | 29 |
| 有線 LAN でインターネットに接続する（有線 LAN コネクタ搭載機種または LAN 変換ケーブル／アダプタ対応機種のみ） | 29 |
| 無線 LAN でインターネットに接続する（無線 LAN 搭載機種のみ） | 29 |
| Microsoft アカウントに切り替える | 33 |
| Microsoft アカウントとは | 33 |
| Microsoft アカウント切り替え方法 | 33 |
| 「はじめに行う設定」で初期設定する | 39 |
| この後の使い方 | 46 |
| 『取扱説明書＜活用ガイド＞』を読む | 46 |
| 「富士通アドバイザー」を活用する | 47 |
| 回復ドライブを作成する | 49 |
| バックアップをとる | 50 |
| 『ソフ得』ソフト使い放題 | 50 |
| 動画でこのパソコンの使い方を学ぶ | 51 |

困ったときは

| | |
|----------------------------------|----|
| メールや Office で困ったときは | 52 |
| ウイルス対策アプリなどで困ったときは | 53 |
| マカフィー リブセーフのお問い合わせ先 | 53 |
| その他のアプリのお問い合わせ先 | 53 |
| よくあるトラブルと解決方法 | 55 |
| トラブルが発生した場合、まず次の点を確認してください | 55 |
| 起動・終了時のトラブル | 55 |
| ディスプレイのトラブル | 56 |
| 他のトラブル解決方法を参照する | 57 |
| インターネット上のサポートページを使う | 57 |
| 「富士通ハードウェア診断ツール」を使う | 57 |
| パソコンを以前の状態に戻す | 58 |

| | |
|-----------------------------------|----|
| 富士通の窓口に相談する | 59 |
| お問い合わせ窓口のご紹介 | 59 |
| 修理を申し込む前の準備 | 60 |
| 修理の申し込み | 61 |
| お引き取りとお届け（パソコン修理便） | 62 |
| 修理状況の確認 | 62 |
| その他の修理サービスのご案内 | 62 |
| パソコンの状態を回復する | |
| パソコンの状態を回復するとは | 63 |
| このPCを初期状態に戻す機能 | 63 |
| このPCを初期状態に戻す準備 | 64 |
| このPCを初期状態に戻すうえでの注意 | 64 |
| 作業中に起こる可能性のあるトラブルの解決方法 | 64 |
| このPCを初期状態に戻す | 65 |
| このパソコンに保存されたデータを使う | 65 |
| 回復ドライブを使う | 66 |
| リカバリUSBメモリを購入してリカバリする | 67 |
| こんなときは | |
| インターネットを安心してお使いいただくには | 68 |
| 青少年によるインターネット上の有害サイトへのアクセス防止について | 68 |
| パソコンの電源を完全に切るには | 68 |
| 起動メニューの表示のしかた | 68 |
| 富士通パソコンを廃棄・リサイクルするときは | 69 |
| PCリサイクルマークについて | 69 |
| パソコンの廃棄・譲渡時のハードディスク上のデータ消去に関するご注意 | 69 |
| 付属品の廃棄について | 69 |
| 液晶ディスプレイが添付または内蔵されている機種をお使いのお客様へ | 70 |
| 海外でノートパソコンを修理するときは | 70 |
| 仕様一覧 | |
| パソコン本体の主な仕様 | 72 |
| 仕様一覧の注記について | 73 |
| 富士通パーソナルコンピュータ修理規定 | 74 |

活用ガイド

各部の名称と働き

| | |
|-----------|----|
| パソコン本体前面 | 77 |
| パソコン本体右側面 | 79 |
| パソコン本体左側面 | 80 |
| パソコン本体下面 | 81 |
| 状態表示 LED | 82 |
| キーボード | 83 |

取り扱い

| | |
|-----------------------------|-----|
| Windows をスタートする／終了する | 85 |
| Windows をスタートする | 85 |
| Windows を終了する | 86 |
| 電源ランプの状態 | 86 |
| スリープにする／復帰させる | 86 |
| スリープにするときの注意 | 86 |
| スリープにする | 86 |
| スリープから復帰する | 87 |
| バッテリ | 87 |
| バッテリの充電 | 87 |
| 充電状態や残量の確認 | 87 |
| バッテリパックの取り扱い上の注意 | 88 |
| 内蔵バッテリパックの交換方法 | 89 |
| フラットポイント | 90 |
| フラットポイントをお使いになるうえでの注意 | 90 |
| フラットポイントの基本的な使い方 | 91 |
| タッチ機能 | 92 |
| タッチ機能をお使いになるうえでの注意 | 92 |
| タッチ機能を使う | 92 |
| 音量 | 94 |
| 画面の明るさ | 95 |
| 光学ドライブ | 96 |
| 著作物の録音や複製に関する注意 | 96 |
| ディスクをお使いになるうえでの注意 | 96 |
| ディスクを再生するうえでの注意 | 96 |
| ディスクに書き込み／書き換えをするうえでの注意 | 97 |
| 使えるディスク／使えないディスク | 98 |
| ディスクをパソコンにセットする／取り出す | 100 |
| ディスクをフォーマットする | 101 |
| メモリーカード | 102 |
| お使いになるうえでの注意 | 102 |
| 使えるメモリーカード | 103 |
| メモリーカードを差し込む／取り出す | 103 |
| モバイル・マルチベイユニット | 104 |
| モバイル・マルチベイユニットをお使いになるうえでの注意 | 104 |
| 使えるモバイル・マルチベイユニット | 105 |
| モバイル・マルチベイユニットの交換方法 | 105 |
| フォーマットする | 106 |
| 周辺機器の取り扱い | 107 |
| 周辺機器の取り扱い上の注意 | 107 |

| | |
|---------------------------------------|-----|
| 電源オフ USB 充電機能 | 108 |
| 電源オフ USB 充電機能とは | 108 |
| 電源オフ USB 充電機能をお使いになるうえでの注意 | 108 |
| メモリ | 108 |
| メモリの組み合わせを確認する | 108 |
| メモリの取り扱い上の注意 | 108 |
| 必要なものを用意する | 109 |
| メモリの取り付け／取り外し | 110 |
| メモリ容量を確認する | 111 |
| お手入れ | 111 |
| パソコン本体、キーボードのお手入れ | 111 |
| 液晶ディスプレイのお手入れ | 112 |
| 光学ドライブのお手入れ | 112 |
| バックアップ | |
| バックアップガイド | 113 |
| バックアップガイドの使い方 | 113 |
| ファイル履歴を有効にしてバックアップ／管理／復元する | 114 |
| バックアップ／復元できる項目 | 114 |
| ファイル履歴の注意事項 | 114 |
| ファイル履歴のバックアップ／管理／復元方法 | 114 |
| システムイメージバックアップ | 115 |
| システムイメージバックアップの注意事項 | 115 |
| システムイメージをバックアップする場所 | 116 |
| システムイメージをバックアップ／復元する | 116 |
| システムイメージを削除する | 116 |
| 使いこなすために | |
| 搭載されているアプリを使う (@メニュー) | 117 |
| 「@メニュー」の使い方 | 117 |
| My Cloud プレイを活用する | 117 |
| 「My Cloud プレイ」でできること | 118 |
| 「My Cloud プレイ」を使う | 119 |
| 「My Cloud プレイ」のすべての機能を使う | 119 |
| F-LINK Neo | 120 |
| 「F-LINK Neo」をお使いになるうえでの注意 | 120 |
| ワンタッチプライバシー | 121 |
| 「ワンタッチプライバシー」の初期設定をする | 121 |
| Windows Hello | 121 |
| Windows Hello を使って指紋認証でサインインする | 121 |
| Cortana (コルタナ) | 123 |
| Cortana をお使いになる前に | 123 |
| Cortana を使う | 125 |
| i- フィルター | 126 |
| スリープ／休止状態 | 127 |
| スリープ／休止状態とは | 127 |
| スリープ／休止状態にするうえでの注意 | 127 |
| ディスプレイの電源を切る、スリープになるまでの時間を変更する | 128 |
| スリープ／休止状態の設定変更 | 128 |

| | |
|-------------------------------|-----|
| 節電 | 131 |
| ピークシフト設定 | 131 |
| 省電力モード | 131 |
| バッテリーユーティリティ - ECO Sleep | 131 |
| バッテリーユーティリティ - 満充電量の設定 | 132 |
| ステータスパネルスイッチ | 132 |
| 「ステータスパネルスイッチ」をお使いになるうえでの注意 | 132 |
| 「ステータスパネルスイッチ」の使い方 | 133 |
| 各モードの設定を変更する | 133 |
| フラットポイント | 134 |
| フラットポイントでできる機能 | 134 |
| フラットポイントの設定を変更する | 136 |
| フラットポイントの有効／無効の切り替え | 138 |
| ディスプレイ | 139 |
| 解像度と発色数についての注意 | 139 |
| パソコン本体の液晶ディスプレイに表示できる解像度と発色数 | 139 |
| 外部ディスプレイやデジタルテレビの接続 | 139 |
| 外部ディスプレイやデジタルテレビに表示できる解像度と発色数 | 141 |
| 画面の解像度の変更 | 142 |
| 表示するディスプレイの切り替え | 144 |
| ディスプレイ省電テクノロジー設定 | 147 |
| Miracast を使う | 148 |
| サウンド | 150 |
| 再生時／録音時のサウンドを調節する | 150 |
| 兼用端子の機能切り替え | 154 |
| 通信 | 155 |
| 有線 LAN | 155 |
| 無線 LAN | 156 |
| Bluetooth ワイヤレステクノロジー | 161 |
| 無線通信機能の電波を発信する／停止する | 164 |
| アプリ | 165 |
| Windows ユニバーサル アプリ | 165 |
| デスクトップアプリ | 166 |
| BIOS の設定 | 168 |
| BIOS セットアップの操作 | 168 |
| BIOS のパスワード機能 | 171 |
| BIOS が表示するメッセージ一覧 | 174 |
| BitLocker ドライブ暗号化 | 176 |
| 「回復キー」の保管 | 176 |
| 修理をするときの注意事項 | 176 |

スタートガイド

本製品を使い始めるために必要な情報を中心に説明しています。

※スタートガイドの内容は、添付の『取扱説明書<スタートガイド>』と同じです。

ただし、最新の内容に更新されている場合があります。

本製品の取り扱い方法など、さらに詳しい説明は、「活用ガイド」(→ P.76) をご覧ください。

| | |
|--------------------|----|
| セットアップする | 21 |
| 困ったときは | 52 |
| パソコンの状態を回復する | 63 |
| こんなときは | 68 |
| 仕様一覧 | 72 |

このパソコンをお使いになる前に

安全にお使いいただくために

このマニュアルには、本製品を安全に正しくお使いいただくための重要な情報が記載されています。本製品をお使いになる前に、このマニュアルを熟読してください。特に、「安全上の注意」をよくお読みになり、理解されたうえで本製品をお使いください。
また、このマニュアルは、本製品の使用中にいつでもご覧になれるよう大切に保管してください。

保証書について

- 保証書は、必ず必要事項を記入し、内容をよくお読みください。その後、大切に保管してください。
- 修理を依頼される場合には、必ず保証書をご用意ください。
- 保証期間内に、正常な使用状態で故障した場合は、無料で修理いたします。
- 保証期間内でも、保証書の提示がない場合や、天災あるいは無理な使用による故障の場合などには、有料での修理となります。ご注意ください（詳しくは、保証書をご覧ください）。
- 修理後は、本製品の内容が修理前とは異なり、ご購入時の状態や、何も入っていない状態になっている場合があります。大切なデータは、バックアップをおとりください。
- 本製品の補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）の最低保有期間は、製造終了後 6 年間です。

使用許諾契約書（ライセンス条項）

本製品にインストール、または添付されているソフトウェアをご使用いただく権利をお客様に対して許諾するにあたり、ご同意いただくことを使用の条件とさせていただいている「ソフトウェアの使用条件」は、本製品内に格納しています。

セットアップ時にご同意いただいた後に再度ご覧になりたい場合は、ファイルの検索で「OEMEULA.rtf」を検索してください。

ただし、本ソフトウェアのうち、Windows ストア アプリについては、本契約は適用されず、Microsoft 社所定の標準アプリケーションライセンス条項が適用されます。なお、Microsoft 社所定の標準アプリケーションライセンス条項に加えて、個別の追加条件が適用される場合があります。

データのバックアップについて

本製品に記録されたデータ（基本ソフト、アプリケーションソフトも含む）の保全については、お客様ご自身でバックアップなどの必要な対策を行ってください。また、修理を依頼される場合も、データの保全については保証されませんので、事前にお客様ご自身でバックアップなどの必要な対策を行ってください。

データが失われた場合でも、弊社ではいかなる理由においても、それに伴う損害やデータの保全・修復などの責任を一切負いかねますのでご了承ください（大切なデータは日ごろからバックアップをとられることをお勧めします）。

液晶ディスプレイの特性について

- 液晶ディスプレイは非常に精度の高い技術で作られておりますが、画面の一部に点灯しないドットや、常時点灯するドットが存在する場合があります（有効ドット数の割合は 99.99% 以上です。有効ドット数の割合とは「対応するディスプレイの表示しうる全ドット数のうち、表示可能なドット数の割合」を示しています）。これらは故障ではありません。交換・返品はお受けいたしかねますのであらかじめご了承ください。
- 本製品で使用している液晶ディスプレイは、製造工程により、各製品で色合いが異なる場合があります。また、温度変化などで多少の色むらが発生する場合があります。これらは故障ではありませんので、あらかじめご了承ください。
- 長時間同じ表示を続けると残像となることがありますが故障ではありません。残像は、しばらく経つと消えます。この現象を防ぐためには、省電力機能を使用してディスプレイの電源を切るか、スクリーンセーバーの使用をお勧めします。
- 表示する条件によってはムラおよび微少な斑点が目立つことがありますが故障ではありません。

本製品のハイセイフティ用途での使用について

本製品は、一般事務用、パーソナル用、家庭用、通常の産業用などの一般的用途を想定したものであり、ハイセイフティ用途での使用を想定して設計・製造されたものではありません。

お客様は、当該ハイセイフティ用途に要する安全性を確保する措置を施すことなく、本製品を使用しないでください。

ハイセイフティ用途とは、以下の例のような、極めて高度な安全性が要求され、仮に当該安全性が確保されない場合、直接生命・身体に対する重大な危険性を伴う用途をいいます。

- 原子力施設における核反応制御、航空機自動飛行制御、航空交通管制、大量輸送システムにおける運行制御、生命維持のための医療用機器、兵器システムにおけるミサイル発射制御など

有寿命部品について

- ・本製品には、有寿命部品が含まれています。有寿命部品は、使用時間の経過に伴って摩耗、劣化等が進行し、動作が不安定になる場合がありますので、本製品をより長く安定してお使いいただくためには、一定の期間で交換が必要となります。
- ・有寿命部品の交換時期の目安は、使用頻度や使用環境等により異なりますが、1日約8時間、1ヶ月に25日のご使用で約5年です。なお、この期間はあくまでも目安であり、この期間内に故障しないことをお約束するものではありません。また、長時間連続使用等、ご使用状態によっては、この目安の期間よりも早期に部品交換が必要となる場合があります。
- ・本製品に使用しているアルミニウム電解コンデンサは、寿命が尽きた状態で使用し続けると、電解液のもれや枯渇が生じ、異臭の発生や発煙の原因となる場合がありますので、早期の交換をお勧めします。
- ・摩耗や劣化等により有寿命部品を交換する場合は、保証期間内であっても有料となります。なお、有寿命部品の交換は、当社の定める補修用部品単位での修理による交換となります。
- ・本製品をより長く安定してお使いいただくために、省電力機能の使用をお勧めします。また、一定時間お使いにならない場合は電源をお切りください。

＜主な有寿命部品一覧＞

液晶ディスプレイ、ハードディスクドライブ、フラッシュメモリディスク、光学ドライブ、キーボード、マウス、ACアダプタ、ファン

消耗品について

- ・バッテリパックや乾電池等の消耗品は、その性能／機能を維持するために適時交換が必要となります。なお、交換する場合は、保証期間の内外を問わずお客様ご自身での新品購入ならばに交換となります。
- ・一般的にバッテリパックは、300～500回の充放電で寿命となります。(温度条件や使用環境によって異なります。)

24時間以上の連続使用について

本製品は、24時間以上の連続使用を前提とした設計にはなっておりません。

この装置は、クラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

VCCI-B

本製品に接続するLANケーブルはシールドされたものでなければなりません。

本製品は、国内での使用を前提に作られています。海外での使用につきましては、お客様の責任で行っていただくようお願いいたします。

無線LANについて

2.4 DS/OF 4



- ・上記表示の2.4GHz帯を使用している無線設備は、全帯域を使用し、かつ移動体識別装置の帯域を回避可能です。変調方式としてDSSS変調方式およびOFDM変調方式を採用しており、与干涉距離は40mです。
- ・本製品の使用周波数帯では、電子レンジ等の産業・科学・医療用機器のほか工場の製造ライン等で使用されている移動体識別用の構内無線局(免許を要する無線局)および特定小電力無線局(免許を要しない無線局)が運用されています。
 - (1) 本製品を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局及び特定小電力無線局が運用されていないことを確認してください。
 - (2) 万一、本製品から移動体識別用の構内無線局に対して電波干渉の事例が発生した場合には、速やかに電波の発射を停止した上、下記の連絡先にご連絡頂き、混信回避のための処置等(例えは、パーティションの設置など)についてご相談してください。
 - (3) その他、本製品から移動体識別用の特定小電力無線局に対して電波干渉の事例が発生した場合など何かお困りのことが起きたときは、次の連絡先へお問い合わせください。
連絡先：「富士通パーソナル製品に関するお問い合わせ窓口」
- ・本製品は、日本国内での無線規格に準拠し、認定を取得しています。日本国内でのみお使いいただけます。また、海外でご使用になると罰せられることがあります。
- ・パソコン本体と通信相手の機器との推奨する最大通信距離は、IEEE 802.11a準拠では見通し半径15m以内、IEEE 802.11b準拠、IEEE 802.11g準拠では見通し半径25m以内、IEEE 802.11n準拠、IEEE 802.11ac準拠では見通し半径50m以内となります。ただし、無線LANの特性上、ご利用になる建物の構造・材質、障害物、ソフトウェア、設置状況、電波状況等の使用環境により通信距離は異なります。また、通信速度の低下や通信不能となる場合もありますのであらかじめご了承ください。
- ・IEEE 802.11g準拠とIEEE 802.11b準拠の無線LANの混在環境においては、IEEE 802.11g準拠はIEEE 802.11b準拠との互換性をとるため、IEEE 802.11g準拠本来の性能が出ない場合があります。IEEE 802.11g準拠本来の性能が必要な場合は、IEEE 802.11g準拠とIEEE 802.11b準拠を別のネットワークにし、使用しているチャンネルの間隔を5チャンネル以上あけてお使いください。
- ・本製品に内蔵の無線LANを5.2/5.3GHz帯でご使用になる場合、電波法の定めにより屋外ではご利用になれません。
- ・航空機内の使用は、事前に各航空会社へご確認ください。

Bluetooth® ワイヤレステクノロジーについて

2.4 FH8

- 上記表示の 2.4GHz 帯を使用している無線設備は、全帯域を使用し、かつ移動体識別装置の帯域を回避不可です。変調方式として FHSS 変調方式を採用しており、与干渉距離は 80m です。
- 本製品の使用周波数帯では、電子レンジ等の産業・科学・医療用機器のほか工場の製造ライン等で使用されている移動体識別用の構内無線局（免許を要する無線局）および特定小電力無線局（免許を要しない無線局）が運用されています。
 - （1）本製品を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局および特定小電力無線局が運用されていないことを確認してください。
 - （2）万一、本製品から移動体識別用の構内無線局に対して電波干渉の事例が発生した場合には、速やかに電波の発射を停止した上、下記の連絡先にご連絡頂き、混信回避のための処置等（例えば、パーティションの設置など）についてご相談してください。
 - （3）その他、本製品から移動体識別用の特定小電力無線局に対して電波干渉の事例が発生した場合など何かお困りのことが起きたときは、次の連絡先へお問い合わせください。
連絡先：「富士通パーソナル製品に関するお問い合わせ窓口」
- 本製品は、日本国内でのみ無線規格に準拠し、認定を取得しています。日本国内でのみお使いいただけます。また、海外でご使用になると罰せられることがあります。
- パソコン本体と通信相手の機器との推奨する最大通信距離は、見通し半径 10m 以内です。
ただし、Bluetooth ワイヤレステクノロジーの特性上、ご利用になる建物の構造・材質、障害物、ソフトウェア、設置状況、電波状況等の使用環境により通信距離は異なります。また、通信速度の低下や通信不能となる場合もありますのであらかじめご了承ください。
- 航空機内の使用は、事前に各航空会社へご確認ください。

本製品は、社団法人電子情報技術産業協会の定めたパーソナルコンピュータの瞬時電圧低下対策規格を満足しております。しかし、本規格の基準を上回る瞬時電圧低下に対しては、不都合が生じることがあります。また、バッテリ残量が不充分な場合は、規定の耐力がないため不都合が生じることがあります。

本製品は、高調波電流規格 JIS C 61000-3-2 適合品です。

本製品は電気・電子機器の特定の化学物質く鉛、六価クロム、水銀、カドミウム、ポリブロモビフェニル、ポリブロモジフェニルエーテルの 6 物質の含有表示を規定する JIS 規格「J-Moss」において、化学物質の含有率が基準値以下であることを示す「グリーンマーク（非含有マーク）」に対応しています。

本製品における特定の化学物質（6 物質）の詳細含有情報は、下記 URL をご覧ください。
<http://www.fmworld.net/fmv/jmoss/>

クラス 1 レーザ製品

IEC 60825-1:2007

クラス 1 レーザ製品の国際規格である（IEC 60825-1）に準拠しています。

マニュアルの表記

このマニュアルの内容は 2016 年 11 月現在のものです。

お問い合わせ先や URL などが変更されている場合は、「富士通パーソナル製品に関するお問い合わせ窓口」へお問い合わせください。

■本文中の書き分けについて

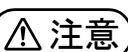
このマニュアルには、複数の機種の内容が含まれています。機種によっては、記載されている機能が搭載されていない場合があります。また、機種により説明が異なる場合は、書き分けています。

お使いの機種に機能が搭載されているかを「各部の名称について」、「仕様一覧」、富士通製品情報ページ（<http://www.fmworld.net/fmv/>）で確認して、機種にあった記載をお読みください。

■安全にお使いいただくための絵記号について

このマニュアルでは、本製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々に加えられるおそれのある危害や損害を、未然に防止するためのシンボルマークと警告絵文字を使っています。

□警告レベルを表すシンボルマーク

| | |
|--|--|
|  危険 | この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡する可能性または重傷を負うことがあります。その切迫の度合いが高いことを示しています。 |
|  警告 | この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡する可能性または重傷を負う可能性があることを示しています。 |
|  注意 | この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性があること、物的損害が発生する可能性があることを示しています。 |

□危害や損害の内容を表す警告絵文字

△で示した記号は、警告・注意をうながす内容であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な警告内容が示されています。

| | | | |
|---|--------------------------------------|---|------------------------------------|
|  破裂注意 | 特定の条件において、破裂する可能性について注意を喚起します。 |  高温注意 | 特定の条件において、高温による傷害の可能性について注意を喚起します。 |
|  レーザー光注意 | 特定の条件において、レーザー光を直視する危険性について注意を喚起します。 |  指のケガに注意 | 特定の条件において、けがする可能性について注意を喚起します。 |

○で示した記号は、してはいけない行為（禁止行為）であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な禁止内容が示されています。

| | | | |
|---|---|--|--|
|  一般禁止 | 一般的な禁止行為や禁止事項を示します。 |  火気禁止 | 特定の条件において、外部の火気によって製品の発火する可能性を示します。 |
|  接触禁止 | 特定の条件において、機器の特定の場所に触ることによって傷害が起こる可能性を示します。 |  水場使用禁止 | 防水処理のない機器を水場で使用して漏電によって傷害が起こる可能性を示します。 |
|  分解禁止 | 機器を分解することで感電などの傷害が起こる可能性を示します。 |  ぬれ手禁止 | 機器を濡れた手で扱うと、感電する可能性を示します。 |
|  水ぬれ禁止 | 防水処理のない機器を水がかかる場所で使用または、水に濡らすなどして使用すると、漏電して感電や発火する可能性を示します。 | | |

●で示した記号は、必ず従っていただく内容であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な指示内容が示されています。

| | | | |
|---|--|---|--|
|  | 安全アース端子付きの機器の場合、使用者に必ずアース線を接続するように指示します。 |  | 故障時や落雷の可能性がある場合、使用者に電源プラグをコンセントから抜くように指示します。 |
|  | 特定しない一般的な使用者の行為を指示します。 | | |

■危険ラベル／警告ラベル／注意ラベル

本製品には危険・警告・注意ラベルが貼ってあります。

これらのラベルは、絶対にはがしたり、汚したりしないでください。

■本文中の記号

本文中に記載されている記号には、次のような意味があります。

| | |
|--|---|
|  | お使いになるときの注意点や、してはいけないことを記述しています。必ずお読みください。 |
|  | 操作に関連することを記述しています。必要に応じてお読みください。 |
|  | 以降の手順が分かれることを表しています。 |
|  | 冊子のマニュアルを表しています。 |
|  | 「富士通アドバイザー」で見るマニュアルを表しています。参照方法は表紙の裏面をご覧ください。 |
|  | CD や DVD などのディスクを表しています。 |
| → | 参照ページを表しています。 |

■画面例およびイラストについて

本文中の画面およびイラストは一例です。お使いの機種によって、実際に表示される画面やイラスト、およびファイル名などが異なることがあります。また、イラストは説明の都合上、本来接続されているケーブル類を省略していることがあります。

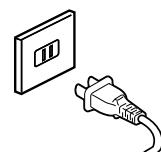
■操作手順について

このマニュアルでは、連続する操作手順を「▶」でつなげて記述しています。

なお、アプリの状態を変更した場合は、操作手順が異なることがあります。

■電源プラグとコンセント形状の表記について

本製品に添付されている電源ケーブルの電源プラグは「平行 2 極プラグ」です。マニュアルでは「電源プラグ」と表記しています。



接続先のコンセントには「平行 2 極プラグ (125V 15A) 用コンセント」をご利用ください。マニュアルでは「コンセント」と表記しています。

■タッチ操作について

タッチ操作の場合、「クリック」と記載されている箇所を「タップ」と読み替えてください。また、「右クリック」は「長押し」に読み替えてください。

■「ハードディスク」の表記について

フラッシュメモリディスク搭載機種の場合、このパソコンに内蔵されたハードディスクを示す箇所は、フラッシュメモリディスクに読み替えてください。

■製品の呼び方

本文中では、製品名称を次のように略して表記することがあります。

| 製品名称 | このマニュアルでの表記 |
|--|---|
| Windows 10 Home 64 ビット版 | Windows または Windows 10 |
| Windows 10 Pro 64 ビット版 | |
| Internet Explorer 11 | Internet Explorer |
| Office Personal Premium プラス Office 365 サービス | Office または Office Personal Premium |
| Office Home & Business Premium プラス Office 365 サービス | Office または Office Home & Business Premium |
| Microsoft Word 2016 | Word [注 1] |
| Microsoft Excel 2016 | Excel [注 1] |
| Microsoft Outlook 2016 | Outlook [注 1] |
| Windows Media® Player 12 | Windows Media Player |
| Bluetooth® | Bluetooth |
| Corel® WinDVD® | WinDVD |
| スーパーマルチドライブ | |
| 内蔵スーパーマルチドライブユニット | 光学ドライブ [注 2] |
| ポータブル CD/DVD ドライブ | |
| ATOK 2016 for Windows | ATOK |
| マカフィー® リブセーフ™ | マカフィー リブセーフ |
| Roxio Creator LJ | Roxio Creator |
| 「ソフ得」ソフト使い放題 by OPTiM | ソフト使い放題 |
| i-フィルター® for マルチデバイス | i-フィルター |

注 1：これらのアプリをまとめて「Office」と表記することがあります。

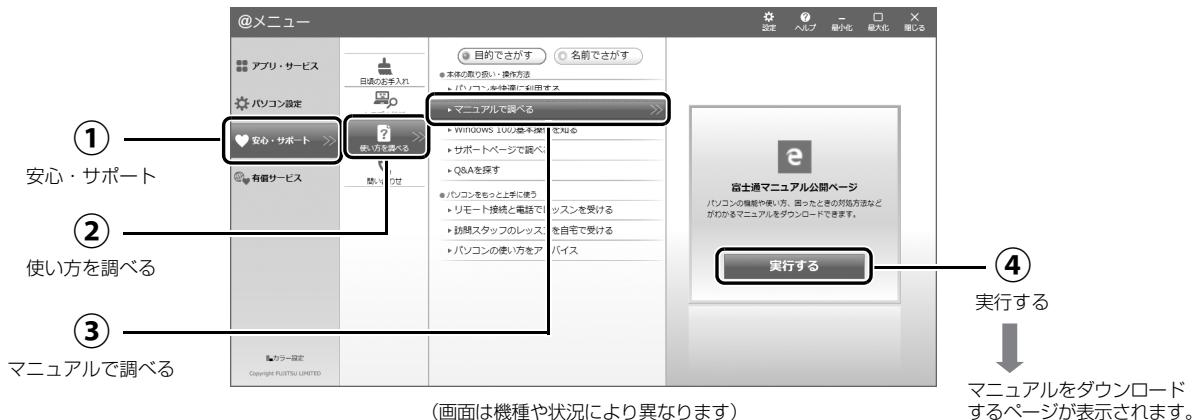
注 2：搭載されている光学ドライブは、「仕様一覧」(→ P.72) でご確認ください。

また、本文中では本製品をシリーズ名で表記することがあります。シリーズ名は「仕様一覧」(→ P.72) でご確認ください。

■インターネットに掲載されている電子マニュアルの参照方法

【@メニュー】▶「@メニュー」▶「@メニュー」の順にクリックします。

「@メニュー」が見つからないときは、画面を上にスクロールしてください。



安全上のご注意

本製品を安全に正しくお使いいただくための重要な情報が記載されています。本製品をお使いになる前に、必ずお読みになり、正しく安全に、大切に取り扱ってください。また、本製品をお使いになるときは、マニュアルをよくお読みになり、正しくお使いください。

「安全上のご注意」はインターネット上でも公開しています。
<http://azby.fmworld.net/support/manual/safety/>
ACアダプタと電源ケーブルが添付されている場合、ここでは、ACアダプタのケーブルと電源ケーブルを合わせて「電源ケーブル」と表記している箇所があります。

お使いの機種によっては、添付や搭載されていない機能などについての記載もありますが、あらかじめご了承ください。

設置／準備

⚠ 警告



コンセントの近くに設置し、電源プラグに容易に手が届くようにしてください。

プラグを抜け

万一の場合に、電源プラグが抜けなくなり、危険につながるおそれがあります。



梱包に使用している袋類は、お子様の手の届く所に置かないでください。

口に入れたり、頭にかぶったりすると、窒息の原因になります。



台に設置して使う場合は、台からはみ出したり、片寄ったりしないように載せてください。

一般指示

本製品が落ちたり、倒れたりして、けが、故障の原因になります。特に、お子様が近くにいる場合はご注意ください。



振動している場所や傾いた所などの不安定な場所に置かないでください。

一般禁止

本製品が倒れたり、落下して、けが、故障の原因になります。



本製品を風通しの悪い場所、火気のある場所、引火性ガスの発生する場所で使用したり、置いたりしないでください。

一般禁止

火災の原因になります。



矩形波が出力される機器（UPS（無停電電源装置）や車載用AC電源など）に接続しないでください。

一般禁止

火災の原因になることがあります。



本製品や周辺機器のケーブル類の配線にご注意ください。

一般指示

ケーブルに足を引っかけ、転倒したり、本製品や周辺機器が落ちたり倒れたりして、けがや故障の原因になります。



添付もしくは指定された以外のACアダプタや電源ケーブルを本製品に使ったり、本製品に添付のACアダプタや電源ケーブルを他の製品に使ったりしないでください。

一般禁止

感電、火災の原因になります。



電池を機器に入れる場合は、+（プラス）と-（マイナス）の向きに注意し、表示どおりに入れてください。

一般指示

間違えると電池の破裂、液漏れ、発火の原因になります。



一般指示

電源ケーブルやACアダプタは、指定された電圧(100V)の壁のコンセントやコネクタに直接かつ確実に接続してください。

不完全な接続状態で使用すると、感電、火災の原因になります。



一般禁止

タコ足配線をしないでください。

感電、火災の原因になります。



一般指示

電源プラグにアース線が付いている場合は、電源プラグをコンセントに差し込む前に、必ずアース線をコンセントのアースネジへ接続してください。

安全のため、電源プラグにはアース線が付いています。アース接続しないで使用すると、万一漏電した場合に、感電の原因になります。アースネジ付のコンセントが利用できない場合は、お近くの電気店もしくは電気工事士の資格をもつ人に、アースネジ付コンセントの取り付けについてご相談ください。電源ケーブルを抜くときは、先に電源プラグを抜いてからアース線を外してください。



一般禁止

アース線はガス管には絶対に接続しないでください。

火災の原因になります。



ぬれ手禁止

濡れた手で電源ケーブルやACアダプタを抜き差ししないでください。

感電の原因になります。



一般禁止

ケーブル類を束ねた状態で使用しないでください。

発熱して、火災の原因になります。

⚠ 注意



一般禁止

本製品を調理台や加湿器のそばなどの油煙や湯気の多い場所や、ほこりの多い場所などで使用したり、置いたりしないでください。

感電、火災の原因になることがあります。



一般禁止

本製品やACアダプタを直射日光があたる場所、閉めきった自動車内、ストーブのような暖房器具のそば、ホットカーペットの上で使用したり、置いたりしないでください。

感電、火災、故障の原因になります。



一般禁止

本製品を移動する場合は、次の点にご注意ください。

電源ケーブルやACアダプタが傷つき、感電、火災の原因となったり、本製品が落下したり倒れたりして、けがの原因になります。

・電源ケーブルやACアダプタをコンセントから抜いてください。

・接続されたケーブルなどを外してください。

・作業は足元に充分注意して行ってください。

使用時

⚠ 警告



火中に投入、加熱しないでください。
発煙、発火、破裂の原因になります。

火気禁止



端子をショートさせないでください。
感電、火災の原因になります。

一般禁止



発熱や煙、異臭や異音がするなどの異常が発生したときは、ただちに電源プラグをコンセントから抜いてください。
異常状態のまま使用すると、感電、火災の原因になります。その後、異常な現象がなくなるのを確認して、弊社お問い合わせ窓口、またはご購入元にご連絡ください。

プラグを抜く



落としたり、カバーなどを破損した場合は、電源を切り、電源ケーブルや AC アダプタを抜いてください。

プラグを抜く

バッテリパックを取り外せる場合は、バッテリパックも取り外してください。
そのまま使用すると、感電、火災の原因になります。その後、弊社お問い合わせ窓口、またはご購入元にご連絡ください。



開口部（通風孔など）から内部に金属類や燃えやすいものなどの異物を差し込んだり、落とし込んだりしないでください。

感電、火災の原因になります。



本製品や本製品を設置している台にぶら下がったり、上に乗ったり、寄りかかったりしないでください。

本製品が落ちたり、倒れたりして、けが、故障の原因になります。特に、お子様が近くにいる場合はご注意ください。



排気孔付近や AC アダプタなど、本製品の温度が高くなる場所に長時間直接触れて使用しないでください。

排気孔からの送風に長時間あたらないでください。特に、お子様が近くにいる場合はご注意ください。
低温やけどの原因になります。



風呂場やシャワー室など、水のかかるおそれのある場所で使用したり、置いたりしないでください。

感電、火災の原因になります。



本製品の上や周りに、花びんやコップなど液体の入ったものを置かないでください。

水などの液体が本製品の内部に入って、感電、火災の原因になります。



本製品を持ち上げたり運んだりする場合、液晶ディスプレイや液晶ディスプレイの枠部分を持たないでください。

故障、けがの原因になります。
持ち上げたり運んだりするときは、本製品の底面あるいは本製品中央の両脇を持ってください。



使用中の本製品や AC アダプタに、ふとんや布などをかけないでください。通風孔がある場合は、ふさがないでください。

通気孔が目詰まりしないように、掃除機などで定期的にほこりを取ってください。
内部に熱がこもり、火災の原因になります。

ご使用になる場合には、部屋を明るくして、画面からできるだけ離れてください。

お使いになる方の体質や体調によっては、強い光の刺激を受けたり、点滅の繰り返しによって一時的な筋肉のけいれんや意識の喪失などの症状を起こす場合がありますので、ご注意ください。

過去にこのような症状を起こしたことがある場合は、事前に医師に相談してください。

本製品をご使用中にこのような症状を発症した場合には、すぐに本製品の使用を中止し、医師の診断を受けてください。



本製品や周辺機器のケーブル類に、お子様が容易に触れないようにしてください。

誤って首に巻きつけると窒息の原因になります。



AC アダプタ本体や、ケーブルが変形したり、割れたり、傷ついている場合は使用しないでください。

感電、火災の原因になります。



AC アダプタ本体を落とさせたり、強い衝撃を与えないでください。

カバーが割れたり、変形したり、内部の基板が壊れ、故障、感電、火災の原因になります。修理は、弊社お問い合わせ窓口、またはご購入元にご連絡ください。



自転車、バイク、自動車などを運転中に本製品を使用しないでください。

安全走行を損なう、事故の原因になります。安全な所に止めてからお使いください。



バッテリパックや電池を取り扱うときは、次の点にご注意ください。

液もれ、けが、やけど、破裂、火災、周囲を汚す原因になります。

- ・指定された方法以外で使用しない
- ・分解や改造をしない
- ・加熱したり、火の中に入れたりしない
- ・熱器具に近づけない
- ・火のそばや炎天下などで充電したり、放置したりしない
- ・落としたり、ぶつけたり、大きな衝撃を与えない
- ・先のとがったもので力を加える、強い圧力を加えない
- ・ショートさせない
- ・端子部分をぬらしたり、水の中に入れたりしない
- ・金属製のネックレスやヘアピンなどといっしょに携帯、保管しない
- ・お子様の手の届く所に保管しない
- ・乾電池を充電しない
- ・ハンダ付けしない

特に、バッテリパックは、落下などの衝撃による内部の電池や回路基板の損傷によって発熱・発火、けがの原因になったり、破裂・液もれによる周囲の汚損の原因になることがあります。

バッテリパックに衝撃を与えた場合、あるいは外観に明らかな変形や破損が見られる場合には、使用をやめてください。



電源ケーブルや AC アダプタが傷ついている場合は使用しないでください。

感電、火災の原因になります。



電源ケーブルや AC アダプタの接続部分に、ドライバーなどの金属を近づけないでください。

感電、火災の原因になります。



一般禁止

ケーブル類は、傷つけたり、加工したり、加熱したり、重いものを載せたり、引っ張ったり、無理に曲げたり、ねじったりしないでください。
感電、火災の原因になります。



一般禁止

AC アダプタ本体にケーブル類をきつく巻きつけるなどして、根元部分に負担をかけないでください。
ケーブル類の芯線が露出したり断線したりして、感電、火災の原因になります。



一般禁止

電源ケーブルや AC アダプタを抜くときは、コード部分を引っ張らず、必ず電源プラグを持って抜いてください。
ケーブル類が傷つき、感電、火災の原因になります。



一般指示

無線 LAN、無線 WAN、Bluetooth® ワイヤレステクノロジー、NFC ポート、CLEARASURE、ワイヤレスキーボード／マウスの注意

次の場所では、無線通信機能を停止してください。「ワイヤレススイッチ自動オン機能」対応の CLEARASURE 搭載機種の場合は、自動的に無線通信機能がオンにならないようにしてください。

無線機器からの電波により、誤動作による事故の原因となります。

- ・病院内や医療用電子機器のある場所
特に手術室、集中治療室、CCU（冠状動脈疾患監視病室）などには持ち込まないでください。
- ・航空機内など無線通信機能の使用を禁止されている場所
- ・自動ドア・火災報知機など自動制御機器の近く
- ・身動きが自由に取れない状況など、植込み型医療機器（心臓ペースメーカーなど）を装着している方と密着する可能性がある場所
- ・満員電車の中など付近（15cm（NFC ポートは 12cm））に植込み型医療機器を装着している方がいる可能性がある場所

本製品は、レーザ光線を装置カバーで遮断する安全な構造になっていますが、次のことご注意ください。

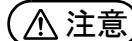
- ・光源部を見ないでください。
光学ドライブのレーザ光の光源部を直接見ないでください。
- また、万一の故障で装置カバーが破損してレーザ光線が装置外にもれた場合は、レーザ光線をのぞきこまないでください。
- レーザ光線が直接目に照射されると、視力障害の原因になります。
- ・お客様自身で分解したり、修理・改造したりしないでください。
- レーザ光線が装置外にもれて目に照射されると、視力障害の原因になります。



レーザー光 注意

レーザーマウスは底面から、目に見えないレーザ光が出ています。

クラス 1 レーザー製品は、予測可能な使用環境において極めて安全ですが、マウス底面の光は直視しないでください。



注意



一般禁止

本製品の上に重いものを置かないでください。
けがの原因となることがあります。



一般指示

本製品をお使いになる場合は、次のことご注意し、長時間使い続けるときは 1 時間に 10～15 分の休憩時間や休憩時間の間の小休止をとるようにしてください。

本製品を長時間使い続けると、目の疲れや首・肩・腰の痛みなどを感じる原因になることがあります。画面を長時間見続けると、「近視」「ドライアイ」などの目の健康障害の原因になります。

- ・画面の位置や角度、明るさなどを見やすいように調節する。
- ・なるべく画面を下向きに見るよう調整し、意識的にまばたきをする。場合によっては目薬をさす。
- ・背もたれのあるいすに深く腰かけ、背筋を伸ばす。
- ・いすの高さを、足の裏全体が付く高さに調節する。
- ・手首や腕、肘は机いやいすの肘かけなどで支えるようにする。
- ・キーボードやマウスは、肘の角度が 90 度以上になるよう使用する。



指のケガに 注意

液晶ディスプレイを開閉するとき、手などをはさまないよう注意してください。

けが、故障の原因になります。特に、お子様が近くにいる場合はご注意ください。



指のケガに 注意

光学ドライブのトレイやスロット、コネクタ、通風孔など、本製品の開口部に、手や指を入れないでください。 ディスクなどをセットまたは取り出す場合も、手や指を入れないでください。

けが、感電の原因になります。特に、お子様が近くにいる場合はご注意ください。



一般禁止

ヘッドホン・イヤホン・ヘッドセットをご使用になるときは、音量を上げすぎないでください。

耳を刺激するような大きな音量で聞くと、聴力に悪い影響を与える原因になります。



一般指示

電源を入れたり切ったりする前には音量を最小にしておいてください。

ヘッドホン・イヤホン・ヘッドセットをしたまま、電源を入れたり切ったりしないでください。

突然大きな音や刺激音が出て、聴力に悪い影響を与える原因になります。



高温注意

「ExpressCard™」、「PC カード」、「SD メモリーカード」、「UIM カード」の使用終了直後は、高温になっていることがあります。

これらを取り外すときは、使用後充分に温度が下がるのを待ってから取り出してください。
やけどの原因になります。



一般禁止

マウス底面の光を直視しないでください。レーザー式マウスの場合も、目に見えないレーザ光が出ています。

目の痛みなど、視力障害を起こすおそれがあります。

メンテナンス／増設

⚠ 警告



分解禁止

お客様ご自身で修理、改造しないでください。また、マニュアルなどで指示がある場合を除いて分解しないでください。

けが、感電、火災の原因になります。

修理や点検などが必要な場合は、弊社問い合わせ窓口、またはご購入元にご連絡ください。



一般禁止

取り外したカバー、キャップ、ネジ、電池などの部品は、お子様の手の届く所に置かないでください。

誤って飲み込むと窒息の原因になります。万一、飲み込んだ場合は、すぐに医師に相談してください。



一般指示

メモリの取り付け、取り外しやお手入れのときなど、カバーをあける場合は、お子様の手が届かない場所で行ってください。

作業が終わるまでは大人が本製品から離れないようにしてください。お子様が手触ると、けが、故障の原因になります。



一般指示

メモリの取り付け、取り外しやお手入れのときなど、カバーをあける場合は、本製品および接続されている機器の電源を切り、電源ケーブルをコンセントから抜いた後、しばらくたってから行ってください。

カバーをあけた状態で電源ケーブルをコンセントに挿し込んだり、電源を入れたりしないでください。
やけど、感電、火災の原因になります。



一般禁止

清掃するときに、清掃用スプレー（可燃性物質を含むもの）を使用しないでください。

故障や火災の原因になります。



一般禁止

本製品の内部に搭載されているリチウム電池には触らないでください。

取り扱いを誤ると、人体に影響を及ぼすおそれがあります。リチウム電池はご自身で交換せずに、弊社問い合わせ窓口にご相談ください。



一般指示

必ず本製品に添付のバッテリパックを使用してください。寿命などでバッテリパックを交換する場合は、必ず指定品を使用してください。

指定以外のバッテリパックは、電圧や端子の極性が異なっていることがあるため、火災、破裂、発熱のおそれがあります。



一般禁止

指定以外の電池は使用しないでください。

また、2本以上セットする場合は、新しい電池と古い電池を混ぜて使用しないでください。

電池の破裂、液もれにより、火災、けが、周囲を汚損する原因になります。



一般指示

電源ケーブルやACアダプタはコンセントから定期的に抜いて、接続部分のはこりやゴミを乾いた布でよく拭き取ってください。

ほこりがたまつたままの状態で使用すると感電、火災の原因になります。1年に一度は点検清掃してください。特に電源プラグ部分についてはほこりがたまりやすいので、ご注意ください。

内蔵オプションや周辺機器の取り付け／取り外し、お手入れなどをを行うときは、本製品および接続されている機器の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いた後に行ってください。



プラグを抜け

バッテリパックを取り外せる場合は、バッテリパックも外してください。

故障、感電、火災の原因になります。



一般指示

周辺機器のケーブルは、本製品や周辺機器のマニュアルをよく読み、正しく接続してください。

誤った接続状態でお使いになると、感電、火災の原因になります。また、本製品および周辺機器が故障する原因になります。

⚠ 注意



一般禁止

周辺機器などの取り付け、取り外しを行うときは、指定された場所以外のネジは外さないでください。

けが、故障の原因になります。



一般禁止

本製品内部の突起物、および指定された部品以外には、手を触れないでください。

けが、故障の原因になります。



高温注意

電源を切った直後は、本製品の内部が高温になっています。

メモリや拡張カードなどの内蔵オプションを取り付け／取り外す場合は、電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いた後、充分に温度が下がるのを待ってから作業を始めてください。

やけどの原因になります。



一般指示

内蔵オプションや周辺機器の取り付け／取り外し、お手入れなどをを行うときは、指をはさんだり、ぶつけたりしないように注意してください。

けがの原因になります。

異常時

⚠ 警告



プラグを抜け

本製品の内部に水などの液体や金属片などの異物が入った場合は、すぐに本製品の電源を切り、電源ケーブルやACアダプタを抜いてください。

バッテリパックを取り外せる場合は、バッテリパックも取り外してください。

そのまま使用すると、感電、火災の原因になります。その後、弊社お問い合わせ窓口、またはご購入元にご連絡ください。



一般禁止

雷が鳴り出したときは、落雷の可能性がなくなるまで本製品やケーブル類に触れないでください。ケーブル類の接続作業は、落雷の可能性がなくなるまで行わないでください。

落雷の可能性がある場合は、あらかじめ本製品の電源を切り、その後電源ケーブルやACアダプタをコンセントから抜き、ケーブル類を取り外しておいてください。

落雷による故障、感電、火災の原因になります。



一般指示

タッチパネルのガラスにヒビ、傷などがあった場合は、すみやかにご使用を中止し、弊社お問い合わせ窓口、またはご購入元にご連絡ください。

そのまま使用するとかがをするおそれがあります。



一般指示

バッテリパックや電池が液もれし、もれ出た液が万一、目や口に入ったときは、こすらず水道水などの多量のきれいな水で充分に洗った後、すぐに医師の治療を受けてください。
失明など障害の原因になります。
液が皮膚や衣類に付着したときは、ただちに水でよく洗い流してください。皮膚に障害を起こす原因になります。

△ 注意



指のケガに注意

カバーや部品などが破損・脱落したり、キーボードのキートップが外れた場合は、使用を中止し、弊社お問い合わせ窓口、またはご購入元にご連絡ください。
破損した製品や破片によるけがや故障の原因になります。
特に、お子様が近くにいる場合はご注意ください。



一般指示

液晶ディスプレイが破損し、液状の内容物が流出して皮膚に付着した場合は、流水で15分以上洗浄してください。
また、目に入った場合は、流水で15分以上洗浄した後、医師に相談してください。
中毒を起こすことがあります。
液晶ディスプレイの内部には、刺激性物質が含まれています。

保管／廃棄

△ 警告



破裂注意

バッテリパックの廃棄については、マニュアルの説明に従ってください。
本製品は「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」の規制を受けます。
バッテリパックはリチウムイオン電池を使用しており、一般的のゴミといっしょに火中に投じられると破裂のおそれがあります。

△ 注意



プラグを抜け

本製品を長期間使用しないときは、安全のため電源ケーブルやACアダプタをコンセントから抜いてください。
バッテリパックや乾電池を取り外せる場合は、取り外してください。
火災の原因になります。



破裂注意

本製品の廃棄については、マニュアルの説明に従ってください。
本製品は「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」の規制を受けます。
本製品はリチウム電池を使用しております。
ワイヤレスキーボード、ワイヤレスマウス、リモコンなどには、乾電池、充電池を使用しております。
一般的のゴミといっしょに火中に投じられると電池が破裂するおそれがあります。
使用済み電池の廃棄については、マニュアルの説明に従ってください。

取り扱い上のご注意

パソコンの使用環境についての注意

パソコンは精密機器です。使用環境に注意してご利用ください。
取り扱い方法を誤ると故障や機能低下、破損の原因となります。
内容をよくご理解のうえ、注意してお取り扱いください。

・パソコンをお使いになる環境の温度と湿度

次の範囲内としてください。

- ・動作時：温度5～35℃／湿度20～80%RH
- ・非動作時：温度-10～60℃／湿度20～80%RH

・パソコンの結露

動作時、非動作時にかかわらず、パソコン本体が結露しないようにご注意ください。

結露は、空気中の水分が水滴になる現象です。パソコンを温度の低い場所から温度の高い場所、または、温度の高い場所から温度の低い場所へ移動すると、パソコン内部に結露が発生する場合があります。結露が発生したままパソコンを使用すると故障の原因となります。

パソコンを移動したときは、直射日光があたらない風通りの良い場所に設置し、室温と同じくらいになるのを待ってから電源を入れてください。

・パソコンをお使いになれない場所

・直射日光のある場所
感電、火災、破損や故障の原因となります。

・水など液体のかかる場所

パソコン内部の回路がショートして、壊れてしまうことがあります。

・ほこりの多い場所や、油を使用する場所

ファンに詰まったほこりや油分で放熱が妨げられ、故障の原因となります。

・熱がこもりやすい場所（棚、ドア付AVラック、ふとんやクッションの上など）

放熱が妨げられ、故障の原因となります。パソコン本体およびACアダプタは平らで堅い机の上などに置いてください。

・静電気の発生しやすい場所

パソコンは、静電気に対して弱い部品で構成されており、人体にたまつた静電気により破壊される場合があります。使用する前には、アルミサッシやドアノブなどの金属に手を触れて、静電気を放電してください。

・電磁波の影響を受けやすいもの（テレビやラジオなど）や、磁気を発生するもの（モーターやスピーカーなど）に近い場所

故障や機能低下の原因となります。

・腐食性ガス（温泉から出る硫黄ガスなど）が存在する場所

パソコン本体が腐食する可能性があります。

・吸気孔や排気孔

・吸気孔や排気孔をふさがないでください。

放熱が妨げられ、故障の原因となります。

パソコン本体と壁の間に前後左右10cm以上のすき間を開けてお使いください。

・排気孔の近くに物を置いたり、排気孔の周辺には手を触れないでください。

排気孔からの熱で、排気孔の近くに置かれた物や手が熱くなることがあります。

・パソコン使用中の環境

- ・電源が入っているときは、キーボードの上に書類などのおおいからがさる物を置かないでください。
放熱が妨げられ、故障の原因となります。
- ・パソコン本体のそばで喫煙しないでください。
タバコのヤニや煙がパソコン内部に入り、ファンなどの機能を低下させる可能性があります。
- ・パソコンを長時間同じ場所に設置すると、その場所の材質が変質したり劣化したりすることがありますので、ご注意ください。

・無線通信機能をお使いになる場合

- ・パソコン本体に搭載されている無線通信機能をお使いになるときは、できるだけ見通しの良い場所でお使いください。電子レンジの近く、アマチュア無線機の近くや足元など見通しの悪い場所でお使いになると、周囲の電波の影響を受けて、接続が正常に行えないことがあります。
- ・お使いになる場所によっては電波を停止する必要があります（「安全上の注意」▶「無線 LAN、無線 WAN、Bluetooth® ワイヤレステクノロジー、NFC ポート、CLEARSURE、ワイヤレスキーボード／マウスの注意」(→ P.15)）。機内モードに切り替えて電波の発信を止めてください。
手順については、サポートページから Q&A ナンバー「2610-8225」を検索してご覧ください (→ P.57)。

パソコンの取り扱いについての注意

■パソコン本体の取り扱い上の注意

- ・衝撃や振動を与えないでください。
- ・操作に必要な部分を押したり、必要以上の力を加えたりしないでください。
- ・磁気ブレスレットや磁気ネックレスなど、磁気を発生するものを身につけたまま、操作しないでください。
画面が表示されなくなるなどの故障の原因となるおそれがあります。
- ・液晶ディスプレイを閉じてもスリープや休止状態にしない設定の場合は、電源が入っているときにパソコン本体の液晶ディスプレイを閉じないでください。
パソコン本体の放熱が妨げられ、故障の原因となることがあります。
- ・バッテリパックを取り外した状態で使用しないでください。
パソコン本体は、バッテリパックを取り外したまま使用するようには設計されていません。水などの液体や金属片などの異物が混入し、故障・感電・火災の原因になる可能性があります。
- ・水などの液体や金属片、虫などの異物を混入させないようにしてください。
故障の原因になる可能性があります。
- ・パソコン本体を立てたり、傾けたりして置かないでください。
パソコン本体が倒れて、故障の原因となることがあります。
- ・パソコン本体は昼夜連続動作（24 時間動作）を目的に設計されていません。ご使用にならないときは電源を切ってください。

- ・キーボードやパームレスト部（手を載せる部分）に手を付いて立ちあがったり、肘を付いたりしないでください。
キーボードやパームレスト部を強く押すと、パソコン内部にある光学ドライブやハードディスクなどに力が加わり、故障の原因となる可能性があります。
- ・タッチパネルを操作するときは強く画面を押さないでください。
パソコン本体が倒れて、けがや故障の原因になることがあります。

■パソコンの温度上昇について

- ・長時間使用すると、パソコン表面の温度が上昇して、温かく感じることがありますが、故障ではありません。
これは、パソコン内部の温度が一定以上になると、装置全体から放熱するので、キーボードなどの表面も温かくなるためです。
- ・ひざの上など直接肌に触れた状態では、長時間使用しないでください。
パソコンの底面が熱くなり、低温やけどを起こす可能性があります。
- ・使用するアプリによっては、パームレスト部（手を載せる部分）が多少熱く感じられることがあります。長時間使用する場合には低温やけどを起こす可能性がありますので、ご注意ください。

■パソコン内部からの音について

- パソコン本体内部からは、次の音が聞こえることがあります
が、これらは故障ではありません。
- ・内部の熱を外に逃がすためのファンの音
 - ・ハードディスクにアクセスする音
 - ・光学ドライブのディスク読み取りヘッドが移動する音
 - ・DVDなどのディスクが回転する音
 - ・内部の電子回路の動作音

■パソコンを持ち運ぶ場合の注意

- ・必ずパソコンの電源を切り、電源が入ったまま持ち運ばないでください。また、電源を切ってから動かす場合も、5 秒ほど待ってから動かしてください。
衝撃によりハードディスクドライブが故障する原因となります。
- ・液晶ディスプレイを閉じ、パソコン本体に接続しているケーブルなどをすべて取り外してください。
- ・パソコン本体にメモリーカードをセットしている場合は必ず取り外してください。
- ・パソコン本体を持ち上げたり移動させたりするときは、両手で掴んでください。
- ・パソコン本体や AC アダプタを運ぶ場合は、ぶつけたり落したりしないでください。かばんなどに入れて衝撃や振動から保護してください。
- ・パソコン本体をかばんなどに入れて持ち運ぶ場合には、次の点に注意してください。
 - ・パソコン本体の背面を下側にして、かばんなどに入れてください。
 - ・AC アダプタをいっしょに入れて持ち運ぶと、AC アダプタでパソコン本体を傷つけたり、破損したりするおそれがあります。
- ・パソコン本体を自動車内に設置した状態での使用は、保証しておりません。

■液晶ディスプレイの取り扱い上の注意

- ・液晶ディスプレイを開閉するときは、次の点に注意してください。
 - ・衝撃を与えないようにゆっくりと開閉してください。
 - ・無理に大きく開けないでください。
- ・液晶ディスプレイを開くとき、液晶ディスプレイとパソコン本体背面の間に物をはさまないでください。
- ・液晶ディスプレイをたたいたり強く押したりしないでください。また、ひっかいたり先のとがったもので押したりしないでください。
- ・表示面・天板面にかかわらず、液晶ディスプレイに強い圧力が加わると、画面にムラが発生する場合があります。
- ・液晶ディスプレイにゴムやビニール製品を長時間接触させないでください。表面がはげたり、変質したりすることがあります。
- ・液晶ディスプレイを開いたまま、パソコン本体を裏返して置かないでください。
- ・液晶ディスプレイとキーボードの間に、物をはさまないでください。

■雷についての注意

落雷の可能性がある場合は、パソコンの電源を切るだけでなく、すべてのケーブル類を抜いておいてください。また、雷が鳴り出したときは、落雷の可能性がなくなるまでパソコン本体やケーブル類、およびそれらにつながる機器に触れないでください。

安全のため、避雷器の設置をお勧めします。

ただし、どのような避雷器をお使いになんでもパソコン本体を保護できない場合があります。あらかじめご了承ください。

□落雷について

落雷には、直撃雷と誘導雷の2種類あります。直撃雷と誘導雷のどちらでも避雷器で保護できない可能性があります。

・直撃雷

避雷針によって雷を誘導して対象物を保護できます。

ただし、避雷器の許容値を超えた非常に大きな雷を受けた場合には、避雷器を用いてもパソコン本体を保護できないことがあります。

・誘導雷

パソコンの故障は主に誘導雷によって起こります。

雷により周囲に強力な電磁場ができると発生し、電線や電話線などから侵入するのが誘導雷です。パソコンの場合、電源ケーブル、外部機器との接続ケーブル、LANケーブルなどから誘導雷の侵入が考えられます。誘導雷を防ぐにはケーブル類を抜くなどの対策が必要です。

□落雷時の故障について

落雷によるパソコン本体の故障は、保証期間内でも有償修理となります。

故障の状況によっては、修理費用が高額になることもあるので、ご注意ください。

また、場合によっては、落雷によってパソコン本体だけではなく周辺機器などが故障することもあります。

疲れにくい使い方

パソコンを長時間使い続ければ、目が疲れ、首や肩や腰が痛くなることがあります。その主な原因は、長い時間同じ姿勢でいることや、近い距離で画面やキーボードを見続けることです。パソコンをお使いになるときは姿勢や環境に注意して、疲れにくい状態で操作しましょう。

- ・直射日光があたらない場所や、外光が直接目に入ったり画面に映り込んだりしない場所に設置し、画面の向きや角度を調節しましょう。
- ・画面の輝度や文字の大きさなども見やすく調節しましょう。
- ・目と画面との距離をとり、疲れない位置を保って利用しましょう。
- ・1時間以上続けて作業しないようにしましょう。
- ・続けて作業をする場合には、1時間に10~15分程度の休憩時間をとりましょう。
- ・休憩時間までの間に1~2分程度の小休止を1~2回取り入れましょう。

各部の名称について

このパソコンの主な各部の名称は次のとおりです（イラストは機種や状況により異なります）。

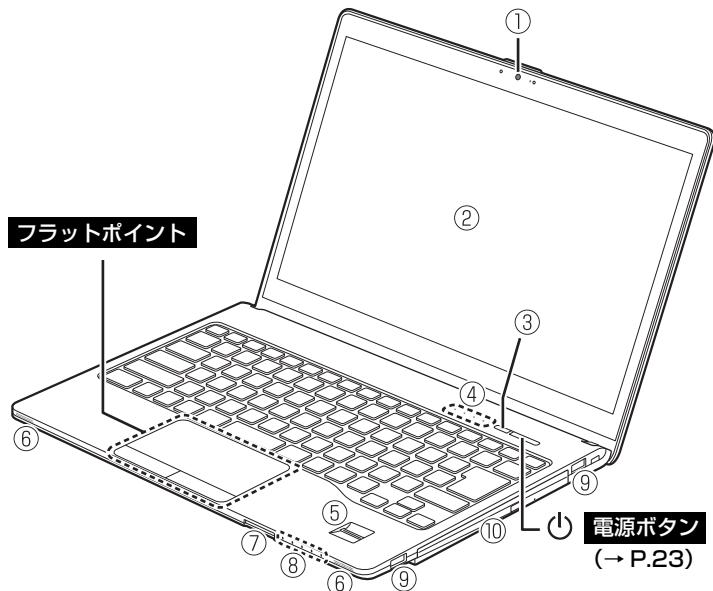
Point

- ここに掲載されていない部分の名称や、各部の働きなど詳しくは、「各部の名称と働き」（→ P.77）をご覧ください。

■LIFEBOOK SH90/A3

□本体前面、右側面

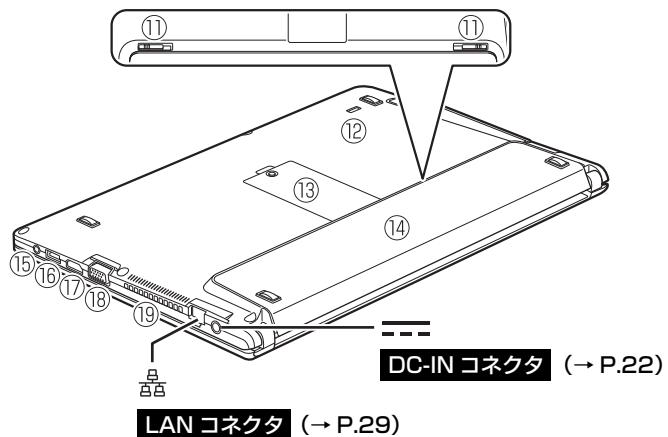
- ① Web カメラ
- ② 液晶ディスプレイ
(タッチパネル搭載)
- ③ ECO ボタン
- ④ 状態表示 LED
 - ① Num Lock ランプ
 - ② Caps Lock ランプ
 - ③ Scroll Lock ランプ
 - ④ ワイヤレス通信ランプ
- ⑤ 指紋センサー
- ⑥ スピーカー
- ⑦ ダイレクト・メモリースロット
- ⑧ 状態表示 LED
 - ① 電源ランプ
 - ② 内蔵バッテリパック充電ランプ
 - ③ 内蔵バッテリパック残量ランプ
 - ④ 増設用内蔵バッテリユニット
残量ランプ
 - ⑤ ディスクアクセスランプ
- ⑨ USB3.0 コネクタ
- ⑩ モバイル・マルチベイ [注]



注：ご購入時はスーパーマルチドライブが取り付けられています。

□本体下面、左側面

- ⑪ 内蔵バッテリパックロック
- ⑫ モバイル・マルチベイロック
- ⑬ メモリスロットカバー
- ⑭ 内蔵バッテリカバー
- ⑮ マイク・ラインイン・ヘッドホン・
ラインアウト・ヘッドセット兼用端子
- ⑯ USB3.0 コネクタ
(電源オフ USB 充電機能対応)
- ⑰ HDMI 出力端子
- ⑱ 外部ディスプレイコネクタ
- ⑲ 排気孔



セットアップする

セットアップの流れを確認する

パソコンの準備をする (→ P.22)

- **セットアップ前に周辺機器を接続しないでください**
プリンター、LAN ケーブル、USB メモリ、メモリーカードなどは、「Windows のセットアップをする」が終わるまで接続しないでください。
- **必ず AC アダプタを接続してください**

電源を入れる

Windows のセットアップをする (→ P.23)

ローカルアカウントでセットアップします。

所要時間 10 分程度です。

- **インターネットに接続しないでください**
- **この間は絶対に電源を切らないでください**
途中で電源を切ると、故障の原因になる場合があります。

ネット接続して行います

インターネットに接続する (→ P.29)

Microsoft アカウントに切り替える (→ P.33)

新規取得、またはお持ちの Microsoft アカウントに切り替えます。

所要時間 10 分程度です。

「Microsoft アカウント」については「Microsoft アカウントとは」(→ P.33) をご覧ください。

再起動 (Microsoft アカウントでサインイン)

「はじめに行う設定」で初期設定する (→ P.39)

「はじめに行う設定」というアプリのガイドに従って「ユーザー登録」や「Office のセットアップ」などを行うと、パソコンを快適にお使いいただけます。

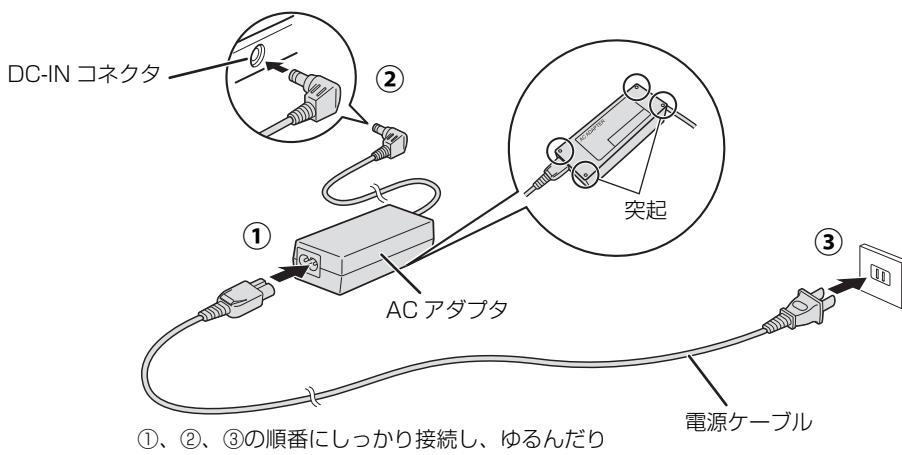
さあ、セットアップを始めましょう！

パソコンの準備をする

1 パソコンを電源に接続します。

- ① AC アダプタに電源ケーブルを接続します。
- ② パソコン本体側面の DC-IN コネクタ (→ P.20) に接続します。
- ③ 電源プラグをコンセントに接続します。

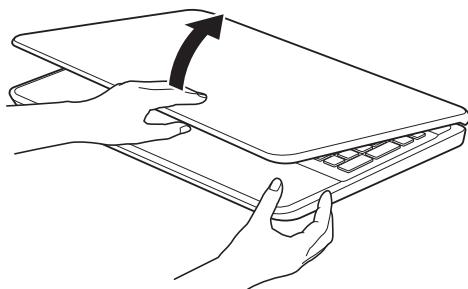
AC アダプタに突起がある場合は、その面を下にして設置します。



①、②、③の順番にしっかりと接続し、ゆるんだり抜けたりしていないことを確認してください。

(これ以降のイラストは機種や状況により異なります)

2 パソコン本体と液晶ディスプレイ上部中央に手を添えて開きます。



Windows のセットアップをする

1 電源ボタン (⌃) をポチッと押します。



重要

- ▶ 「こんにちは」画面が表示されるまで絶対に電源を切らないでください。

2 「こんにちは」画面が表示されるまで、そのまましばらくお待ちください。



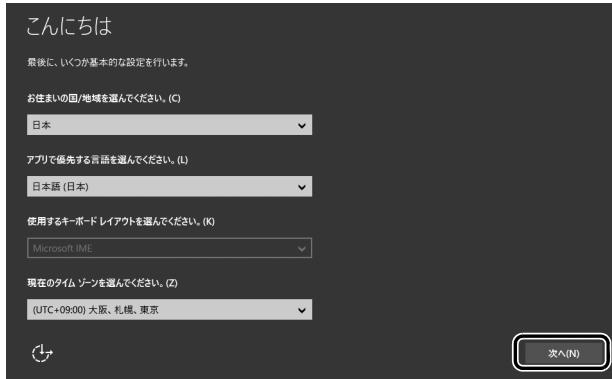
(これ以降の画面は機種や状況により
異なります)

画面が何度か変化します。

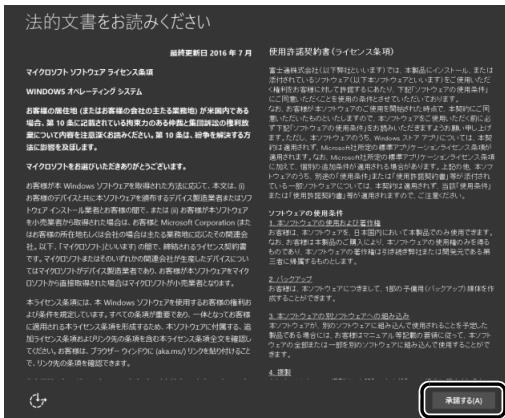
Point

- ▶ しばらく操作をしないと省電力機能が働き、画面が真っ暗になることがあります、電源が切れたわけではありません。フラットポイントやマウス、キーボードを操作すると元の画面に戻ります。画面が戻らなかつた場合は、電源ボタン (⌃) をポチッと押してください。

3 「こんなにちは」画面が表示されたら、「次へ」をクリックします。



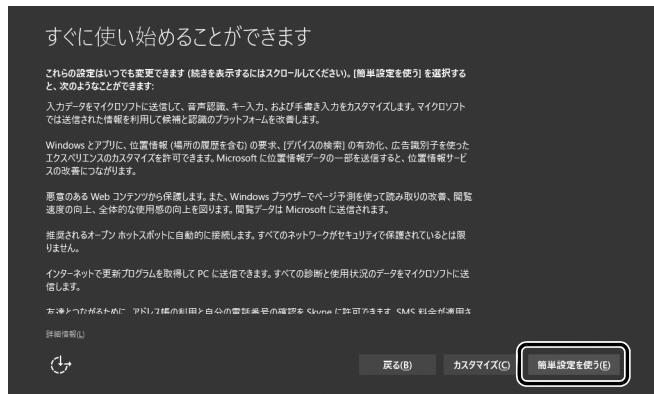
4 ライセンス条項をよく読みます。読み終わったら「承諾する」をクリックします。



5 「この手順をスキップする」をクリックします。



6 「簡単設定を使う」をクリックします。



7 「このPC用のアカウントの作成」画面が表示されたら、ローカルアカウントを作成します。



①「ユーザー名」を入力します。

12文字以内の半角英数字(a~z,A~Z,0~9)でお好きな名前を入力してください。

②「次へ」をクリックします。

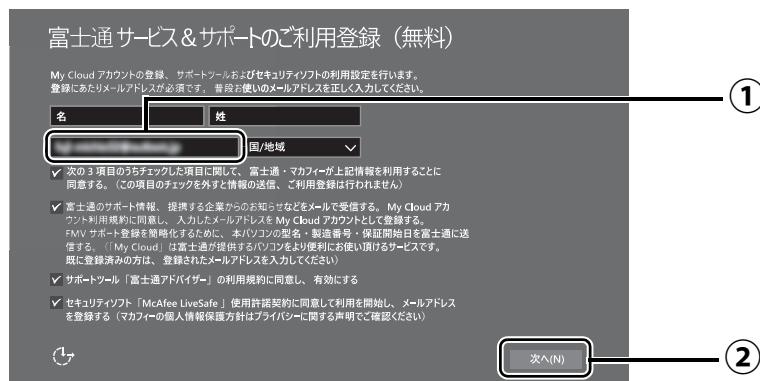
Point

- ▶ インターネットに接続後、ローカルアカウントを Microsoft アカウントに切り替えるため、ここではパスワード入力の必要はありません。

8 Cortanaの説明画面が表示された場合は、「Cortanaを使う」をクリックします。



9 「富士通サービス＆サポートのご利用登録」の説明をよく読んで、ご利用登録をします。



① My Cloud アカウント（マイ クラウド アカウント）の ID として登録するメールアドレスを入力します。ここで入力したメールアドレスは、「マカフィーリブセーフ」のメールアドレス登録にも使用されます。

②「次へ」をクリックします。

ここで入力するメールアドレスについて

● My Cloud アカウントをお持ちでない場合

My Cloud アカウントを取得すると富士通パソコンを快適にお使いいただけます。

My Cloud アカウントの ID として登録するメールアドレスを入力します。パスワードのご連絡など重要な通知を行うため、通常よく使うメールアドレスを入力してください。

● My Cloud アカウントをお持ちの場合

登録済みのメールアドレスを入力していただければ、このパソコンの機種追加登録が簡単にできるようになります。

●メールアドレスをお持ちでない場合

何も入力しないで進めてください。メールアドレスを取得後、「富士通パソコンユーザー登録」をするときに My Cloud アカウントを取得できます。

※ メールアドレスを入力した場合は、富士通パソコンユーザー登録をするときに使用するため、「[「はじめに行う設定」で初期設定する] の手順 7 (→ P.42) の記入欄に書きとめておくことをお勧めします。

Point

- ▶ 「名」「姓」は何も入力する必要はありません。
- ▶ 「国／地域」は選択する必要はありません。
- ▶ 「パソコンの状態を回復する」(→ P.63) を行った後などの再セットアップのとき、このパソコンが製品登録済みの場合は、①にメールアドレスの入力は必要はありません。

マカフィー リブセーフのユーザー登録で困ったときには

「マカフィー株式会社 テクニカルサポートセンター」へお問い合わせください。

電話：0570-060-033（携帯電話からの場合：03-5428-2279）

受付時間：9:00～21:00（年中無休）

10 デスクトップが表示されるまで待ちます。

デスクトップが表示されるまで画面が何回か変化します。



この後は、「インターネットに接続する」(→ P.29) に進んでください。

インターネットに接続する

このパソコンをお使いになるときは、有線LANまたは無線LANでインターネットに接続してください。マイクロソフト社のサービスを受けるために必要です。また弊社のインターネットを使用したサポートや各種サービスなどが活用できるようになります。

インターネット接続方法はご契約のプロバイダーにお問い合わせください

インターネットに接続するための設定方法や情報は、ご契約のプロバイダーから提供されます。プロバイダーの指示に従って、インターネット接続設定をしてください。

Point

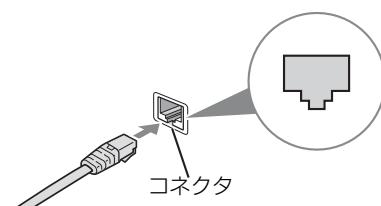
- ▶ データ通信カードやアダプター、モバイル Wi-Fi ルーターなどのデータ通信機器をお使いになりインターネットに接続する場合、設定および使用方法については、データ通信機器に添付のマニュアルをご覧ください。
- ▶ データ通信機器に関しては、ご契約のデータ通信サービス会社にお問い合わせください。

有線 LAN でインターネットに接続する（有線 LAN コネクタ搭載機種または LAN 変換ケーブル／アダプタ対応機種のみ）

有線 LAN をお使いになる場合は、LAN ケーブルをパソコン側の LAN コネクタに接続し、もう一方をお使いになるネットワーク機器のコネクタに接続します。

Point

- ▶ コネクタ類の位置は「各部の名称について」(→ P.20) で確認してください。
- ▶ LAN ケーブルを接続するときは、コネクタの向きを確認してしっかりと差し込んでください。



無線 LAN でインターネットに接続する（無線 LAN 搭載機種のみ）

ここでは、無線 LAN アクセスポイントと内蔵無線 LAN を使って、Windows 10 の標準機能でインターネットに接続する方法を紹介します。

重要

- ▶ 無線 LAN が搭載されていない場合は、有線 LAN または別売の無線 LAN アダプターをお使いください。
- ▶ 無線 LAN アクセスポイントは、パスワードを設定するなどセキュリティの設定をお使いになることをお勧めします。セキュリティの設定をしないと、通信内容を傍受されたり、ネットワークに侵入されたりする危険があります。
- ▶ 設定方法について詳しくは、無線 LAN アクセスポイントのマニュアルをご覧ください。設定方法についてわからないときは、無線 LAN アクセスポイントの製造会社に問い合わせてください。
- ▶ 5GHz 帯チャンネルに対応した無線 LAN 搭載モデルでは、パソコンを屋外で使う場合、電波法の定めにより 5GHz 帯の電波を停止する必要があります。

Point

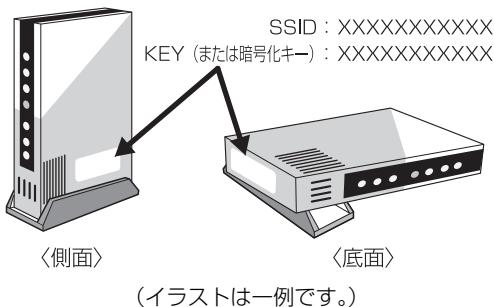
- ▶ 無線 LAN アクセスポイントではなくルーターなどと呼ばれる機器でも同じように設定できる場合があります。

Step1 無線 LAN アクセスポイントを設定する

別売の無線 LAN アクセスポイントを用意し、ネットワーク名と (SSID) パスワードを設定してください。

Point

- ▶ 無線 LAN アクセスポイントやルーターのパスワード (KEY、暗号化キーなど) は、出荷時に設定されている場合があります。その場合は、機器本体の側面や底面、またはマニュアルに記載されていることがあります。



(イラストは一例です。)

Step2 パソコンの設定をする

Windows 10 の標準機能を使って無線 LAN の設定を行う方法を説明します。

- 1 無線 LAN アクセスポイントの電源が入っていることを確認します。
無線 LAN アクセスポイントの電源の入れ方については、無線 LAN アクセスポイントに添付されているマニュアルをご覧ください。

- 2 通知領域の をクリックします。

3 Step1で設定した無線LANアクセスポイントのネットワーク名(SSID)をクリックします。

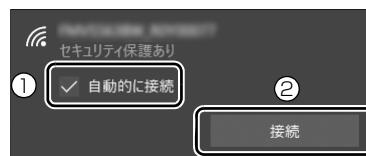


ネットワーク名(SSID)が表示されず「無効」と表示されているときは、「Wi-Fi」をクリックして「オン」にしてください。

Point

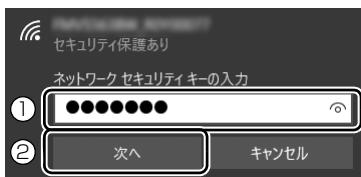
- セキュリティのためネットワーク名(SSID)が表示されないようにしている場合は、「非公開のネットワーク」をクリックし画面の指示に従って操作してください。「非公開のネットワーク」は画面下に隠れていることがあります。ネットワーク名の一覧を上にスクロールしてください。

4 ①「自動的に接続する」の□をクリックして☑にし、②「接続」をクリックします。



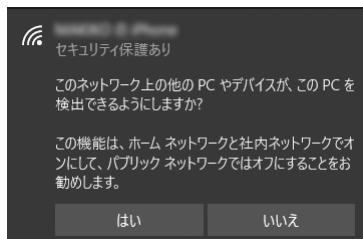
5 ①Step1で設定した無線LANアクセスポイントのパスワードを入力し、②「次へ」をクリックします。

「ルーターのボタンを押して接続することもできます。」と表示されいたら、無線 LAN アクセスポイント（ルーター）のボタンを押して接続できる場合があります。詳しくは、無線 LAN アクセスポイントのマニュアルをご覧ください。



6 「このネットワーク上の他のPCやデバイスが、このPCを検出できるようにしますか？」と表示されたら、お使いの状況に合わせ、「はい」か「いいえ」をクリックします。

よくわからない場合は「いいえ」を選択してください。



7 正しく設定できたか確認します。

正しく設定できると、「接続済み」と表示されます。



Point

- ▶ 「接続済み」と表示されなかった場合は、もう一度、Step1で設定した無線 LAN アクセスポイントの設定情報と、手順 5で入力したパスワードを確認してください。
- ▶ 無線 LAN アクセスポイントで設定した内容と同じ情報をパソコンに設定しないと、ネットワークに接続できません。無線 LAN アクセスポイントの設定がわからない場合は、無線 LAN アクセスポイントのマニュアルをご覧ください。

これで無線 LAN を使ったインターネット接続は完了です。

➡ この後は、「Microsoft アカウントに切り替える」(→ P.33) に進んでください。

Microsoft アカウントに切り替える

Microsoft アカウントとは

マイクロソフト社が提供するサービスを利用するためのアカウントです。

「Office」(Office 搭載機種)、OneDrive、「ストア」などのサービスは、Microsoft アカウントがないと利用できません。

Microsoft アカウントで Windows にサインインすれば、マイクロソフト社の各サービスに一括でサインインできるようになります。

できるだけ早く Microsoft アカウントに切り替えることをお勧めします。

Microsoft アカウント作成で困ったときは

Microsoft アカウントに切り替える操作については、日本マイクロソフト株式会社のサーバーにインターネットで接続して行っています。本書と異なる画面が表示された場合など、ご不明な点は日本マイクロソフト株式会社にお問い合わせください。

日本マイクロソフト株式会社 Answer Desk (アンサーデスク)

※ お電話で問い合わせると、「マイクロソフト コミュニティ」のご利用を案内される場合があります。

電話番号：0120-54-2244

受付時間：月～金／9:00～18:00、土・日／10:00～18:00 (祝祭日、指定休業日を除く)

マイクロソフト コミュニティ

URL : <http://answers.microsoft.com/ja-jp/>

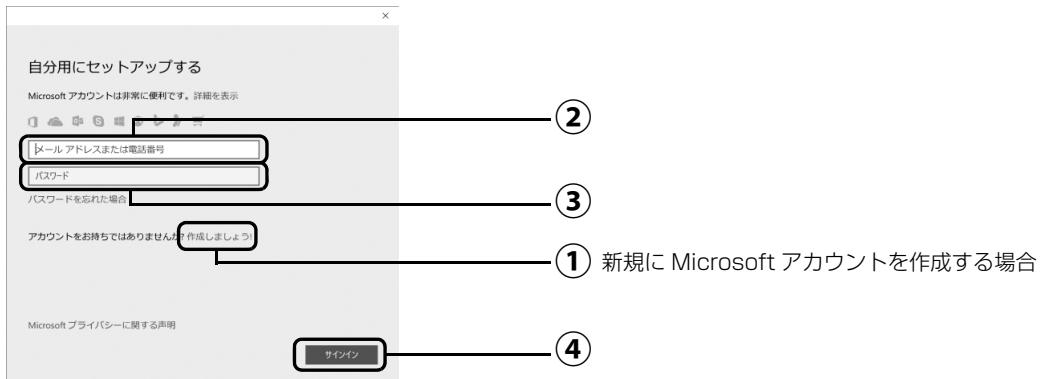
Microsoft アカウント切り替え方法

1 画面左下の ▶ (設定) ▶ 「アカウント」の順にクリックします。

2 ① 「ユーザーの情報」をクリックし、② 「Microsoft アカウントでのサインインに切り替える」をクリックします。



3 「自分用にセットアップする」が表示されたら、次のように操作します。



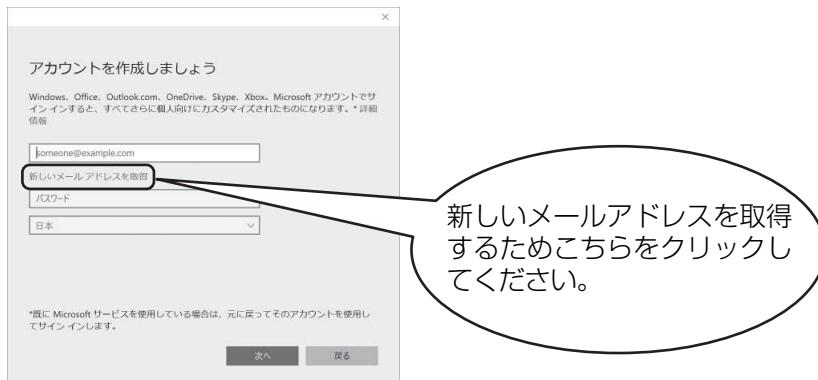
■新規に Microsoft アカウントを作成する場合

- ① 「作成しましょう！」をクリックします。
手順 4 に進んでください。

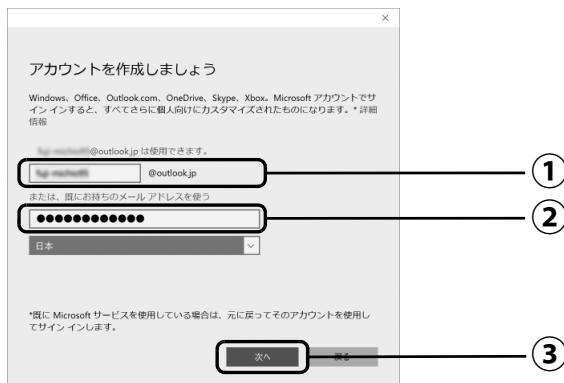
■すでにお持ちの Microsoft アカウントに切り替えたい場合

- ② Microsoft アカウントを入力し、③ パスワードを入力し、④ 「サインイン」をクリックします。
手順 9 に進んでください。

4 「アカウントを作成しましょう」が表示されたら「新しいメールアドレスを取得」をクリックします。



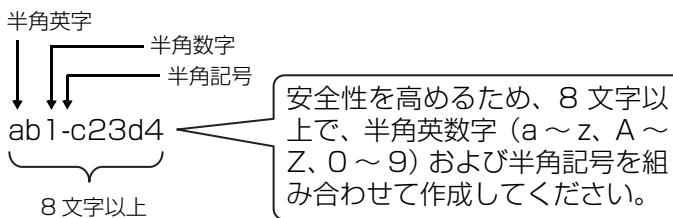
5 Microsoft アカウントになるメールアドレスを新規に作成します。



- ① Microsoft アカウント（メールアドレス）として使いたい文字列を入力します。
半角英数字（a～z、A～Z、0～9）およびピリオド(.)、ハイフン(-)、下線(_)のみ使用できます。
入力後、「このメールアドレスは既に使われています。」と表示された場合は、別のメールアドレスを入力するか、「次の中から選んでください」をクリックして表示される候補からメールアドレスを選択します。

- ② パスワードを入力します。

【パスワードの作成例】



※ 例とまったく同じ文字をパスワードとして使わないでください。

- ③ 「次へ」をクリックします。

Point

- 「次へ」をクリックしたとき、「日本」の上に「この情報は必須です。」というメッセージが表示され、次に進めないことがあります。その場合は「日本」の右側の▼をクリックし、「日本」を選択しなおしてから、再度「次へ」をクリックしてください。

6 次の欄に手順5で作ったMicrosoftアカウントを記入します。

Windows のサインインのときや、「Office」をインストールするときにも必要です。

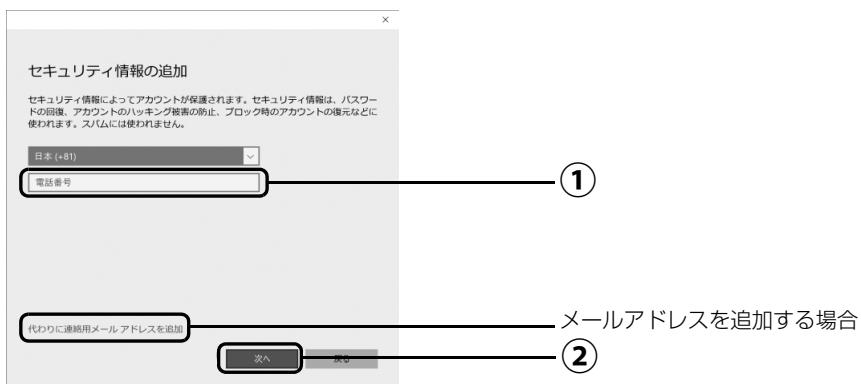
The form consists of a 'Microsoftアカウント' button and a text input field containing '@'. Below the input field is a note: '※パスワードも、絶対に忘れないようにしてください。' (Please remember your password).

※ 記入した情報は、第三者に漏れないように充分に注意して管理してください。

7 パスワードを忘れた場合のセキュリティ情報を入力します。

ここで入力した情報で、パスワードを再設定することができます。

「電話番号」と「連絡用メールアドレス」のどちらか1つを必ず入力してください。



■電話番号を追加する場合

- ① 電話番号を入力します。固定電話と携帯電話（スマートフォンを含む）、どちらの番号も使用できます。
本人確認をするときに必要になります。すぐに応対できる電話番号を入力してください。
- ② 「次へ」をクリックします。

■メールアドレスを追加する場合

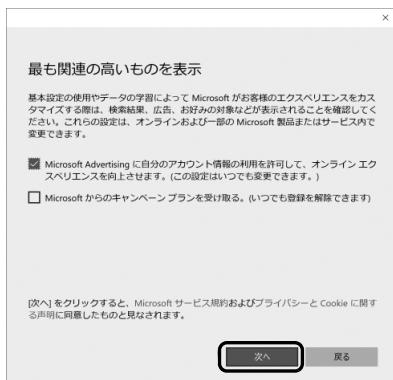
「代わりに連絡用メールアドレスを追加」をクリックします。

メールアドレスの入力画面が表示されたら、メールアドレスをセキュリティ情報に追加します。



- ① 以前から使用しているメールアドレスを入力します（携帯電話およびスマートフォンのメールアドレスを除く）。本人確認をするときに必要になります。すぐに応対できるメールアドレスを入力してください。
- ② 「次へ」をクリックします。

8 「最も関連の高いものを表示」が表示されたら、「次へ」をクリックします。



9 「現在の Windows パスワード」は空欄のまま、「次へ」をクリックします。

「Windows をセットアップする」の手順 7 (→ P.25) でローカルアカウントを取得したときにパスワードを設定した場合はパスワードを入力します。



ローカルアカウント取得時にパスワードを設定していない場合は空欄で「次へ」をクリックします。
パスワードを設定している場合は、パスワードを入力してください。

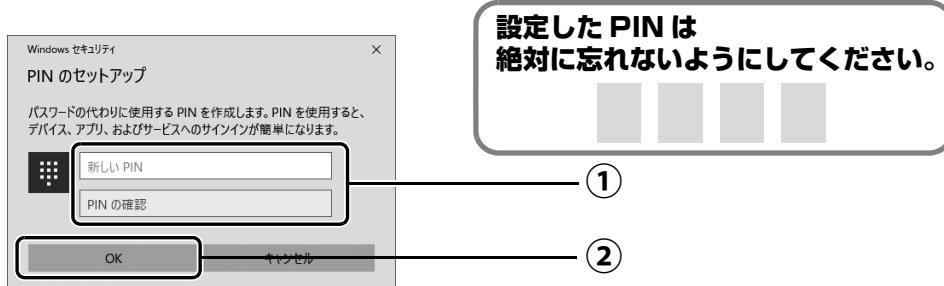
10 「PINのセットアップ」が表示されたら、①「PINの設定」をクリックします。



PINは、このパソコンでのみ Microsoft アカウントのパスワードの代わりに使えます。
※代わりに使えない場合もあります。

「PINが長いパスワードより安全なのはなぜですか?」をクリックすると説明がご覧になれます。

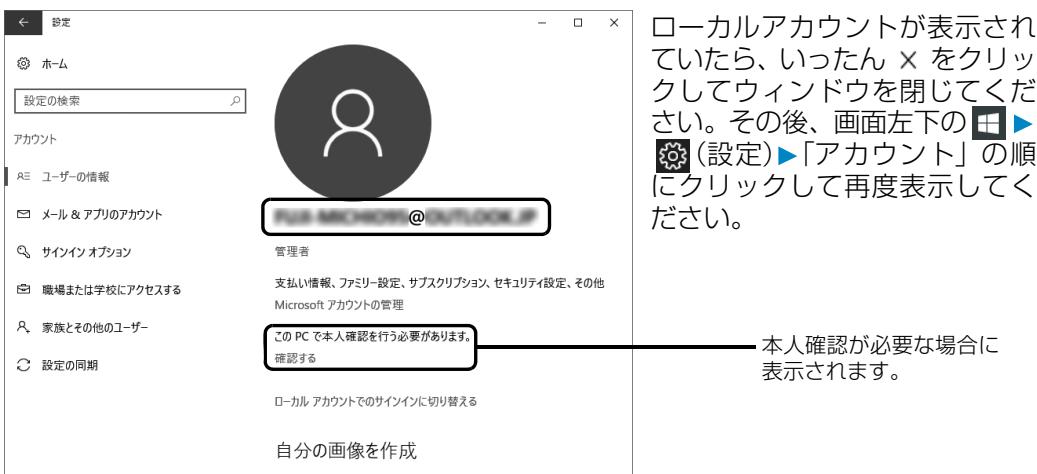
11 ①数字4桁を上段に入力し、下段にも同じ数字4桁を確認入力し、 ②「OK」をクリックします。



Point

- ▶ PINはアカウントの切り替え後に設定や変更ができます。▶ (設定)▶ 「アカウント」▶ 「サインインオプション」の順にクリックし、右側に表示された「PIN」から設定してください。

12 「アカウント」の「ユーザーの情報」画面に戻ったら、作成したMicrosoftアカウントが表示されていることを確認します。



Point

- ▶ 他のパソコンやタブレットで取得済みの Microsoft アカウントに切り替えた後など、このパソコンを快適にお使いになるために、本人確認を行う必要がある場合があります。「確認する」をクリックし、その後は画面の指示に従って操作してください。

13 画面左下の▶ (電源)▶ 「シャットダウン」の順にクリックします。 ここで、いったんシャットダウンしてください。

● この後は、「「はじめに行う設定」で初期設定する」(→ P.39) に進んでください。

「はじめに行う設定」で初期設定する

「はじめに行う設定」から、パソコンを快適にお使いになるために必要な初期設定を行ってください。

1 電源ボタン（）をポチッと押します。

2 ロック画面が表示されたら、を押します。



(これ以降の画面は機種や状況により異なります)

(ロック画面)

3 PIN を入力します。

「Microsoft アカウント切り替え方法」の手順 11 (→ P.38) で設定した PIN です。

Point

- ▶ PIN の設定をしていない場合は「Microsoft アカウント切り替え方法」の手順 6 (→ P.35) で記入したパスワードを入力し、をクリックします。

4 10 秒程度待ちます。

デスクトップに「はじめに行う設定」ウィンドウが自動で表示されます。

5 「ようこそ！」画面で、「次へ進む」をクリックします。



Point

- ▶ 「はじめに行う設定」の X をクリックし、「終了」をクリックした場合は、未確認のページがあるため、パソコンを再起動したときに、「はじめに行う設定」が自動起動されます。
- ▶ 「はじめに行う設定」は次のように起動することもできます。
[Windows icon] ▶ 「FUJITSU - はじめに行う設定」▶ 「はじめに行う設定」の順にクリックします。「はじめに行う設定」は下の方に隠れているのでスクロールして表示してください。

6 「ご確認いただきたい重要なお知らせ」画面が表示されたら、「重要なお知らせを開く」をクリックします。



「重要なお知らせ」という画面が表示されますので、よくお読みください。

Point

- ▶ 「重要なお知らせ」を再表示したい場合は、「はじめに行う設定」を再起動してください。

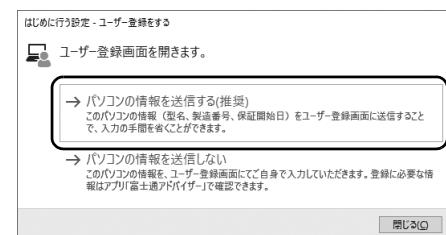
7 「パソコンのユーザー登録」画面が表示されたら、次のように操作し、富士通パソコンユーザー登録を行います。

ユーザー登録済の方は製品情報の追加登録を行います。



富士通パソコンユーザー登録を行い、ご購入されたパソコンとお客様の情報を、富士通に登録していくと1年間の無料電話相談などの手厚いサポートや専用の充実したサービスをご利用いただけます（入会費・年会費無料）。

1. 「パソコンのユーザー登録を開く」をクリックします。
2. 「はじめに行う設定 - ユーザー登録をする」
ウインドウが表示されたら、「パソコンの情報をお送りする（推奨）」をクリックします。
3. 「Microsoft Edge」が起動したら、画面の指示に従って富士通パソコンユーザー登録または製品情報の追加登録を行います。



Point

- メールアドレスを入力する画面が表示された場合は、Windows のセットアップ中の「富士通サービス＆サポートのご利用登録」(→P.26) でご登録いただいたメールアドレスを入力してください。

発行されたユーザー登録番号と My Cloud ID として設定したメールアドレスを、記入しましょう。

- ユーザー登録番号はお問い合わせや修理依頼のときに必要です。

| | |
|--------------------------|---|
| ユーザー登録番号 | <input type="text"/> |
| メールアドレス (My Cloud ID) | <input type="text"/> @ <input type="text"/> |

※パスワードも、絶対に忘れないようにしてください。

※ 記入した情報は、第三者に漏れないように充分に注意して管理してください。

8 「Officeをセットアップ」画面が表示された場合は、「セットアップの手順を開く」をクリックします。



「Office」のセットアップ方法を説明するページが表示されます。よく読んで必要に応じてセットアップをしてください。

Office のセットアップで困ったときは

「日本マイクロソフト株式会社 Answer Desk (アンサーデスク)」にお問い合わせください。

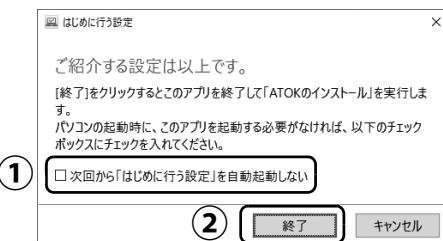
電話番号：0120-54-2244

受付時間：月～金／9:00～18:00、土・日／10:00～18:00
(祝祭日、指定休業日を除く)

9 「ATOKをインストール」画面が表示されたら、「ATOKのインストールを実行」をクリックします。

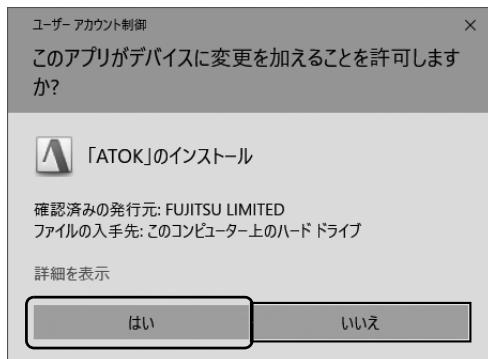


10 「はじめに行う設定」を終了します。



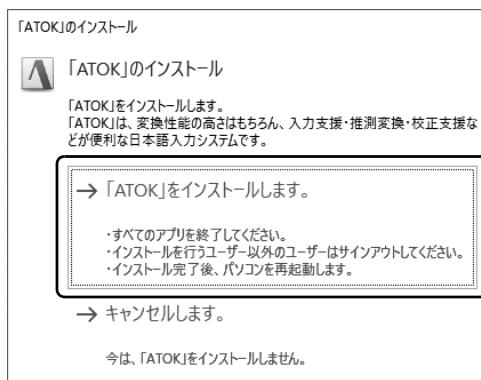
- ① 「次回から「はじめに行う設定」を自動起動しない」をクリックし、 にします。
パソコンを再起動したときに、「はじめに行う設定」が表示されなくなります。
- ② 「終了」をクリックします。

11 「ユーザー アカウント制御」 ウィンドウが表示されたら、「はい」をクリックします。



12 「ATOK」をインストールします。」をクリックします。

「ATOK」のインストールが開始されます。しばらくお待ちください。



13 「ATOK」のインストールを完了するには、パソコンを再起動する必要があります。」と表示されたら、「はい」をクリックします。

再起動後に「ATOK」が使えるようになります。

これでセットアップは完了です。

この後の使い方

このパソコンの機能を充分活用するために、セットアップ後にやっておくとよいことをご紹介します。

『取扱説明書＜活用ガイド＞』を読む

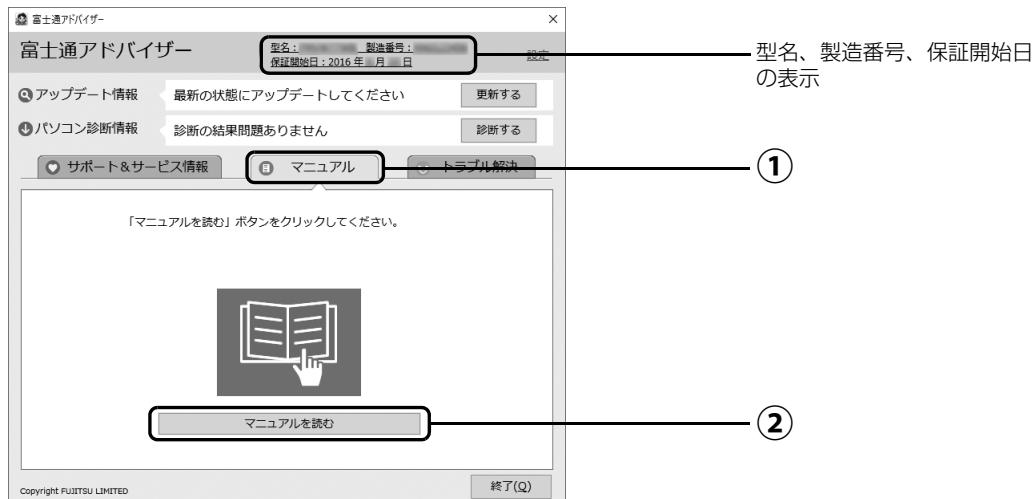
『取扱説明書＜活用ガイド＞』にはこのパソコンに搭載されている機能やアプリを使いこなすための情報が掲載されています。必要に応じてお読みください。

■富士通アドバイザーを使って『取扱説明書＜活用ガイド＞』を読む

1 デスクトップの  (富士通アドバイザー) をダブルクリックします。

2 ① 「マニュアル」タブをクリックし、② 「マニュアルを読む」をクリックします。

『取扱説明書＜スタートガイド＞』および  『取扱説明書＜活用ガイド＞』が、まとめて表示されます。



Point

- ▶「このファイルを開く方法を選んでください」と表示された場合は、「Microsoft Edge」が選択されていることを確認して、「OK」をクリックしてください。
- ▶セットアップ直後はネットの状況やタイミングによってダウンロードに時間が掛かることがあります。お急ぎの場合は「型名、製造番号、保証開始日の表示」をクリックし、このパソコンの「機種別サポート情報・ダウンロード」ページを表示し、『取扱説明書＜活用ガイド＞』をダウンロードしてください。

■ 『取扱説明書<活用ガイド>』の内容

●各部の名称と働き

本製品の各部分の名称と働きについて説明しています。

●取り扱い

本製品の基本的な取り扱い方法について説明しています。主な掲載内容は次のとおりです。

- ・Windows のスタート／終了方法
- ・バッテリ、マウス、フラットポイント、光学ドライブ、メモリーカードなど各部の取り扱い方法
- ・音量や画面の明るさの調節、電源オフ USB 充電機能の使い方（搭載機種のみ）
- ・お手入れの方法

●バックアップ

本製品に搭載されている「バックアップガイド」を使って大切なデータをコピー（バックアップ）する方法を説明しています。

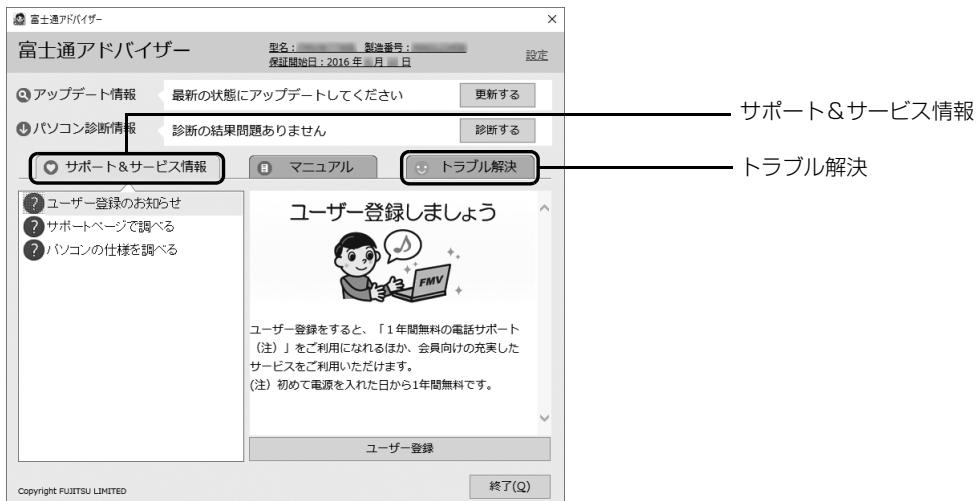
●使いこなすために

本製品ならではの機能のご紹介や、本製品を使いこなすための細かい設定方法などを説明しています。

- ・@メニュー、My Cloud プレイ、ステータスパネルスイッチなどの搭載アプリの説明
- ・スリープや節電方法
- ・ディスプレイ、サウンド、通信の設定
- ・BIOS の設定
- ・Windows Hello の設定（赤外線カメラまたは指紋センサー搭載機種のみ）

「富士通アドバイザー」を活用する

『取扱説明書<活用ガイド>』を読むだけではなく、パソコンを安心・快適にお使いいただくためのさまざまな情報を入手できます。



■ サポート&サービス情報

受信したお知らせが左側に一覧表示されます。

●使いはじめの時期のお役立ち情報

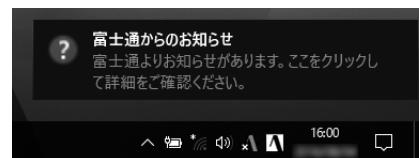
●Windows 10 の基本的な使い方、古いパソコンやタブレットからのデータの移行方法、写真の取り込み方などの、使いはじめの時期に役立つ情報をお知らせします。

●緊急のお知らせ

Windows やアプリのセキュリティ危機、障害などが発生したときに、対処方法を配信します。



- ▶新しくお知らせを受信した場合は、通知領域にメッセージが表示されます。クリックすると、「富士通アドバイザー」が起動して、お知らせの詳細を確認することができます。
 - ・メッセージが消えてしまったときは、デスクトップの (富士通アドバイザー) をダブルクリックして「富士通アドバイザー」を起動してください。



■トラブル解決

- 「Windows 10 基本操作クイックガイド」をご覧になれます。
- Q&A

パソコンでよくあるトラブル（起動・終了時、Windows、アプリ関連など）について解決方法を調べることができます。

■「富士通アドバイザー」（スマートフォン版）のご紹介

「富士通アドバイザー」（スマートフォン版）をご利用いただくと、万が一、パソコンが起動しなかったり、インターネットに接続できなかったりする場合でも、サポート情報やマニュアルをご覧いただけます。

※Android 4.0 以上、iOS7.0 以上を搭載したスマートフォンが必要です。

※「富士通アドバイザー」（スマートフォン版）の利用設定が必要です。

□ダウンロード手順

1. 富士通アドバイザーアプリのダウンロードページを開きます。
<http://azby.fmworld.net/support/mycloudapps/download/#fjadviser>



スマートフォンから

2. Google play バナーまたは App Store のバナーをクリックして、アプリをダウンロードします。



回復ドライブを作成する

回復ドライブを作成しておくと、Windows が起動しないなど、パソコンに問題が発生したときに、修復できる場合があります。できるだけ早く作成することをお勧めします。

※サポートページでは画面例のある詳しい手順を公開しています。必要に応じて Q&A ナンバー「7410-8229」を検索してご覧ください（→ P.57）。

32GB 以上の容量を持つ USB メモリを用意してください

- ・回復ドライブは 1 つの USB メモリで作成してください

容量が32GBに満たないUSBメモリを複数用意しても作成できません。DVDには作成できません。

- ・回復ドライブを作成すると USB メモリに作成前に記録していたデータはすべて削除されます
必要なデータはバックアップをとってください。

- ・回復ドライブを作成後に、データを追加することはできません

- ・回復ドライブにした USB メモリは、他の用途には使えません

※ 暗号化機能（パスワード）付きの USB メモリの使用について

- ・暗号化機能（パスワード）が搭載されている場合、回復ドライブを作成したときに、USB メモリ内の暗号化ソフトが削除される可能性があります。暗号化機能を再度使用したい場合は、事前に暗号化ソフトを提供元のホームページなどから入手可能かどうかをご確認ください。

- ・一部の高機能な USB メモリでは、暗号化機能が削除されないものがあります。起動時に USB メモリの内容を読み込めるかどうかは、USB メモリの提供元にご確認ください。

■ 回復ドライブを作成する上の注意

- 回復ドライブの作成に使用する USB メモリ以外の、USB メモリや外付けハードディスク、増設用内蔵ハードディスクユニットは、必ず取り外してください
接続したまま操作すると、大切なデータが消去されてしまう可能性があります。
- 管理者アカウントで Windows にサインインしていることを確認してください
セットアップ時に作成したアカウントは管理者アカウントです。
- 作成した回復ドライブは紛失しないよう大切に保管してください
- 必ず AC アダプタを接続してください

■ 回復ドライブの作成手順

1. ▶「FUJITSU- バックアップガイド」▶「バックアップガイド」の順にクリックします。
「FUJITSU- バックアップガイド」が見つからないときは画面を上にスクロールしてください。
2. 「バックアップガイド」が表示されたら、「次へ」ボタンをクリックします。
3. 「回復ドライブを作成する」欄にある「回復ドライブの作成」をクリックします。
「ユーザーアカウント制御」が表示されたら、「はい」ボタンをクリックします。
4. 「回復ドライブの作成」という画面が表示されたら、「システムファイルを回復ドライブにバックアップします。」にチェックを付け、「次へ」をクリックします。
5. 「USB フラッシュドライブの接続」という画面が表示されたら、パソコンの USB コネクタに 32GB 以上の USB メモリを接続します。
6. 「USB フラッシュドライブの選択」という画面が表示されたら、「使用可能なドライブ」欄に USB メモリを接続したドライブが表示されていることを確認し、「次へ」をクリックします。
7. 「作成」をクリックします。
回復ドライブの作成が完了するまで、しばらく待ちます。
8. 「回復ドライブの準備ができました」と表示されたら、「完了」をクリックします。
9. X をクリックし「バックアップガイド」を閉じます。

バックアップをとる

パソコンが起動しなくなってしまった場合に備え、定期的にバックアップをとりましょう。

詳しくは、『取扱説明書<活用ガイド>』の「バックアップ」(→P.113)をご覧ください。

■ バックアップガイド

Windows 10 に搭載されたバックアップ機能の設定手順のガイドを表示し、設定ウィンドウを簡単に表示するアプリです。「バックアップガイド」を利用し、各機能を組み合わせて効率的にバックアップをとりましょう。

□「ファイル履歴」および「個人ファイルの復元」

日々作成する写真やドキュメントなどのデータを、外付けハードディスクや USB メモリなどにバックアップします。定期的にバックアップすることをお勧めします。

□ システムイメージバックアップ

外付けハードディスクや USB メモリなどに、システム全体のバックアップをとります。セットアップ直後や大きな変更を加えたときにとっておけば、その時点の状態に戻すことができます。

『ソフ得』ソフト使い放題

「『ソフ得』ソフト使い放題」は、100 種類以上、総額 44 万円相当のアプリが、月額 540 円（税込）で使い放題になる大変便利なサービスです。お申し込みいただくとすぐに、使いたいアプリを使いたいときに、いくつでもダウンロードして使用できます。

■ こんなアプリが使えます

- ・パソコン高速化ソフト「Wise Care 365 Pro」
 - ・漢字学習ソフト「らくらく漢字脳 中級」
 - ・パソコンゲーム「IT 将棋」
 - ・写真編集ソフト「かんたん写真編集 3」など…
- (2016 年 7 月時点取り扱いアプリ)

使用できるすべてのアプリや使い方の詳細については、ホームページをご覧ください。

<http://azby.fmworld.net/bm/st3/>



- ▶ ご利用にあたって必要となる環境などは、次のとおりです。
 - ・インターネットへの接続
 - ・My Cloud アカウント
 - 『ソフ得』のお申し込み手続きのときに取得することもできます。
 - ・クレジットカード

ご利用料金のお支払いはクレジットカードのみとなります。

■ 使い放題ツール

「『ソフ得』ソフト使い放題」をご利用になるには、「使い放題ツール」が必要になります。

「使い放題ツール」では、サービスへのお申し込み、アプリのインストール、インストールしたアプリの管理を行います。

このパソコンには、デスクトップに（ソフト使い放題セットアップ）が用意されています。ダブルクリックすると「使い放題ツール」のインストールが開始されます。

※ 「使い放題ツール」のインストールは無料です。

動画でこのパソコンの使い方を学ぶ

「動画でわかる FMV・arrows Tab」から、このパソコンのさまざまな使い方を説明した動画をご覧になります。難しそうな操作も動画で観れば、理解しやすくなります。参考に活用してください。
※ 動画をご覧になるにはインターネットに接続する必要があります。

■ 動画を観るには

1.  「動画でわかる FMV・arrows Tab」の順にクリックします。
2. 「動画でわかる FMV・arrows Tab」が表示されたら、観たい動画をクリックします。



(タイトルの表示は機種や状況により異なります)

■ このような動画が観られます

- Windows 10 の基本的な操作方法
- パソコンの設定やデータを保存する手順
- 写真の取り込み方
- 「PowerDirector」の使い方
- Office を始める準備
- 「パソコン乗換ガイド」の手順
- 「PaintShop Pro」の使い方

※ 機種により対象外の動画もあります。

困ったときは

メールや Office で困ったときは

「Outlook」（メールアプリ）や「Word」、「Excel」などのOfficeの製品については、アプリ提供元の日本マイクロソフト株式会社にお問い合わせください。

| | |
|---|---|
| <p>オフィス ホーム ビジネス プレミアム Office Home & Business Premium</p> <p>オフィス パーソナル プレミアム Office Personal Premium</p> <p>オフィス モバイル Office Mobile</p> <p>エクセル ワンノート アウトルック 「Excel」、「OneNote」、「Outlook」、</p> <p>ワード 「PowerPoint」、「Word」、「楽しもう！Office ライフ」、「楽しもう フォト ウィザード」のお問 い合わせ先もこちらです。</p> | <p>日本マイクロソフト株式会社 Answer Desk（アンサーデスク） 電話：0120-54-2244 受付時間：月～金／9:00～18:00、 土・日／10:00～18:00（祝祭日、指定休業日を除く） URL：http://support.microsoft.com/contactus/</p> |
|---|---|

※ 搭載されているアプリはお使いの機種により異なります。

ウイルス対策アプリなどで困ったときは

マカフィー リブセーフのお問い合わせ先

| | |
|-------------|--|
| マカフィー リブセーフ | マカフィー株式会社 URL : http://www.mcafee.com/japan/home/support/ ①テクニカルサポートセンター インストール方法、製品削除など技術に関するお問い合わせ窓口 電話 : 0570-060-033 (IP電話からの場合 : 03-5428-2279) 受付時間 : 9:00 ~ 21:00 (年中無休) お問い合わせフォーム : http://www.mcafee.com/japan/mlsts/ ②カスタマーサービスセンター ご契約の更新、ご契約期間の確認など、ご契約に関するお問い合わせ窓口 電話 : 0570-030-088 (IP電話からの場合 : 03-5428-1792) 受付時間 : 9:00 ~ 17:00 (土・日・祝祭日を除く) お問い合わせフォーム : http://www.mcafee.com/japan/mlscs/ マカフィー リブセーフの有効期限まで、サポートいたします。 |
|-------------|--|

「マカフィー リブセーフ 3年無償版」をご利用いただけます。

その他のアプリのお問い合わせ先

本製品に搭載されているアプリで、次の「アプリ提供会社がサポートするアプリ」以外は弊社がサポートいたします。
※ 搭載されているアプリはお使いに機種により異なります。

■アプリ提供会社がサポートするアプリ

| | | |
|---|---|---|
| C | Corel® PaintShop® Pro X8 for Fujitsu | コアレル株式会社 コアレルサポートセンター 電話 : 0570-003-002 (ナビダイヤル) 受付時間 : 10:00 ~ 12:00, 13:30 ~ 17:30 (土・日・祝祭日・指定休業日を除く) URL : http://www.corel.jp/support お問い合わせフォーム : https://support.corel.com/hc/ja/requests/new?ticket_form_id=209638 |
| | CyberLink SeeQVault Player PowerDirector™ 14 | サイバーリンク株式会社 サイバーリンクカスタマーサポート 電話 : 0570-080-110 (ナビダイヤル)、 03-5205-7670 (PHS・一部のIP電話から) 受付時間 : 10:00 ~ 13:00, 14:00 ~ 17:00 (土・日・祝日・特別休業日を除く) URL : http://jp.cyberlink.com/support/index.html お問合せ専用 Web フォーム : http://jp.cyberlink.com/prog/support/cs/contact-support.jsp |
| D | DigiBook® Browser for FUJITSU | 株式会社 DigiBook 電話 : 03-6805-9240 FAX : 03-5468-1250 受付時間 : 10:00 ~ 17:00 (土・日・祝祭日を除く) URL : https://secure.digibook.net/contact/ Eメール : info@digibook.net |

※ 搭載されているアプリはお使いの機種により異なります。

| | | |
|--------|---|---|
| | i- フィルター | デジタルアーツ株式会社 サポートセンター 電話：0570-00-1334 受付時間：10:00～18:00（指定休業日を除く） URL： http://www.daj.jp/faq/ お問い合わせフォーム： http://www.daj.jp/ask/ 試用期間中、サポートいたします。 |
| か 行 | 学研パーソナル英和辞典 学研パーソナル和英辞典 学研パーソナル現代国語辞典 学研パーソナル版漢字辞典 | 株式会社学研教育出版 デジタルコンテンツ事業室 電話：03-3493-3286（辞書データについてのお問い合わせ先） 受付時間：10:00～12:00、13:00～17:00（土・日・祝祭日を除く） 辞書のひき方や、「電子辞書」の使い方については「富士通パーソナル製品に関するお問い合わせ窓口」（→ P.59）へお問い合わせください。 |
| | 広辞苑第六版 | 株式会社岩波書店 電子出版編集部 電話：03-5210-4082（辞書データについてのお問い合わせ先） 受付時間：13:00～17:00（土・日・祝祭日を除く） 辞書のひき方や、「電子辞書」の使い方については「富士通パーソナル製品に関するお問い合わせ窓口」（→ P.59）へお問い合わせください。 |
| さ 行 | 新和英中辞典第5版 リーダース英和辞典第3版 | 株式会社研究社 電子出版室 電話：03-3288-7711（辞書データについてのお問い合わせ先） 受付時間：10:00～12:00、13:00～17:00（土・日・祝祭日を除く） 辞書のひき方や、「電子辞書」の使い方については「富士通パーソナル製品に関するお問い合わせ窓口」（→ P.59）へお問い合わせください。 |
| | ソフト使い放題 | 株式会社オプティム ソフ得 ソフト使い放題サポートセンター 電話：ご契約前のお客様 03-6435-8566 ご契約後のお客様 050-3734-4960 受付時間：10:00～18:00（年中無休） FAQ： http://azby.fmworld.net/monthly/faq.html?unlimitedfrom=unlimitedNavi_faq#unlimited お問い合わせフォーム： http://www.optim.co.jp/contents/12049 |
| は 行 | 筆ぐるめ 24 | 富士ソフト株式会社 インフォメーションセンター 電話（ナビダイヤル）：0570-550-211 (IP電話 /PHS の場合：03-5638-6139) 受付時間：9:30～12:00、13:00～17:00 (土日、祝祭日、及び弊社休業日を除く／11月1日から12月30日までは無休（12月30日は12:00まで）) URL： http://www.fudegurume.jp/ Eメール： users@fsi.co.jp |

※ 搭載されているアプリはお使いの機種により異なります。

よくあるトラブルと解決方法

トラブルが発生した場合、まず次の点を確認してください

- 使用する装置（パソコンや周辺機器）の電源はすべて入っていますか？
- ケーブル類は正しいコネクタに接続されていますか？また、ゆるんだりしていませんか？
- 電源コンセント自体に問題はありませんか？
他の電器製品を接続して動作するか確認してください。
- ネットワーク接続ができなくなった場合は、ネットワークを構成する機器（ハブなど）の接続や電源も確認してください。
- パソコンを再起動するとトラブルが解消される場合があります。パソコンの操作が可能なときは、 （電源）
▶「再起動」の順にクリックし、パソコンを再起動してください。

起動・終了時のトラブル

| 症状 | 考えられる原因 | 対処方法 |
|------------------------------------|--------------------------------------|---|
| 電源が入らない | 電源ケーブルや AC アダプタが正しく接続されていない | 電源ケーブルや AC アダプタが正しく接続されているか確認してください（→ P.22）。 |
| | バッテリ残量が少ない | AC アダプタを接続し、バッテリを充電してください。 |
| | バッテリパックを交換した場合に正しく取り付けられていない | バッテリパックが正しく取り付けられているか確認してください（→ P.89）。 |
| | 上記の対処で解決しない | AC アダプタと内蔵バッテリパックをいったん取り外し、2～3 分放置後、再び取り付けてください。 |
| Scroll Lock ランプが点滅し、Windows が起動しない | メモリを増設または交換した場合にメモリが正しく取り付けられていない | メモリが正しく取り付けられているか確認してください（→ P.110）。 |
| | メモリを増設または交換した場合にサポートしていないメモリを取り付けている | 取り付けたメモリがこのパソコンでサポートされているか確認してください（→ P.109）。 |
| 画面に何も表示されない | 外部ディスプレイのみに表示する設定になっている |  +  または  +  を押して、表示先を切り替えてください。 |
| | 画面が暗すぎる |  +  を押して、画面を明るくしてください。 |
| | ディスプレイのバックライトが消灯している | 何かキーを押してください。 |
| | スリープや休止状態になっている | 電源ボタンを押してください。 |
| | 上記の対処で解決しない | ディスクアクセランプが消灯していることを確認し、電源ボタンを 4 秒以上押して電源を切れます。その後、10 秒以上待ってから、電源を入れ直してください。 (ディスクアクセランプが点灯中に電源を切ると、ハードディスクが壊れる可能性があります。) なお、保存されていない作業中のデータは失われます。 |

| 症状 | 考えられる原因 | 対処方法 |
|----------------|--------------------|---|
| Windows が起動しない | 周辺機器が正しく取り付けられていない | 周辺機器のマニュアルをご覧になり、正しく取り付けられているか確認してください。 |
| | 上記の対処で解決しない | ハードウェアの診断を行ってください(→P.57)。 |
| 電源が切れない | Windowsが正しく動いていない | <p>次の手順で Windows を終了させてください。</p> <p>ハードディスクが動作しているときに電源を切ると、ファイルが失われたり、ハードディスクが壊れたりする可能性がありますので、ご注意ください。</p> <ol style="list-style-type: none"> 〔Ctrl〕+〔Alt〕+〔Delete〕を押す。 〔Tab〕で画面右下の〔电源〕を選択して〔Enter〕を押す。 カーソルキーで「シャットダウン」を選択して〔Enter〕を押す。 |
| | フラットポイントやマウスが使えない | <p>次の手順で、Windows を終了させてください。</p> <ol style="list-style-type: none"> 〔Esc〕を押す。 〔Tab〕を2回押す。 カーソルキーで〔电源〕を選択して〔Enter〕を押す。 カーソルキーで「シャットダウン」を選択して〔Enter〕を押す。 |
| | 上記の対処で解決しない | ディスクアクセスランプが消灯していることを確認し、電源ボタンを4秒以上押して電源を切ります。 (ディスクアクセスランプが点灯中に電源を切ると、ハードディスクが壊れる可能性があります。) なお、保存されていない作業中のデータは失われます。 |

ディスプレイのトラブル

| 症状 | 考えられる原因 | 対処方法 |
|----------------|---|------------------------------|
| 画面に何も表示されない | 「起動・終了時のトラブル」の「画面に何も表示されない」の項目をご覧ください(→P.55)。 | |
| 画面が急に表示されなくなった | パソコンが磁気に反応し、スリープや休止状態になった | 磁気の発生するものを遠ざけ、電源ボタンを押してください。 |

他のトラブル解決方法を参照する

次の手順で表示される説明をご覧ください。

- 1 デスクトップの  (富士通アドバイザー) をダブルクリックします。
富士通アドバイザーのご利用について表示された場合は、内容をよくお読みになり、「同意する」をクリックします。
- 2 「富士通アドバイザー」の「トラブル解決」タブをクリックします。

インターネットに接続して上記の操作を行うと、表示される内容が最新の状態に更新されます。

インターネット上のサポートページを使う

インターネット上のサポートページにも、多くの Q&A 事例をご用意しております。次のようにご利用ください。

- 1 上記の「他のトラブル解決方法を参照する」の手順に従って「富士通アドバイザー」の「トラブル解決」の画面を表示し、「困っていることから探す(インターネット)」をクリックします。
サポートページが表示されます。
- 2 サポートページ上部の入力欄に、困っていることに関連するキーワードを入力し、入力欄の横にある「検索」をクリックします。
入力欄に Q&A ナンバーを入力して検索することもできます。

「富士通ハードウェア診断ツール」を使う

Windows が起動しなくなったときに、このパソコンのハードウェア (CPU、メモリ、ディスプレイなど) に問題がないか診断します。

- パソコン本体の電源を切り、あらかじめ周辺機器を取り外しておいてください。
- 診断したいハードウェアを選択できます。
- 診断時間は 5 ~ 20 分程度です (診断するパソコンの環境によっては長時間かかる場合があります)。

「富士通ハードウェア診断ツール」はキーボードで操作します (タッチ操作できません)。

- 1 BIOS の設定をご購入時の状態に戻します (→P.58)。
- 2 パソコン本体に外付けハードディスクなどを接続している場合は、取り外します。
- 3 パソコンの電源が入っていたら、電源を切ります。
- 4  を押しながら、パソコンの電源ボタンを押します。

5 短いビープ音が鳴ったら、 から指を離します。
起動メニューが表示されます。

- 6 キーボードの  を押し、画面を切り替えます。
- 7 メニューが表示されたら、 を押して、「診断プログラム」または「Diagnostic Program」を選択し、 を押します。
- 8 「診断プログラムを実行しますか?」または「Do you want to continue?」と表示されたら、 を押してハードウェア診断を開始します。
ハードウェア診断が終了すると、診断結果が表示されます。

■エラーコードが表示された場合

メモなどに控え、お問い合わせのときにサポート担当者にお伝えください。その後、 を押してパソコンの電源を切ってください。

■問題がない場合

 を押して、次の手順に進んでください。

- 9 表示された注意事項をよく読み、「OK」をクリックします。
「富士通ハードウェア診断ツール」の画面が表示されます。
- 10 「診断」タブをクリックします。
- 11 診断したいアイコンにチェックが入っていることを確認し、「実行」をクリックします。
ハードウェア診断が始まります。

Point

- ▶ 「CD/DVD/BD ドライブに CD-ROM または DVD-ROM をセットしてください。」などと表示された場合は、お手持ちの CD や DVD を光学ドライブにセットして「診断開始」をクリックしてください。
ただし、データが書き込まれていないディスクや、コピーガードされたメディア (映画などの DVD、およびコピーコントロール CD など) は使用できません。
- ▶ 診断を取りやめる場合は「キャンセル」をクリックしてください。

12 「診断結果」ウィンドウに表示された内容を確認します。

■エラーコードが表示された場合

メモなどに控え、お問い合わせのときにサポート担当者にお伝えください。

■問題がない場合

手順 15 まで行った後、「パソコンを以前の状態に戻す」(→ P.58) に進んでください。

13 「診断結果」ウィンドウの「閉じる」をクリックします。

「富士通ハードウェア診断ツール」の画面に戻ります。

14 「終了」をクリックします。

「終了」 ウィンドウが表示されます。

15 「はい」をクリックします。

パソコンの電源が切れます。

□ BIOS の設定をご購入時の状態に戻す

1 パソコン本体に外付けハードディスクなどを接続している場合は、取り外します。

2 パソコンの電源が入っていたら、電源を切ります(→ P.68)。

3 [F2] を押しながら、パソコンの電源ボタンを押します。

4 短いビープ音が鳴ったら、[F2] から指を離します。 BIOS の画面が表示されます。

Point

▶ Windowsが起動してしまった場合は、手順2から操作をやり直してください。
▶ BIOS の画面が表示されず、Windows も起動しない場合は、電源ボタンを 4 秒以上押して電源を切り、10 秒以上待った後、手順 3 から操作をやり直してください。

5 [←]、[→]、[↑]、または [↓] で「終了」または「Exit」メニュー▶「標準設定値を読み込む」または「Load Setup Defaults」の順に選んで [Enter] を押します。

6 「はい」または「Yes」を選んで [Enter] を押します。

7 「変更を保存して終了する」または「Exit Saving Changes」を選んで [Enter] を押します。

8 「はい」または「Yes」を選んで [Enter] を押します。

BIOS セットアップについて詳しくは、「BIOS の設定」(→ P.168) をご覧ください。

パソコンを以前の状態に戻す

ハードウェアに問題がなく、マニュアルやインターネットの Q&A でも解決できなかった場合は、パソコンが問題なく動作していた時点の状態に戻す、という解決方法があります。

ただし、この解決方法は、今まで作成したデータや設定が削除されてしまう場合があり、現在お使いの状態に戻すには大変手間がかかります。

本当に必要かどうか再度確認してください。

どうしても必要な場合は、次の説明の参照先に記載された注意事項を必ず確認したうえで行ってください。このパソコンでは2つの方法でパソコンを以前の状態に戻すことができます。

●「システムイメージバックアップ」から復元する
「システムイメージバックアップ」を作成している場合、作成した時点に戻すことができます。

バックアップ後に行った設定や作成したデータなどは削除されます。

詳しくは、「バックアップ」(→ P.113) をご覧ください。

●この PC を初期状態に戻す

「システムイメージバックアップ」を作成していない場合は、Windows 10 の機能「この PC を初期状態に戻す」を使い、パソコンをご購入時に近い状態に戻すことができます。

ご購入時に近い状態に戻るため、現在お使いの状態に戻すには、アプリをインストールしたり、設定を復元したりなど大変手間がかかる場合があります。

詳しくは、「パソコンの状態を回復する」(→ P.63) をご覧ください。

富士通の窓口に相談する

「よくあるトラブルと解決方法」(→ P.55)で解決しなかった場合は富士通の窓口にご相談ください。

お問い合わせ窓口のご紹介

富士通パーソナル製品に関するお問い合わせ窓口

お客様に合わせた様々な方法でお問い合わせができます。

技術相談も、修理相談もワンストップで解決！より便利に簡単にご利用できる窓口になりました。

富士通FMVサポートページ <http://azby.fmworld.net/support/> ※最新の情報はホームページをご覧ください。



“メール”で相談する



ホームページ上の専用の質問フォームから送信いただいたFMVに関するお問い合わせを受け付け、メールで回答いたします。

Q&A・パソコン活用情報を検索後にお問い合わせいただけます。

① Q&Aで調べる

② 質問フォームに入力する

③ メールで回答

各Q&Aページの下の方に質問フォームを表示するボタンがあります。



Q&Aで問題が解決しないときは、下記の方法をお試しください。



メールサポートを利用する



サポートコール予約を利用する

*ユーザー登録が必要となります。

パソコン スマートフォン



“Twitter”でアドバイスを受ける



Twitter のFMV公式アカウントを、ぜひフォローしてください。お役立ちQ&Aをご紹介します。お困り内容をつぶやくと、担当者からアドバイスが届くことも！（「富士通」「FMV」「My Cloud」などの言葉を交えてツイートしてみましょう）

FMV公式アカウント：@Fujitsu_FMV_QA

*お問い合わせにはTwitterへのログインが必要となります。

*お客様に沿った案内が必要な場合は、メールでの相談をご案内する場合がございます。

*お問い合わせいただいたすべてのご質問にお答えできない場合もございます。

*Twitterの特性を最大限に生かすため、お客様とのやりとりはみなさまに見える状態でツイートいたします。

パソコン スマートフォン



“インターネットで故障を診断”する

ネットで故障診断



パソコン スマートフォン

<http://azby.fmworld.net/webpcrepair/>

電話予約

電話



“電話”で相談する

※ご利用料金に関しては、次ページの「ご利用料金とお支払いについて」をご覧ください。

電話相談の“予約”をする

パソコン スマートフォン

お客様がホームページより予約された時間帯に、FMVテクニカルセンターのサポート担当者からお電話を差し上げ、ご予約の際に入力されたご質問にお答えします。

<https://azby.fmworld.net/callback/>



*ユーザー登録が必要となります。

*富士通からお電話をかける連絡先は、日本国内に限らせていただきます。また日本語対応のみとなります。

使い方、技術相談、修理相談、すべてこちら

通話料無料 0120-950-222

受付時間：9:00～19:00(注)

045-514-2255

受付時間：9:00～17:00

注：受付時間は窓口によって異なります。ガイドラインに従ってご利用ください。

※電話番号はお間違えのないように、十分ご確認のうえおかけください。

※システムメンテナンスのため、サポートを休止させていただく場合があります。

※音声ガイダンス内容・操作方法・受付時間は、予告なく変更させていただく場合があります。

※ユーザー登録されている電話番号とお客様の発信番号が一致した場合には、ユーザー登録番号の入力が省略できます。

※通知設定による発信や、ユーザー登録されている番号と異なる発信番号等、一部ユーザー登録情報の確認ができない場合は、音声ガイダンスの指示に従ってユーザー登録番号を入力してください。

■ご利用料金とお支払いについて

●ご利用料金

- ・パソコン本体に初めて電源を入れた日（保証開始日）から、**1年間無料**でご利用いただけます。[注]

注：Refreshed PCに関する電話による技術サポートに関しては、1年目もお問い合わせ1件あたり2,060円（税込）となります。
また、受付時間は月～金曜日（祝日を除く）9時～17時となります。

・2年目以降

お問い合わせ1件あたり2,060円（税込）

※ My CloudカードまたはAzbyClubカードでお支払いの場合は、1,540円/件（税込）でご利用いただけます。
My CloudカードおよびAzbyClubカードについて詳しくは、(<http://azby.fmworld.net/members/mycloudcard/>)をご覧ください。

※ プレミアムサービスに利用登録されているお客様のご利用料金につきましては、プレミアムサービスの専用ホームページにてご案内いたします。

Point

- ▶ 保証開始日は「富士通アドバイザー」(→P.47)から確認できます。
画面右上に表示されます。
- ▶ お問い合わせ1件は、お電話の回数ではなく、技術相談1項目ごとに1件と扱います。同じご相談内容であれば次回お問い合わせいただく際、料金は加算いたしません。(ただし14日以内に限ります)

●お支払い方法

お支払い方法は、音声ガイダンスに従って、次のいずれかを選択してください。

| | |
|-------------|-------------------------------------|
| クレジットカード支払い | 音声ガイダンスで、クレジットカード番号、有効期限の入力をお願いします。 |
| コンビニ振込 | コンビニ振込をご利用の場合は、手数料が別途210円かかります。 |

■お問い合わせ前に確認してください

●「サポートページ」(<http://azby.fmworld.net/support/>)で解決方法を確認しましたか？

知りたい情報やトラブル解決方法をお調べいただけます。

●ユーザー登録はしましたか？

電話サポートの利用にはユーザー登録が必要です。
ユーザー登録方法は「「はじめに行う設定」で初期設定する」(→P.39) の手順7をご覧ください。

●アプリのお問い合わせ先を確認しましたか？

各アプリ提供会社のお問い合わせ先は、「メールやOfficeで困ったときは」(→P.52) および「ウイルス対策アプリなどで困ったときは」(→P.53) をご覧ください。

●お使いのパソコンをお手元にご用意いただけていますか？

お電話中に操作を行っていただく場合がありますので、お手元にご用意ください。

●データのバックアップはしましたか？

大切なデータの予備を保存しておくと、安心です。
バックアップ方法については、「バックアップ」(→P.113) をご覧ください。

修理を申し込む前の準備

●故障かどうかをもう一度ご確認ください

パソコンのトラブルは、設定の誤りなど、故障以外が原因のこともあります。実際に故障に関する電話でのお問い合わせの半数以上は、パソコンの故障ではなく、設定を変更することで問題が解決しています。
「ネットで故障診断」(<http://azby.fmworld.net/webpcrepair/>)で、本当にパソコンが故障しているか確認してください。

●修理規定をご確認ください

お申し込み前に必ず「富士通パーソナルコンピュータ修理規定」(→P.74)を確認のうえ、同意をお願いします。

●修理料金の目安を確認できます

ホームページで概算修理料金をご覧ください。
<http://azby.fmworld.net/support/repair/syuribin/charge.html>

●保証書をお手元にご用意ください

保証期間は、初めてパソコン本体の電源を入れた日（保証開始日）から 1 年間となります（→ P.60）。保証期間内は無料で修理させていただきます。

ただし、保証期間内でも有料となる場合があります。詳しくは、保証書裏面「無料修理規定」を確認してください。

●故障品をお手元にご用意ください

お申し込み時に操作いただく場合があるため、お手元に故障品をご用意ください。

●データのバックアップをおとりください

修理前の診断作業および修理の結果、記憶装置（ハードディスクなど）内に記録されたお客様データが消失する場合があります。弊社ではいかなる作業においても、お客様のデータの保証はいたしかねるため、大切なデータは必ずお客様自身で DVD などのディスクや外付けハードディスクなどにバックアップしてください。

バックアップの方法については、「バックアップ」（→ P.113）をご覧ください。

また、パソコンの故障などによりお客様がバックアップできない場合には、「PC データ復旧サービス」（有料）もご利用いただけます。

PCデータ復旧サービス（有料）

<http://azby.fmworld.net/datarescue/>

修理の申し込み

パソコンの修理は、ホームページまたは電話でお申し込みください。

■ホームページで申し込む（ネットで故障診断）

「ネットで故障診断」では、パソコンが故障しているかどうかを調べることができます。

故障と診断された場合は、ホームページから修理を申し込むことができます。

ネットで故障診断

<http://azby.fmworld.net/webpcrepair/>

■電話で申し込む

「お問い合わせ窓口のご紹介」（→ P.59）の「使い方、技術相談、修理相談、すべてこちら」をご覧ください。

重要

- ▶ 修理のために交換した故障部品は返却しません。あらかじめご了承ください。
- ▶ 修理のお申し込みの際は、お客様の名前や電話番号をお伺いいたします。お客様の個人情報の取り扱いについては「富士通パーソナルコンピュータ修理規定」（→ P.74）の第 13 条（個人情報の取り扱い）をご覧ください。

お引き取りとお届け（パソコン修理便）

弊社指定の宅配業者がご自宅へパソコンをお引き取りに伺います。

お引き取りから修理・お届けまで約7日間です（土・日・祝日を含む）。[注]

注：修理の内容によっては、日数を要する場合があります。
また、離島の場合は船便のための日数がかかります。

■お引き取り日時について

お引き取りは、修理受付の翌日以降、弊社設定の時間帯（9:00～21:00[注]）で指定できます。

注：地域により異なります。お申し込み時にご確認ください。また、交通事情などにより指定日時にお伺いできない場合があります。

■お引き取りについて

宅配業者が指定日時にご自宅へ伺います。

梱包は宅配業者が行いますので、故障品は梱包せずに玄関先にご準備ください。

重要

● 次の各種パスワードは事前に解除してください。確認のために修理作業が中断し、修理に時間がかかる場合があります。

- ・ BIOS パスワード
- ・ ハードディスクパスワード

● 保証書を用意してください（保証期間中の場合）。宅配業者が故障品といっしょに梱包いたします。

● 宅配業者がお渡しする「お預かり伝票」を大切に保管してください。

● お引き取り後のキャンセルについては、診断料を申し受けます。あらかじめご了承ください。

●「修理状況確認サービス」

（<http://azby.fmworld.net/support/pcrepair/>）で携帯電話やスマートフォン、パソコンのメールアドレスをご登録ください。故障品の当社への到着、お見積り発行時の連絡、修理完了品の発送、お届け予定日などをメールでお知らせします。

■お届けとお支払いについて

修理完了品を玄関先までお届けします。有料の場合は代金引換払いとなりますので、宅配業者に現金でお支払いください。

●修理料金について

- ・ 保証期間内（保証開始日より1年間）：無料（保証書記載の「無料修理規定」による）（→ P.60）
- ・ 保証期間外：有料（修理にかかる部品代、技術料等）

※ 交通事情などにより、ご指定の日時にお伺いできない場合があります。

修理状況の確認

ホームページや電話で、修理状況を確認できます。

■修理状況確認サービス

パソコン、スマートフォン、携帯電話（iモード、Ezweb、Yahoo! ケータイ）で「お預かり伝票」の「修理お問合せ番号」（8桁の番号）を入力して、修理状況を確認できます。

修理状況確認サービス

パソコン・スマートフォン・携帯電話から

<http://azby.fmworld.net/support/pcrepair/>

バーコード読み取り機能付きのスマートフォンや携帯電話では、右のバーコードからアクセスいただけます。



電話の音声ガイダンスでも確認できます

0120-215-265



通話料無料 / 受付時間：24時間365日

音声ガイダンスに従ってダイヤルを押してください。「お預かり伝票」の「修理お問合せ番号」（8桁の番号）と、修理お申し込み時にご登録されたお電話番号を入力してください。

※ 携帯電話、スマートフォンの操作方法については、お使いの機種のメーカーにお問い合わせください。

※ システムメンテナンスのため、サポートを休止させていただく場合があります。

他の修理サービスのご案内

他の修理サービス一覧

<http://azby.fmworld.net/support/repair/>

次のような修理サービスもご用意しています。詳細はホームページでご確認ください。

※ 保証期間内であっても別途料金が必要になります。

●訪問修理サービス（有料）

弊社指定の修理サービス会社がご自宅に伺い、その場で修理を行う有料サービスです。

●PC引取点検サービス（有料）

パソコンを安心して長く使っていただくために、ハードウェア・ソフトウェアの点検や、パソコン内部の清掃を行う有料サービスです。

パソコンの状態を回復する

パソコンの状態を回復するとは

Windows 10には、トラブルに備え、パソコンを以前の状態に戻す機能が搭載されています。ここでは、パソコンをご購入時に近い状態に回復する方法について説明します。

このPCを初期状態に戻す機能

このPCを初期状態に戻す機能を使うと、ご購入時に近い状態に回復することができます。ご購入時に近い状態に戻るため、削除されるデータもあります。

そのため「よくあるトラブルと解決方法」(→P.55)と「富士通アドバイザー」のトラブル解決をご覧になり、すべて対処しても解決しなかった場合のみ行ってください。

重要

- 回復のためのデータは、パソコン内に保存されていますが、そのデータが破損したときは、「回復ドライブ」から回復します。
- 「回復ドライブを作成する」(→P.49)をご覧になりできるだけ早く作成してください。
- 回復ドライブを作成していなかったり、破損・紛失してしまったりしたときは、リカバリUSBメモリを購入してリカバリしてください(→P.67)。

■パソコンの状態を回復する方法の種類

回復方法には次の種類があります。

ご購入時に近い状態に回復するときは「すべて削除する」を行ってください。

●すべて削除する

- ファイルの削除のみ行う
ほぼご購入時の状態に戻ります。アカウントも削除されるので、セットアップをやり直す必要があります。
- ドライブを完全にクリーンアップする
消去されるものは「すべて削除する(ファイルの削除のみ行う)」と同じですが、簡単に回復できないように完全に削除されます。そのため操作に数時間かかります。他人にパソコンを譲渡するなど完全にデータを削除したいときにお使いください。

Point

- パソコンから「このPCを初期状態に戻す」を行った場合、Windowsはロールアップが適用された状態に戻ります。ドライバーは最新のロールアップ適用前に戻ります。
- ロールアップとは、修正プログラム、セキュリティ修正プログラム、重要な更新およびアップデートを配布しやすいように1つにまとめた累積的なパッケージです。
- 回復ドライブから回復した場合は、Windowsとドライバーはほぼ回復ドライブ作成時点の状態に戻ります。
- このパソコンを購入したときにインストールされていたアプリはインストールされた状態に戻ります。

●個人用ファイルを保持する

Windowsが起動するときのみ行います。

Windows、ドライバー、アプリの状態は「すべて削除する」を行ったときと同じ状態に回復します。それに加えて、次のデータも回復します。

- クイックアクセスに登録されたフォルダーなどのユーザーの個人用ファイル

個人用ファイルは「C:\Users」配下のデータです。

ただし、次のパスの配下のデータは消去されます。この配下にはアプリに固有のアプリ設定、ファイル、データが含まれます。

- C:\Users\[ユーザー名]\AppData
- 「ごみ箱」内のデータ
- ユーザー アカウント
- インターネットや無線LANなどのネットワーク接続設定
- 「設定」 ウィンドウの設定

消去されないデータについても念のためバックアップをとったり、メモしたりすることをお勧めします。

この PC を初期状態に戻す準備

この PC を初期状態に戻すうえでの注意

■バックアップをとってください

この PC を初期状態に戻すと、消去されるデータがあります(→ P.63)。必要なデータはバックアップしてください。

Windows 10 には、個人用ファイルをバックアップする機能が搭載されています。詳しくは「バックアップ」(→ P.113) をご覧ください。

■外付けハードディスクや USB メモリ、増設用内蔵ハードディスクユニット(対象機種のみ)は必ず取り外してください

接続したまま操作を続けると、大切なデータを壊してしまう可能性があります。

■周辺機器(プリンター、デジタルカメラ、スキャナーなどの装置、HDMI 入力／出力端子、USB コネクタに接続しているすべての周辺機器)は取り外してください

アンテナケーブルや LAN ケーブルなど接続できる機種をお使いの場合はすべて抜いてください。

接続したままだとマニュアルに記載されている手順と異なってしまう場合があります。

■メモリーカードは取り出してください

メモリーカードをセットしていると、マニュアルに記載されている手順と異なってしまう場合があります。

■この PC を初期状態に戻しているときには他の操作をしないでください

むやみにクリックせず、しばらくお待ちください。他の操作をすると、正常に終了しない場合があります。

■時間に余裕をもって作業しましょう

途中で中断したり、パソコンの電源を切ったりすることはできません。消去されたアプリなどを再インストールしたり、バックアップしたデータを復元したりするとさらに時間がかかります。時間に余裕をもって、じっくりと作業することをお勧めします。

■必ず AC アダプタを接続してください

作業中に起こる可能性のあるトラブルの解決方法

■画面が真っ暗になった

画面が真っ暗になった場合は、省電力機能が働いた可能性があります。

フラットポイントの操作面に触れるか、キーボードの や を押してください。それでも復帰(レジューム)しない場合は、電源ボタンをポチッと押してください。

■電源が切れない

電源ボタンを4秒以上押して電源を切ってください。

■エラーメッセージが表示された

次のようなメッセージが表示された場合は、キーボードの または を押して「はい」または「Yes」を選択し、 を押してください。

日本語の場合

ソフトウェアからの変更の画面

OS またはアプリケーションから TPM をクリアする要求が発行されました。

注意: TPM がクリアされ、オフになります。これにより TPM で暗号化されたデータにアクセスできなくなります。

TPM をクリアするために「はい」を選択してください。
クリアしない場合には「いいえ」を選択してください。

[はい]

[いいえ]

英語の場合

A configuration change was requested to clear this computer's TPM (Trusted Platform Module).

WARNING: Clearing erases information stored on the TPM. You will lose all created keys and access to data encrypted by these keys.

Do you accept the change?

[Yes]

[No]

この PC を初期状態に戻す

「この PC を初期状態に戻す準備」(→ P.64) をよくお読みになり、必要なバックアップなど準備を済ませてから実行してください。

まず「このパソコンに保存されたデータを使う」(→ P.65) をご覧になり、この PC を初期状態に戻す操作を行ってください。

操作がうまくいかなかった場合や、操作後もパソコンのトラブルが継続した場合は、「回復ドライブを使う」(→ P.66) をご覧になり、この PC を初期状態に戻す操作を行ってください。

Point

- ▶ 回復ドライブから回復した場合は、Windows とドライバーはほぼ回復ドライブ作成時点の状態に戻ります。そのためパソコンを現在お使いの状態に戻すには、より手間がかかります。

このパソコンに保存されたデータを使う

パソコンの電源が切れた状態から「オプションの選択」画面を表示して操作します。

Point

- ▶ Windows が起動した状態からもオプションの「オプションの選択」画面を表示できます。
 1. ▶ (設定)▶「更新とセキュリティ」の順にクリックします。
 2. 「更新とセキュリティ」ウィンドウ左の「回復」をクリックします。
 3. ウィンドウ右の「今すぐ再起動する」をクリックします。

「オプションの選択」画面が表示されたら、手順 4 から操作してください。

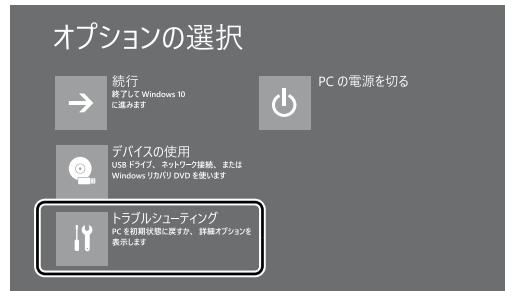
1 パソコンの電源が切れた状態で、 を押しながらパソコンの電源を入れ、音が鳴ったら から指を離します。

音が鳴らなくても、「起動メニュー」または「Boot Menu」が表示されたら から指を離します。

2 を押し、「アプリケーションメニュー」または「Application Menu」に切り替えます。

3 を押し、「Windows 回復環境」または「Windows Recovery Environment」を選択して を押します。

4 「オプションの選択」画面で、「トラブルシューティング」をクリックします。



5 「トラブルシューティング」画面が表示されたら、「この PC を初期状態に戻す」をクリックします。



6 「すべて削除する」をクリックします。

Point

- ▶ 個人用ファイルを保持する場合は「個人用ファイルを保存する」をクリックします。その後の操作は「個人用ファイルを保持する場合は」(→ P.66) をご覧ください。

7 通常は「ファイルの削除のみを行う」をクリックします。

データを完全に消去したいときのみ「ドライブを完全にクリーンアップする」を行います。「パソコンの状態を回復する方法の種類」(→ P.63) をご確認ください。

8 「準備が完了しました。」と表示されたら、「初期状態に戻す」をクリックします。

初期化が開始されます。電源を切らずにお待ちください。

- 9** 「こんにちは」画面が表示されたら、「セットアップする」(→ P.21) をご覧になり、セットアップします。
「Windows 回復後にセットアップするときの注意」(→ P.67) をご覧ください。

■個人用ファイルを保持する場合は

「このパソコンに保存されたデータを使う」の手順6 (→ P.65) で「個人用ファイルを保存する」をクリックした後の手順です。

- 1** 「続けるにはアカウントを選んでください。」と表示されたら、お使いのアカウントをクリックします。

Point

- ▶ 姓名を設定していないアカウントをお使いの場合、以前取得したローカルアカウント名などが表示されることがあります。表示されたアカウント名を選択してください。

- 2** 「このアカウントのパスワードを入力してください。」と表示されたら、パスワードを入力し、「続行」をクリックします。

- 3** 「準備が完了しました。」と表示されたら、「初期状態に戻す」をクリックします。

初期化が開始されます。電源を切らずにお待ちください。MicrosoftアカウントのパスワードまたはPIN入力を求められた場合は入力してください。デスクトップが表示されたら、初期化は完了です。

- ・デスクトップアプリが消去された場合、デスクトップに「削除されたアプリ.html」が作成されます。

消去されたデスクトップアプリ一覧が確認できます。

回復ドライブを使う

1 電源が切れた状態で、回復ドライブを作成したUSBメモリをパソコン本体のUSBコネクタに接続します。

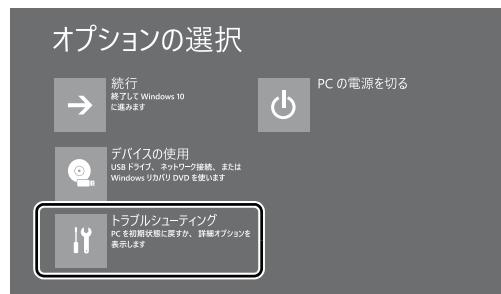
- 2** 起動メニューを表示します。

1. **[F12]** を押しながら、パソコンの電源を入れ、音が鳴ったら、**[F12]** から指を離します。音が鳴らなくても、起動メニューが表示された場合は、**[F12]** から指を離します。
2. **[Tab]** を押し、画面を切り替えます。

- 3** **[↓]** を押し、接続したUSBメモリを選択し、**[Enter]** を押します。

- 4** 「キーボードレイアウトの選択」が表示されたら、「Microsoft IME」をクリックします。

- 5** 「オプションの選択」画面で、「トラブルシューティング」をクリックします。



- 6** 「トラブルシューティング」画面が表示されたら「ドライブから回復する」をクリックします。



- 7** 通常は「ファイルの削除のみ行う」をクリックします。

データを完全に消去したいときのみ「ドライブを完全にクリーンアップする」を行います。「パソコンの状態を回復する方法の種類」(→ P.63) をご確認ください。

- 8 「準備が完了しました。」と表示されたら、「回復」をクリックします。

初期化が開始されます。電源を切らずにお待ちください。

- 9 「こんにちは」画面が表示されたら、「セットアップする」(→ P.21) をご覧になり、セットアップします。

「Windows 回復後にセットアップするときの注意」(→ P.67) をご覧ください。

■Windows 回復後にセットアップするときの注意

- Microsoft アカウントを新規に取得する必要はありません。「自分用にセットアップする」画面が表示されたら、入力欄にお持ちの Microsoft アカウントとそのパスワードを入力してください。
- 富士通パソコンユーザー登録も再度行う必要はありません。「富士通サービス＆サポートのご利用登録」画面でメールアドレスの入力も必要ありません。

リカバリ USB メモリを購入してリカバリする

Windows が起動しない場合、回復ドライブを作成していなかったり、破損・紛失してしまったりしたときは、リカバリ USB メモリから起動してご購入時の状態に戻すリカバリを行うと回復できることがあります。

- リカバリ USB メモリを購入してリカバリすると、パソコンはご購入時の状態とまったく同じ状態に戻すことができます。そのため、セットアップが必要になります。
- リカバリ USB メモリは、弊社のホームページから購入できます。
「リカバリメディア有償サービス」
<http://azby.fmworld.net/support/attachdisk/>

Point

- ▶ リカバリ方法は、リカバリ USB メモリに同梱されたマニュアルをご覧ください。

こんなときは

インターネットを安心してお使いいただくには

青少年によるインターネット上の有害サイトへのアクセス防止について

インターネットの発展によって、世界中の人とメールのやり取りをしたり、個人や企業が提供しているインターネット上のサイトを活用したりすることが容易になっており、それに伴い、青少年の教育にもインターネットの利用は欠かせなくなっています。しかしながら、インターネットには違法情報や有害な情報などを掲載した好ましくないサイトも存在しています。

特に、下記のようなインターネット上のサイトでは、情報入手の容易化や機会遭遇の増大などによって、青少年の健全な発育を阻害し、犯罪や財産権侵害、人権侵害などの社会問題の発生を助長していると見られています。

- ・アダルトサイト（ポルノ画像や風俗情報）
- ・他人の悪口や誹謗中傷を載せたサイト
- ・出会い系サイト・犯罪を助長するようなサイト
- ・暴力残虐画像を集めたサイト
- ・毒物や麻薬情報を載せたサイト

サイトの内容が青少年にとっていかに有害であっても、他人のサイトの公開をやめさせることはできません。情報を発信する人の表現の自由を奪うことになるからです。また、日本では非合法であっても、海外に存在しその国では合法のサイトもあり、それらの公開をやめさせることはできません。

有害なインターネット上のサイトを青少年に見せないようにするための技術が、「フィルタリング」といわれるものです。フィルタリングは、情報発信者の表現の自由を尊重しつつ、情報受信側で有害サイトの閲覧を制御する技術です。100% 万全ではありませんが、多くの有害サイトへのアクセスを自動的に制限できる有効な手段です。特に青少年のお子様がいらっしゃるご家庭では、「フィルタリング」を活用されることをお勧めします。

「フィルタリング」を利用するためには、一般に下記の 2 つの方法があります。

「フィルタリング」はお客様個人の責任でご利用ください。
・パソコンにフィルタリングの機能をもつアプリをインストールする
・インターネット事業者のフィルタリングサービスを利用するこれらのアプリのインストール方法やご利用方法については、それぞれのアプリの説明書またはヘルプをご確認ください。
なお、アプリやサービスによっては、「フィルタリング」機能を「有害サイトブロック」、「有害サイト遮断」、「Web フィルター」、「インターネット利用管理」などと表現している場合があります。あらかじめ機能をご確認のうえ、ご利用されることをお勧めします。

[参考情報]

- ・社団法人電子情報技術産業協会のユーザー向け啓発資料「パソコン・サポートとつきあう方法」
- ・デジタルアーツ株式会社（i-フィルター提供会社）「フィルタリングとは - 家庭向けケーススタディー」

■「i - フィルター」について

このパソコンには、フィルタリング機能をもつ「i - フィルター」が用意されています。使い方については、「i - フィルター」（→ P.126）をご覧ください。

パソコンの電源を完全に切るには

日常的なパソコンの使用では、この方法で電源を切る必要はありません。

重要

- ▶ 次のような場合は、ここで説明している手順でパソコンの電源を切ってください。
 - ・メモリを取り付ける／取り外す（対象機種のみ）
 - ・BIOS セットアップを起動する上記以外にも、操作前にパソコンの電源を完全に切る必要のある場合があります。
詳しくは、「Windows を終了する」（→ P.86）をご覧ください。

- 1 (設定) 「更新とセキュリティ」の順にクリックします。
- 2 「更新とセキュリティ」ウィンドウ左の「回復」をクリックします。
- 3 ウィンドウ右の「今すぐ再起動する」をクリックします。
- 4 「オプションの選択」画面が表示されたら、「PC の電源を切る」をクリックします。

起動メニューの表示のしかた

回復ドライブやリカバリ USB メモリから起動する場合などに、起動メニューを表示します。

パソコンの電源が切れた状態から操作を開始します。

- 1 を押しながら、パソコンの電源を入れ、音が鳴ったら、 から指を離します。
音が鳴らなくても、起動メニューが表示された場合は、 から指を離します。
- 2 を押し、画面を切り替えます。

Point

- ▶ 起動時のパスワードを設定している場合は、画面の指示に従ってパスワードを入力してください。
- ▶ 起動メニューが表示されず Windows が起動してしまった場合は、このパソコンの電源を完全に切ってからもう一度操作してください。

富士通パソコンを廃棄・リサイクルするときは

個人でご使用のお客様が本製品を廃棄する場合は、次のお申し込みホームページよりお申し込みください。

リサイクルの流れや注意事項などの最新の情報は、お申し込みホームページをご確認ください。

| | |
|-----------------|--|
| お申し込み ホームページ | http://azby.fmworld.net/recycle/ ※スマートフォンからもお申し込みできます。 |
| お問い合わせ 電話番号 | 03-5715-3140 (通話料金お客様負担) 受付時間 9:00 ~ 17:00 (土・日・祝日および弊社指定休日を除く) |

PC リサイクルマークについて

PC リサイクルマークは、メーカーとユーザーのみなさまが協力し合って、ご使用済み家庭用パソコンを資源に変えるためのマークです（法人（個人事業主を含む）、企業は除く）。PC リサイクルマークが付いた使用済み当社製パソコンは、新たな料金負担なく回収・再資源化いたします。ご使用済み家庭用パソコンのリサイクル活動に、ぜひご協力をお願いいたします。

PC リサイクルマークの付いていない当社製パソコンについては、有償で回収・再資源化をうけたまわります。料金など詳しくは、お申し込みホームページをご確認ください。

PC リサイクルマーク



注1: 装置銘板は機種により異なります。
注2: パソコン本体にカバーなどがある機種は、PC リサイクルマークが隠れている場合があります。

重要

- 法人（個人事業主を含む）、企業のお客様へお申し込みホームページは、個人のお客様を対象にしています。
- 法人、企業のお客様向けパソコンリサイクルについては、弊社ホームページ「ICT 製品の処分・リサイクル方法」(<http://www.fujitsu.com/jp/about/environment/society/products/recycleinfo/>) をご覧ください。

パソコンの廃棄・譲渡時のハードディスク上のデータ消去に関するご注意

パソコンを廃棄あるいは譲渡する際、ハードディスクに記録されたお客様のデータが流出して、再利用される可能性があり、結果的にデータが流出してしまうことがあります。

原因として、パソコンのハードディスクに記録されたデータは、削除したり、ハードディスクを再フォーマットしたりしても、データが消えたように見えるだけで、特殊なソフトウェアを利用してことで、読み取ることができるからです。また、ハードディスク上のソフトウェアを削除することなくパソコンを譲渡すると、ソフトウェアライセンス使用許諾契約に抵触する場合もあります。

そのため、パソコンを廃棄あるいは譲渡する際は、ハードディスク上のデータが第三者に流出しないよう全データの消去の対策をお願いいたします。対策として、専用ソフトウェアやサービス（有償）のご利用をお勧めいたします。

詳しくは、サポートページの「パソコン廃棄・譲渡前の常識！データを消去しよう」(<http://azby.fmworld.net/usage/special/erasedata/>) をご覧ください。

■データ消去ツール

パソコンの廃棄・譲渡時のデータ流出というトラブルを回避する安全策の 1 つとして、専用ソフトウェア「データ消去ツール」が搭載されています。

「データ消去ツール」は、Windows などの OS によるファイル削除やフォーマットと違い、ハードディスクの全領域について、元あったデータに固定パターンを上書きするため、データが復元されにくくなります。

「データ消去ツール」の使用方法については、サポートページから Q&A ナンバー「6604-6237」を検索してご覧ください（→ P.57）。

付属品の廃棄について

■使用済み乾電池の廃棄について

ワイヤレスキーボード、ワイヤレスマウス、リモコンなどには乾電池を使用しており、火中に投じると破裂のおそれがあります。使用済み乾電池を廃棄する場合は、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」の規制を受けます。

□個人のお客様へ

使用済み乾電池を廃棄する場合は、一般廃棄物の扱いとなりますので、地方自治体の廃棄処理に関する条例または規則に従ってください。

□法人、企業のお客様へ

使用済み乾電池を廃棄する場合は、産業廃棄物の扱いとなりますので、産業廃棄物処分業の許可を取得している会社に処分を委託してください。

■使用済みバッテリの取り扱いについて

バッテリパックを交換できる機種のみ

- ・リチウムイオン電池のバッテリパックは、貴重な資源です。リサイクルにご協力ください。
- ・使用済みバッテリは、ショート（短絡）防止のためビニールテープなどで絶縁処理をしてください。
- ・バッテリを火中に投じると破裂のおそれがありますので、絶対にしないでください。

□個人のお客様へ

使用済みバッテリは廃棄せずに充電式電池リサイクル協力店に設定してあるリサイクル BOX に入れてください。詳しくは、一般社団法人 JBRC [ジェイビー・アールシー] のホームページ (<http://www.jbrc.com/>) をご覧ください。

弊社は、一般社団法人 JBRC に加盟し、リサイクルを実施しています。



Point

- ・リサイクルにお申し込みいただく場合は、バッテリパックは外さずに、パソコンといっしょにリサイクルにお出しください。パソコンのリサイクルについては、「富士通パソコンを廃棄・リサイクルするときは」(→ P.69) をご覧ください。

□法人・企業のお客様へ

法人・企業のお客様は、弊社ホームページ「ICT 製品の処分・リサイクル方法」(<http://www.fujitsu.com/jp/about/environment/society/products/recycleinfo/>) をご覧ください。



このマークは、リチウムイオン電池のリサイクルマークです。

Li-ion

液晶ディスプレイが添付または内蔵されている機種をお使いのお客様へ

LED バックライト付ではない液晶ディスプレイの蛍光管には水銀が含まれております。

廃棄を予定しているパソコンの仕様を確認してください。
環境配慮のため、お申し込みホームページからリサイクルをお申し込みください (→ P.69)。

■海外でノートパソコンを修理するときは

お客様が海外滞在中に、万が一富士通ノートパソコンが故障した場合、滞在先の国や地域でもハードウェアの修理サービスを受けることができます。本サービスは、保証書に記載している保証期間にかかるらず、本体に最初に電源を入れた日から 1 年間は無料 [注] で修理を行います。2 年目以降は有料での修理となります。

本サービスをご利用いただける国・地域、サービス内容やご利用方法について詳しくは、弊社のホームページ (<http://azby.fmworld.net/support/globalrepair/>) の「海外でのノートパソコンの修理について」をご覧ください。

- 注：
- ・機器本体に同梱された保証書記載の「無料修理規定」に定める範囲内の修理に限り、修理料金は無料となります。
 - ・保証開始日は「富士通アドバイザー」(→ P.47) から確認できます。
- 画面右上に表示されます。

■サービスのご利用方法

ご利用いただくにはユーザー登録が必要です（入会費・年会費無料）。ユーザー登録方法については、「「はじめに行う設定」で初期設定する」(→ P.39) の手順 7 をご覧ください。修理サービスをご利用になる場合は、滞在地域のヘルプデスクに電話でご依頼ください（英語および現地語での対応となります）。

なお、ご利用の前に必ず弊社のホームページ (<http://azby.fmworld.net/support/globalrepair/>) をご覧ください。

■サービスのご利用上の注意

- ・修理にてハードディスク交換を行う場合、本サービスでは何も格納していない状態のハードディスクの取り付けまでを実施します。パソコンの状態の回復や、データ復元、リカバリはお客様ご自身で実施していただきます。あらかじめご了承ください。
- ・海外に渡航する場合は、回復ドライブを作成して、お持ちくださいますようお願いいたします。作成方法は、「回復ドライブを作成する」(→ P.49) をご覧ください。
- ・サービス拠点では、リカバリ USB メモリの販売および日本からの取り寄せなどのサービスは行っておりません。あらかじめご了承ください。
- ・引取修理およびセンドバック修理の場合、パソコンの輸送に必要な梱包については、お客様ご自身で梱包箱を用意して行っていただきます。梱包箱の提供は有料となる場合があります。詳しくは窓口にご確認ください。

■海外でのご使用について

- ・本サービスの対象機種を含む富士通パソコンおよび周辺機器は日本国内仕様です。
- ・本サービスは、お客様個人の責任のもとで対象機種を一時的に海外（ただし対象地域に限る）に持ち出される場合に修理サービスをご提供するものであり、対象地域における動作保証をするものではありません。
- ・内蔵の無線 LAN、モバイル WiMAX、Bluetooth ワイヤレステクノロジーは日本以外の国または地域ではご使用になれません。

- ・内蔵のテレビチューナーおよび添付のテレビチューナー・ユニットは日本国内専用ですので、アンテナ入力端子にアンテナを接続しないでください。
- ・国・地域により電圧などが異なりますので、電源ケーブルなどは、ご使用になる国・地域の規格にあったものをご使用ください。
- ・富士通パソコンを海外に持ち出す場合や、海外で使用する場合については、サポートページから Q&A ナンバー「9206-6259」や「4301-7762」を検索してご覧ください（→ P.57）。

□各地域のヘルプデスク情報

| 地域 | サービス拠点 | ヘルプデスク情報 |
|----------------------------|------------------------------|--|
| 北米地域 | Fujitsu America, Inc. | <ul style="list-style-type: none">・電話番号：+1-901-259-5790・営業時間：月曜日～金曜日 7時～19時（中部標準時 UTC-06:00）・対応言語：英語 |
| ヨーロッパ、中東、アフリカ地域およびインド | Fujitsu Technology Solutions | <p>ホームページから滞在国・地域のヘルプデスクをご確認ください。 対応言語は英語および現地語となります。 http://support.ts.fujitsu.com/contact/servicedesk/ 注：ホームページは英語で表示されます。</p> <p>または、国際修理の central number にご連絡ください。</p> <ul style="list-style-type: none">・電話番号：+49-89-356-480-226・営業時間：月曜日～金曜日 9時～17時 (中央ヨーロッパ標準時 UTC+01:00)・対応言語：英語、ドイツ語 |
| アジア・パシフィック地域（インド、韓国、日本を除く） | Fujitsu PC Asia Pacific Ltd. | <p>修理の問い合わせについては、直接サービスセンター、もしくはヘルプデスクにご連絡ください。詳しくはホームページを確認してください。</p> <p>http://www.fujitsu.com/hk/support/products/computing/pc/ap/service/warranty-local.html</p> <p>注：ホームページは英語で表示されます。</p> |
| オーストラリアおよびニュージーランド | Fujitsu Australia Limited | <ul style="list-style-type: none">・電話番号：1800-808-986・営業時間：月曜日～日曜日 0時～24時・対応言語：英語 |

各地域のヘルプデスク情報については、弊社のホームページ (<http://azby.fmworld.net/support/globalrepair/list.html>) の「海外でのノートパソコンの修理について」にて最新情報を確認してください。

仕様一覧

パソコン本体の主な仕様

ここでは、パソコン本体の主な仕様を紹介しています。

■仕様の調べ方

仕様について詳しくは「富士通アドバイザー」(→ P.47) の「サポート & サービス情報」の画面から「パソコンの仕様を調べる」を選択して表示されるホームページの内容をご覧ください。なお、仕様の詳細を調べるときに、お使いのパソコンの型名が必要になることがあります。型名は次の場所に記載されています。

- 保証書
- パソコン本体の裏面に貼付されたラベル
- 「富士通アドバイザー」(→ P.47) の画面右上

Point

- ▶ 型名の確認方法の詳細は、サポートページから Q&A ナンバー「3702-5873」を検索して参照できます(→ P.57)。

■LIFEBOOK SH90/A3

注記については、「仕様一覧の注記について」(→ P.73) をご覧ください。

| シリーズ名 | | SH シリーズ | | |
|--|-----------------------|---|-----------------------------------|--|
| 品名 | | LIFEBOOK SH90/A3 | | |
| CPU ^{注1} | | インテル® Core™ i5-7200U プロセッサー (HT テクノロジー対応) | | |
| メインメモリ ^{注2} | | PC4-17000 DDR4 SDRAM、ECC なし | | |
| 標準容量 | | 4GB (オンボード) | | |
| 最大容量 | | 12GB | | |
| 光学ドライブ ^{注3} | | スーパーマルチドライブ | | |
| 無線 LAN ^{注4} | 規格 | IEEE 802.11a/b/g/n/ac 準拠 (5GHz 帯チャンネル : W52/W53/W56) (Wi-Fi® 準拠) ^{注5} | | |
| | | ダイバーシティ方式 ^{注6} | | |
| 電源供給方式 | AC アダプタ ^{注7} | | 入力 AC100V ~ 240V、出力 DC19V (3.42A) | |
| | バッテリ | 内蔵バッテリ パック | リチウムイオン 77Wh | |
| | | 増設用バッテリ (別売) | リチウムイオン 28Wh | |
| 消費電力 | | ホームページに掲載された仕様一覧をご覧ください。 仕様一覧の表示方法は「■仕様の調べ方」をご覧ください (→ P.72)。 | | |
| 外形寸法 (幅 × 奥行 × 高さ) (突起部含まず) | | 315.8×214×11 ~ 19.8mm | | |
| 本体質量 (バッテリパック含む、モバイル・マルチベイ用カバー装着時) ^{注8} | | 約 1.39kg | | |

パソコンの仕様は、改善のために予告なく変更することがあります。あらかじめご了承ください。

仕様一覧の注記について

- 注 1 ソフトウェアによっては CPU 名表記が異なることがあります。
- 注 2
- ・4GB オンボードのメモリは、ご購入時の状態から変更できません。
 - ・メモリの組み合わせによっては、最大メモリ容量にするために、メモリスロットに搭載済みのメモリを取り外してから、別売の増設メモリを取り付ける必要があります。
 - ・ご購入時のメモリの組み合わせなど詳しくは、「メモリ」(→ P.108) をご覧ください。
- 注 3 読み出し、書き込み速度については、ホームページに掲載された仕様一覧をご覧ください。仕様一覧の表示方法は「■仕様の調べ方」をご覧ください(→ P.72)。
- 注 4 無線 LAN の仕様については、「無線 LAN」(→ P.156) をご覧ください。
- 注 5 Wi-Fi® 準拠とは、無線 LAN の相互接続性を保証する団体「Wi-Fi Alliance®」の相互接続性テストに合格していることを示します。
- 注 6 IEEE 802.11n 準拠、IEEE 802.11ac 準拠を使用したときは、MIMO 方式にもなります。
- 注 7 標準添付されている電源ケーブルは AC100V (国内専用品) 用です。また、矩形波が出力される機器 (UPS (無停電電源装置) や車載用 AC 電源など) に接続されると、故障する場合があります。
- 注 8
- ・各製品で質量が異なる場合があります。
 - ・次のモバイル・マルチペイユニット搭載時は、次のように本体質量が増加します。
 - ・内蔵スーパーマルチドライブユニット：約 0.10kg
 - ・増設用内蔵バッテリユニット：約 0.20kg
 - ・増設用内蔵ハードディスクユニット：約 0.08kg

■富士通パーソナルコンピュータ修理規定

最新版はホームページに掲載しています。
<http://azby.fmworld.net/support/repair/syurikitei/>

第1条（本規定の適用）

- 富士通株式会社（以下「富士通」といいます）は、お客様が富士通のFMVサポートお問い合わせ窓口にて修理の依頼をされた場合、または富士通の専用ホームページ[http://azby.fmworld.net/support/repair/index.html]（以下「専用ホームページ」といいます）にて修理の依頼をされた場合、本規定に定める条件により修理を行います。なお、お客様が日本国外から修理の依頼をされる場合および販売店または販売会社経由で修理の依頼をされる場合は、本規定は適用されないものとします。
- 前項に基づき富士通が本規定に定める条件により修理を行う場合は、本規定の内容が、次条に定める対象機器に同梱されている保証書（以下「保証書」といいます）裏面の無料修理規定（以下「無料修理規定」といいます）の内容に優先して適用されるものとします。なお、本規定に定めのない事項については、無料修理規定の内容が有効に適用されるものとします。

第2条（対象機器）

本規定に基づく修理の対象となる機器（以下「対象機器」といいます）は、お客様が日本国内において購入された日本国内向け富士通製パーソナルコンピュータ（詳細は本規定末尾記載、以下同じ）および当該日本国内向け富士通製パーソナルコンピュータ用の富士通製周辺機器（ただしプリントは除きます）とします。

第3条（修理の形態）

- 富士通は、お客様より対象機器の修理をご依頼いただいた場合、現象や使用状況等を伺ながら簡単な切り分け診断を行い、修理の必要があると富士通が判断した場合に、次のいずれかの形態により修理を行います。ただし、対象機器の機種または離島等の一部地域等、修理の形態が限定される場合があるものとします。
 - 引取修理（パソコン修理便）
お客様のご自宅から故障した対象機器を引き取り、修理完了後ご自宅までお届けします。
 - 訪問修理
訪問修理が可能な製品について、お客様が訪問修理を希望された場合は、富士通指定の修理サービス会社の担当者がお客様のご自宅を訪問し、修理作業を行います。なお、訪問料は、保証書で特に無料と定められている場合を除き、保証期間の内外を問わず、別途有料となります。また、離島の一部地域では、訪問料とは別に訪問に要する実費（フェリー代、宿泊代等）をお客様にご負担いただく場合があります。
- 前項にかかわらず、当該切り分け診断の結果、故障の原因が外付けキーボード、マウス、ACアダプタにあると富士通が判断した場合は、富士通は、原因部品の良品をお客様のご自宅に送付いたします。なお、故障部品については、お客様から富士通に送付していただきます。

第4条（保証期間内の修理）

- 保証期間内に、取扱説明書、対象機器添付ラベル等の注意書きに従った正常な使用状態で対象機器が故障した場合には、富士通は、無料修理規定に従い、無料で修理を行います。
- 前項にかかわらず、次の各号のいずれかに該当する場合は、保証期間内であっても有料修理となります。
 - 保証書が対象機器に添付されていない場合
 - 保証書に必要事項の記入がない場合、または字句を書き替えられた場合、その他事実と異なる記載がされていた場合
 - ご使用上の誤り（水などの液体こぼれ、水没、落下等）、または改造、誤接続や誤挿入による故障・損傷の場合
 - 火災、地震、水害、落雷その他の天災地変、公害、塩害、ガス害（硫化ガス等）、異常電圧や指定外の電源使用による故障・損傷の場合
 - 富士通指定の有寿命部品、消耗品（バッテリ、乾電池等）または定期交換部品の自然消耗、磨耗、劣化等により部品の交換が必要となった場合
 - 接続している他の機器、非純正品、不適当な消耗品またはメディアのご使用に起因して対象機器に生じた故障・損傷の場合
 - お買い上げ後の輸送や移動または落下等、お客様における不適当なお取り扱いにより生じた故障・損傷の場合
 - 対象機器のハードウェア部分に起因しない不具合（例：対象機器にブレンストールまたは添付されたソフトウェア製品に起因する不具合、ウイルス感染による不具合等をいい、以下同じとします）の場合
 - お客様が設定されたパスワードの忘却やお客様が施錠された鍵の紛失により、メインボード、本体カバーその他の部品の交換が必要になった場合
 - お客様のご使用環境や維持・管理方法に起因して生じた故障・損傷の場合（例：埃、錆、カビ、虫・小動物の侵入および糞尿による故障等）
- 第1項にかかわらず、次の各号のいずれかに該当する場合は、保証期間内であっても、別途それぞれの料金が発生するものとします。
 - 第3条第1項第(2)号に基づき訪問料が発生した場合は、当該訪問料
 - 対象機器のハードウェア部分に起因しない不具合で、ソフトウェアの再インストールにより復旧する場合であって、お客様が当該再インストールを希望された場合は、ソフトウェア再インストール料

第5条（保証期間外の修理）

- お客様による修理のご依頼が保証期間外の場合、富士通は、有料で修理を行います。
- 次の各号のいずれかに該当する場合は、修理料金の他にそれぞれの料金が発生するものとします。
 - 第3条第1項第(2)号に基づき訪問料が発生した場合は、当該訪問料
 - ハードウェア部分に起因する故障ではなく、ソフトウェアの再インストールで復旧する場合で、お客様が当該再インストールを希望された場合は、ソフト再インストール料
- お客様による修理のご依頼が保証期間外の引取修理の場合であって、お客様に伺った故障の現象が確認できず、修理の必要がないと富士通が判断した場合は、その診断作業に対して診断料が発生するものとします。また、対象機器をお預かり後にお客様が修理のご依頼をキャンセルされた場合（第6条第2項および第3項に定める場合を含みます）であっても、診断料が発生するものとします。
- お客様による修理のご依頼が保証期間外の訪問修理の場合であって、富士通指定の修理サービス会社の担当者が、訪問先でお客様に伺った故障の現象が確認できず、修理の必要がないと判断した場合は、当該診断作業に対して訪問料と診断料が発生するものとします。また、担当者がお客様ご指定の場所に訪問し、修理作業に入る前に修理のご依頼をキャンセルされた場合は、訪問料が発生するものとします。

第6条（修理料金の見積もり）

- 修理が有料修理の場合であって、お客様が修理のご依頼時に修理料金の見積もりを希望された場合、富士通は、引取修理の場合は対象機器のお預かり後に診断作業を行い、見積金額をお知らせするものとし、訪問修理の場合は訪問前にお客様から現象や使用環境等お伺いした内容に基づき診断を行い、概算の見積金額をお知らせするものとします。富士通もしくは富士通指定の修理サービス会社の担当者は、当該見積金額での修理について、お客様にご了承いただいたうえで、修理を行います。ただし、お客様から修理のご依頼時に修理料金の上限金額をご提示いただいた場合であって、修理料金が上限金額を超えない場合は、お客様にご了承いただいたものとして見積提示なしに修理を行います。
- 前項のうち引取修理の場合であって、お客様に見積金額をお知らせした日から1ヶ月を超えて、お客様から見積もりに対するご回答がなかった場合は、お客様が修理のご依頼をキャンセルされたものとし、富士通は、修理を実施せずに、お預かりした対象機器をお客様に返却いたします。
- 第1項のうち引取修理の場合であって、修理の過程において新たな故障の原因が判明した場合等、お客様に見積金額をお知らせした後に当該金額を変更する必要が生じた場合には、富士通は、再度見積金額をお知らせするものとし、当該再見積もり後の金額での修理についてお客様にご了承いただいたうえで、修理を継続いたします。なお、当該再見積もり後の金額での修理についてお客様にご了承いただけなかった場合は、お客様が修理のご依頼をキャンセルされたものとし、富士通は、修理を中止し、お預かりした対象機器をお客様に返却いたします。

第7条（修理料金等の支払い方法）

- 第4条または第5条に基づき発生した修理料金等については、お預かりした対象機器の返却時に現金にてお支払いいただきます。

第8条（修理期間）

- 引取修理の場合、富士通は、対象機器のお預かりから、修理完了後の対象機器のご自宅へのお届けまで、原則として7日間で対応いたします。ただし、次の各号のいずれかに該当する場合は、7日間を超える場合があるものとします。
 - お客様から伺った故障の現象が確認できず、修理箇所の特定ができない場合
 - 引取修理の場合であって、引き取り先が離島の場合
 - 有料修理の場合であって、お客様が修理料金の見積もりを希望された場合
 - お客様のご都合により、修理完了後の対象機器の返却日に日程変更等が生じた場合
 - 天災地変、戦争、暴動、内乱、輸送機関の事故、労働争議その他不可抗力の事由が生じた場合
 - 第12条第1項に定める補修用性能部品が在庫切れの場合

第9条（修理品の保管期間）

- 引取修理の場合であって、修理完了後にお客様に修理の完了および返却日をお知らせしているにもかかわらず修理後の対象機器をお受け取りいただけない場合、または対象機器をお預かり後にお客様が修理のご依頼をキャンセルされたにもかかわらず当該対象機器をお引き取りいただけない場合は、富士通は、対象機器をお預かりした日から6か月間の保管期間の経過をもって、お客様が当該対象機器の所有権を放棄されたものとみなし、当該対象機器を自由に処分できるものとします。この場合、富士通はお客様に対し、当該保管に要した費用および当該処分に要する費用を請求できるものとし、また、保証期間外の修理の場合は、別途修理料金または診断料を請求できるものとします。

第10条（故障部品の取り扱い）

- 修理を行うために対象機器から取り外した故障部品については、お客様はその所有権を放棄するものとし、富士通は、当該故障部品をお客様に返却しないものとします。なお、当該故障部品は、環境への配慮から再調整後検査し、富士通の品質保証された補修用性能部品として再利用する場合があります。

第 11 条（修理ご依頼時の注意事項）

お客様は、修理をご依頼されるにあたり、あらかじめ以下の事項についてご了承いただくものとします。

- (1) お客様が保証期間内に修理をご依頼される場合は、必ず対象機器に同梱されている保証書を対象機器に添付いただくものとします。
- (2) 対象機器の記憶装置（ハードディスク等）にマイナンバー（個人番号）が記憶されたデータがある場合には、修理をお受けできません。お客様は、修理をご依頼される前に、お客様の責任においてマイナンバー（個人番号）を消去していただくものとします。なお、修理および診断作業の過程で記憶装置（ハードディスク等）にマイナンバー（個人番号）が記憶されたデータが確認された場合には、修理を実施せずに、お預かりした対象機器をお客様に返却いたします。
- (3) お客様が修理をご依頼された対象機器の記憶装置（ハードディスク等）に記憶されたデータ、プログラムおよび設定内容（以下総称して「データ等」といいます）につきましては、富士通では一切保証いたしません。お客様は、修理をご依頼される前に、お客様の責任においてバックアップをとっていただくものとします。（日頃から隨時バックアップをとられることをお勧めいたします。）なお、修理および修理前の診断作業の過程で、データ等が変化・消去される場合があります。お客様が修理をキャンセルされた場合（第 6 条に定める場合を含みます）でも、当該キャンセルの時点で既に富士通が修理前の診断作業を実施していた場合は、当該作業の過程でデータ等が変化・消去されている場合があります。
- (4) 富士通は、修理および修理前の診断作業の過程で、インターネットへの接続確認等の目的で対象機器をインターネットに接続する場合があります。お客様が修理をキャンセルされた場合（第 6 条に定める場合を含みます）でも、当該キャンセルの時点で既に富士通が修理前の診断作業を実施していた場合は、当該作業の過程で対象機器がインターネットに接続されている場合があります。なお、当該接続によりデータ等が変化・消去される場合があります。また、富士通は、当該接続によりデータ等が変化・消去される等の問題が生じ、当該問題を解決するために必要と判断した場合、データ等を変更・消去する場合があります。
- (5) 修理完了後のオペレーティングシステム（OS）ならびにその他のプログラムの再インストールおよびセットアップ等につきましては、お客様ご自身で実施いただくものとします。
- (6) お客様ご自身で貼り付けられたシール等につきましては、取り外したうえで修理をご依頼いただくものとします。また、お客様ご自身で行われた塗装や刻印等につきましては、元の状態への復旧はできないものとします。
- (7) 富士通は、修理期間中の代替機の貸し出しは行わないものとします。なお、修理期間中の対象機器の使用不能による補償等は、本規定で定める責任を除き富士通では一切責任を負わないものとします。
- (8) お客様が対象機器にパスワードを設定されている場合は、当該設定を解除したうえで修理をご依頼いただくものとします。
- (9) 対象機器の修理とは関係のない記録媒体（CD、DVD、メモリーカード、フロッピーディスク、MO 等）他の機器との接続ケーブル、および添付品等につきましては、事前にお客様の方で対象機器から取り外したうえで修理をご依頼いただくものとします。なお、万が一これらが対象機器に付加された状態で修理をご依頼いただいた場合、富士通ではこれらの管理につき一切責任を負わないものとします。
- (10) 修理のご依頼時に、当該修理にリカバリディスクが必要である旨富士通からお客様にお知らせした場合は、お客様は必ず対象機器に同梱されているリカバリディスクを添付いただくものとします。
- (11) 次の各号のいずれかに該当するものは、修理の対象から除外されるものとします。
 - a. お客様が対象機器出荷時の標準搭載の部品を加工・改造されたこと、または対象機器出荷時の標準搭載以外の部品を使用されたことに起因する故障の修理
 - b. ウィルスの除去
 - c. 液晶ディスプレイの一部に非点灯、常時点灯などの表示が存在する場合の修理・交換
 - d. データ等のバックアップおよび復旧作業
- (12) 訪問修理の場合であって、富士通または富士通指定の修理サービス会社がお客様への訪問日程調整のご連絡に努めたにもかかわらず、ご連絡がつかない状態が 2 週間以上継続した場合は、修理をキャンセルされたものとみなすことがあります。

第 12 条（補修用性能部品）

1. 補修用性能部品は、製品の機能を維持するために必要な部品をいい、故障部品と機能、性能が同等な部品（再利用品および第 10 条に定める故障部品の再利用も含む）とします。
2. 富士通における補修用性能部品の最低保有期間ににつきましては、対象機器に同梱されている説明書記載のとおりとなります。補修用性能部品の保有期間の終了をもって、当該対象機器の修理対応は終了となります。

第 13 条（個人情報の取り扱い）

1. 富士通は、本規定に基づく修理に関してお客様から入手した情報のうち、当該お客様個人を識別できる情報（以下「お客様の個人情報」といいます）につき、以下の利用目的の範囲内で取り扱います。
 - (1) 修理を実施すること。
 - (2) 修理の品質の向上を目的として、電子メール、郵便、電話等によりアンケート調査を実施すること。

- (3) お客様に有益と思われる富士通または富士通の子会社、関連会社もしくは提携会社の製品、サポートサービス等の情報を、電子メール、郵便、電話等によりお客様へ提供すること。
- (4) お客様の個人情報の取り扱いにつき、個別にお客様の同意を得るために、当該お客様に対し電子メール、郵便、電話等により連絡すること、および当該同意を得た利用目的に利用すること。
2. 富士通は、前項に定める利用目的のために必要な範囲で、お客様の個人情報を業務委託先に取り扱わせることができるものとします。
3. 富士通は、「個人情報の保護に関する法律」において特に認められている場合を除き、お客様の個人情報につき、第 1 項に定める以外の利用目的で取り扱い、または前項に定める以外の第三者に開示、提供することはありません。

第 14 条（責任の限定）

1. 富士通が実施した修理に富士通の責に帰すべき瑕疵が発見され、当該修理完了日より 3 か月以内に、当該修理時の「診断・修理報告書」を添えてその旨お客様に富士通にご連絡いただいた場合、富士通は自己の責任と費用負担において必要な修理を再度実施いたします。なお、ここでいう瑕疵とは、当該修理を実施した箇所の不具合により再度修理が必要となる場合をいいます。
2. 合理的な範囲で富士通が前項の修理を繰り返し実施したにもかかわらず、前項の瑕疵が修理されなかった場合には、富士通は、当該瑕疵に起因してお客様に生じた損害につき、賠償責任を負うものとします。
3. 対象機器の修理に関連して富士通がお客様に対して損害賠償責任を負う場合、その賠償額は、修理料金相当額を上限とします。また、富士通は、富士通の責に帰すことのできない事由から生じた損害、富士通の予見の有無を問わず特別の事情から生じた損害、逸失利益については、責任を負わないものとします。
4. 対象機器の修理に関連してお客様が被った損害が、富士通の故意または重大過失に起因するものである場合には、前項の規定は適用されないものとします。

第 15 条（変更）

富士通は、本規定の内容を変更する必要が生じた場合は、お客様に対する通知をもって変更できるものとします。なお、当該通知は、専用ホームページでの表示により行われるものとします。

第 16 条（反社会的勢力等の排除）

1. お客様は、自らか次の各号に記載する者（以下、「反社会的勢力等」という）に該当せず今後も該当しないこと、また、反社会的勢力等との関係を持っておらず今後も持たないことを確約します。
 - (1) 警察庁「組織犯罪対策要綱」記載の「暴力団、暴力団員、暴力団準構成員、暴力団関係企業、総会屋等、社会運動等標榜（ぼうご）、特殊知能暴力集団等」その他これらに準する者
 - (2) 資金や便宜を供与したり、不正の利益を図る目的で利用するなど、前号に記載する者と的人的・資本的・経済的に深い関係にある者
 2. お客様は、自らまたは第三者を利用して、次の各号に記載する行為を行わないことを確約します。
 - (1) 詐術、暴力的行為または脅迫的言辞を用いる行為
 - (2) 違法行為または不当要求行為
 - (3) 業務を妨害する行為
 - (4) 名誉や信用等を毀損する行為
 - (5) 前各号に準する行為
 3. 当社は、お客様が前各項に違反したときは、お客様に対して損害賠償義務を負うことなく、何等の催告なしにただちに本規定に基づく対象機器の修理および関連するサービスの提供を中止または拒否するものとします。

第 17 条（専属的合意管轄裁判所）

本規定に基づく対象機器の修理に関する訴訟については、東京地方裁判所をもって第一審における合意上の専属的管轄裁判所とします。

付則

本規定は、2016 年 1 月 18 日から実施します。

■対象機器

- ・ARROWS Tab QH シリーズ
- ・arrows Tab QH シリーズ
- ・FMV シリーズ
- ・ESPRIMO / LIFEBOOK（品名が以下のように表記される製品）

品名： * H *** / ***
↑ ↑ ↑
アルファベット 数字 数字またはアルファベット
(2 ~ 3 術) (1 ~ 3 術)

品名： W * * / * *
↑ ↑ ↑
アルファベット 数字またはアルファベット
(1 ~ 2 術)

品名： * H / R **
↑ ↑ ↑
アルファベット 数字またはアルファベット
(1 ~ 2 術)

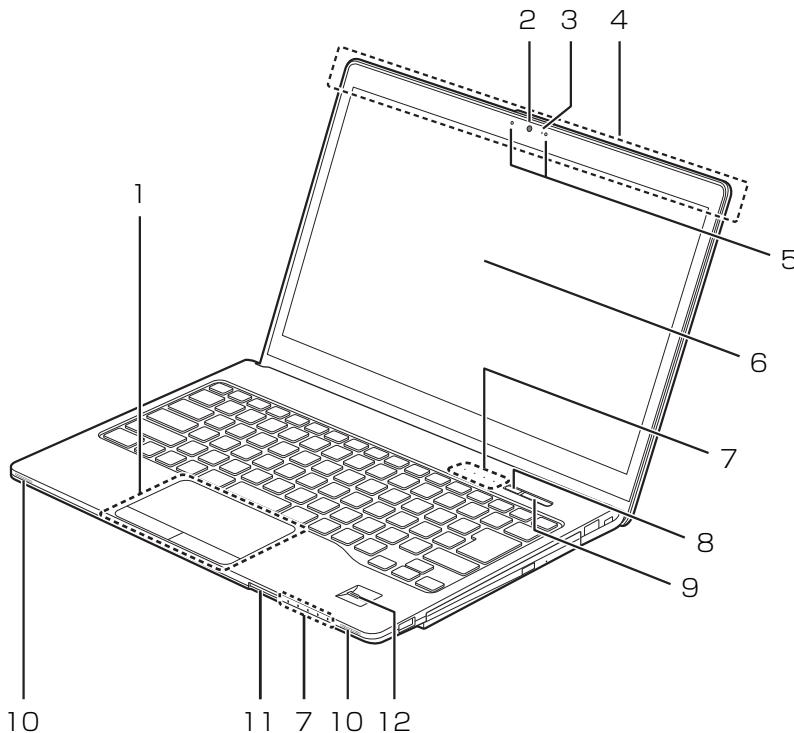
活用ガイド

本製品の取り扱い方法や、設定の変更方法などを説明しています。

| | |
|----------|-----|
| 各部の名称と働き | 77 |
| 取り扱い | 85 |
| バックアップ | 113 |
| 使いこなすために | 117 |

各部の名称と働き

パソコン本体前面



(イラストは機種や状況により異なります)

1 フラットポイント

マウスポインター(⇨)を操作します(→P.90)。

2 Web カメラ

カメラを使うアプリで使用します。

3 Web カメラ状態表示 LED

Web カメラが動作しているときに点灯します。

4 無線 LAN・Bluetooth ワイヤレステクノロジー兼用アンテナ

無線 LAN と Bluetooth ワイヤレステクノロジー兼用のアンテナが内蔵されています。

Point

▶ 無線 LAN、Bluetooth ワイヤレステクノロジーについて、詳しくは「通信」(→ P.155)をご覧ください。

5 内蔵マイク

マイクを使うアプリで使用します。

6 液晶ディスプレイ

入力した内容や、パソコン内のデータなどを表示します。画面に触れて操作することができます(→P.92)。

次のようなときに、画面にムラが発生する場合があります。

- ・液晶ディスプレイに強い圧力が加わったとき
- ・タッチ操作を行ったとき

7 状態表示 LED

パソコンの状態を表示します(→P.82)。

8 ECO ボタン

ボタンを押すごとに、省電力モードがオンまたはオフに切り替わります。

省電力モードについて、詳しくは「ステータスパネルスイッチ」(→ P.132) をご覧ください。

なお、電源オフ、および休止状態のときにこのボタンを押すと、バッテリ残量ランプが点灯し、ランプの色でバッテリの残量を表示します (→ P.87)。

9 電源ボタン (○)

Windows をスタートします (→ P.85)。

10 スピーカー

パソコンの音声を出力します (→ P.94)。

11 ダイレクト・メモリースロット

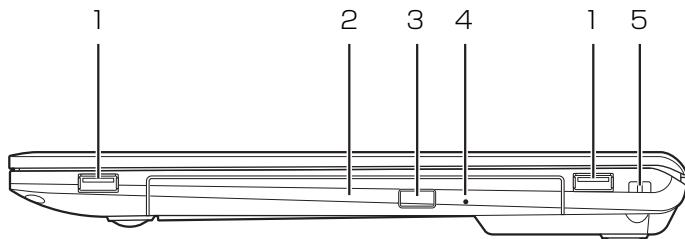
SD メモリーカードを差し込みます。miniSD カードなどは、アダプターを使用してください (→ P.102)。

12 指紋センサー

指をスライドさせることで、指紋認証を使うことができます。

詳しくは、「Windows Hello を使って指紋認証でサインインする」(→ P.121) をご覧ください。

パソコン本体右側面



(イラストは機種や状況により異なります)

1 USB3.0 コネクタ (•)

USB 規格の周辺機器を接続します。

接続した USB 機器の動作は、周辺機器や間に接続されている USB ハブやケーブルの性能に依存します。

2 モバイル・マルチベイ

内蔵スーパー・マルチ・ドライブ・ユニットなどが取り付けられます。ユニットは交換できます。パソコンをお使いになるときは、必ずモバイル・マルチベイにユニットまたはモバイル・マルチベイ用カバーを取り付けてください (→ P.104)。

3 ディスク取り出しボタン

ディスクをセットしたり取り出したりするときに使用します (→ P.100)。

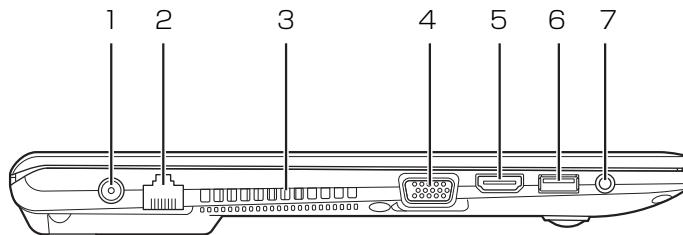
4 強制取り出し穴

光学ドライブのトレーが開かなくなったときに使用します。詳しくは、「富士通アドバイザー」の「トラブル解決」から「光学ドライブのトラブル」をご覧ください。

5 盗難防止用ロック取り付け穴 (🔒)

市販の盗難防止用ケーブルを接続します。

パソコン本体左側面



(イラストは機種や状況により異なります)

1 DC-IN コネクタ (—)

添付の AC アダプタを接続します。

2 LAN コネクタ (呂呂)

LAN ケーブルを接続します。

3 排気孔

パソコン本体内部の熱を外部に逃がします。

4 外部ディスプレイコネクタ (□) [注]

アナログ接続の外部ディスプレイを接続します。

5 HDMI 出力端子 (HDMI) [注]

デジタルテレビや、デジタル接続の外部ディスプレイを接続します。

Point

▶ 同時表示やマルチモニター表示、HDMI 出力端子接続時の出力方式などについては、「外部ディスプレイやデジタルテレビに表示できる解像度と発色数」(→ P.141) をご覧ください。

6 USB3.0 コネクタ(電源オフ USB 充電機能対応)

()

USB 規格の周辺機器を接続します。

接続した USB 機器の動作は、周辺機器や間に接続されている USB ハブやケーブルの性能に依存します。このコネクタは、設定を変更することにより、電源オフ USB 充電機能を使用できます(→P.108)。

7 マイク・ラインイン・ヘッドホン・ラインアウト・ヘッドセット兼用端子 (○)

外径 3.5mm のミニプラグに対応した市販のヘッドホン・マイク・ヘッドセットを接続します。また、設定を変更することで、マイク入力端子、ライン入力／出力端子、ヘッドセット端子としても使用できます (→ P.154)。

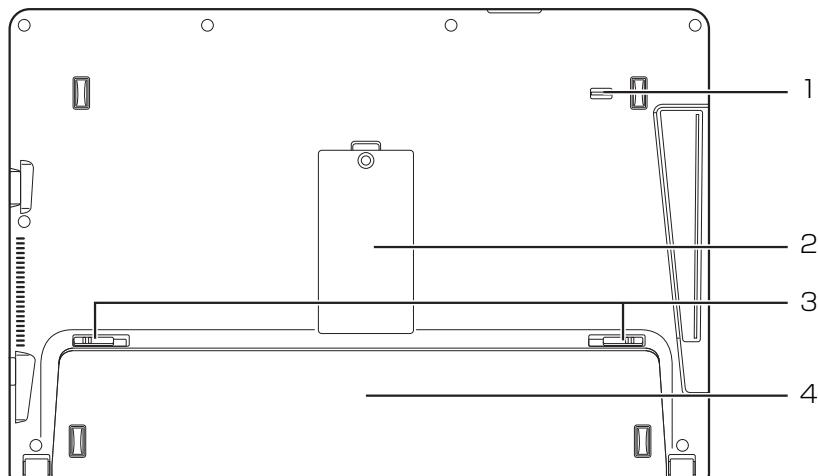
なお、この端子はハイレゾに対応しています。

Point

- ▶ ハイレゾで音源を聞く場合、ハイレゾ対応イヤホン・ヘッドホンが必要です。
- ▶ ハイレゾで出力する場合、ハイレゾの音源が必要です。ハイレゾについては、「ハイレゾを楽しむ (<http://www.fmworld.net/fmv/func/hires/>)」でご紹介しています。こちらもあわせてご覧ください。
- ▶ CD などのディスクのハイレゾ音源には対応していません。

注：隣接するコネクタと同時に使用できないことがあります。

パソコン本体下面



(イラストは機種や状況により異なります)

1 モバイル・マルチベイロック

モバイル・マルチベイユニットの取り付け／取り外しをするときに使用します（→ P.104）。

2 メモリスロットカバー

メモリの取り付け／取り外しを行うときに取り外します（→ P.110）。

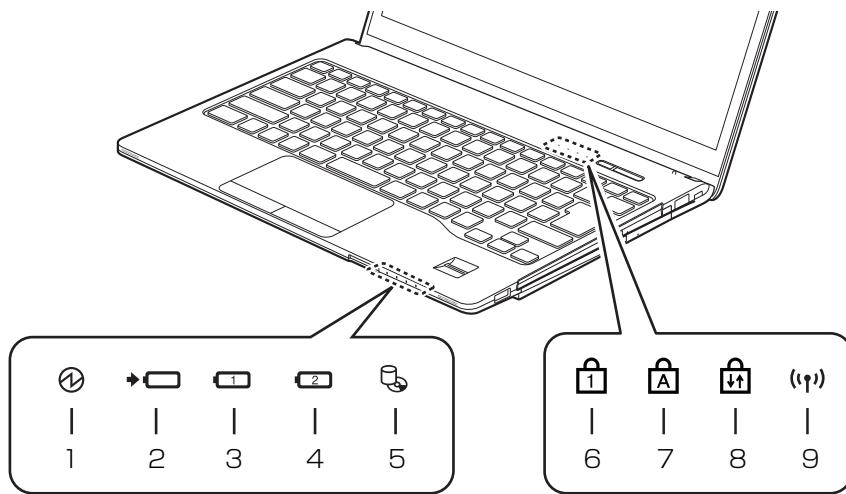
3 内蔵バッテリパックロック

内蔵バッテリパックの取り付け／取り外しをするときに使用します（→ P.89）。

4 内蔵バッテリカバー

内蔵バッテリパックを交換するときに取り外します（→ P.89）。

状態表示 LED



(イラストは機種や状況により異なります)

1 電源ランプ (①)

電源の状態を表示します (→ P.86)。

2 内蔵バッテリパック充電ランプ (➡️)

パソコンにACアダプタが接続されている場合に、内蔵バッテリパックの充電状態を表示します (→ P.87)。

3 内蔵バッテリパック残量ランプ (1)

内蔵バッテリパックの残量を表示します (→ P.87)。

4 増設用内蔵バッテリユニット残量ランプ (2)

増設用内蔵バッテリユニットの残量を表示します。増設用内蔵バッテリユニットが装着されていると点灯します (→ P.87)。

5 ディスクアクセスランプ (Disk)

内蔵ハードディスクや光学ドライブにアクセスしているときに点灯します。

6 Num Lock ランプ (Num Lock)

キーボードがテンキーモード (→ P.84) のときに点灯します。点灯時は、「テンキーになるキー」で数字や記号を入力できます。

7 Caps Lock ランプ (Caps Lock)

英大文字固定モード (英字を大文字で入力する状態) のときに点灯します。

8 Scroll Lock ランプ (Scroll Lock)

[Fn] を押しながら [Scr Lk] を押したときに点灯します。点灯中の動作は、アプリによって異なります。

9 ワイヤレス通信ランプ (Wi-Fi)

機内モードがオフのときに点灯します。

Point

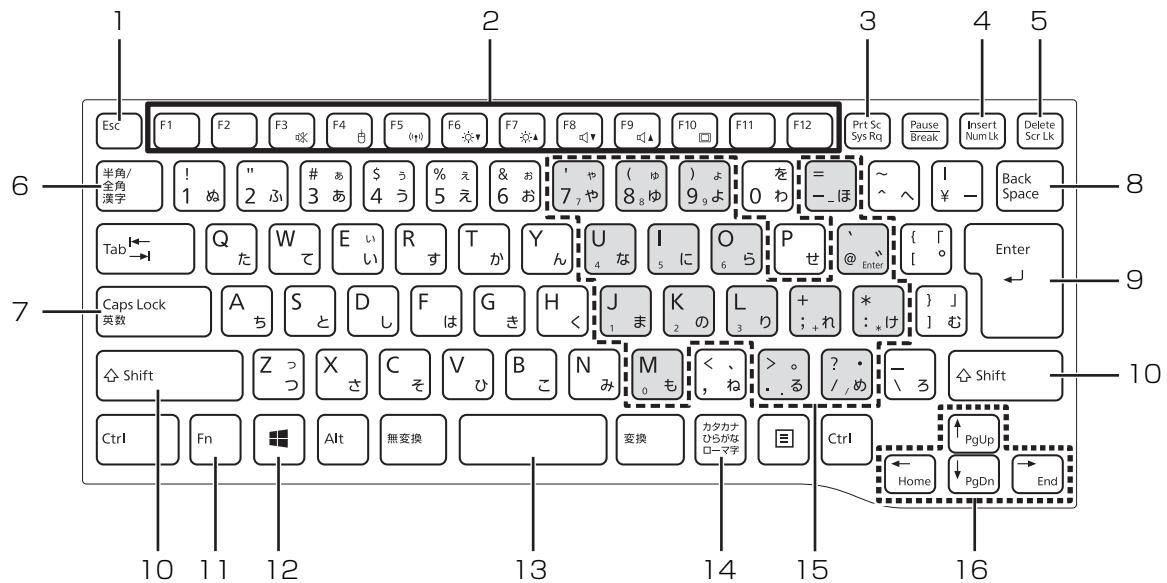
- ▶ 機内モードは、本パソコンの内蔵アンテナを使用する無線通信機能の電波を停止する機能です。機内モードをオンにすると電波が停止します。
- ▶ 機内モードがオフ（ワイヤレス通信ランプ点灯時）でも電波が停止している場合があります。電波の発信／停止の状態は、次の手順で表示される画面で確認できます。

1. [Fn] ▶ [設定] ▶ 「ネットワークとインターネット」 ▶ 「機内モード」 の順にクリックします。

▶ 電波の発信／停止を切り替えるには、[Fn] + [F5] を押してください。

また、通知領域の [Wi-Fi] ▶ 「機内モード」 の順にクリックして機内モードを切り替えることもできます (→ P.165)。

キーボード



1 Esc キー

現在の作業を取り消します。

2 ファンクションキー

アプリごとにいろいろな機能が割り当てられています。青い刻印の機能は、**[Fn]** を押しながらそのキーを押して使います。

3 Prt Sc キー

画面に表示されている内容を画像としてコピーできます。

4 Num Lk キー

[Fn] を押しながらこのキーを押すと、テンキー モード (→ P.84) になります。
もう一度押すと解除されます。

5 Delete キー

カーソルの右側にある 1 文字を削除します。

6 半角／全角キー

このキーを押すごとに、半角入力／全角入力を切り替えます。全角入力にすると、日本語を入力できます。

7 Caps Lock キー

[Shift] を押しながらこのキーを押して、英大文字入力／小文字入力を切り替えます。

8 Back Space キー

カーソルの左側にある 1 文字を削除します。

9 Enter キー

入力した文字を確定したり、改行したりします。

10 Shift キー

このキーを押しながら文字キーを押すと、キーの上段に刻印されている記号を入力できます。

11 Fn キー

[Fn] を押しながら青い刻印のあるキーを押すと、それぞれのキーに割り当てられた機能を使用することができます。

- [Fn] + [F3] 音声出力のON/OFFを切り替えます。
- [Fn] + [F4] フラットポイントの有効／無効を切り替えます (→ P.138)。
- [Fn] + [F5] 本パソコンの内蔵アンテナを使用する無線通信機能の電波の発信／停止を切り替えます。
- [Fn] + [F6] 画面を暗くします。
- [Fn] + [F7] 画面を明るくします。
- [Fn] + [F8] 音量を小さくします。
- [Fn] + [F9] 音量を大きくします。
- [Fn] + [F10] 外部ディスプレイを接続した場合に、液晶ディスプレイと外部ディスプレイで表示先を切り替えます。
- [Fn] + [Home] カーソルを行の最初に移動します。
- [Fn] + [Ctrl] + [Home] 文章の最初に移動します。
- [Fn] + [Pg Up] 前の画面に切り替えます。
- [Fn] + [Pg Dn] 次の画面に切り替えます。
- [Fn] + [End] カーソルを行の最後に移動します。
- [Fn] + [Ctrl] + [End] 文章の最後に移動します。

12 Windows キー

「スタート」メニューを表示したいときに押します。

13 空白 (Space) キー

文字を入力するときに、空白（スペース）を入力します。

14 カタカナ／ひらがなキー

[Alt] を押しながらこのキーを押して、ローマ字入力／ひらがな入力を切り替えます。

15 テンキーになるキー

テンキーモードのときに、テンキーとして使えるキーです。

16 カーソルキー

カーソルを上下左右に移動します。



▶ テンキーモードとは、文字キーの一部をテンキー（数字の入力を容易にするキー配列）として使えるように切り替えた状態のことです。テンキーモードのときは、状態表示 LED の Num Lock ランプが点灯します。テンキーモードで入力できる文字は、「テンキーになるキー」の下段に小さい文字で刻印されています。

Windows をスタートする／終了する

Windows をスタートする

⚠ 注意

- 🚫 • 落雷の可能性がある場合は、あらかじめパソコン本体の電源を切り、その後電源ケーブルをコンセントから抜き、ケーブル類を取り外しておいてください。落雷による感電、火災の原因となります。
雷が鳴り出したときは、落雷の可能性がなくなるまでパソコン本体やケーブル類に触れないでください。ケーブル類の接続作業は、落雷の可能性がなくなるまで行わないでください。
- ❗ • AC アダプタは、このマニュアルをよく読み、正しく接続してください。
誤った接続状態でお使いになると、感電・火災の原因となります。また、パソコン本体が故障する原因となります。

重要

- ▶ 必ず内蔵バッテリパックが取り付けられた状態でお使いください。
- ▶ パソコンを長時間お使いになる場合は、バッテリ切れによるデータ消失などを防ぐため、必ず AC アダプタを取り付けてください。
- ▶ 内蔵バッテリパックや AC アダプタを取り付けるときは、変形や破損のないことを確認してください。
- ▶ 電源を入れてから Windows がスタートするまでは、キーボードやマウスなどで操作しないでください。正常にスタートできない場合があります。

1 電源ボタン (↓) を押します。

電源ボタンを 4 秒以上押すと、パソコンの電源が強制的に切れてしまいます。データが失われる場合もありますので、ご注意ください。



(イラストは機種や状況により異なります)

電源ランプ (①) が点灯し、ロック画面が表示されます。

2 [Enter] を押します。

パスワードや PIN を設定している場合は、パスワードや PIN を入力します。
Windows がスタートします。

Point

- ▶ Windows Helloを使って指紋認証でサインインすることもできます (→ P.121)。
- ▶ テンキー搭載モデルでパスワードや PIN を入力するとき、テンキーでは数字を入力できません。キーボード上部の数字キーで入力してください。
- ▶ Windows がスタートしないときは
 - ・ AC アダプタを接続している場合
AC アダプタが正しく接続されているか確認してください。
 - ・ バッテリのみで使う場合
 - 内蔵バッテリパックが正しく取り付けられているか確認してください。
 - バッテリ残量が少ないと電源を入れても Windows が起動しないことがあります。残量が少ない場合は、AC アダプタを接続してください。

それでも Windows がスタートしない場合は、「起動・終了時のトラブル」(→ P.55) をご覧ください。

Windows を終了する

重要

- ▶ Windowsを終了する前に、作業中のデータがある場合は保存してください。また、光学ドライブにディスクが入っている場合は取り出してください。
- ▶ 次のような場合は、「パソコンの電源を完全に切るには」(→ P.68)をご覧になり、電源を切ってください。
 - ・メモリを取り付ける／取り外す
 - ・内蔵バッテリパックを取り外す
 - ・BIOS セットアップを起動する
 - ・モバイル・マルチベイユニットの取り付け／取り外し
- ▶ Windows がスタートして 1 分以上たってから終了するようにしてください。

1   「シャットダウン」の順にクリックします。

しばらくすると、Windows が終了します。

Point

- ▶ Windows が終了できないときは、「起動・終了時のトラブル」(→ P.55)をご覧ください。
- ▶ パソコンは Windows を終了した状態でも少量の電力を消費します。バッテリ残量を減らさないためには、AC アダプタを接続してください。
- ▶ 長期間パソコンを使用しない場合は、パソコンの電源を切ってから内蔵バッテリパックと AC アダプタを取り外してください。
 - ・AC アダプタや電源ケーブルは、変形したり、割れたり、傷が付かないように保管してください。保管するときは、AC アダプタにケーブル類を巻きつけたりしないでください。

電源ランプの状態

電源ランプ (①) は、パソコンの状態によって次のように動作します。

| 電源ランプの状態 | パソコンの状態 |
|----------|--|
| 点灯 | パソコンの電源が入っている |
| 点滅 | スリープ |
| 消灯 | <ul style="list-style-type: none">・休止状態・パソコンの電源が切れている |

スリープにする／復帰させる

スリープとは、Windows を終了せずに、作業中のデータなどをメモリに保存して、パソコンを待機状態にすることです。

スリープにしておくと、次にパソコンを使うときにすぐに使い始めることができます。

スリープにするときの注意

次の場合は、いったんパソコンの電源を切り、電源を入れ直してください。

- パソコンを長期間使わないとき
- パソコンの動作が遅くなったり、正常に動作しなくなったりするとき

Point

- ▶ スリープ中は、メモリに保存したデータなどを保持するために少しずつ電力を消費しています。
- ▶ ご購入時は、スリープしてから一定時間経過するか、バッテリの残量が少なくなると、休止状態に移行するように設定されています。休止状態について、詳しくは「スリープ／休止状態」(→ P.127) をご覧ください。
- ▶ Web カメラを使用するアプリを起動中は、一定時間パソコンを操作しない場合に自動的にスリープや休止状態になる機能はご使用になれません。

スリープにする

1   「スリープ」の順にクリックします。ディスプレイの表示が消えスリープになります。

Point

- ▶ 液晶ディスプレイを閉じることで、スリープにすることもできます (→ P.128)。

スリープから復帰する

1 電源ボタン（↓）を押します。

電源ボタンは4秒以上押さないでください。パソコンの電源が切れてしまいます。

2 ロック画面が表示された場合は、次のように操作します。

1. [Enter] を押します。

パスワードやPINを設定している場合は、パスワードやPINを入力します。

Point

- ▶ スリープにした後は、必ず10秒以上たってから復帰（レジューム）するようにしてください。
- ▶ 復帰（レジューム）させた後は、必ず10秒以上たってから、スリープにするようにしてください。
- ▶ 液晶ディスプレイを開くことで、復帰（レジューム）することもできます。
- ▶ 電源ボタンを押す以外の方法でスリープからレジュームさせると、Windowsの仕様により、画面が表示されない場合があります。
画面が表示されない場合は、キーボードやマウス、およびフラットポイントなどから入力をを行うと画面が表示されます。
- ▶ レジューム後、画面が表示されないままの状態で一定時間経過すると、再度スリープになります。

バッテリ

このパソコンは、ACアダプタを使わずにバッテリのみで動作させることができます。

重要

- ▶ バッテリのみで使用する場合は、バッテリが充電されているか確認してください。特にご購入時にはバッテリが充電されていない場合があるので、ご注意ください。
- ▶ Windowsを終了しても少量の電力を消費するため、ACアダプタを接続してお使いになることをお勧めします。

バッテリの充電

- ACアダプタを接続すると、バッテリの充電を開始します。充電が始まると、バッテリ充電／残量ランプまたはバッテリ充電ランプが点灯します。
- バッテリ残量が90%以上のときにACアダプタを取り付けても充電は始まりません。バッテリ残量が少なくなると自動的に充電が始まります。

充電状態や残量の確認

この項目では、内蔵バッテリパック残量ランプと増設用内蔵バッテリユニット残量ランプのことを総称して、バッテリ残量ランプと呼んでいます。

バッテリの状態は、バッテリ充電ランプ／バッテリ残量ランプで確認します。

また、電源オフ時／休止状態のときに、ECOボタンを押すと、バッテリ残量ランプでバッテリ残量が確認できます。

バッテリ充電ランプ（➡□）およびバッテリ残量ランプ（□）は、次のように表示されます。

□バッテリ充電ランプ（➡□）

● ACアダプタ接続時

| バッテリ充電ランプの表示 | 状態 |
|--------------|---------|
| オレンジ色点灯 | 充電中 |
| 白色点灯 | 充電完了【注】 |

注：ECO Sleepが動作中の場合、電源オフ状態や休止状態ではバッテリ充電ランプは点灯しません（→P.131）。

● ACアダプタ未接続時は、バッテリ充電ランプは消灯します。

- 次の場合、バッテリ充電ランプがオレンジ色点滅します。

- ・内蔵バッテリパックが熱を持って温度が高くなつた場合
- ・冷やされて温度が低くなったときに、バッテリの保護機能が働いて充電を停止している場合

内蔵バッテリパックの温度が平常に戻ると、オレンジ色点灯になり充電を再開します。

□バッテリ残量ランプ（□）

| バッテリ残量ランプの色 [注 1] | バッテリ残量 |
|-------------------|----------------------------------|
| 白色 | 100～51% |
| オレンジ色 | 50～13% |
| 赤色 | 12% 以下 (LOW バッテリ 状態) [注 2] |

注 1：本パソコンの電源の状態により次のようにになります。

- ・電源オン時：点灯
- ・スリープ中：点灯（充電中）、またはゆっくり点滅（充電していないとき）
- ・休止状態：点灯（充電中）、または消灯（充電していないとき）
- ・電源オフ時：点灯（充電中）、または消灯（充電していないとき）

なお、「充電中」とは、バッテリ充電ランプがオレンジ色に点灯しているときを指します。

注 2：LOW バッテリ状態のまま使用し続けると、作成中または保存中のデータが失われることがあります。

- バッテリ未装着時は、バッテリ残量ランプは消灯します。

- バッテリ残量ランプが短い間隔で赤色点滅する場合は、バッテリが正しく充電できないことを示しています。パソコン本体の電源を切ってからバッテリを取り付け直してください。それでも解消されない場合はバッテリが異常です。純正の新しいバッテリと交換してください（→ P.89）。

- バッテリ残量が少なくなると、バッテリ残量不足を通知する警告画面が表示され、その後しばらくすると、強制的に休止状態に移行します。バッテリ残量不足の警告画面が表示されたら、すぐに AC アダプタを接続してください。

- 表示されるバッテリの残量は、バッテリ（リチウムイオン電池）の特性上、使用環境（温度条件やバッテリの充放電回数など）により実際のバッテリの残量とは異なる場合があります。

バッテリパックの取り扱い上の注意

この項目の説明は、増設用内蔵バッテリユニット（別売）にも該当します。増設用内蔵バッテリユニットをお使いになるときはご注意ください。

- バッテリを長期間使用すると充電する能力が低下するため、バッテリ駆動時間が短くなります。駆動時間が極端に短くなってきたら、純正の新しいバッテリパックに交換してください。

使用できるバッテリパックについては、製品情報ページ (<http://www.fmworld.net/fmv/>) をご覧になるか、ご購入元にお問い合わせください。

- 操作に必要な箇所以外には手を触れないでください。故障の原因となります。

- バッテリの交換時に、液晶ディスプレイにネジや文房具などをはさんだり、パソコン本体内部にパソコンの部品やネジを落としたりしないように注意してください。



警告



- バッテリパックの交換を行う場合は、パソコンの電源を必ず切り AC アダプタを取り外してください。また、パソコンやバッテリパックのコネクタに触れないでください。
感電や故障の原因となります。

重要

- ▶取り外した内蔵バッテリパックは、ショート（短絡）防止のために、内蔵バッテリパックのコネクタに絶縁テープを貼るなどの処置を行ってください。なお、取り外した内蔵バッテリパックは乾電池などの電池と混ぜないようにしてください。
- ▶内蔵バッテリパック（リチウムイオン電池）は、貴重な資源です。廃棄する場合は、リサイクルにご協力をお願いします（→ P.69）。

内蔵バッテリパックの交換方法

電源を切って作業しますので、この内容を印刷しておくか、「富士通アドバイザー」（スマートフォン版）を使って本書をご覧いただくことをお勧めします。「富士通アドバイザー」（スマートフォン版）について詳しくは「富士通アドバイザー」を活用する（→P.47）をご覧ください。

増設用内蔵バッテリユニットを交換する場合は、「モバイル・マルチベイユニット」（→P.104）をご覧ください。

1 パソコンの電源を切り（→P.68）、10分ほど待つてからACアダプタを取り外します。

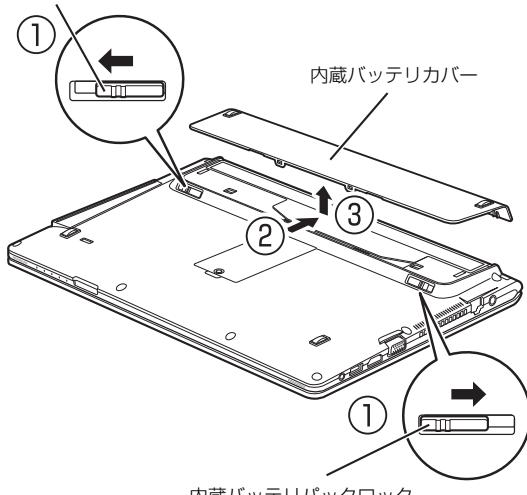
電源を切った直後は、パソコン本体内部が熱くなっています。

2 液晶ディスプレイを閉じ、パソコン本体を裏返します。

3 内蔵バッテリカバーを取り外します。

①内蔵バッテリパックロック（2ヶ所）を矢印の方向にスライドさせてロックを解除した後、②内蔵バッテリカバーを矢印の方向にスライドさせ、③まっすぐ上に持ち上げて取り外します。

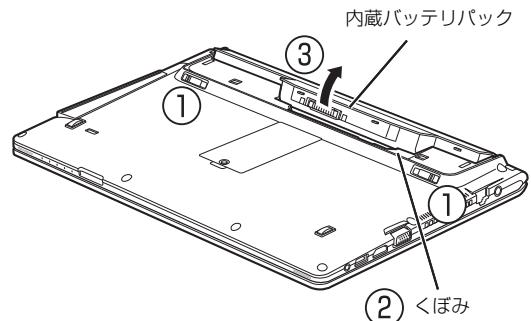
内蔵バッテリパックロック



（これ以降のイラストは機種や状況により異なります）

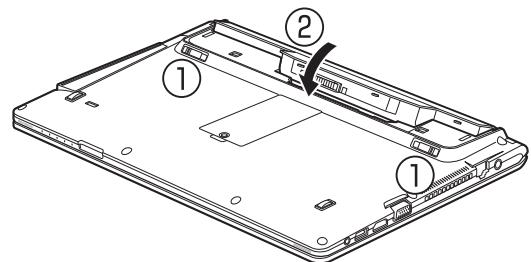
4 内蔵バッテリパックを取り外します。

①内蔵バッテリパックロックが解除されていること（→手順3）を確認し、②くぼみに指をかけて、③内蔵バッテリパックを斜めに持ち上げて取り外します。



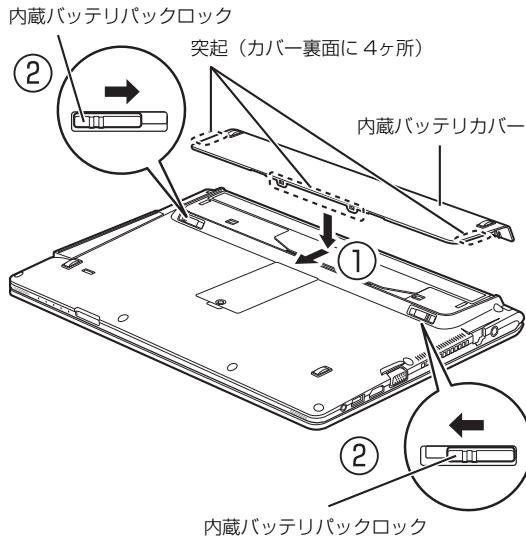
5 新しい内蔵バッテリパックを取り付けます。

①内蔵バッテリパックロックが解除されていること（→手順3）を確認し、②新しい内蔵バッテリパックのふちとパソコン本体のふちを合わせ、しっかりとはめこみます。



6 内蔵バッテリカバーを取り付けます。

①内蔵バッテリカバーの突起（4ヶ所）をパソコン本体の穴に差し込み、取り外し（→手順3）と逆の手順で取り付けます。②内蔵バッテリパックロック（2ヶ所）を矢印の方向にスライドさせてロックします。

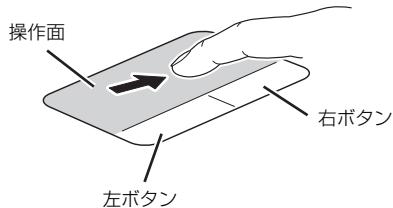


フラットポイント

フラットポイントは、指先の操作でマウスポインターを動かしたり、画面やウィンドウの表示を切り替えたりすることができるポインティングデバイスです。

操作面を指先でなぞることで、画面上のマウスポインターを移動させることができます。

左右のボタンは、それぞれマウスの左右のボタンに相当し、その機能はアプリにより異なります。



(これ以降のイラストは機種や状況により異なります)

フラットポイントをお使いになるうえでの注意

- フラットポイントは操作面表面の結露、湿気などにより誤動作することがあります。また、濡れた手や汗をかいた手でお使いになった場合、あるいは操作面の表面が汚れている場合は、マウスポインターが正常に動作しないことがあります。このような場合は、電源を切ってから、薄めた中性洗剤を含ませた柔らかい布で汚れを拭き取ってください。
- フラットポイントの操作面で操作するときは、指の先が接触するようにしてください。指の腹を押さえつけるように操作すると、マウスポインターが正常に動作しないことがあります。

Point

- ▶ フラットポイントの詳しい設定方法については、「使いこなすために」 – 「フラットポイント」（→ P.134）ご覧ください。

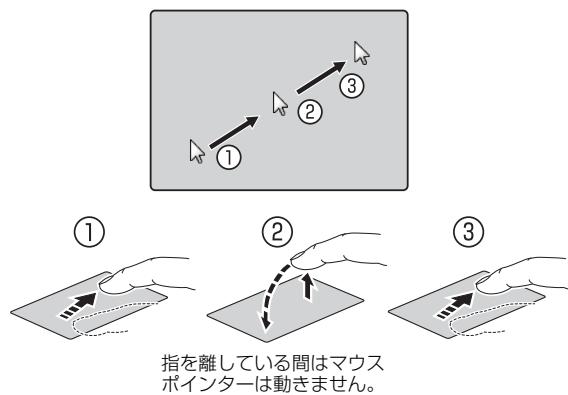
フラットポイントの基本的な使い方

ここでは、フラットポイントの機能について説明しています。

■マウスポインター（⇨）を移動させる

操作面を指先でなぞります。

指が操作面の端まできたら、いったん操作面から指を離して、もう一度別の位置からなぞってください。指を離してもマウスポインター（⇨）は動きません。



■クリック

左ボタンを1回押してすぐに離すか、操作面を1回軽くたたく（タップする）ことです。



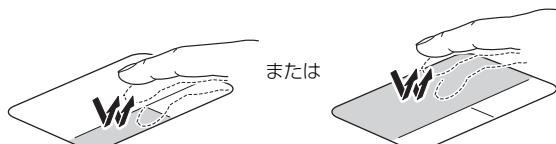
■右クリック

右ボタンを1回押してすぐに離すことを「右クリック」といいます。



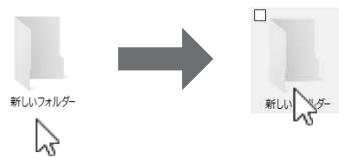
■ダブルクリック

左ボタンを2回連続して押すか、操作面を2回連続して軽くたたく（タップする）ことです。



■ポイント

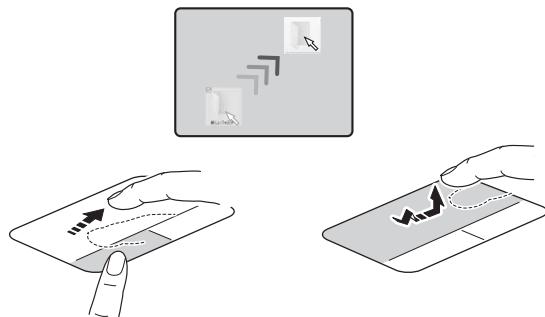
マウスポインター（⇨）をアイコンやメニューなどに合わせることです。ポイントすると、項目が反転表示されたり、項目の説明が表示されたりします。



■ドラッグ

アイコンやウィンドウを、マウスポインター（⇨）で掴むようにして移動させることです。

左ボタンを押したまま操作面をなぞり、希望の位置で指を離します。または、操作面を素早く2回タップし、2回目のタップのときに指を操作面上から離さずに離すことで、希望の位置で指を離します。



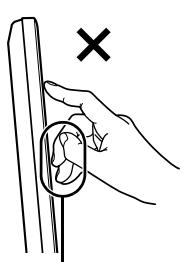
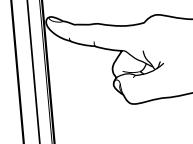
フラットポイントの設定を変更する方法など、詳しくは「使いこなすために」－「フラットポイント」（→P.134）をご覧ください。

タッチ機能

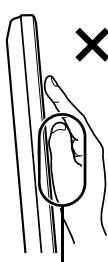
このパソコンは、液晶ディスプレイを直接指先でタッチして操作できるタッチ機能（タッチパネル）を搭載しています。画面を指でタッチするだけで操作することができます。画面上で直接操作できるので、直感的でスピーディな操作が可能です。

タッチ機能をお使いになるうえでの注意

- 液晶ディスプレイを強く押さないでください。
- 液晶ディスプレイ表面をひっかいたり、金属製のものや固いもので突いたりしないでください。液晶ディスプレイが破損するおそれがあります。
- 濡れた手や、指先が汚れた状態で操作しないでください。
- アプリによっては、次のような場合があります。この場合は、マウスやフラットポイントをお使いください。
 - ・タッチ操作しづらい
 - ・タッチ機能の反応が悪い
 - ・タッチ機能に対応していない
- つめや手袋をした指では操作できません。必ず、指の皮膚の部分が画面に触れるようにしてください。
- 指の腹でタッチしたり、タッチしない指や手のひらをディスプレイに近づけすぎたりしないでください。タッチした位置が正しく認識されないことがあります。



タッチしない指がディスプレイに触れていたり近づいていたりする



タッチしない指や手のひらがディスプレイに近づいている

(イラストは機種や状況により異なります)

● 液晶ディスプレイ（タッチパネル）に、ほこりや皮脂が付着していると、タッチ機能が正しく動作しない場合があります。液晶ディスプレイは、ときどき清掃してください（→ P.112）。

Point

- ▶ 「タブレットPC設定」ウィンドウの「画面」タブにある「調整」をクリックして表示される画面で、タッチする位置を調整しないでください。調整してしまった場合は、ご購入時の設定に戻してください。ご購入時の設定に戻す方法は、次のとおりです。
 1. □を右クリックし、表示されたメニューから「コントロールパネル」をクリックします。
 2. 「ハードウェアとサウンド」▶「タブレットPC設定」の順にクリックします。
 3. 「タブレットPC設定」ウィンドウが表示されます。
 3. 「画面」タブで、「リセット」をクリックします。
- ▶ このパソコンのタッチパネルでは、複数箇所を同時にタッチして操作することができます。

タッチ機能を使う

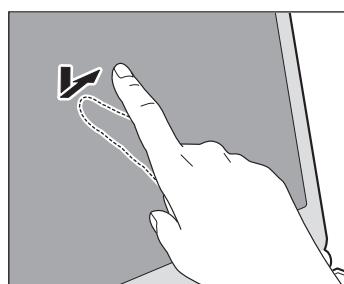
画面上でタップ（マウスのクリックと同様の操作）をする場合は、指で操作します。

マウスポインターは、画面上をなぞった方向に移動します。

タッチ機能を使った主な操作は次のとおりです。

■タップ

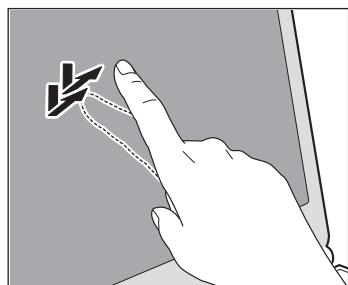
画面を1回軽くたたきます。



(これ以降のイラストは機種や状況により異なります)

■ダブルタップ

画面を2回連続して軽くたたきます。



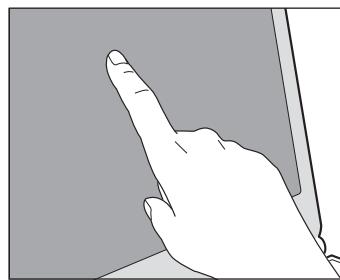
■長押し

1本指で画面を触れた状態でしばらく待ち、四角い枠が表示されたら画面から指を離します。

マウスの右クリックと同様の動作となります。

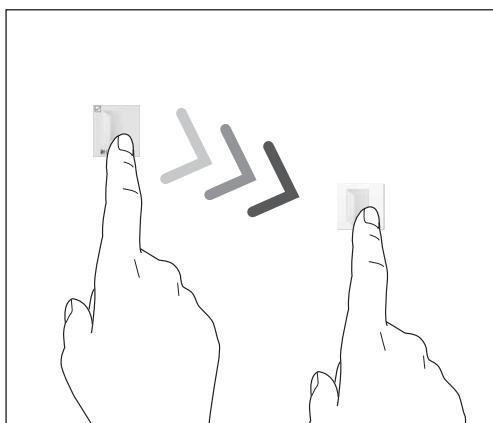
■ポイント

画面に軽く触れます。



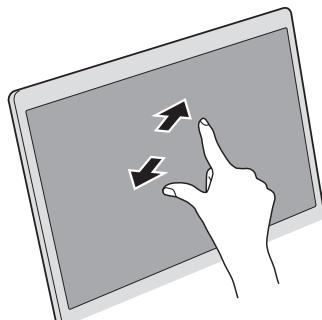
■ドラッグ

画面に指を軽く押しつけながらなぞります。

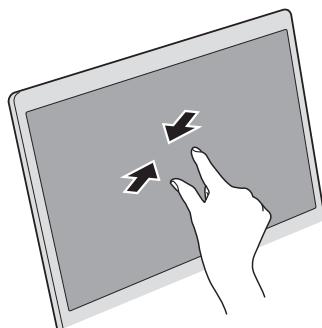


■拡大／縮小

2本指を画面に軽く押しつけながら指を開いたりつまんだりします。開くと画像やウィンドウ内の画面が拡大表示され、つまむと縮小表示されます。



画面の様子

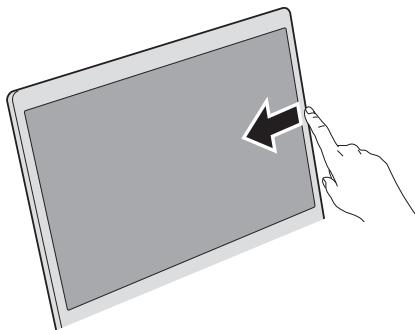


画面の様子

■アクションセンターを表示する

1 本指を画面右端の外から中へスワイプするとアクションセンターが表示されます。

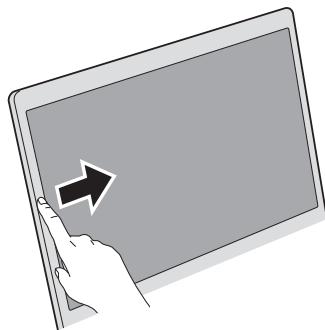
『Windows 10 基本操作クイックガイド』



■タスクビューを表示する

1 本指を画面左端の外から中へスワイプするとタスクビューが表示されます。

『Windows 10 基本操作クイックガイド』



音量

次の方法で音量を調節できます。

重要

- ▶ 音量はスピーカーから聞こえる音がひずまない範囲に設定・調節してください。スピーカーが故障する原因となる場合があります。
- ▶ 「ステータスパネルスイッチ」でスピーカーを「ミュート」にしている場合、音声の再生や録音ができなくなります。
詳しくは、「ステータスパネルスイッチ」(→ P.132) をご覧ください。

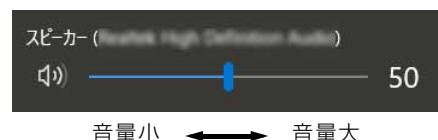
■画面上で調節する

タッチパネルを使って調節できます。また、フラットポイントやマウスを使って同様に調節することもできます。

通知領域の⁽⁴⁾をタップし、次のように操作します。

●音量を調節する

スライダーを左右に動かします。



(イラストは機種や状況により異なります)

●音を消す

スライダーの左にある⁽⁴⁾をタップします。



(イラストは機種や状況により異なります)

もう一度タップすると音が出るようになります。

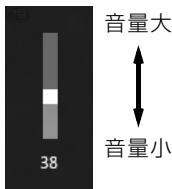
■キーボードで調節する

- 音量を大きくする

[Fn] を押しながら、[F9] を押します。

- 音量を小さくする

[Fn] を押しながら、[F8] を押します。



(イラストは機種や状況により異なります)

- 音を消す

[Fn] を押しながら、[F3] を押します。



(イラストは機種や状況により異なります)

もう一度押すと、音が出るようになります。

Point

- ▶ フラットポイントを使って、音量を調節することもできます。詳しくは、「使いこなすために」 – 「フラットポイント」(→ P.134) をご覧ください。

画面の明るさ

次の方法で画面の明るさを調節できます。

■画面上で調節する

タッチパネルを使って調節できます。また、フラットポイントやマウスを使って同様に調節することもできます。

1 通知領域の□をタップします。

2 ☀のボタンをタップします。

タップするごとに画面の明るさが変化します。

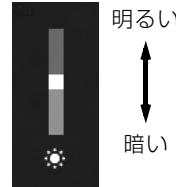
■キーボードで調節する

- 明るくする

[Fn] を押しながら、[F7] を押します。

- 暗くする

[Fn] を押しながら、[F6] を押します。



(イラストは機種や状況により異なります)

Point

▶ 明るさの設定について

- ・パソコンを再起動したり、スリープから復帰(レジューム)したり、ACアダプタの接続や取り外しを行った直後は、キーボードで明るさを変更しても有効にならないことがあります。このような場合は、しばらく時間をおいてから変更してください。
- ・ご購入時は、ACアダプタを接続している場合は明るく、バッテリで使っている場合は少し暗くなるように設定されています。
- ・明るさは、ACアダプタを接続している場合と、バッテリで使っている場合とで別々に設定できます。設定を変更する場合は、次の手順で操作してください。

1. □を右クリックし、表示されたメニューから「コントロールパネル」をクリックします。
2. 「システムとセキュリティ」▶「電源オプション」の順にクリックします。
3. 設定を変更するプランの「プラン設定の変更」をクリックします。
4. 明るさを変更し、「変更の保存」をクリックします。

光学ドライブ

このパソコンでは、CD や DVD などのディスクの再生や読み出し／書き込みを行うことができます。

著作物の録音や複製に関する注意

● 音楽や画像などの著作物は、著作権法で保護されています。録音・複製（データ形式の変換を含む）などは、お客様個人またはご家庭内で楽しむ目的でのみ、行うことができます。音楽や画像をネットワーク上で配信するなど、上記目的を超える場合は、著作権者の許諾が必要です。

● 著作権を保護されたディスクはコピーできません。ディスクの種類によっては、著作権保護のため、コピープロテクトがかかっている場合があります。このパソコンでは、著作権保護として、デスクランブル機能および相互認証機能が用意されています。著作権を保護されたデータなどをコピーしても、再生できません。

ディスクをお使いになるうえでの注意

● ディスクの再生中や書き込み／書き換え中は、振動や衝撃を与えないでください。

● 次の場合は、パソコンに AC アダプタを取り付けることをお勧めします。

- ・ディスクに頻繁にアクセスする場合
- ・ディスクに書き込み／書き換えをする場合
- ・長時間再生する場合

● ケースから取り出すときやパソコンにセットするときなど、ディスクは両面とも触らないようにしてください。

● ディスクは両面とも指紋やほこり、傷などを付けないでください。

● ディスクは両面ともラベルを貼らないでください。

● ディスクの表面にボールペンや鉛筆などの硬いもので字を書くと、ディスクに傷が付くおそれがあります。

● 汚れたり水滴が付いたりしたときは、少し湿らせた布で中央から外側へ向かって拭いた後、乾いた布で拭き取ってください。

このとき、次の点に注意してください。

- ・シリコンクロスは使用しないでください。
- ・ヘアードライヤーなどで乾燥させたり、自然乾燥をさせたりしないでください。
- ・ベンジン、シンナー、水、レコードスプレー、静電気防止剤などで拭かないでください。

● 使わないときは、ケースに入れて保管してください。

● 曲げたり、重いものを載せたりしないでください。

● 高温・低温の場所に保管しないでください。

● スーパーマルチドライブをお使いの場合、アプリが Blu-ray Disc に対応していても、Blu-ray Disc はお使いになれません。

ディスクを再生するうえでの注意

● ディスクの再生直後、数秒間画面が正常に表示されないことがあります。

● デジタル放送を録画した DVD を初めて「WinDVD」で再生するときは、「ユーザー アカウント制御」ウィンドウが表示されます。必ず「はい」をクリックしてください。

● ディスクによっては、正常に再生されない場合や、「WinDVD」の一部の機能が使用できない場合があります。

● 再生するディスクのマニュアルも必ずご覧ください。

● 各ボタンを操作する間隔は、1 秒以上あけてください。

● 再生するディスクによっては、コマ落ちする場合があります。

● ディスクを再生する前に、他のアプリは終了させてください。

● ディスクをパソコンに接続されたデジタルテレビでご覧になる場合、お使いのデジタルテレビによってはテレビの解像度が液晶ディスプレイよりも低いため、鮮明に表示できない場合があります。

● 著作権保護されたコンテンツ（AVCREC 形式で DVD に録画したデジタル放送など）は、アナログディスプレイでは再生できません。

Point

- ▶ DTS で記録された DVD-VIDEO は、このパソコンでは音声再生ができません（スーパーマルチドライブ搭載機種のみ）。

■「WinDVD」の更新をする

このパソコンには、ディスクを再生するアプリ「WinDVD」が用意されています。「WinDVD」は常に最新の状態に更新してお使いください。

「WinDVD」を更新するには、サポートページ(<http://azby.fmworld.net/support/>)の「機種別サポート情報・ダウンロード」からアップデートプログラム(随時提供)をダウンロードして、インストールしてください。

インストール手順については、アップデートプログラムに添付されている「Readme.txt」をご覧ください。

ディスクに書き込み／書き換えをするうえでの注意

- ディスクに書き込み／書き換えを行うときは、30℃以上の環境を避けてください。ディスクの書き込み／書き換えが正常に行われないことがあります。
- 書き込み／書き換え中にディスク面に傷を検出した場合、書き込み／書き換えが中断されることがあります。
- ディスクへ正常に書き込み／書き換えができない場合は、書き込み／書き換え速度を落とすことで、できる場合があります。
- DVD プレーヤーで映像を見る目的で、DVD に書き込みをする場合、画像の解像度は 720×480 に設定することをお勧めします。
その他の解像度で作成されたファイルをDVDに保存すると、一部のDVD プレーヤーで再生できない場合があります。
- 「Roxio Creator」では DVD-RAM への書き込み／書き換えは行えません。

■書き込み／書き換えを行う前に

ディスクに、書き込み／書き換えを行う前に、次の操作をしてください。

- 他のアプリは終了させてください。
- ディスクに書き込み／書き換え中にスリープや休止状態にならないように、「電源オプション」ウィンドウで「コンピューターをスリープ状態にする」を、「適用しない」に設定してください。
設定の変更については、「スリープ／休止状態」(→ P.127) をご覧ください。
- ディスクに書き込み／書き換え中にディスプレイがスクリーンセーバーに移行しないように次の設定をしてください。
 1. デスクトップ画面で何もないところを右クリックします。
 2. 表示されるメニューから、「個人用設定」をクリックします。
 3. 「ロック画面」をクリックします。
 4. 「スクリーンセーバー設定」をクリックします。
 5. 「スクリーンセーバー」の▼をクリックし、一覧から「(なし)」をクリックします。
 6. 「OK」をクリックします。
 7. ×をクリックします。

■書き込み／書き換え中にしてはいけない操作

ディスクに書き込み／書き換え中は、次の操作を行わないでください。

書き込み／書き換えに失敗する場合や、時間がかかる場合があります。

- Windows を終了する
- パソコンの電源を切る
- パソコンをスリープや休止状態にする
- 電源ボタンを押す
- ディスク取り出しボタンを押す
- [Ctrl] と [Alt] を押しながら [Delete] を押す
- ディスクを操作するボタンを押す
- 他のアプリを起動または操作する
- LAN などによるデータ転送をする

■一度書き込み／書き換えしたディスクをお使いになるときは

一度書き込み／書き換えしたディスクをお使いになるときは、次の点にご注意ください。

●パケットライト方式でデータが書き込まれたディスクは、このパソコンでは読み込むことはできません。

これらのディスクの読み出しや書き込みを行う方法については、ディスクを作成するときに使用したアプリのマニュアルをご覧ください。

●一度フォーマットや書き込みをした後は、同じアプリを使って書き換え、追記を行ってください。

●DVD+RW や DVD-RW、CD-RW に保存したファイルは、そのまま編集や更新をすることはできません。編集や更新をする場合は、次の手順で操作してください。

1. ハードディスクにファイルをコピーします。

2. ファイルが読み取り専用になっていたら、「読み取り専用」の属性を外します。

「読み取り専用」の属性を外すには、対象のファイルを右クリックし、表示されるメニューから、「プロパティ」をクリックします。

プロパティウィンドウで「全般」タブをクリックし、「読み取り専用」のをクリックしてにし、「OK」をクリックします。

3. ファイルの編集や更新をし、再度ディスクへ書き込みを行います。

●このパソコンで書き込みをしたディスクは、別のパソコンやアプリで利用できない場合があります。

使えるディスク／使えないディスク

■使えるディスク

このパソコンでお使いになることのできるディスクは、次のとおりです。



お使いになるアプリによって使えるディスクは異なります。ディスクをお使いになるアプリのヘルプをご覧になり、確認してください。

○：対応 ×：非対応

| | 読み出し (再生) | 書き込み | 書き換え |
|----------------------------|--------------|-------|-------|
| CD-ROM、音楽 CD、ビデオ CD、フォト CD | ○ | × | × |
| CD-R | ○ | ○ | × |
| CD-RW | ○ | ○[注1] | ○[注1] |
| Super Audio CD | × | × | × |
| DVD-Audio | × | × | × |
| DVD-ROM、DVD-VIDEO | ○[注2] | × | × |
| DVD-R (4.7GB) | ○ | ○ | × |
| DVD-RW | ○ | ○[注1] | ○[注1] |
| DVD-R DL (8.5GB) | ○ | ○ | × |
| DVD+R (4.7GB) | ○ | ○ | × |
| DVD+RW (4.7GB) | ○ | ○[注1] | ○[注1] |
| DVD+R DL (8.5GB) | ○ | ○ | × |
| DVD-RAM (2.6GB・5.2GB) | × | × | × |
| DVD-RAM (4.7GB・9.4GB) | ○ | ○[注3] | ○[注3] |

■推奨ディスク

次のディスクの使用をお勧めします。

次の表に記載のないディスクをお使いになると、書き込み／書き換えが正常に行えない場合や、再生できない場合があります。

なお、それぞれのディスクの詳しい仕様については、各メーカーのホームページなどをご覧ください。

※ 次の表の内容は、2016年11月現在のものです。

| | メーカー | メーカー型名 |
|-------------|----------------------|---|
| CD-R | Verbatim (バーベイタム) | SR80SP10V1、 SR80SP20V1 |
| CD-RW | Verbatim (バーベイタム) | SW80QU5V1、 SW80QM5V1、 SW80QP5V1、 SW80EU5V1 |
| DVD-R | Verbatim (バーベイタム) | DHR47J10V1、 DHR47JM10V1、 DHR47JP10V1 |
| DVD-R DL | Verbatim (バーベイタム) | DHR85HP5V1、 DHR85HP10V1、 DHR85HP10SV1 |
| DVD-RW | Verbatim (バーベイタム) | DHW47Y10V1 |
| DVD+R DL | Verbatim (バーベイタム) | DTR85HP5V1、 DTR85HP10V1 |
| DVD+RW | ソニー | 5DPW47HPS |
| DVD-RAM | パナソニック | LM-HC47LW5 (4.7GB、 カートリッジ無)、 LM-HB94L (9.4GB、カートリッジ有、取り出し可) |

■使えないディスク

次のディスクはお使いにならないでください。

●円形以外の異形ディスク（星型やカード型などの変形ディスク）

このパソコンは円形のディスクのみお使いになれます。

円形以外の異形ディスクをお使いになると故障する場合があります。

異形ディスクをお使いになり故障した場合は保証の対象外となります。

●規格外の厚さのDVD媒体

DVD規格では媒体の厚さを1.14mm～1.5mmと規定しています。

記録面が薄い媒体など、一部でもこの範囲外の厚さになっている媒体をお使いになると故障する場合があります。

規格外のDVD媒体をお使いになり故障した場合は保証の対象外となります。

●中心に穴の空いていないディスク

●傷またはヒビの入ったディスク、ゆがんだディスクおよび重心の偏ったディスク

お使いになると、ドライブ内部で破損する場合がありますので、お使いにならないでください。

●カートリッジに入れた状態で使用するタイプのDVD-RAM (Type1)

DVD-RAMは、カートリッジなしタイプまたはカートリッジからディスクが取り出せるタイプをお使いください。なお、カートリッジに入れた状態で使用するタイプのDVD-RAMを、カートリッジから無理に取り出してお使いにならないでください。

●市販のクリーニングディスク、レンズクリーナー

お手入れのときにお使いになると、逆にゴミを集めてしまい、光学ドライブのレンズが汚れてしまう場合がありますので、お使いにならないでください。

ディスクをパソコンにセットする／取り出す

ディスクのセット／取り出しは、パソコンの電源が入っている状態のときのみ可能です。

⚠ 注意

- ⚠ • ディスクをセットまたは取り出す場合は、トレーに指などを入れないでください。けがの原因となることがあります。
- ⚠ • 落雷の可能性がある場合は、あらかじめパソコン本体の電源を切り、その後電源ケーブルをコンセントから抜き、ケーブル類を取り外しておいてください。落雷による感電、火災の原因となります。けがの原因となることがあります。
- 🚫 • トレーに装着されているレンズに触れないでください。ディスクの再生や、ディスクへの書き込み／書き換えが正しく行えなくなる原因になります。

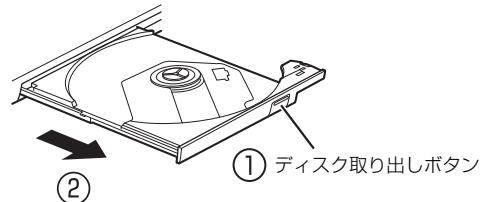
■ディスクをセットする

重要

- ▶ ディスクをセットするときの注意
 - ・ ディスク読み取りヘッドが移動する音があります。
 - ・ ディスクに頻繁にアクセスしたり、書き込み、書き換えをしたり、DVD-VIDEOを再生したりする場合は、パソコンにACアダプタを接続することをお勧めします。
- ▶ ディスク使用時の注意
ディスクはデータの読み出しがするときに高速回転するため、使用時には振動や風切音があります。

1 トレーを出します。

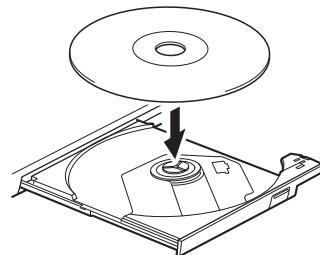
①ディスク取り出しボタンを押すと、トレーが少し飛び出します。②トレーを静かに引き出します。ディスクアクセランプ点灯中でも操作が可能です。



(これ以降のイラストは機種や状況により異なります)

2 トレーを支えながら、ディスクをセットします。

ディスクのラベル面を上（両面タイプのDVD-RAMの場合は、データの読み取り／書き込みを行う面を下）にして、トレー中央の突起にディスクの穴を合わせ、パチッと音がするまでしっかりとセットします。



重要

- ▶ ディスクはパチッと音がするまでしっかりとセットしてください。
ディスクの穴を突起にきちんととはめこまないと、ディスクがドライブ内部で外れて、読み取りができなかったり、取り出せなくなったりすることがあります。また、トレーやドライブ内部およびディスクを破損する原因となります。

3 カチッと音がするまで、トレーを静かに押し込みます。

ディスクをセットしてからパソコンで使えるようになるまで、約30秒かかります。

「エクスプローラー」画面の光学ドライブのアイコンがディスクのアイコンに変わったことを確認してから次の操作を行ってください。

ディスクが認識される前に次の操作をすると、ディスクが自動で取り出される場合があります。

■ディスクを取り出す

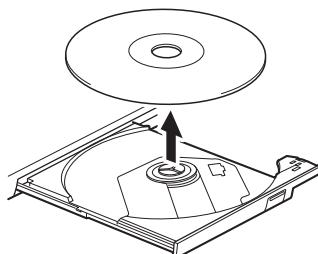
1 ディスクを利用しているアプリがあれば終了します。また、ディスク内のファイルを開いている場合はファイルを閉じてください。

2 トレーを出します。

①ディスク取り出しボタンを押すと、トレーが少し飛び出します。②トレーを静かに引き出します。ディスクアクセランプ点灯中でも操作が可能です。

3 トレーを支えながら、ディスクを取り出します。

トレー中央の突起を押さえながら、ディスクがパソコン本体にぶつからないように、ディスクのふちを持ち上げてください。



4 カチッと音がするまで、トレーを静かに押し込みます。

トレーを出したまま放置しないでください。

光学ドライブ内部にほこりが入り、故障の原因となります。

ディスクが取り出せなくなった場合は、「富士通アドバイザー」の「トラブル解決」から「光学ドライブのトラブル」をご覧ください。

ディスクをフォーマットする

次のディスクはお使いになる前にこのパソコンで読み書きできるようにするフォーマット（初期化）を行う必要があります。9.4GB の両面タイプの DVD-RAM については、片面ごとにフォーマットしてください。

●DVD-RAM

ここでは、特定のアプリを使用せずに、「エクスプローラー」から DVD-RAM などに直接データを書き込んで使用する場合のフォーマットの方法を説明します。特定のアプリを使用して、データの書き込み、書き換えをする場合は、お使いになるアプリのマニュアルやヘルプをご覧になり、フォーマット形式を選択してください。

⚠ 注意



- DVD-RAM ディスクをセットまたは取り出すときに、トレーに指などを入れないでください。

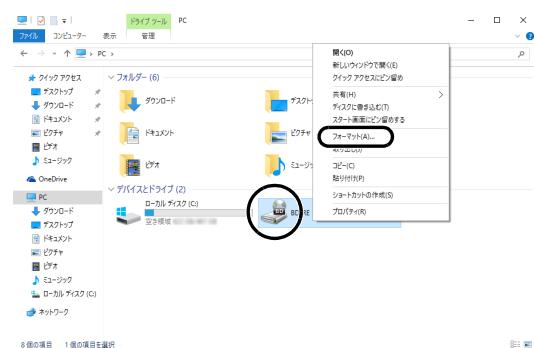
けがの原因となることがあります。

1 フォーマットするディスクをセットします。

2 □を右クリックし、表示されたメニューから「エクスプローラー」をクリックします。

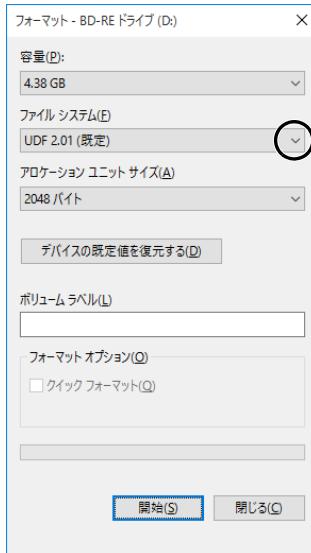
3 表示されたウィンドウの左側の「PC」をクリックします。

4 ディスクのアイコンを右クリックし、表示されるメニューから、「フォーマット」をクリックします。



(これ以降の画面は機種や状況により異なります)

5 「ファイルシステム」の▼をクリックして「UDF 2.00」を選びます。

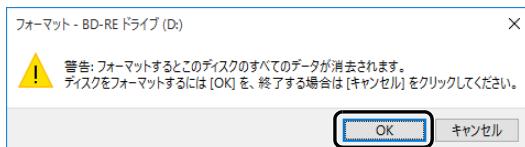


Point

- 「ボリュームラベル」に入力した文字列がディスクの名前になります。ディスクに好きな名前を付けることができます。
- 「クイックフォーマット」のをにすると、フォーマットに時間がかかる場合があります。

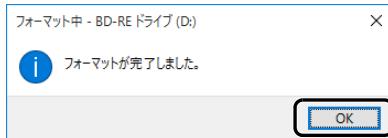
6 「開始」をクリックします。

7 フォーマットを確認するメッセージが表示されるので、「OK」をクリックします。



フォーマットが始まります。

8 フォーマット完了のメッセージが表示されたら、「OK」をクリックします。



9 「閉じる」をクリックします。

メモリーカード

ダイレクト・メモリースロットは、デジタルカメラなどに使われているメモリーカードに直接データを読み書きするためのスロットです。

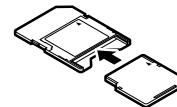
お使いになるうえでの注意

- メモリーカードは、静電気に対して非常に弱い部品で構成されており、人体にたまつた静電気により破壊される場合があります。メモリーカードを取り扱う前は、一度アルミサッシやドアノブなどの金属に手を触れて、静電気を放電してください。
- 次のメモリーカードをお使いになる場合はアダプターが必要です。

• miniSDカード、microSDカード、microSDHCカード、microSDXCカード

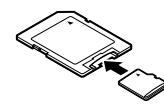
必ずアダプターに差し込んでからお使いください。そのままダイレクト・メモリースロットに挿入すると、メモリーカードが取り出せなくなります。また、メモリーカードを取り出す場合は、必ずアダプターごと取り出してください。アダプターだけをダイレクト・メモリースロットに残すと、故障の原因となります。

miniSD カードアダプター



miniSD カード

microSD カードアダプター

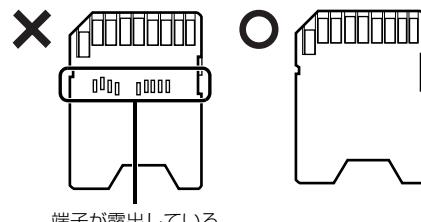


microSD カード
microSDHC カード
microSDXC カード

●端子が露出しているminiSDカードアダプターは使用できません。

ダイレクト・メモリースロット内部の端子が接触し、故障の原因となります。

miniSD カードのアダプターは、裏面中央部から端子が露出していない製品をご利用ください。



端子が露出している

UHS-II 対応の SDXC カードも裏面中央部から端子が露出していますが、このカードはそのままご利用ください。

- Windows の ReadyBoost には対応していません。
- メモリーカードや記録されているデータの取り扱いについては、メモリーカードや周辺機器のマニュアルをご覧ください。
- メモリーカードをデジタルカメラなどで使っている場合は、お使いの機器でフォーマットしてください。このパソコンでフォーマットすると、デジタルカメラなどでメモリーカードが使えなくなります。デジタルカメラなどでのフォーマットの方法については、お使いの機器のマニュアルをご覧ください。

使えるメモリーカード

ダイレクト・メモリースロットが対応しているメモリーカードと、その最大容量は次のとおりです。
ただし、すべてのメモリーカードの動作を保証するものではありません。

| | |
|--|---|
|  [注] | <ul style="list-style-type: none"> ・ SD メモリーカード (2GB) ・ miniSD カード (2GB) ・ microSD カード (2GB) ・ SDHC カード (32GB) ・ microSDHC カード (32GB) ・ SDXC カード (512GB) ・ microSDXC カード (128GB) |
|--|---|

注：・マルチメディアカード、セキュアマルチメディアカードには対応していません。
・SDIO カードには対応していません。
・著作権保護機能 (CPRM [シーピーアールエム]) に 対応しています。

メモリーカードを差し込む／取り出す

■ メモリーカードを差し込む

注意

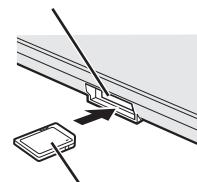


- メモリーカードを差し込む場合は、ダイレクト・メモリースロットに指などを入れないでください。
けがの原因となることがあります。

1 メモリーカードをダイレクト・メモリースロットに差し込みます。

アダプターが必要なメモリーカードは、必ずアダプターに差し込んだ状態でセットしてください。

ダイレクト・
メモリースロット



※ 製品名のある面を上側にして、まっすぐに差し込みます。

SD メモリーカード

(イラストは機種や状況により異なります)

重要

- 書き込み禁止の状態のメモリーカードにファイルの書き込みや削除を行った場合、エラーメッセージの表示に時間がかかることや、メモリーカードの内容の一部が正しく表示されないことがあります。その場合は、書き込み禁止の状態を解除し、差し込み直してください。

■メモリーカードを取り出す

！注意



- メモリーカードを取り出す場合は、ダイレクト・メモリースロットに指などを入れないでください。
けがの原因となることがあります。

重要

- メモリーカードを引き抜くときは、ひねったり斜めに引いたりして、メモリーカードに無理な力がかからないようにしてください。
- ダイレクト・メモリースロットからメモリーカードを取り出すときは、次のことに注意してください。
 - メモリーカードを強く押さないでください。指を離したときメモリーカードが飛び出し、紛失したり、衝撃で破損したりするおそれがあります。
 - ダイレクト・メモリースロットを人に向けたり、顔を近づけたりしないでください。メモリーカードが飛び出して、思わぬけがをするおそれがあります。
 - 必ずメモリーカードを一度押して、少し出てきた状態にしてから引き抜くようにしてください。そのまま引き抜くと誤動作の原因になります。

1 通知領域の▲をクリックし、表示されたアイコン（ハードウェアを安全に取り外してメディアを取り出す）をクリックします。

アイコンは、、、など、お使いの状況により異なります。また、メモリーカードによっては、アイコン（ハードウェアを安全に取り外してメディアを取り出す）が表示されないものもあります。アイコンが表示されない場合には、メモリーカードのマニュアルをご覧になり、確認してください。

2 「nnnの取り出し」をクリックします。

nnnにはお使いのメモリーカードの名称が表示されます。

3 「nnnはコンピューターから安全に取り外すことができます。」というメッセージが表示されたら、メモリーカードをパソコンから取り出します。

メモリーカードを一度押し、少し出てきたメモリーカードを引き抜きます。

モバイル・マルチベイユニット

モバイル・マルチベイユニットをお使いになるうえで注意していただきたいことや、モバイル・マルチベイユニットの取り外し／取り付け方法について説明します。

モバイル・マルチベイユニットをお使いになるうえでの注意

重要

- パソコンをお使いになるときは、必ずモバイル・マルチベイユニットまたはモバイル・マルチベイ用カバーを取り付けてください。何も取り付けていない状態でお使いになると、故障の原因となります。

●次のユニットは、ディスクが高速で回転する非常にデリケートな装置です。

- 内蔵スーパーマルチドライブユニット
- 増設用内蔵ハードディスクユニット（別売）

ディスクにアクセスしている状態で、パソコン本体を持ち運んだり、衝撃や振動を与えたまいでください。ユニットが破損したりデータが壊れたりするおそれがあります。

●極端に高温、低温の場所、温度変化の激しい場所での保管は避けてください。

●直射日光のあたる場所や発熱器具のそばには近づけないようにしてください。

●衝撃や振動の加わる場所での保管は避けてください。

●湿気やほこりの多い場所での使用は避けてください。

●内部に液体や金属など異物が入った状態で使用しないでください。もし、何か異物が入ったときは、「富士通パーソナル製品に関するお問い合わせ窓口」、またはご購入元へご連絡ください。

●汚れは、柔らかい布でから拭きするか、柔らかい布に水または水で薄めた中性洗剤を含ませて軽く拭いてください。ベンジンやシンナーなど揮発性のものは避けてください。

●分解したり、解体したりしないでください。

●磁石や磁界を発生する装置の近くでの使用や保管は避けてください。

使えるモバイル・マルチベイユニット

●内蔵スーパーマルチドライブユニット

●増設用内蔵バッテリユニット（別売）

●増設用内蔵ハードディスクユニット（別売）

●モバイル・マルチベイ用カバー

モバイル・マルチベイユニットについて、詳しくは富士通ショッピングサイト「WEB MART」の「周辺機器」(<http://www.fujitsu-webmart.com/>)をご覧になるか、ご購入元にお問い合わせください。

モバイル・マルチベイユニットの交換方法

電源を切って作業しますので、この内容を印刷しておくか、「富士通アドバイザー」（スマートフォン版）を使って本書をご覧いただくことをお勧めします。「富士通アドバイザー」（スマートフォン版）について詳しくは「[富士通アドバイザー]を活用する」（→ P.47）をご覧ください。

⚠ 注意

- 🚫 • 振動している場所や傾いたところなどの不安定な場所に置かないでください。本製品が落ちて、けがの原因となります。
- 🚫 • コネクタ端子に触れないでください。本製品やパソコン本体の故障の原因になります。
- 🚫 • 本製品を調理台や加湿器のそば、ほこりの多い場所などで使用したり、置いたりしないでください。
感電・火災の原因となることがあります。
- 🚫 • 衝撃や振動を与えないでください。
故障の原因になることがあります。

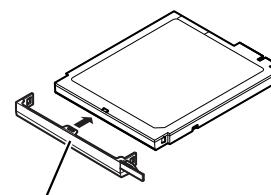
Point

- ▶ 増設用内蔵バッテリユニットまたは増設用内蔵ハードディスクユニットの場合

お使いになる前に、増設用内蔵バッテリユニットカバーまたは増設用内蔵ハードディスクユニットカバーを取り付けます。

カバーの溝とユニットの突起を合わせて、しっかりと取り付けてください。

なお、一度取り付けたカバーは、取り外さないでください。破損するおそれがあります。



増設用内蔵バッテリユニットカバーまたは
増設用内蔵ハードディスクユニットカバー

※ カバーは2色添付されています。ご使用のパソコン
に合わせて取り付けてください。

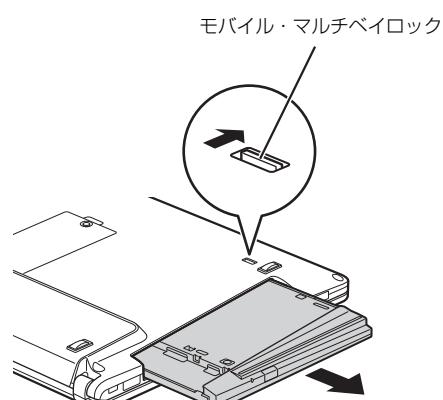
(イラストは機種や状況により異なります)

1 パソコンの電源を切り（→ P.68）、ACアダプタを取り外します。

2 液晶ディスプレイを閉じ、パソコン本体を裏返します。

3 モバイル・マルチベイユニットを取り外します。

- ①モバイル・マルチベイロックをスライドさせ、
- ②モバイル・マルチベイユニットを取り外します。



(イラストは機種や状況により異なります)

4 お使いになるモバイル・マルチベイユニットを取り付けます。

ユニットのコネクタを奥にして、突き当たるまで、しっかり押し込みます。

モバイル・マルチベイにユニットを取り付けていない状態でお使いになると、故障の原因となります。

Point

- ▶ ユニットの交換直後は「PC」ウィンドウからドライブの表示が消えることがあります。しばらくすると再表示され、使用することができます。
- ▶ 増設用内蔵バッテリユニットを取り外した場合は、内蔵バッテリの残量が充分にあることを確認してください。内蔵バッテリの残量が充分でない場合は、AC アダプタを接続してください。
- ▶ 裏返したパソコンを元に戻すときは静かに戻してください。元に戻すときに強い力が加わると故障の原因となる場合があります。
- ▶ モバイル・マルチベイ用カバーを取り付けるときは、モバイル・マルチベイ用カバーを奥までしっかり押し込んでください。

フォーマットする

増設用内蔵ハードディスクユニットのみ

フォーマット（初期化）する場合は、次の手順で操作してください。

1 増設用内蔵ハードディスクユニットをパソコン本体に取り付けます。

2 パソコン本体に外付けハードディスクを接続している場合は、取り外します。

3 □を右クリックし、表示されたメニューから「エクスプローラー」をクリックします。

4 表示されたウィンドウの左側の「PC」をクリックします。

5 ハードディスクのアイコン（）を右クリックし、表示されるメニューから、「フォーマット」をクリックします。

6 「ファイルシステム」で「NTFS」を選びます。

Point

- ▶ 「クイックフォーマット」のをにすると、フォーマットに時間がかかる場合があります。

7 「開始」をクリックします。

8 フォーマットを確認するメッセージが表示されるので、「OK」をクリックします。フォーマットが始まります。

9 フォーマット完了のメッセージが表示されたら、「OK」をクリックします。

10 「閉じる」をクリックします。

周辺機器の取り扱い

周辺機器とは、USB マウス、プリンター、デジタルカメラ、USB メモリ、携帯オーディオプレーヤーなどのパソコン本体に接続する装置の総称です。



警告



- 周辺機器のなかには、取り付け／取り外しを行うときに、パソコンや周辺機器の電源を切り、AC アダプタや電源ケーブルをコンセントから抜いた状態で行わなければならぬ場合があります。必ず添付のマニュアルをご確認ください。感電の原因となります。



- 周辺機器のケーブルは、このマニュアルをよく読み、正しく接続してください。誤った接続状態でお使いになると、感電・火災の原因となります。また、パソコンおよび周辺機器が故障する原因となります。

周辺機器の取り扱い上の注意

●周辺機器の接続は、取り付ける周辺機器のマニュアルをよくご覧になり、正しく行ってください

●弊社純正品をお使いください

弊社純正の周辺機器については、販売店にお問い合わせいただかず、富士通ショッピングサイト「WEB MART」(<http://www.fujitsu-webmart.com/>) をご覧ください。

他社製品につきましては、このパソコンで正しく動作するかどうか、保証いたしかねます。他社製品をお使いになる場合は、製造元のメーカーにお問い合わせくださいますようお願いいたします。

●一度に取り付ける周辺機器は1つだけにしてください

一度に複数の周辺機器を取り付けると、ドライバーのインストールなどが正常に行われないおそれがあります。1つの周辺機器の取り付けと動作確認が完了してから、別の周辺機器を取り付けてください。

●コネクタの向きを確認し、まっすぐ接続してください

●電源オフ USB 充電機能対応の USB コネクタをお使いになる場合は、次のことに注意してください

- USB キーボードまたは USB マウスは、電源オフ USB 充電機能対応の USB コネクタに接続できません。
- 電源オフ USB 充電機能を有効にした場合、USB メモリなどの充電機能をもたない USB 周辺機器は、電源オフ USB 充電機能対応の USB コネクタに接続しないでください。

電源オフ USB 充電機能

電源オフ USB 充電機能とは

電源オフ USB 充電機能とは、パソコンが電源オフ、スリープ、休止状態のときでも、USB 充電に対応した周辺機器を充電することができる機能です。

電源オフ USB 充電機能は、ご購入時には無効に設定されています。

お使いになる場合は、機能を有効にしてください。詳しくは、サポートページから Q&A ナンバー「6708-5851」を検索してご覧ください（→ P.57）。

また、お使いになるときは、次の注意をよくお読みになり、正しくお使いください。

電源オフ USB 充電機能をお使いになるうえでの注意

電源オフ USB 充電機能を有効にした場合、USB メモリなどの充電機能をもたない USB 周辺機器は、電源オフ USB 充電機能対応の USB コネクタに接続しないでください。

※ USB キーボードまたは USB マウスは、電源オフ USB 充電機能の有効／無効にかかわらず、電源オフ USB 充電機能対応の USB コネクタには接続できません。

※ 電源オフ USB 充電機能対応の USB コネクタ（）の場所については、「各部の名称と働き」をご覧ください。

●周辺機器によっては、電源オフ USB 充電ができない場合があります。

●スリープから復帰したときに、電源オフ USB 充電機能対応の USB コネクタに接続した USB 周辺機器について、次の現象が発生する場合があります。

- なお、現象が発生しても USB 周辺機器本体および記録データが破損することはありません。
 - ・デバイス認識のポップアップウィンドウが表示される
 - ・「自動再生」ウィンドウが表示される
 - ・接続した USB 周辺機器のドライブ名が変わる
 - ・接続した USB 周辺機器と連携しているアプリが起動する

●電源ボタンを4秒以上押してこのパソコンの電源を切った場合は、電源オフ USB 充電はできません。

メモリ

メモリの組み合わせを確認する

■ご購入時のメモリの組み合わせ

このパソコンは、次の組み合わせでメモリが搭載されています。

| お使いの機種 | 総容量 | オンボード メモリ | メモリ スロット |
|---------|-----|--------------|-------------|
| SH90/A3 | 4GB | 4GB | — |

■メモリの組み合わせ

お使いの機種によっては、メモリ容量を増やして、パソコンの処理能力などを上げることができます。メモリを増設または交換する場合は、必ず次の表のように組み合わせてください。

| 総容量 | オンボード メモリ ^{【注1】} | メモリ スロット | デュアルチャ ネル ^{【注2】} |
|-----------|------------------------------|-------------|------------------------------|
| 4GB | 4GB | — | — |
| 8GB | 4GB | 4GB | 8GB |
| 12GB (最大) | 4GB | 8GB | 8GB |

注 1：ご購入時の状態から変更することはできません。

注 2：デュアルチャネルとして動作する合計容量

Point

- 同じ仕様のメモリを2枚取り付けると、理論上、2倍の転送速度でデータのやり取りが可能になります。異なる容量のメモリの組み合わせにした場合は、少ない容量のメモリ分のみデュアルチャネルとして動作します。

メモリの取り扱い上の注意

- 操作に必要な箇所以外には手を触れないでください。故障の原因となります。
- メモリの増設や交換時に、液晶ディスプレイにネジや文房具などをはさんだり、パソコン本体内部にパソコンの部品やネジを落としたりしないように注意してください。
- メモリがうまく取り付けられないときは、無理にメモリを取り付けず、いったんメモリを抜いて、取り付け直してください。

⚠ 警告



- メモリの取り付け／取り外しを行う場合は、必ずパソコンの電源を切り、AC アダプタやバッテリ、および周辺機器を取り外してください。なお、スリープや休止状態では、取り付け／取り外しを行わないでください。感電の原因となります。また、データの消失や、パソコンやメモリの故障の原因となります。
- 取り外したネジなどの部品は、小さなお子様の手の届かない場所に置いてください。誤って飲み込むと窒息の原因となります。万一、飲み込んだ場合は、すぐに医師に相談してください。

⚠ 注意

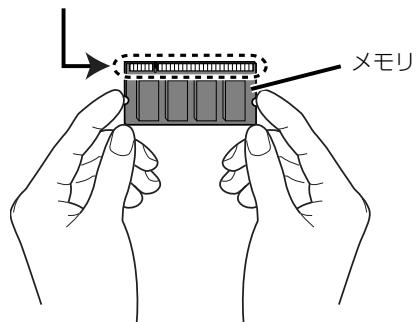


- メモリの取り付け位置のすぐそばに高温になる部分があります。メモリの取り付け／取り外しを行うときは、パソコンの電源を切って、しばらくしてから行ってください。やけどの原因となります。

重要

- メモリを取り扱う前に、一度アルミサッシやドアノブなどの金属に手を触れて、静電気を放電してください。メモリは、静電気に対して非常に弱い部品で構成されており、人体にたまつた静電気により破壊される場合があります。
- メモリは何度も抜き差ししないでください。
- メモリの表面の端子やIC部分に触れたり押したりしないでください。また、メモリに強い力をかけないようにしてください。
- メモリは下図のようにふちを持ち、金色の線が入っている部分（端子）には、絶対に手を触れないでください。

この部分には手を触れないでください。



必要なものを用意する

■メモリ

このパソコンに取り付けられるメモリについては、富士通ショッピングサイト「WEB MART」の「周辺機器」(<http://www.fujitsu-webmart.com/>) をご覧になるか、ご購入元にお問い合わせください。

■プラスドライバー（ドライバーサイズ：1番）

ネジのサイズに合ったものをお使いください。他のドライバーを使うと、ネジの頭をつぶすおそれがあります。

メモリの取り付け／取り外し

メモリは、パソコン本体下面のメモリスロットに取り付けられています。

電源を切って作業しますので、この内容を印刷しておくか、「富士通アドバイザー」（スマートフォン版）を使って本書をご覧いただくことをお勧めします。「富士通アドバイザー」（スマートフォン版）について詳しくは「[富士通アドバイザー]を活用する」（→ P.47）をご覧ください。

1 パソコンの電源を切り（→ P.68）、10分ほど待つてからACアダプタを取り外します。

電源を切った直後は、パソコン本体内部が熱くなっています。

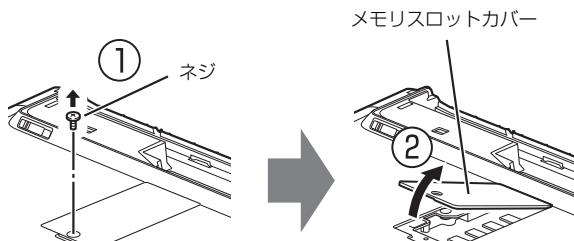
2 液晶ディスプレイを閉じ、パソコン本体を裏返します。

3 内蔵バッテリパックを取り外します（→ P.89）。

増設用内蔵バッテリユニットを使用している場合は、増設用内蔵バッテリユニットも取り外してください（→ P.105）。

4 メモリスロットカバーを取り外します。

①ネジ（1ヶ所）を取り外します。②メモリスロットカバーを斜め上の方向に持ち上げて取り外します。

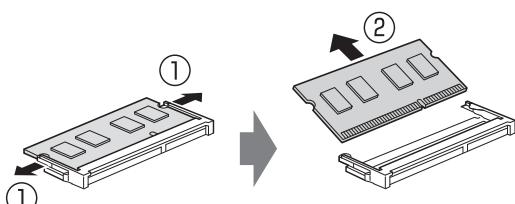


（これ以降のイラストは機種や状況により異なります）

5 メモリを交換する場合は、交換したいメモリを取り外します。

①メモリを押さえている両側のツメを左右に開くと、メモリが少し斜めに持ち上がります。

②両手でメモリのふちを持って斜め上の方向に引っ張り、メモリスロットから取り外します。



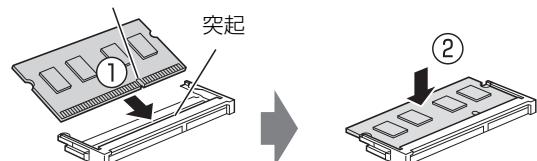
6 メモリを取り付けます。

①両手でメモリのふちを持って、メモリの欠けている部分とコネクタの突起を合わせ、斜め上からしっかりと差し込みます。

②パチンと音がするまで下に倒します。

メモリを押さえている両側のツメが、きちんとまっていることを確認してください。

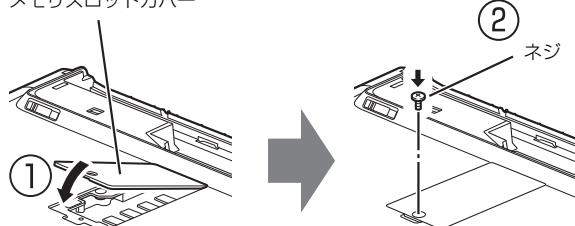
切り欠け



7 メモリスロットカバーを取り付けます。

①メモリスロットカバーを取り付けます。②ネジ穴を合わせてから、ネジで固定します。

メモリスロットカバー



8 内蔵バッテリパックを取り付けます（→ P.89）。

増設用内蔵バッテリユニットを使用している場合は、増設用内蔵バッテリユニットも取り付けてください（→ P.105）。

続いて、メモリが正しく取り付けられたかメモリ容量を確認しましょう（→ P.111）。

メモリ容量を確認する

1 パソコンの電源を入れます。

「拡張メモリエラー」または「メモリエラーです。」というメッセージや「Extended Memory Failed」という英語のメッセージが表示される場合や、画面に何も表示されない場合は、電源ボタンを4秒以上押して電源を切り、メモリを取り付け直してください。

2 □を右クリックし、表示されたメニューから「コントロールパネル」をクリックします。

3 「システムとセキュリティ」▶「システム」の順にクリックします。

4 「実装メモリ」欄に表示されたメモリ容量を確認します。



Point

▶ メモリ容量の数値が正しくない場合は、メモリがきちんと取り付けられているかを確認してください。

5 ウィンドウの右上にある×をクリックして、ウィンドウを閉じます。

お手入れ

このパソコンを快適にお使いいただくための、日ごろのお手入れについて説明します。

⚠ 警告

- 感電やけがの原因となるので、お手入れの前に、次の事項を必ず行ってください。
 - ・パソコン本体の電源を切り、ACアダプタとバッテリを取り外してください。
 - ・プリンターなど、周辺機器の電源を切り、パソコン本体から取り外してください。
- 清掃するときは、清掃用スプレー（可燃性物質を含むもの）を使用しないでください。故障・火災の原因となります。

パソコン本体、キーボードのお手入れ

●パソコン本体の汚れを取る場合

- ・爪や指輪などで傷を付けないように注意してください。
- ・OAクリーニング用のクロスや不織布などの乾いた柔らかい布を使って軽く拭き取ってください。
- ・汚れがひどい場合は、水または水で薄めた中性洗剤を含ませた布を固く絞って拭き取り、中性洗剤を使用した場合は、水に浸した布で拭き取ってください。また、拭き取るときは、パソコン本体に水が入らないよう充分に注意してください。
- ・アセトン、シンナー、ベンジンなど揮発性の強いものや、化学ぞうきん、除光液、清掃用スプレー（可燃性物質を含むもの）は絶対に使わないでください。

●キーボードのキーとキーの間のほこりを取る場合

- ・ゴミは吹き飛ばして取らないでください。キーボード内部にゴミが入り、故障の原因となる場合があります。また、掃除機などを使って、キーを強い力で引っ張らないでください。
- ・ほこりなどを取る場合は、柔らかいブラシなどを使って軽くほこりを取り除いてください。そのとき、毛先が抜けやすいブラシは使用しないでください。キーボード内部にブラシの毛などの異物が入り、故障の原因となる場合があります。

液晶ディスプレイのお手入れ

- 液晶ディスプレイの背面を手で支えてください。パソコンが倒れるおそれがあります。
- OAクリーニング用のクロスや不織布などの乾いた柔らかい布を使って軽く拭き取ってください。水や中性洗剤を使用して拭かないでください。
- 市販のクリーナー、除光液、化学ぞうきんを使うと、成分によっては、画面の表面のコーティングを傷めるおそれがあります。次のものは、使わないでください。
 - ・アルカリ性成分を含んだもの
 - ・界面活性剤を含んだもの
 - ・アルコール成分を含んだもの
 - ・アセトン、シンナー、ベンジンなどの揮発性の強いもの
 - ・研磨剤を含むもの
- 爪や指輪などで傷を付けないように注意してください。
- 液晶ディスプレイの表面を固いものでこすったり、強く押しつけたりしないでください。破損するおそれがあります。

光学ドライブのお手入れ

市販のクリーニングディスクやレンズクリーナーを使うと、逆にゴミを集めてしまい、光学ドライブのレンズが汚れてしまう場合があります。故障の原因になりますので絶対に使わないでください。

うまく読み取れない場合には、ディスクの指紋、ほこりなどの汚れを拭き取ることで改善されることがあります。拭き取り方法はディスクの種類により異なります。詳しくはディスクの説明書／レベルなどをご覧ください。

バックアップ

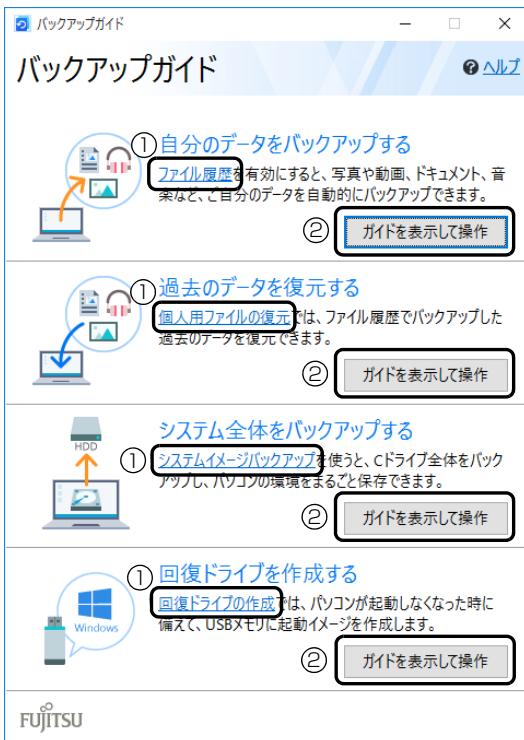
Windows が起動しなくなった場合や、データを誤って紛失してしまった場合に備え、大切なデータのコピーを保存しておくことを「バックアップ」といいます。バックアップは大変重要ですので、忘れずに行うようにしてください。この章でバックアップ方法を紹介していますので、組み合わせて効率的にバックアップをとりましょう。

バックアップガイド

Windows 10にはトラブルに備えてデータをバックアップする機能や、故障に備えた機能が搭載されています。「バックアップガイド」は、設定の手順を説明したガイドを表示したり、各機能を設定するウィンドウを簡単に表示したりします。

バックアップガイドの使い方

- 1  「FUJITSU - バックアップガイド」▶「バックアップガイド」の順にクリックします。
- 2 「バックアップガイド」の概要を説明するウィンドウが表示されたら、「次へ」をクリックします。
- 3 次のように操作します。



① クリックすると、各機能を設定するウィンドウが表示されます。

② 「ガイドを表示して操作」をクリックすると「Microsoft Edge」が起動し概要と操作方法を説明するページが表示されます。

Point

▶ ガイドを表示するにはインターネット接続が必要です。

■どのような機能かは、次の節もご覧ください

- 「ファイル履歴」および「個人用ファイルの復元」「ファイル履歴を有効にしてバックアップ／管理／復元する」(→ P.114)
- 「システムイメージバックアップ」「システムイメージバックアップ」(→ P.115)
- 「回復ドライブの作成」「回復ドライブを作成する」(→ P.49)

ファイル履歴を有効にしてバックアップ／管理／復元する

ファイル履歴を有効にすると、パソコン上のドキュメント、ピクチャ、ビデオ、ミュージックなどの各フォルダーに保存されているファイルを自動でバックアップできます。

バックアップは変更のあったファイルがコピーされ、バックアップした日時ごとに管理することができます。ファイルを紛失、または破損してしまったときに備え、ファイル履歴をオンにしてバックアップするようにしておきましょう。

- 「バックアップガイド」で「自分のデータをバックアップする」の「ファイル履歴」をクリックすると、ファイル履歴のオン／オフを切り替えられるウィンドウが表示されます。
- 「バックアップガイド」で「過去のデータを復元する」の「個人用ファイルの復元」をクリックすると、ファイル履歴でバックアップしたデータを復元できるウィンドウが表示されます。

バックアップ／復元できる項目

C:\Users\ [ユーザー名] 配下の、次のデータなどが対象です。

- OneDrive
- Windows アドレス帳
- 「Internet Explorer」のお気に入り
- デスクトップに保存されているファイル
- ドキュメント
- ピクチャ
- ビデオ
- ミュージック
- リンク
- 検索
- 保存したゲーム
- カメラロール
- 保存済みの写真

ファイル履歴の注意事項

■すべてのデータのバックアップ／復元を保証するものではありません

「バックアップガイド」から設定できる Windows の各機能は、すべてのデータのバックアップ／復元を保証するものではありません。また著作権保護された映像（デジタル放送の録画番組など）や音楽などはバックアップ／復元できない場合があります。

■万が一、ファイル履歴で復元できないときのために、大事なファイルは個別にバックアップしてください

■パソコン本体のハードディスクにはバックアップできません

外付けハードディスクや、USB メモリ、メモリーカードなど、データをバックアップできる容量がある媒体をご用意ください。またネットワーク上のドライブにもバックアップできます。

■次のデータは、バックアップできません

●著作権保護された音楽データ、映像データ
デジタル放送の録画番組、インターネット上の音楽配信サイトからダウンロードしたファイルなど、著作権保護された映像データや音楽データなどはバックアップ／復元できない場合があります。

著作権保護された音楽データ、映像データのバックアップ／復元については、お使いのアプリのマニュアルやヘルプをご覧ください。

●テレビ番組を録画したデータ
容量が大きいため、ハードディスクの空き容量が少なくなってしまったときは、個別に DVD などディスクにバックアップすることをお勧めします。

ファイル履歴のバックアップ／管理／復元方法

ファイル履歴のバックアップ／管理／復元方法は、サポートページから次の Q&A ナンバーを検索してご覧ください（→ P.57）。

- ファイル履歴を使用してバックアップする方法
「1510-8222」
- ファイル履歴を管理する方法「8910-8224」
- ファイル履歴を使用して復元する方法
「5210-8223」

システムイメージバックアップ

システムイメージバックアップとは、C ドライブ全体をシステムイメージとしてバックアップできる機能です。

現在のパソコンの状態をそのままバックアップするので、インターネットの設定や、メールの設定、インストールしたアプリなどの情報を保存できます。復元するとシステムイメージを作成した時点の状態に復元されます。

トラブルに備えて、パソコンのセットアップが完了した後、パソコンが快適に使用できている状態のときにバックアップすることをお勧めします。

●「バックアップガイド」で「システム全体をバックアップする」の「システムイメージバックアップ」をクリックすると「システムイメージの作成」ウィンドウが表示されます。

システムイメージバックアップの注意事項

■システムイメージバックアップとファイル履歴を組み合わせてバックアップをとることをお勧めします

システムイメージを復元すると、バックアップ作成時点以降のデータは削除されます。

そのため、バックアップ作成時点以降のデータはファイル履歴を使用してバックアップを復元してください。

システムイメージを復元する直前にファイル履歴を使用してバックアップを行うことをお勧めします。手動でバックアップを取る方法は、サポートページから Q&A ナンバー「1510-8222」を検索してご覧ください (→ P.57)。

■すべてのデータのバックアップ／復元を保証するものではありません

「バックアップガイド」から設定できる Windows の各機能は、すべてのデータのバックアップ／復元を保証するものではありません。また著作権保護された映像（デジタル放送の録画番組など）や音楽などはバックアップ／復元できない場合があります。

■万が一、システムイメージで復元できないときのために、大事なファイルは個別にバックアップしてください

■パソコンに不具合が起こっているときは、システムイメージをバックアップしないでください
システムイメージバックアップは、パソコンの C ドライブをそのままの状態で保存するため、不具合も保存されてしまい、復元時に不具合も復元してしまいます。

■システムイメージから復元をする場合は、復元する項目を個別に選択できません

現在のアプリ、システム設定、およびファイルやフォルダーは、システムイメージバックアップをとった時点の内容ですべて上書きされます。

■システムイメージバックアップは 1 つの保存先に 1 つしかとれません

保存先ドライブにすでにシステムイメージがある場合、「このコンピューターに関する既存のシステムイメージは、上書きされる場合があります。」と警告が表示され、上書きされます。以前にとったシステムイメージバックアップを消したくない場合は別の保存先を用意してください。

■管理者アカウントで Windows にサインインしていることを確認してください

セットアップ時に作成したアカウントは管理者アカウントです。

標準アカウントでサインインしている場合は、「ユーザー アカウント制御」 ウィンドウで管理者アカウントのパスワードを入力してバックアップしてください。

■バックアップ／復元するときは、必ず AC アダプタを接続してください

システムイメージをバックアップする場所

■外付けハードディスク、増設用内蔵ハード

ディスクユニット（対象機種のみ）

直接システムイメージをバックアップできます。外付けハードディスクはUSB接続のものを用意してください。USB接続以外の接続方式では正常に動作しない場合があります。

■別のパソコンの共有フォルダー（LANコネク タ搭載機種のみ）

有線LANで接続した別のパソコンの共有フォルダーにバックアップしてください。

システムイメージを別のパソコンの共有フォルダーにバックアップする方法は、サポートページからQ&Aナンバー「0510-8219」を検索してご覧ください（→P.57）。

■DVD-R、DVD-R DL、DVD+R DL

システムイメージをバックアップ／復元する

システムイメージをバックアップ／復元する方法は、サポートページから次のQ&Aナンバーを検索してご覧ください（→P.57）。

●システムイメージをバックアップする方法

「0010-8227」

●システムイメージを復元する方法「3710-8228」
作業中にパソコンからQ&Aが見られない状態になるので、このQ&Aを印刷しておくか、「富士通アドバイザー」（スマートフォン版）を使ってご覧いただくことをお勧めします。「富士通アドバイザー」（スマートフォン版）について詳しくは「[富士通アドバイザー]」を活用する（→P.47）をご覧ください。

システムイメージを削除する

システムイメージは容量が大きい場合があります。不要なデータを削除するには、システムイメージを管理する機能を使用します。サポートページからQ&Aナンバー「7810-8221」を検索してご覧ください（→P.57）。

使いこなすために

本製品ならではの機能のご紹介や、本製品を使いこなすための細かい設定方法などを説明しています。

搭載されているアプリを使う (@メニュー)

このパソコンには、搭載されているデスクトップアプリを簡単に探すための、「@メニュー」が搭載されています。

やりたいことがあるけれど、どのアプリを使えばよいかわからないときは、「@メニュー」で探すことができます。

[@メニュー] の使い方

- ① [□]▶「@メニュー」▶「@メニュー」の順にクリックします。
- ② 次の画面の操作をします。



(画面は機種や状況により異なります)

- ① カテゴリを選択します。
- ② ジャンルを選択します。
- ③ やりたいことを選択します。
- ④ 「実行する」をクリックします。

Point

- ▶ アプリを起動する方法は他にもあります。
詳しくは、『Windows 10 基本操作クイックガイド』をご覧ください。
- ▶ このパソコンに搭載されているアプリの一覧は、富士通製品情報ページ (<http://www.fmworld.net/fmv/>) に掲載されています。
- ▶ ⑤が表示されている場合はクリックすると各アプリのお問い合わせ先を確認することもできます。

My Cloud プレイを活用する

「My Cloud プレイ」は、パソコンや Blu-ray / DVD レコーダーなどに保存してある写真・動画・音楽・録画番組などをまとめて管理して楽しむことができます。写真を加工したり、BGM 付きのデジタルアルバムを作ったり、スマートフォンやタブレットでパソコンの音楽を聴いたり、録画番組を見たりすることもできます。

Point

- ▶ すべての機能をお使いになるには「ストア」で最新版にアップデートしてください。
初期設定では「ストア」から自動的にアップデートされるよう設定されています。「ストア」の設定でアプリの自動更新をオフにしないことをお勧めします。



(「My Cloud プレイ」ホーム画面)

詳しい使い方については …

「My Cloud プレイの紹介ページ」(http://azby.fmworld.net/mycloud/apps_top/play/) から My Cloud プレイのマニュアルをご覧ください。

「My Cloud プレイ」でできること

■写真をもっと楽しむ

たくさんの写真データを自動で整理して、アルバムでまとめたり、選んだ写真を編集したり、年賀状を作成したりと、さまざまな方法でお楽しみいただけます。

□おまかせアルバム

写真の撮影日、場所などを分析してイベントごとにまとめたアルバムを自動的に作成します。

□オリジナルアルバム

お気に入りの写真を選んでアルバムを作成することができます。さらにお気に入りの音楽を選んでBGM付きのアルバムも簡単に作成できます。

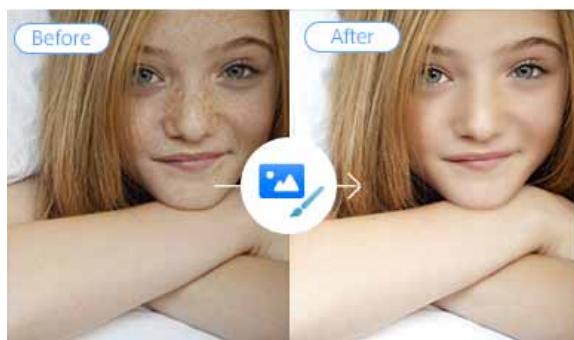
□成長フォトムービー

人物ごとにまとめられた写真一覧からワンクリックで、1年分の写真をピックアップし、子供の成長を感じられるムービーを自動的に作成します。



□写真編集

編集機能を使用すれば、スタンプやフレームでデコレーションしたり、色調や鮮やかさを変化させたり、肌をなめらかにしたり…と写真の楽しみが広がります。



□はがき・年賀状作成

写真が日付や人物別に自動で整理されるので、お気に入りの写真を簡単に選ぶことができます。ボタン1つで「筆ぐるめ」と連携して、きれいなはがきや年賀状を簡単に作成することができます。



■録画番組・音楽・写真・動画を家でも外でも楽しむ

自宅のパソコンやBlu-ray／DVDレコーダーなどのデータに、スマートフォンやタブレットからアクセスすることができます。Blu-ray／DVDレコーダーにある録画番組を自宅でもワイヤレスで見たり、カフェや帰省先からも自宅のパソコンのデータを楽しんだりできます。



■離れた家族や友人と写真や動画を共有する
「ゲストアカウント」機能を利用すると、自宅のパソコンの共有フォルダーのデータを離れた家族や友人に共有することができます。実家の親に子供の写真を見せたり、友達に写真や動画を共有したりすることができます。



「My Cloud プレイ」には、この他にもさまざまな機能が搭載されています。まずは一度お試しください。

「My Cloud プレイ」を使う

- 1 □▶「My Cloud ホーム 2.0」の順にクリックします。



タイルが見つからない場合は、画面を上にスクロールしてください。

- 2 「My Cloud ホーム 2.0」という画面が表示されたら、「My Cloud プレイ」をクリックします。



- 3 「My Cloud プレイ」という画面が表示されたら、「My Cloud プレイを今すぐ使ってみる」をクリックします。
「My Cloud プレイ」が起動します。

- 4 この後は画面の指示に従って操作します。
「My Cloud プレイ使用許諾契約」が表示された場合は、よく読んで「同意する」にチェックをつけ、「OK」をクリックします。
「My Cloud プレイ」のホーム画面が表示されます。

「My Cloud プレイ」のすべての機能を使う

「My Cloud プレイ」のすべての機能をお使いになるためには、My Cloud アカウントでのログインが必要です。ログインすると、次の機能を楽しむことができます。

- スマートフォンやタブレットでの録画番組のストリーミング再生
- スマートフォンやタブレットへの録画番組の持ち出し

F-LINK Neo

「F-LINK Neo」は写真や動画をスマートフォン／タブレットからパソコンへ簡単に取り込むことができます。



「F-LINK Neo」を使うと、次のようなことができます。

- パソコンにSDカードを挿したり（ダイレクト・メモリースロット搭載機種のみ）、スマートフォン／タブレットとパソコンをケーブルで接続したりするだけで、写真や動画の取り込みを自動で開始します。
- Android OSのスマートフォン／タブレットに「F-LINK Neo」をインストールして、My Cloud IDでペアリングをすると、自宅のWi-Fiネットワークに接続するだけで、取り込みを自動で開始します。

Point

- ▶「F-LINK Neo」は他のデスクトップアプリと同様に「アップデートナビ」でアップデートすることができます。「F-LINK Neo」は常に最新の状態に更新してお使いください。
- ▶詳しい使い方については、サポートページからQ&Aナンバー「4110-8220」を検索してご覧ください（→P.57）。

「F-LINK Neo」をお使いになるうえでの注意

■対応スマートフォン／タブレットについて

「F-LINK Neo」に対応したスマートフォン／タブレットについては、ホームページ(<http://azby.fmworld.net/support/soft/mycloudapps/flink-neo/>)をご覧ください。

■注意事項

●次のプログラムからネットワークの接続の要求があったときは、接続を許可するように設定してください。

・MyCloudLink.exe

●受信側の空き容量が少ないと全部のファイルが取り込めないことや、送信側からファイルを送れない場合があります。表示されたメッセージに従ってください。

●ルーターで機器間の通信を遮断する設定が行われていた場合、ルーター経由で「F-LINK Neo」の機能が動作しません。ルーターを経由する場合は、機器間の通信を許可する設定をしてください。設定の方法は、ルーターのマニュアルをご覧ください。

ワンタッチプライバシー

「ワンタッチプライバシー」は、登録したデータを簡単に隠すことで、あなたの大切なデータを守ることができます。

あらかじめ指定した期間に利用がない場合は、登録したデータを自動で消去することもできます。



「ワンタッチプライバシー」の初期設定をする

- 1 □▶「ワンタッチプライバシー」▶「ワンタッチプライバシー」の順にクリックします。
- 2 「セットアップ」画面が表示されたら、「次へ」をクリックします。
- 3 「追加使用条件」画面が表示されたら、よく読んで「追加使用条件に同意する」の□をクリックして☑にし、「次へ」をクリックします。
- 4 「パスワード登録」画面が表示されたら、パスワードを設定して「登録する」をクリックします
- 5 ワンタッチプライバシーの使い方が表示されたら、「次へ」をクリックして読み進め、最後のページで「完了」をクリックします。
「登録データ一覧」画面が表示されたら初期設定は完了です。

詳しい使い方については …

「ワンタッチプライバシーの紹介ページ」(http://azby.fmworld.net/mycloud/apps_top/otp/)から「ワンタッチプライバシー」のマニュアルをご覧ください。

Windows Hello

Windows 10 には、指紋を使ってサインインできる Windows Hello という機能が搭載されています。

Windows Hello を使うと、サインイン用のパスワードをいちいち入力する必要がなくなります。

Windows Hello を使って指紋認証でサインインする

■Windows Hello の指紋認証機能をお使いにならうまでの注意

- Windows Hello の指紋認証機能は完全な本人認識・照合を保証するものではありません。
- Windows Hello をお使いになるにはするには、PIN を設定しておく必要があります。
- Windows Hello で登録した指紋情報は、パソコンにのみ保存され、インターネット上にアップロードされることはありません。

■指紋を登録する

Windows Hello の指紋認証機能をお使いになるときは、次の設定を行ってください。

- 1 □▶⚙(設定)▶「アカウント」の順にクリックし、ウィンドウ左の「サインイン オプション」をクリックします。



Point

- ▶ PIN を設定していない場合、「PIN」の「追加」をクリックして PIN を設定してください。

2 「指紋認証」の「セットアップ」をクリックします。



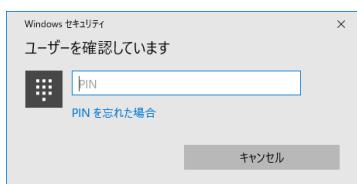
5 画面の指示に従って、指紋を登録します。



3 「Windows Hello セットアップ」ウィンドウで「開始する」をクリックします。



4 PIN を入力します。



数回スワイプします。

6 指紋の登録が完了したら、①「閉じる」をクリックします。

別の指紋を登録する場合は、②「別の指を追加」をクリックします。



■指紋認証でサインインできるか確認する

- 1 □▶「アカウント」▶「ロック」をクリックして
ロック画面を表示し、サインインできるか確認し
ます。

Point

- ▶ サインインできなかった場合は、画面の指示に従って、PIN または Microsoft アカウントのパスワードを入力してサインインし、指紋の登録をやり直してください。

Cortana (コレタナ)

最新の Windows 10には Cortana という機能があり、さまざまな操作をより快適に行うことができます。

Cortana を利用するには、検索ボックスに、Cortana にしてほしいことを入力します。検索だけでなく、メールの送信、アプリを開く、リマインダー、冗談を言うことなどができます。マイク搭載機種は、音声入力もできます。

CortanaはWindowsを最新の状態にアップデートすると、できることが追加されたり、機能が改善したり、進化します。また使えば使うほど、ユーザーの状況に合わせ使いやすくなります。

Cortanaをお使いになる前に

■Cortanaをお使いになるうえでの注意

- インターネットに接続し、Microsoft アカウントでサインインしてください。
- 音声入力するときは、静かな環境でご利用ください。
- 音声入力するときに、パソコンに近づく必要はありません。通常パソコンを使うときと同じ程度の距離が適切です。

Point

▶ Windowsのセットアップ時にCortanaを後で設定する選択をした場合、使用許諾をする必要があります。

1. 検索ボックスをクリックします。



(これ以降の画面は機種や状況により異なります)

2. 「Cortanaができることはこれだけではありません...」をクリックします。



3. 「許可します」をクリックします。

■Cortanaの設定を変更する

設定を変更したり、ホームの表示項目を追加したりできます。画面の指示に従って操作してください。



① ホーム

他の画面を表示しているときにクリックするとホームに戻ります。「ヘルプとヒント」の「さらにヒントを表示」をクリックするとホームに表示されていない項目のヒントも見ることができます。

② ノートブック

カレンダー、リマインダー、ミュージックなどの各項目の、ホームに表示するかしないかを切り替えたり、設定を変更したりします。

③ 設定

ロック画面でのCortanaの使用可否を切り替えるなど、Cortanaをお使いになるうえでの環境の設定をします。

■呼びかけて音声入力を開始できるようにする
(マイク搭載機種のみ)
パソコンに「コルタナさん」と呼びかけたら Cortana が応答するよう設定します。

- 1 検索ボックスをクリックし、 (設定) をクリックします。
- 2 「コルタナさん」の (オフ) をクリックして (オン) にします。
- 3 応答する相手を自分だけにしたいときは、「コルタナさん」の発音を覚えさせる」をクリックします。この後は画面の指示に従って声を覚えさせてください。

Point

- ▶ マイクのセットアップ画面が表示された場合は、画面の指示に従ってセットアップしてください。
- ▶ この設定をしない場合も、検索ボックスの をクリックすると音声認識が開始されます。

Cortana を使う

ここでは音声入力でカレンダーに予定を入力してみましょう。
話しかける内容を、キーボードで入力しても同じように操作できます。

- 1 「コルタナさん」を (オン) にしている場合は、「コルタナさん」と呼びかけます。
「コルタナさん」を (オフ) にしている場合は、 をクリックします。
- 2 ピボットと音がなった後、①が表示されている間に「金曜日に歯医者を予約」と話しかけます。

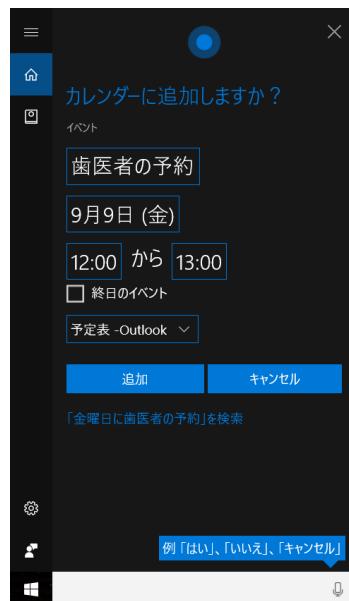
①が表示されている間だけ、音声入力ができます。



(これ以降の画面は機種や状況により異なります)

- 3 予定が表示され、「何時ですか?」と聞かれたら、「正午」と話しかけます。

- 4 預約内容に間違いがなければ、「はい」と話しかけます。
「追加」をクリックしても、予約を確定できます。表示内容に間違いがあれば、クリックして修正してください。



- 5 「追加しました」と表示されたら、予約完了です。
▶ 「カレンダー」の順にクリックして、予約が追加されていることを確認してみましょう。

i-フィルター

このパソコンに用意されている「i-フィルター」は30日のお試し版となっています。ぜひお試しください。初めてお使いになるときは、次の手順で初期設定を行ってください。

なお、お試し版を利用するにはメールアドレスの登録が必要です。

- 1 インターネットに接続します。
- 2 ▶「@メニュー」▶「@メニュー」の順にクリックします。
- 3 ①「アプリ・サービス」▶②「インターネット・メール」▶③「目的でさがす」▶④「有害サイトの閲覧を制限する」▶⑤「実行する」の順にをクリックします。



- 4 「ユーザー アカウント 制御」ウィンドウが表示された場合は、「はい」をクリックします。

「続行するには管理者アカウントのパスワードを入力して、[はい] をクリックしてください。」と表示されている場合は、そのアカウントのパスワードを入力してから「はい」をクリックします。「i-フィルター」のご紹介の画面が表示されます。

- 5 「「i-フィルター 6.0」をインストールする」をクリックします。

使用許諾の画面が表示されます。

この後は画面の指示に従ってインストールを進めてください。

Point

▶「すでにインストールされています。」というメッセージが表示された場合は、「i-フィルター」はインストール済みです。

「OK」▶「完了」の順にクリックして、画面を閉じてください。

- 6 「i-フィルター 6.0」の画面が表示されたら、インターネットに接続していることを確認して、「お申し込み」ボタンをクリックします。
この後は画面の指示に従ってメールアドレスの登録を進めてください。
登録が完了すると「i-フィルター」が利用できるようになります。

次回使うときは、通知領域に表示された①アイコンから、設定を行うことができます。



試用期間を超えてご利用になる場合は、継続利用（有償）のお手続きを行ってください。別のフィルタリングアプリをご利用になる場合は、市販のアプリをご購入のうえ、ご利用ください。

スリープ／休止状態

Windows の省電力機能を使用すると、パソコンを待機状態にしているときに消費電力を抑えることができます。ここでは、省電力機能のうち、「スリープ」と「休止状態」について説明しています。

スリープ／休止状態とは

ご購入時の設定では、一定時間パソコンを操作しないと、自動的にスリープになるように設定されています。手動でスリープにする操作については、「スリープにする／復帰させる」(→ P.86) をご覧ください。ご購入時の設定では、スリープしてから一定時間経過するか、バッテリの残量が少なくなると、自動的に休止状態になるように設定されています。

■スリープ

作業中のデータなどをメモリに保存してパソコンを待機状態にすることです。

■休止状態

作業中のデータなどをハードディスクに保存して、パソコン本体の電源を切ることです。

スリープに比べると、待機状態にしたり復帰（レジューム）したりするための時間は長くなりますが、消費電力は削減されます。

□休止状態にする

- 1    「休止状態」の順にクリックします。
ディスプレイの表示が消え休止状態になります。

Point

▶「休止状態」が表示されていない場合は、次の手順で設定を変更してください。

1.  を右クリックし、表示されたメニューから「電源オプション」をクリックします。
 2. 「電源オプション」ウィンドウが表示されたら、左側にある「電源ボタンの動作の選択」をクリックします。
 3. 「現在利用可能ではない設定を変更します」をクリックします。
 4. ウィンドウの下部にある「休止状態」の をクリックして にします。
 5. 「変更の保存」をクリックします。
 6. 「電源オプション」ウィンドウを閉じます。
- ▶電源ボタンを押したときや、液晶ディスプレイを閉じたときに休止状態に切り替わるように設定を変更することができます (→ P.128)。
- ▶機種によっては、休止状態にして、液晶ディスプレイを閉じた後、液晶ディスプレイを開いても、復帰（レジューム）しないことがあります。その場合は、電源ボタンを押してください。

スリープ／休止状態にするうえでの注意

- パソコンをお使いの状況によっては、スリープや休止、復帰（レジューム）に時間がかかる場合があります。
- スリープや休止状態にした後、すぐに復帰（レジューム）しないでください。必ず、10秒以上たってから復帰（レジューム）するようにしてください。また、再度スリープや休止状態にする場合は、復帰（レジューム）させた後、必ず10秒以上たってから、スリープや休止状態にするようにしてください。
- スリープや休止状態に移行するまでの間、USB マウスや USB キーボードなどの周辺機器を操作しないでください。復帰（レジューム）した後、周辺機器を正しく認識しなくなることがあります。
- 接続している周辺機器のドライバーが正しくインストールされていない場合、スリープや休止状態にならないことがあります。
- スリープや休止状態、復帰（レジューム）のときに、画面に一瞬ノイズが発生する場合がありますが、故障ではありません。
- スリープ中は、周辺機器の取り付け／取り外しをしないでください。

●ネットワークの設定によっては、スリープ中に DHCP サーバーから割り当てられた IP アドレスの有効期限が切れると、パソコン本体がスリープから元の状態に戻ることがあります。

この場合は、IP アドレスの有効期間を延長するか、DHCP の使用を中止して固定 IP をお使いください。

●次の場合は、自動的にスリープや休止状態になります。

- ・DVD-VIDEO などの動画再生時

●次の場合は、スリープや休止状態にしないでください。

- ・Windows の起動処理中または終了処理中
- ・パソコンが何か処理をしている最中（プリンタ出力中など）、および処理完了直後
- ・ハードディスクやフラッシュメモリディスクにアクセス中
- ・オートラン CD-ROM/DVD-ROM（セットすると自動で始まる CD-ROM/DVD-ROM）を使用中
- ・ビデオ CD や DVD-VIDEO などを再生中
- ・音楽 CD やゲームソフトなどのサウンドを再生中
- ・ディスクにデータを書き込みまたは書き換える中
- ・ドライバーのインストールが必要な周辺機器を取り付けて、ドライバーをインストールしているとき
- ・マルチモニター機能を使用中
- ・ネットワークに接続して通信中
- ・デジタルテレビに表示しているとき
- ・マウスの操作中
- ・LAN 機能を使ってネットワーク（インターネットなど）に接続中

ディスプレイの電源を切る、スリープになるまでの時間を変更する

次の手順で表示する画面から、ディスプレイの電源を切るまでの時間、スリープになるまでの時間を変更できます。

この方法は簡易的な方法で、「電源オプション」ウィンドウで選択されている電源プランに対してのみ変更を加えることができます。詳細な設定変更をしたいときは「スリープ／休止状態の設定変更」(→ P.128) をご覧ください。

1 □▶⚙️(設定)▶「システム」の順にクリックします。

2 「システム」ウィンドウ左の「電源とスリープ」をクリックします。

スリープ／休止状態の設定変更

ディスクにデータを書き込むときや、LAN を使用するときなど、必要に応じて設定を変更してください。スリープ／休止状態などの詳細な設定変更は「電源オプション」ウィンドウで行います。

■「電源オプション」ウィンドウを表示する

1 □を右クリックし、表示されたメニューから「電源オプション」をクリックします。

「電源オプション」ウィンドウが表示されます。



■電源ボタンを押したとき／液晶ディスプレイを閉じたときの省電力機能を変更する

□ご購入時の設定

●電源ボタンを押す

スリープ状態に切り替わる

●液晶ディスプレイを閉じる

スリープ状態に切り替わる

□設定を変更する

- 1 「電源オプション」ウィンドウで、「電源ボタンの動作の選択」または「カバーを閉じたときの動作の選択」をクリックします。



(これ以降の画面は機種や状況により異なります)

- ・電源ボタンの動作の選択
電源ボタンを押したときの省電力機能を変更する場合、クリックします。
- ・カバーを閉じたときの動作の選択
液晶ディスプレイを閉じたときの省電力機能を変更する場合、クリックします。

- 2 必要に応じて電源ボタンとカバーの設定の項目を変更します。



- 3 「変更の保存」をクリックします。

Point

- ▶ 機種によっては、休止状態にして、液晶ディスプレイを閉じた後、液晶ディスプレイを開いても、復帰（レジューム）しないことがあります。その場合は、電源ボタンを押してください。
- ▶ パソコンがスリープから復帰（レジューム）するとき、あらかじめ Windows に設定してあるパスワードや PIN を入力する必要があります。次の手順で設定変更できますが、セキュリティを高めるため、サインインを求める設定にしておくことをお勧めします。

1. □▶⚙(設定)▶「アカウント」の順にクリックします。

2. ウィンドウ左の「サインインオプション」をクリックし、ウィンドウ右の「サインインを求める」の設定を変更します。

Windows Helloで指紋認証を設定している場合は、指紋認証でサインインできます。

■電源プラン

このパソコンではあらかじめ次の電源プランが用意されています。ご購入時は「バランス」が選択されています。パソコンの利用状況に応じて切り替えると、消費電力を抑えることができます。

新規に電源プランを作成することもでき、プランごとにスリープになるまでの時間や詳細な設定を変更して保存することができます。

●バランス

ハードウェアでサポートされている場合に、自動的にパフォーマンスと消費電力のバランスをとります。

●省電力

可能な限りコンピューターのパフォーマンスを低下させ、消費電力を抑えます。

●高パフォーマンス

パフォーマンスを優先しますが、消費電力が増える可能性があります。そのためバッテリ駆動時間が短くなります。

「追加プランの表示」の①▽をクリックすると表示されます。



□電源プランを切り替える

1 「電源オプション」ウィンドウで、②お使いになる状況に適した電源プランの○をクリックして◎にします。

□新規に電源プランを作成する

1 「電源オプション」ウィンドウで、③「電源プランの作成」をクリックします。

「電源プランの作成」ウィンドウが表示されたら、画面の指示に従って操作してください。

□ディスプレイの電源を切るまでの時間、スリープになるまでの時間を変更する

電源プランごとに時間を設定できます。

1 「電源オプション」ウィンドウで、変更したい電源プランの④「プラン設定の変更」をクリックします。

Point

現在選択されている電源プランの設定変更をする場合は、⑤「ディスプレイの電源を切る時間の指定」や⑥「コンピューターがスリープ状態になる時間を変更」をクリックしても、編集画面を表示できます。

2 ①□をクリックして時間を変更します。



Point

変更した設定は次の手順で元に戻すことができます。

1. ②「このプランの既定の設定を復元」をクリックします。

2. 「はい」をクリックします。

3 「変更の保存」をクリックします。

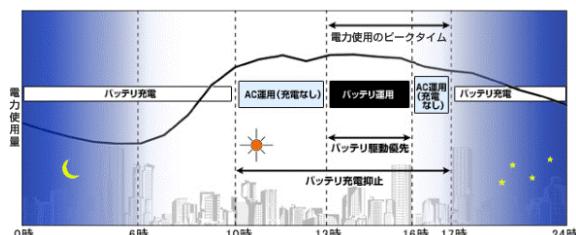
節電

ピークシフト設定

■「ピークシフト設定」とは

夏場の昼間など電力需要がピークとなる時間帯の電力使用を抑え、夜間などの電力需要の少ない時間帯に電力使用を移行することをピークシフトといいます。「ピークシフト設定」により、次のような使い方ができるようになります。

- 時間帯により AC アダプタ運用とバッテリ運用を切り替えて、ピークタイム時の電力消費を抑える
- 電力需要が増える時間帯にはバッテリ運用でパソコンを利用し、バッテリへの充電を抑制する
- 電力需要の少ない夜間にバッテリ充電を行う



「ピークシフト設定」による運用イメージ

Point

- ▶お住まいの地域の電力使用量を知りたい場合は、各電力会社のホームページなどで確認してください。

■「ピークシフト設定」をお使いになるうえでの注意

- DVD-VIDEO の再生など、パソコンを長時間お使いになる場合は、「ピークシフト設定」を一時的に無効にしてください。
- 「ピークシフト設定」は Windows にサインインしているときに動作します。パソコンの電源が切れている場合や、スリープや休止状態、Windows からサインアウトしている場合は動作しません。

■「ピークシフト設定」を使う

「ピークシフト設定」は、ご購入時の状態では無効に設定されています。お使いになる場合は、サポートページから Q&A ナンバー「9809-1611」を検索して、有効にする手順を確認してください (→ P.57)。

省電力モード

一部の機能の使用を制限することで、パソコン本体の動作を中断させずに、消費電力を抑えることができます。詳しくは、「ステータスパネルスイッチ」(→ P.132)をご覧ください。

バッテリーウェーブ - ECO Sleep

■「ECO Sleep」とは

「ECO Sleep」とは、電源オフ状態や休止状態でバッテリの充電が完了している場合に、AC アダプタからの電力供給を止めることにより消費電力を抑える機能です。

■「ECO Sleep」の設定を変更する

「ECO Sleep」の設定は、「バッテリーウェーブ」で変更します。

- 1 □▶「FUJITSU - バッテリーウェーブ」▶
「バッテリーウェーブ」の順にクリックします。
「バッテリーウェーブ」ウィンドウが表示されます。

- 2 「ECO Sleep」をクリックします。

- 3 「変更」をクリックします。

「ユーザーアカウント制御」ウィンドウが表示されたら、「はい」をクリックします。

- 4 「ECO Sleep」を有効にする場合は「低待機モード」を、「ECO Sleep」を無効にする場合は「通常モード」をクリックし、「OK」▶「閉じる」の順にクリックします。

- 「ECO Sleep」について詳しくは、次の手順で表示されるヘルプをご覧ください。

1. □▶「FUJITSU - バッテリーウェーブ」▶
「ヘルプ」の順にクリックします。

- 「ECO Sleep」が動作中の場合、電源オフ状態や休止状態ではバッテリ充電ランプは点灯しません。

バッテリーユーティリティ - 満充電量の設定

バッテリの満充電量を 80% に抑えることで、バッテリの充電に使用する電力を節約するとともに、バッテリの消耗を抑え、バッテリの寿命を延ばすことができます。

■設定を変更する

- 1 ▶「FUJITSU - バッテリーユーティリティ」▶「バッテリーユーティリティ」の順にクリックします。
「バッテリーユーティリティ」ウィンドウが表示されます。
- 2 「バッテリー満充電量」をクリックします。
- 3 「変更」をクリックします。
「ユーザーアカウント制御」ウィンドウが表示されたら、「はい」をクリックします。
- 4 「80% 充電モード」を選択し、「OK」▶「閉じる」の順にクリックします。

- ご購入時のバッテリの満充電量は、100% に設定されています。
- 「80% 充電モード」に変更すると、バッテリ残量が 70% 以上の場合は、AC アダプタを取り付けても充電されません。69% 以下で充電されます。

ステータスパネルスイッチ

「ステータスパネルスイッチ」は、画面上のボタンで、画面の明るさや CPU パフォーマンスなどを一括で変更し、パソコンを使用する状況に適したモードに変更できる機能です。

- ・気になるブルーライトを軽減する「ブルーライトカットモード」の設定もできます。

「ステータスパネルスイッチ」をお使いになるうえでの注意

- CPUパフォーマンスを次の設定にしていると動画の再生時にコマ落ちが発生する場合があります。
 - ・低
 - ・中

このような場合には、CPU パフォーマンスを次のいずれかに設定してください。

 - ・高
 - ・「モード切り替え設定」で、CPU パフォーマンスの を にする
- 複数のユーザーアカウントでパソコンを使用しても、各モードでの設定は、パソコン 1 台に対して 1 つの設定です。例えば、省電力モード中に他のユーザーアカウントでサインインし直しても、省電力の状態は変化しません。
- 各デバイスの状態を「ON」から「OFF」に切り替える場合、切り替え前にそのデバイスの利用を中止し、接続または挿入されているデバイスをすべて取り外してから切り替えてください。デバイスを使用中に切り替えると、デバイスを停止できない場合があります。
- また、各デバイスの状態を「OFF」から「ON」に切り替える場合は、切り替え後に各デバイスをパソコンに接続または挿入してください。
- Windows ヘサインインした直後は、各デバイスの状態の切り替えに失敗する場合があります。
- 各デバイスの状態の切り替えは、Windows ヘサインインした後、しばらくしてから実行してください。

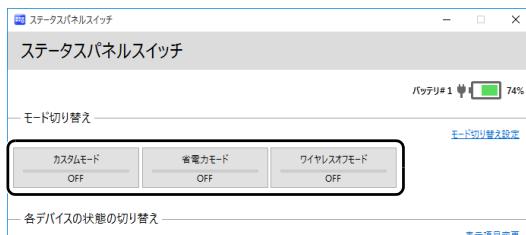
■ブルーライトカットモードについて

- ブルーライトカットモードは、画面の色合いを調整してブルーライトを約30%カットします。画面の設定をお好みに調整した後、ブルーライトカットモードの「ON」／「OFF」を切り替えると、出荷時の色設定に戻ります。ブルーライトカットモードを「OFF」にした状態で、再度、画面の設定をお好みに調整してください。
- ブルーライトカットモードは、パソコン本体の液晶ディスプレイにのみ効果があります。

「ステータスパネルスイッチ」の使い方

- 1  「FUJITSU - ステータスパネルスイッチ」▶ 「ステータスパネルスイッチ」の順にクリックします。「ステータスパネルスイッチ」ウィンドウが表示されます。
- 2 「モード切り替え」から、使用したいモードのボタンをクリックします。

選択したモードに切り替わります。



(画面は機種や状況により異なります)

- ・カスタムモード
各デバイスの状態を個別に設定して、カスタムモードとして登録できます。設定方法については「各モードの設定を変更する」(→ P.133)をご覧ください。
- ・省電力モード
画面の明るさやCPUパフォーマンスを下げることで、パソコンの消費電力を抑えることができるモードです。
- ・ワイヤレスオフモード
無線LANやBluetoothワイヤレステクノロジーなどの無線通信機能の電波を停止するモードです。

Point

- ▶「各デバイスの状態の切り替え」で、それぞれの機能のボタンをクリックすると、個別に状態を変更できます。
- また、「表示項目変更」をクリックすると、「各デバイスの状態の切り替え」に表示する項目を変更できます。
- ▶画面の明るさを、省電力モードで設定された画面の明るさよりも暗くしている場合は、省電力モードにしても画面が暗くならない場合があります。
- ▶ECO（エコ）ボタンを押して、省電力モードの「ON」／「OFF」を切り替えることもできます。ECO（エコ）ボタンの場所については、「各部の名称と働き」(→ P.77)をご覧ください。
- ▶ワイヤレスオフモードは、機内モードと同期しません。

各モードの設定を変更する

各モードで制御するデバイスを選択したり、各デバイスの状態を個別に変更したりすることができます。

- 1 「ステータスパネルスイッチ」ウィンドウで、「モード切り替え設定」をクリックします。



(これ以降の画面は機種や状況により異なります)

2 設定を変更します。



① モードを選択します。

② 制御するデバイスを選択します。

③ デバイスの状態や値を設定します。

3 「適用」をクリックします。

4 「OK」をクリックします。

フラットポイント

フラットポイントは、指先の操作でマウスポインターを動かすことのできる便利なポインティングデバイスです。設定を変更することで、フラットポイントをさらに便利に使えるようになります。

フラットポイントの基本操作については、「取り扱い」-「フラットポイント」(→ P.90)をご覧ください。

フラットポイントでできる機能



ここで説明している機能は、使用するアプリや、アプリの状態によって、動作が異なったり、お使いになれなかったりすることがあります。

フラットポイントの操作面で、さまざまな操作ができる機能があります。

□各機能を使えるように設定する

ご購入時の設定では無効になっているものもあります。必要に応じて、各機能の有効／無効の設定を変更してください。

- 1 通知領域の □ をクリック／タップし、表示された □ (Synaptics ポインティングデバイス) をダブルクリック／タップします。
「デバイス設定」ウィンドウが表示されます。



(これ以降の画面は機種や状況により異なります)

- 2 設定したい機能の を にし、「適用」をクリック／タップします。

Point

- 各項目を選択すると、ウィンドウの右側に各機能の操作方法が動画で表示されます。
- 各項目を選択したときに表示される  をクリック／タップすると、詳細な設定を行うことができます（項目によっては  が表示されないものもあります）。

□複数の指によるジェスチャー

●2本指でのスクロール

フラットポイントの操作面の任意の位置に2本の指を置き、上下や左右になぞると画面やウィンドウのスクロールが行えます。

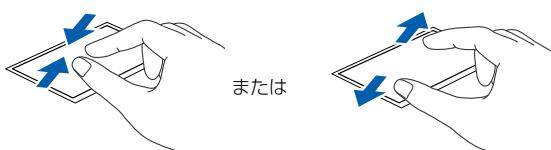


または

●つまみズーム

フラットポイントの操作面で、2本の指でつまんだり開いたりする動作をします。

つまむ操作をすると画像やウィンドウ内の画面が縮小表示され、開く操作をすると拡大表示されます。



または

●回転

・TwistRotate (ツイストローテイト)

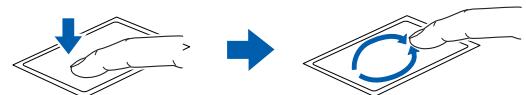
フラットポイントの操作面に2本の指を置き、時計回り、または反時計回りに弧を描くようになぞると、なぞった方向に画像などを回転させることができます。



・ChiralRotate (カイラルローテイト)

フラットポイントの操作面の左端に指を置き、そこから時計回りまたは反時計回りに円を描くようになぞります。

なぞった方向に画像を90度単位で回転させることができます。

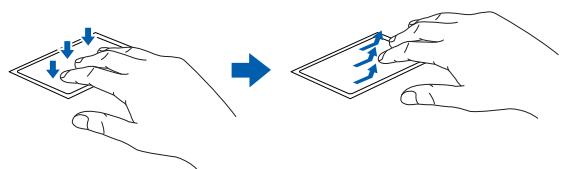


●3本指で弾く

フラットポイントの操作面に3本の指を置き、すばやくはらいます。

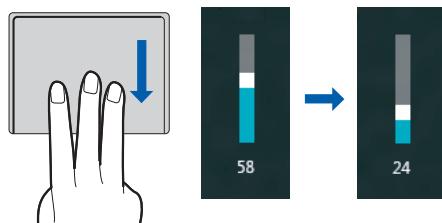
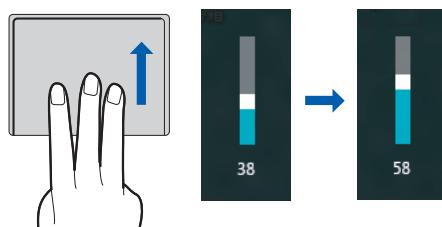
ブラウザなどを表示しているときに、右にはらうと「進む」と同様の動きをします。左にはらうと「戻る」と同様の動きをします。

うまく反応しない場合は、3本の指を少し離して操作してください。



●音量を調節する

フラットポイントの操作面に3本の指を置いて、上下になぞることで音量を調節できます。

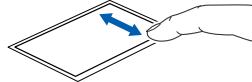


□スクロール

フラットポイントの操作面の右端や下端をなぞると画面やウィンドウのスクロールが行えます。

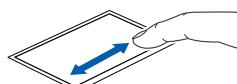
●上下にスクロールしたい場合（垂直スクロール）

フラットポイントの操作面の右端を上下になぞります。



●左右にスクロールしたい場合（水平スクロール）

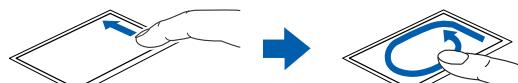
フラットポイントの操作面の下端を左右になぞります。



●ChiralScrolling（カイラルスクローリング）

1本指でのスクロールをした後に、そのままフラットポイントの操作面から指を離さずに、フラットポイント内を時計回りや反時計回りになぞると、指を動かしている間、ウィンドウ内のスクロールが続けます。

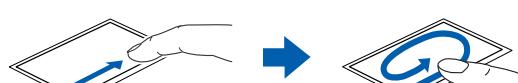
- ・上方向にスクロールし続ける場合



- ・下方向にスクロールし続ける場合



- ・右方向にスクロールし続ける場合



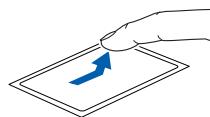
- ・左方向にスクロールし続ける場合



□ポインティング

●Momentum（モーメンタム）

フラットポイントの操作面をすばやくなぞると、しばらくの間、なぞった方向にマウスポインターが動きます。



フラットポイントの設定を変更する

□左書き用に設定する

- 1 ■を右クリックし、表示されたメニューから「コントロールパネル」をクリックします。
- 2 「ハードウェアとサウンド」▶「デバイスとプリンター」の「マウス」をクリックすると表示される「マウスのプロパティ」ウィンドウの、「ボタン」タブの設定画面から変更することができます。

□マウスポインターのデザインを変える

- 1 ■を右クリックし、表示されたメニューから「コントロールパネル」をクリックします。
- 2 「ハードウェアとサウンド」▶「デバイスとプリンター」の「マウス」をクリックすると表示される「マウスのプロパティ」ウィンドウの、「ポインター」タブの設定画面から変更することができます。

□マウスポインターの速度を変える

- 1 ■を右クリックし、表示されたメニューから「コントロールパネル」をクリックします。
- 2 「ハードウェアとサウンド」▶「デバイスとプリンター」の「マウス」をクリックすると表示される「マウスのプロパティ」ウィンドウの、「ポインター オプション」タブの設定画面から変更することができます。

□ホイールのスクロールの量を変える

- 1 ■を右クリックし、表示されたメニューから「コントロールパネル」をクリックします。
- 2 「ハードウェアとサウンド」▶「デバイスとプリンター」の「マウス」をクリックすると表示される「マウスのプロパティ」ウィンドウの、「ホイール」タブの設定画面から変更することができます。

□ フラットポイントのタッチの感度を変更する

- 1 通知領域の □ をクリックし、表示された ■ (Synaptics ポイントティングデバイス) をダブルクリックします。
「デバイス設定」ウィンドウが表示されます。
- 2 「ポインティング」をダブルクリックし、「感度」
▶ 「感度」の右にある ■ の順にクリックします。
- 3 タッチ感度の設定を変更します。
スライダーを「軽く」側に動かすとタッチ感度が上がり、「重く」側に動かすとタッチ感度が下がります。
- 4 「閉じる」▶「OK」の順にクリックします。

Point

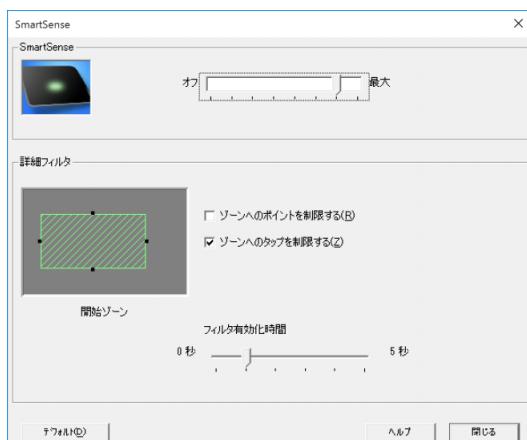
- ▶ マウスポインターが勝手に動くときは、タッチの感度を下げると改善できる場合があります。

□ フラットポイントの誤動作を軽減する

フラットポイントの誤動作を軽減する SmartSense 機能が搭載されています。

次のように調整ができます。

- 1 通知領域の □ をクリックし、表示された ■ (Synaptics ポイントティングデバイス) をダブルクリックします。
「デバイス設定」ウィンドウが表示されます。
- 2 「SmartSense」をダブルクリックします。
- 3 「SmartSense」ウィンドウが表示されたら設定を変更します。



・ SmartSense

フラットポイントの反応を制限する機能です。手のひらがフラットポイントに触れてマウスポインターが動いてしまう場合に、スライダーを「最大」の方に動かして調整してください。調整後フラットポイントが反応しにくくなったら、「オフ」の方へ戻し調整してください。

・ オフ

SmartSense による制限が無効になり、フラットポイントの反応を制限しません。

・ 最大

SmartSense による制限が最大になり、手のひらで触れても反応しにくくなります。

・ 詳細フィルタ

操作に制限をかけるフィルタを設定できます。意図せず触れてしまうことが多い部分にフィルタがかかることで、誤動作を防げます。

・ フィルタ有効化時間

いったん指を離した後、続けて操作ができる時間を設定できます。設定した時間を過ぎるとフィルタがかかり操作が制限されます。時間を短くすることで誤動作を防ぐ効果があります。

・ 開始ゾーン

緑色の開始ゾーンでは、ポイント操作とタップ操作のフィルタが無効になります。「フィルタ有効化時間」経過後にフィルタが有効になり操作できなくなっても、緑色の開始ゾーンで操作するとすぐに反応します。

黒い点をドラッグするとサイズ変更ができます。

・ ゾーンへのポイントを制限する

チェックを付けると、「フィルタ有効化時間」経過後、フィルタ有効化部分（灰色の部分）でマウスポインター操作ができなくなります。

・ ゾーンへのタップを制限する

チェックを付けると、「フィルタ有効化時間」経過後、フィルタ有効化部分（灰色の部分）でタップ操作ができなくなります。

- 4 「閉じる」▶「OK」の順にクリックします。

□シングルクリックとダブルクリックの設定を変更する

- 1 □を右クリックし、表示されたメニューから「コントロールパネル」をクリックします。
- 2 「デスクトップのカスタマイズ」▶「エクスプローラーのオプション」の順にクリックし、「全般」タブの「クリック方法」で設定を変更することができます。

フラットポイントの有効／無効の切り替え

ここでは、フラットポイントの有効／無効の切り替え方法について説明します。

Point

- ▶ フラットポイントを無効にする場合は、マウスなどで操作できるようにしておいてください。
- ▶ この設定はシャットダウンや再起動を行っても維持されます。
- ▶ サインアウトしている状態では、常に有効（フラットポイントが使える状態）になります。

■デスクトップから切り替える

- 1 □を右クリックし、表示されたメニューから「コントロールパネル」をクリックします。
- 2 「ハードウェアとサウンド」▶「デバイスとプリンター」の「マウス」の順にクリックします。
「マウスのプロパティ」ウィンドウが表示されます。

3 次の画面の操作をします。



- ① 「デバイス設定」タブをクリックします。
- ② 「Synaptics TouchPad」を選択します。
- ③ 「無効」または「有効」をクリックします。
- ④ 「OK」をクリックします。

Point

- ▶ USBマウスを接続したときにフラットポイントを無効にする場合は、⑤「USBマウス接続時に内蔵ポインティングデバイスを無効にする。」の□を☑にし、「OK」をクリックします。

■キーボードで切り替える

【Fn】+【F4】を押すと、次のようにフラットポイントの設定が切り替わります。



ディスプレイ

解像度と発色数についての注意

パソコンの画面は、パソコン本体の液晶ディスプレイの他に、次の外部ディスプレイやデジタルテレビにも表示することができます。

ここでは、アナログディスプレイとデジタルディスプレイをまとめて外部ディスプレイと呼びます。

■接続できるディスプレイ

- パソコン本体のアナログ RGB コネクタに接続したアナログディスプレイ（アナログ RGB コネクタ搭載機種のみ）
- パソコン本体の HDMI 出力端子に接続したデジタルテレビやデジタルディスプレイ

Point

- ▶ 本パソコンに接続したアナログディスプレイでは、著作権保護されたDVDの視聴はできません。

■注意事項

ディスプレイにパソコンの画面を表示するときは、次の点に注意してください。

- アプリによっては、解像度の設定により、正常に動作しないことがあります。アプリの動作環境を確認し、解像度を変更してください。
- 外部ディスプレイやデジタルテレビで表示できる解像度は、ディスプレイによって異なります。外部ディスプレイやデジタルテレビのマニュアルでご確認ください。
- 同時表示を選択した場合の解像度は、パソコン本体の液晶ディスプレイまたは接続した外部ディスプレイやデジタルテレビの、どちらかの表示解像度の小さい方になります。
- 解像度を切り替えるときなどに、一時的に表示画面が乱れることがありますが、故障ではありません。
- 同時表示時に、外部ディスプレイやデジタルテレビの画面が正しく表示されないことがあります。
- 解像度と発色数は、「外部ディスプレイやデジタルテレビに表示できる解像度と発色数」(→ P.141) の表の組み合わせ以外には設定しないでください。
- 画面の解像度、およびリフレッシュレートを変更するときは、起動中のアプリや常駐しているプログラムを終了させてください。また、変更後は必ずパソコンを再起動してください。

- HDMI 出力端子で出力した場合、出力先の外部ディスプレイやデジタルテレビでは画面の端が一部欠けることがあります。このような場合は、外部ディスプレイやデジタルテレビ側で設定を「ドットバイドット表示」などに変更してください。詳しくは、お使いの外部ディスプレイやデジタルテレビのマニュアルをご覧ください。

パソコン本体の液晶ディスプレイに表示できる解像度と発色数

パソコン本体の液晶ディスプレイに表示できる解像度と発色数は、次のとおりです。

| 解像度（ピクセル） | 発色数 ^{〔注〕} |
|-----------|--------------------|
| 1024×768 | 約 1677 万色 |
| 1280×720 | |
| 1280×800 | |
| 1280×1024 | |
| 1360×768 | |
| 1366×768 | |
| 1440×900 | |
| 1600×900 | |
| 1600×1200 | |
| 1680×1050 | |
| 1920×1080 | |
| 1920×1200 | |
| 1920×1440 | |
| 2560×1440 | |

注 擬似的に色を表示するディザリング機能を利用

外部ディスプレイやデジタルテレビの接続

■外部ディスプレイやデジタルテレビを接続すること

- パソコン本体に外部ディスプレイやデジタルテレビを接続することで、次のことができます。
- 表示するディスプレイを切り替える。
 - 2つのディスプレイに同時に表示する。
 - 2つのディスプレイで1つのデスクトップを表示する（マルチモニター機能）。
 - 接続したデジタルテレビやディスプレイで音声を出力する。

ここでは、外部ディスプレイやデジタルテレビを接続する手順について説明しています。

Point

- ▶ HDMI出力端子に接続したデジタルテレビやディスプレイで音声を出力するには、設定が必要な場合があります（HDMI出力端子搭載機種のみ）（→P.150）。

■必要なものを用意する

□外部ディスプレイやデジタルテレビ

外部ディスプレイやデジタルテレビによって接続するコネクタや接続方法が異なります。それぞれ次のコネクタなどに接続します。接続するときは、必ず外部ディスプレイやデジタルテレビのマニュアルもご覧ください。

●アナログディスプレイを接続する場合

アナログRGBコネクタに接続します。

Point

- ▶ 本パソコンに接続したアナログディスプレイでは、著作権保護されたDVDの視聴はできません。

●デジタルテレビやデジタルディスプレイでHDMI対応のものを接続する場合

HDMI出力端子に接続します。

□ケーブル

外部ディスプレイやデジタルテレビとパソコンを接続するケーブルです。

●ディスプレイケーブル

アナログRGBコネクタとの接続時に使用します。

●HDMIケーブル

HDMI出力端子との接続時に使用します。

□外部ディスプレイやデジタルテレビのマニュアル

外部ディスプレイやデジタルテレビにより接続方法が異なります。必ず外部ディスプレイやデジタルテレビのマニュアルもご覧ください。

■外部ディスプレイやデジタルテレビを接続する

⚠ 警告



- 外部ディスプレイやデジタルテレビの接続／取り外しを行う場合は、必ずパソコン本体の電源を切り、ACアダプタを取り外してください。
感電の原因となります。

1 パソコン本体の電源を切り、ACアダプタを取り外します。

2 パソコン本体にケーブルを接続します。

接続するコネクタにより使用するケーブルの種類が異なります。詳しくは、「必要なものを用意する」（→P.140）をご覧ください。

また、コネクタの場所については、「各部の名称と働き」（→P.77）をご覧ください。

3 外部ディスプレイやデジタルテレビにケーブルのもう一方のコネクタを接続します。

接続方法は、外部ディスプレイやデジタルテレビのマニュアルをご覧ください。

4 外部ディスプレイやデジタルテレビの電源ケーブルを接続して、電源を入れます。

5 パソコン本体にACアダプタを取り付け、電源を入れます。

必要に応じて、表示するディスプレイを切り替えます。

外部ディスプレイやデジタルテレビ接続後、「新しいハードウェアの追加ウィザード」ウィンドウが表示された場合は、次のように対応してください。

●外部ディスプレイやデジタルテレビにCD-ROMなどで必要なファイルが添付されていることがあります。この場合は、添付のマニュアルをご覧になり、必要なファイルをインストールしてください。

Point

- ▶ 外部ディスプレイやデジタルテレビを接続後、接続したディスプレイのみに表示する設定にしても、接続するディスプレイによっては、パソコン本体の液晶ディスプレイと接続したディスプレイの両方に画面が表示されることがあります。必要に応じて、表示するディスプレイを切り替えてください。
- ▶ パソコン本体の液晶ディスプレイや接続した外部ディスプレイやデジタルテレビに、パソコンの画面を表示するときの画面の解像度については、「解像度と発色数についての注意」(→ P.139)をご覧ください。

外部ディスプレイやデジタルテレビに表示できる解像度と発色数

■外部ディスプレイやデジタルテレビのみ表示する場合

接続した外部ディスプレイやデジタルテレビがサポートしている次の解像度を表示できます。
外部ディスプレイがこの解像度をサポートしているかどうかは、お使いの外部ディスプレイのマニュアルをご覧ください。

| 解像度（ピクセル） <small>〔注1〕</small> | 発色数 |
|------------------------------------|-----------|
| 1024×768 | |
| 1280×720 | |
| 1280×800 | |
| 1280×1024 | |
| 1360×768 | |
| 1366×768 | |
| 1440×900 | |
| 1600×900 | |
| 1600×1200 | |
| 1680×1050 | |
| 1920×1080 | |
| 1920×1200 <small>〔注2〕</small> | 約 1677 万色 |
| 1920×1440 <small>〔注3〕</small> | |
| 2560×1440 <small>〔注3〕</small> | |
| 2560×1600 <small>〔注3〕</small> | |
| 3840×2160 <small>〔注3〕 〔注4〕</small> | |
| 4096×2160 <small>〔注3〕 〔注5〕</small> | |

注 1 接続した外部ディスプレイやデジタルテレビの解像度より大きい解像度の場合は表示できません。

注 2 アナログ RGB 出力の場合、最大サポート解像度は 1920×1200 ドット、60Hz(CVT RB:Coordinated Video Timings Reduced Blanking) です。
お使いのディスプレイがアナログ RGB 入力での 1920×1200 ドット表示を CVT RB で対応していれば選択できますが、CVT RB ではなく、Standard Timings で対応している場合には選択できず、1920×1080、1680×1050 などの解像度が選択可能な解像度になります。

注 3 デジタルディスプレイやデジタルテレビを接続した場合に表示できます。

注 4 リフレッシュレートは 30Hz になります。

注 5 リフレッシュレートは 24Hz になります。

■同時表示の場合



●パソコン本体の液晶ディスプレイと外部ディスプレいやデジタルテレビに同時に表示する場合は、表示するディスプレイを次のように設定してください。

- ・パソコン本体の液晶ディスプレイ

　メインディスプレイ（またはプライマリデバイス）：内蔵ディスプレイ（またはノートブック、Notebook）

- ・外部ディスプレいやデジタルテレビ

　2番目のディスプレイ（またはセカンダリデバイス）：PCモニター[ディスプレイ型名]（またはPCモニタ）
　デジタルテレビ [ディスプレイ型名]

●次のすべてで一致した解像度が表示できます。

- ・パソコン本体の液晶ディスプレイに表示できる解像度

「パソコン本体の液晶ディスプレイに表示できる解像度と発色数」(→ P.139)

- ・接続した外部ディスプレいやデジタルテレビに表示できる解像度

「外部ディスプレいやデジタルテレビに表示できる解像度と発色数」(→ P.141)

- ・接続した外部ディスプレいやデジタルテレビがサポートしている解像度

外部ディスプレいやデジタルテレビのマニュアルをご覧ください。

■マルチモニターの場合



●マルチモニター機能をお使いになるときは、表示するディスプレイを次のように設定してください。

- ・パソコン本体の液晶ディスプレイ

　メインディスプレイ（またはプライマリデバイス）：内蔵ディスプレイ（またはノートブック、Notebook）

- ・外部ディスプレいやデジタルテレビ

　2番目のディスプレイ（またはセカンダリデバイス）：PCモニター[ディスプレイ型名]（またはPCモニタ）
　デジタルテレビ [ディスプレイ型名]

お使いのディスプレイなどに表示できるそれぞれの解像度で表示できます。

画面の解像度の変更

ここでは、ディスプレイにパソコンの画面を表示するときの、画面の解像度を変更する方法について説明しています。

重要

▶ 設定変更時の画面表示の乱れについて

解像度を変更するときに一時的に画面表示が乱れることがあります。故障ではありません。

1 □▶⚙(設定)▶「システム」▶画面左側の「ディスプレイ」▶画面右側下部の「ディスプレイの詳細設定」の順にクリックします。

「ディスプレイの詳細設定」ウィンドウが表示されます。

2 解像度を変更します。

①「解像度」のをクリックし、変更したい解像度を選択します。



(これ以降の画面は機種や状況により異なります)

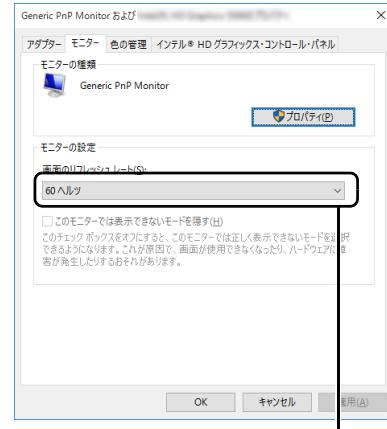
接続した外部ディスプレイやデジタルテレビの解像度を変更したい場合は、②でディスプレイを選んでから設定してください。設定可能な解像度は外部ディスプレイやデジタルテレビのマニュアルをご覧ください。

3 「適用」をクリックします。

設定を確認するメッセージが表示されたら、「変更の維持」をクリックします。

■リフレッシュレートの変更

- 1.「ディスプレイの詳細設定」ウィンドウで画面下部の「アダプターのプロパティの表示」をクリックし、表示されたウィンドウで「モニター」タブをクリックします。
- 2.リフレッシュレートのをクリックし、表示されるメニューからリフレッシュレートを変更します。



をクリックして選びます。

3.「適用」をクリックします。

設定を確認するウィンドウが表示されたら、「変更を維持する」をクリックし、「OK」をクリックします。

表示するディスプレイの切り替え

このパソコンに外部ディスプレイやデジタルテレビなどを接続した場合に、表示するディスプレイを切り替えることができます。

ここでは、切り替え方法について説明しています。

■ディスプレイの表示について

ディスプレイの表示は、次のように切り替えることができます。なお、お使いのパソコンにより搭載されているコネクタが異なります。

●1つのディスプレイで表示する

●2つのディスプレイで同時に表示する



●2つのディスプレイで1つのデスクトップを表示する



2つのディスプレイで1つのデスクトップを表示する方法については、「マルチモニター機能を使う」(→ P.145) をご覧ください。

重要

- 動画再生中に、表示するディスプレイを切り替えないでください。

Point

- HDMI 出力端子に接続したデジタルテレビや外部ディスプレイには、BIOS セットアップの画面を表示することはできません。
- Windowsが起動すると、表示されるディスプレイは、前回 Windows で使用していた状態になります。
ただし、外部ディスプレイが接続されていない場合や、プラグアンドプレイに対応していないディスプレイが接続されている場合は、パソコン本体の液晶ディスプレイのみの表示になります。
- お使いのテレビによってはテレビの解像度がパソコン本体の液晶ディスプレイよりも低いため、鮮明に表示できない場合があります。

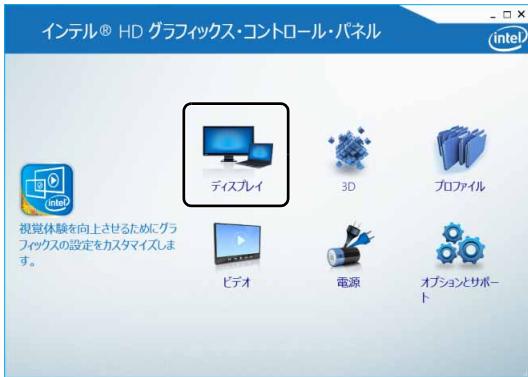
■デスクトップから切り替える

Point

- 外部ディスプレイによって対応している解像度や走査周波数が異なるため、正常に表示されないことがあります。状況に応じて次の操作を行ってください。
 - 何も表示されない場合
何も操作しないでお待ちください。10秒ほどで表示先がパソコン本体の液晶ディスプレイに戻ります。表示先がパソコン本体の液晶ディスプレイに戻らないときは、[Windows] + [P] を押して、表示先を切り替えてください。
 - 正常に表示されない場合
外部ディスプレイのマニュアルで外部ディスプレイが対応している解像度や走査周波数を確認し、設定を変更してください。

- 1 デスクトップの何もないところを右クリックし、表示されるメニューから「インテル® グラフィックスの設定」をクリックします。
「インテル® HDグラフィックス・コントロール・パネル」ウィンドウが表示されます。

2 「ディスプレイ」をクリックします。



(これ以降の画面は機種や状況により異なります)

3 「マルチ・ディスプレイ」をクリックします。



4 表示するディスプレイを選択します。

■ 1 つのディスプレイで表示する場合

「ディスプレイ・モードの選択」の「シングル・ディスプレイ」をクリックした後、「アクティブ・ディスプレイの選択」の ▾ をクリックし、表示するディスプレイを選択します。



■ 2 つのディスプレイで同時に表示する場合

「ディスプレイ・モードの選択」の「クローン・ディスプレイ」をクリックした後、「アクティブ・ディスプレイの選択」の ▾ をクリックし、表示するディスプレイを選択します。このとき、最上段は「内蔵ディスプレイ」に設定してください。



5 「適用」をクリックします。

「適用」をクリックすると、画面にメッセージが表示されることがあります。この場合は画面の指示に従って操作してください。

6 画面右上の X をクリックし、すべてのウィンドウを閉じます。

■ マルチモニター機能を使う

このパソコンには、パソコン本体の液晶ディスプレイと接続したディスプレイを使用して、2つのディスプレイで1つのデスクトップを表示できる「マルチモニター機能」があります。

□ マルチモニター機能をお使いになるうえでの注意

- マルチモニター機能をお使いになる前に、使用中のアプリを終了してください。
- マルチモニター機能をお使いになるときは、パソコン本体の液晶ディスプレイを主ディスプレイ（プライマリデバイス）、接続したディスプレイを2番目のディスプレイ（セカンダリデバイス）に設定してください。

●マルチモニター機能の使用中のご注意

- ・2つのディスプレイにまたがるウィンドウがある場合は、表示するディスプレイの設定を変更しないでください。
- ・2番目のディスプレイ（セカンダリデバイス）のみに表示されているアプリを起動中に、2番目のディスプレイ（セカンダリデバイス）の使用を終了しないでください。アプリおよびWindowsの動作が不安定になり、データが保存されないことがあります。

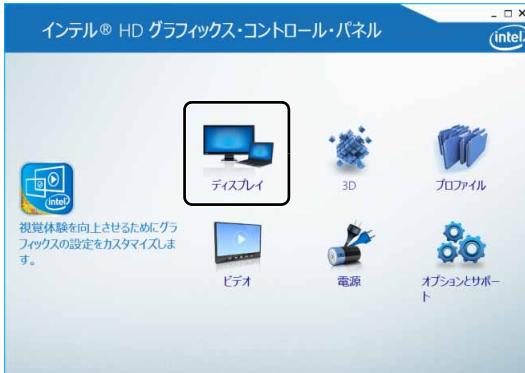
●主ディスプレイ（プライマリデバイス）のみで表示されるもの

- ・パソコン本体の液晶ディスプレイの全画面表示
- ・一部のスクリーンセーバー
- ・動画再生画面の全画面表示
- ・アクセラレーター機能を使用しての動画再生画面

1 デスクトップの何もないところを右クリックし、表示されるメニューから「インテル® グラフィックスの設定」をクリックします。

「インテル® HDグラフィックス・コントロール・パネル」ウィンドウが表示されます。

2 「ディスプレイ」をクリックします。



(これ以降の画面は機種や状況により異なります)

3 「マルチ・ディスプレイ」をクリックします。



4 次の画面の操作をします。



① 「ディスプレイ・モードの選択」の「拡張デスクトップ」をクリックします。

② 「アクティブ・ディスプレイの選択」の▼をクリックし、表示するディスプレイを選択します。主ディスプレイは内蔵ディスプレイに設定してください。

③ 「ディスプレイの配置」でそれぞれのディスプレイを表示したい位置にドラッグします。

5 「適用」をクリックします。

「適用」をクリックすると、画面にメッセージが表示されることがあります。画面の指示に従って操作してください。

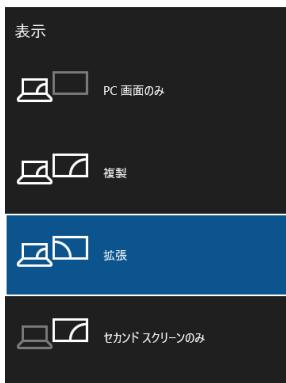
6 画面右上の×をクリックし、すべてのウィンドウを閉じます。

Point

- 各ディスプレイの解像度やリフレッシュレートなどの詳細な設定は、ウィンドウ左の「一般設定」をクリックして表示される設定項目から変更することができます。
- 手順4の「ディスプレイの配置」により、ディスプレイ間の項目の移動方法が決定されます。ディスプレイ間で項目を左右にドラッグして移動させたい場合はイラストを横に並べて配置し、項目を上下にドラッグして移動させたい場合はイラストを縦に並べて配置します。
なお、イラストの位置をディスプレイの物理的な配置と対応させる必要はありません。実際にディスプレイが横に並んでいても、イラストは上下に並べて配置できます。

■キーボードで切り替える

キーボードで表示する画面を切り替えるには、**[F4]** + **[P]** を押し、カーソルキーで表示方法を選んで、**[Enter]** を押してください。



Point

- プラグアンドプレイに対応していない外部ディスプレイの場合、キーボードで切り替えることはできません。「デスクトップから切り替える」(→ P.144) をご覧ください。
- キーボードで切り替える場合には、拡張表示のメインディスプレイの変更はできません。メインディスプレイは、自動的に以前に設定したディスプレイになります。

ディスプレイ省電テクノロジー設定

このパソコンには、見た目の画質を維持したままバッテリの省電力をを行い、バッテリ駆動時間を延ばす「ディスプレイ省電テクノロジー」機能があります。

■ディスプレイ省電テクノロジーをお使いになるうえでの注意

- バッテリ駆動時のみ動作します。
- ご購入時は次のように設定されています。
 - ・ディスプレイ省電テクノロジー機能：「有効」
 - ・レベル：「最長バッテリー駆動時間」
- ディスプレイ省電テクノロジー機能が動作しているときは、次のように表示される場合がありますが、故障ではありません。
 - ・表示している画像を切り替えたときに画面の明るさや色調が徐々に変更される。
 - ・画像のグラデーション部分に段差が見える。

■ディスプレイ省電テクノロジー機能を設定する

- 1 デスクトップの何もないところで右クリックし、表示されるメニューから「インテル® グラフィックスの設定」をクリックします。
「インテル® HD グラフィックス・コントロール・パネル」ウィンドウが表示されます。
- 2 「電源」をクリックします。
- 3 「バッテリー駆動」をクリックします。
- 4 「ディスプレイ省電テクノロジー」を設定します。
 - ・動作させる場合は、「有効」をクリックし、動作レベルのバーを設定します。
バーを左に設定するほど画質が優先され、バーを右に設定するほどバッテリ駆動時間が優先される設定になります。
 - ・動作させない場合は、「無効」をクリックするか、「最高画質」に設定します。

- 5 「適用」をクリックします。

「適用」をクリックすると、画面にメッセージが表示されることがあります。この場合は、画面の指示に従って操作してください。

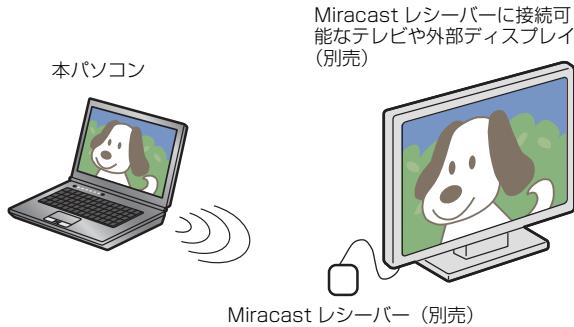
- 6 画面右上の X をクリックし、すべてのウィンドウを閉じます。

Miracast を使う

ここでは、Miracast を使うために必要なものや、接続方法について説明しています。

■Miracast とは

Miracast（ミラキャスト）とは、このパソコンに搭載されている無線 LAN 機能を利用して、パソコンの画面やパソコンに保存している動画などをワイヤレスでテレビや外部ディスプレイに表示する機能です。



■お使いになるうえでの注意

●Miracastをお使いになるには、本パソコンの他に次のものが必要です。

- ・別売の Miracast レシーバー
- ・Miracast レシーバーに接続可能な、別売のテレビや外部ディスプレイ
- Miracast レシーバーに添付されているマニュアルをご覧になり、対応したものをご用意ください。

●同時に使用できるディスプレイは、パソコン本体の液晶ディスプレイと、Miracast で表示しているディスプレイの 2 つまでです。

●BIOS セットアップの画面、Windows 起動中の画面、省電力モードからの復帰中の画面、およびシャットダウン中の画面はテレビや外部ディスプレイに表示できません。

●Miracast で接続すると、音声は接続したテレビや外部ディスプレイからの出力に切り替わります。

●Miracast で表示した画面では、マウスカーソルやウィンドウの移動、入力した文字などの表示には遅延が生じます。

●動画コンテンツを表示する場合、再生する映像によっては、パソコンの画面やスピーカーで再生する場合に比べて画質や音質が低下し、なめらかな映像が視聴できない場合があります。

特に、AVCHD 形式の動画などは、映像再生の負荷が高いため、映像が乱れたり音声が途切れたりする場合があります。

●ご利用の Miracast レシーバー(別売)によっては、著作権保護機能が使用されている動画を再生するときに、アダプターのアップデートが必要になる場合があります。

●高ビットレートの動画を再生すると、なめらかに再生されない場合があります。

●Miracast は無線 LAN を使用するため、ご利用環境によっては、通信速度の低下や通信不能が原因でテレビや外部ディスプレイに画面が表示されない場合があります。無線 LAN について詳しくは、「無線 LAN」(→ P.156) をご覧ください。

●Miracast は無線 LAN を使用しますが、Web サイト閲覧など、通常のインターネット接続と同時にご利用いただけます。

●Miracast と無線 LAN でのインターネット接続を同時に使いになる場合は、無線 LAN アクセスポイントとの接続を完了させてから、Miracast の接続を行ってください。

●無線 LAN の電波を停止している場合は、Miracast をお使いになることができません。

■Miracast を使う

1 テレビや外部ディスプレイに、別売の Miracast レシーバーを接続します。

接続方法については、お使いのテレビや外部ディスプレイと、Miracast レシーバーのマニュアルをご覧ください。

2 通知領域の□をクリックします。

3 「アクションセンター」が表示されたら、「接続」をクリックします。

1 列しか機能が表示されていないときは、「展開」をクリックするとすべての機能が表示されます。「折りたたむ」をクリックすると1列のみ表示になります。

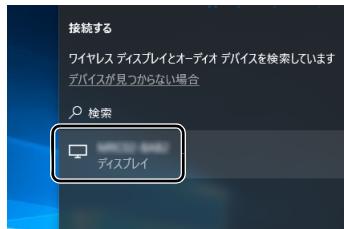


(画面は機種や状況により異なります)

この後は、状況により操作が異なります。お使いの状況にあわせてご覧ください。

□接続方法

1 接続対象のMiracastレシーバーをクリックします。



接続対象のディスプレイに画面が表示されます。

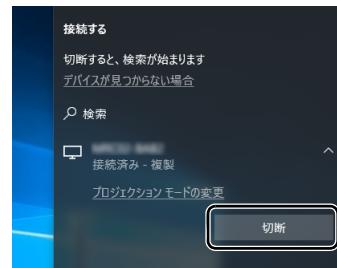


- ▶ Miracastレシーバーの種類によっては、暗証番号の入力が必要な場合があります。

□切断方法

1 通知領域の□をクリックし、「接続」をクリックします。

2 「切断」をクリックします。



表示されていた接続先ディスプレイの画面が消えます。



- ▶ 表示するディスプレイを切り替えるときは **[Win] + [P]** を押します。2つのキーを押すごとに、「複製（パソコン本体の液晶ディスプレイと外部ディスプレイの同時表示）→拡張（パソコン本体の液晶ディスプレイと外部ディスプレイのマルチモニター表示）→プロジェクターのみ（外部ディスプレイ表示）…」の順でディスプレイ表示方法を選ぶことができます。

なお、テレビや外部ディスプレイに表示できる解像度と発色数については、「外部ディスプレイやデジタルテレビに表示できる解像度と発色数」（→ P.141）をご覧ください。

サウンド

再生時／録音時のサウンドを調節する

このパソコンのサウンドを調節するときは、スピーカーから聞こえる音がひずまない範囲に設定・調整してください。スピーカーが故障する原因となる場合があります。

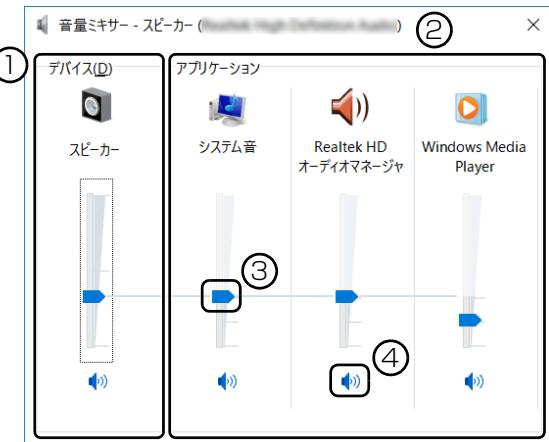


- お使いの環境によっては、ヘッドホンまたはヘッドセットをご利用ください。

■デスクトップアプリごとに音量を調節する

デスクトップアプリは「音量ミキサー」ウィンドウでアプリごとに音量を調節できます（一部のデスクトップアプリには個別に調節できないものもあります）。

- 音量を調節したいデスクトップアプリを起動します。
- を右クリックし、表示されたメニューから「コントロールパネル」をクリックします。
- 「ハードウェアとサウンド」▶「サウンド」の「システム音量の調整」の順にクリックします。「音量ミキサー」ウィンドウが表示されます。
- 「アプリケーション」の一覧で、音量の設定を変更したいアプリの③スライダーを上下にドラッグして、適切な音量に調節します。



（画面は機種や状況により異なります）

- このパソコンのスピーカーから出る音量です。通知領域の□で設定した音量と同じです。
- 起動しているデスクトップアプリごとに音量を調節できます。「デバイス」に設定した音量が最大値になります。

- 下にドラッグすると音が小さく、上にドラッグすると音が大きくなります。
- ここをクリックして➡にすると音が消えます。もう一度クリックして➡にすると元の音量に戻ります。

- ×をクリックします。

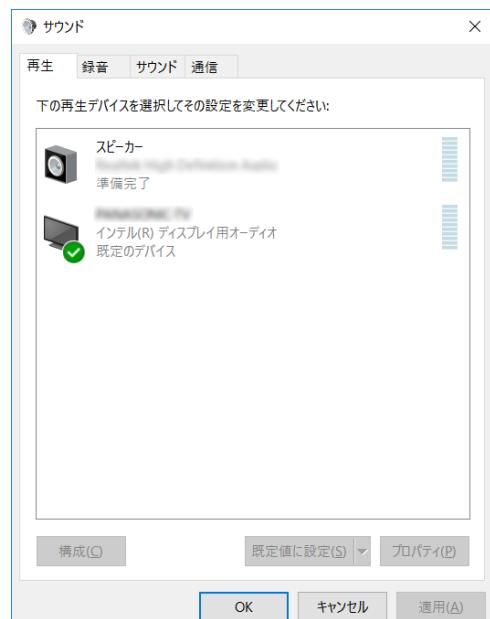
「音量ミキサー」ウィンドウが閉じます。

■再生や録音する機器ごとに音量を調節する

□再生や録音する機器を選択する

このパソコンで音声を再生したり録音したりするときに、音声の出力先を選択することができます。

- を右クリックし、表示されたメニューから「コントロールパネル」をクリックします。
- 「ハードウェアとサウンド」▶「サウンド」の順にクリックします。「サウンド」ウィンドウが表示されます。
- 「再生」タブや「録音」タブで機器を選択し、「既定値に設定」をクリックします。



（画面は機種や状況により異なります）

選択した機器にチェックマークが付きます。

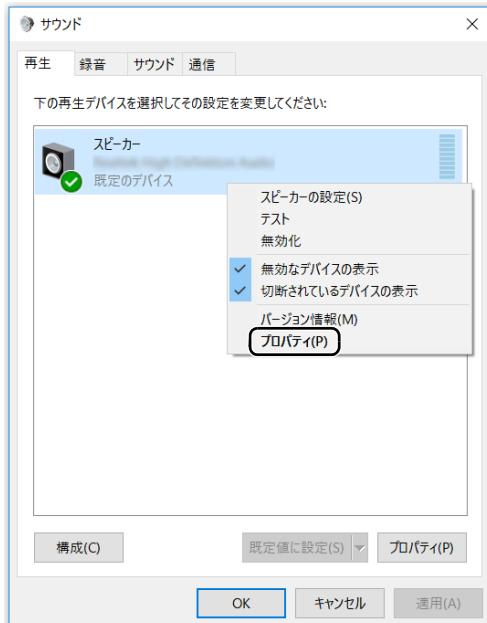
- 「OK」をクリックします。

「サウンド」ウィンドウが閉じます。

□再生する機器の音量を調節する

ここでは、例としてスピーカーの音量を調節する方法を説明します。

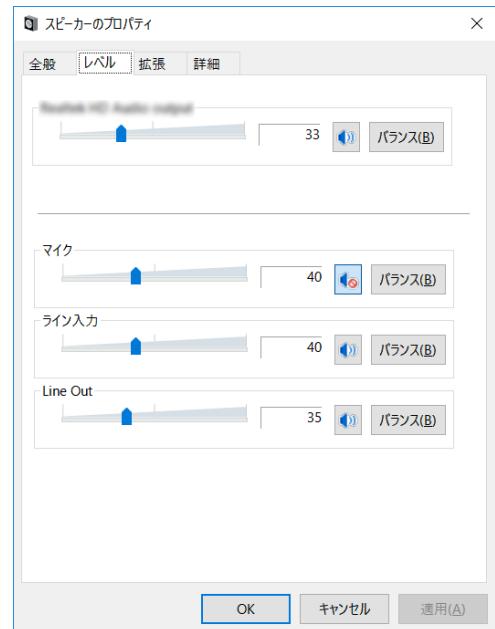
- 1 □を右クリックし、表示されたメニューから「コントロールパネル」をクリックします。
- 2 「ハードウェアとサウンド」▶「サウンド」の順にクリックします。
「サウンド」ウィンドウが表示されます。
- 3 「再生」タブの「スピーカー」を右クリックし、表示されるメニューから「プロパティ」をクリックします。



「スピーカーのプロパティ」ウィンドウが表示されます。

- 4 「レベル」タブをクリックします。

- 5 音量を調節したい項目で、スライダーを左右にドラッグして、適切な音量に調節します。



- ・ : スピーカーから音が聞こえます。
- ・ : スピーカーから音が聞こえません（ミュートになっています）。
- ・「バランス」：左右の音量のバランスを調節できます。

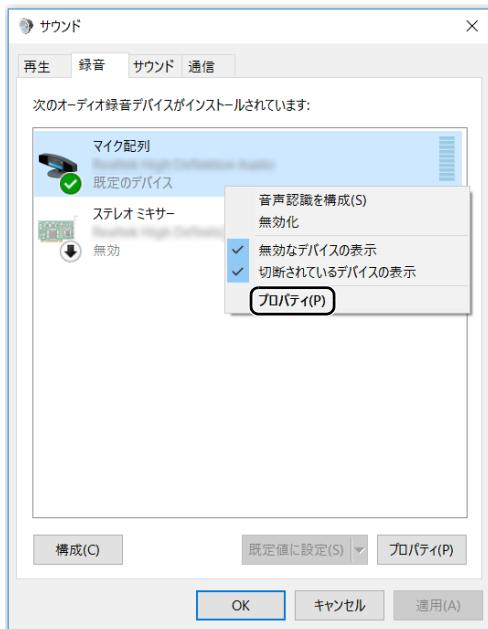
- 6 「OK」をクリックします。
「スピーカーのプロパティ」ウィンドウが閉じます。
- 7 「OK」をクリックします。
「サウンド」ウィンドウが閉じます。

□録音する機器の音量を調節する

ここでは、例としてマイクの音量を調節する方法を説明します。

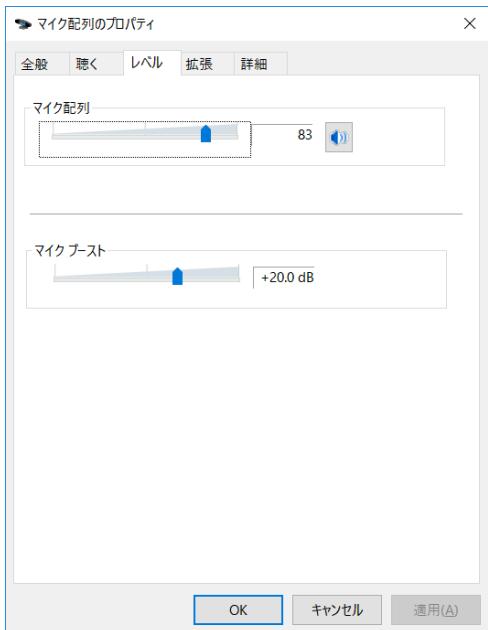
- 1 □を右クリックし、表示されたメニューから「コントロールパネル」をクリックします。
- 2 「ハードウェアとサウンド」▶「サウンド」の順にクリックします。
「サウンド」ウィンドウが表示されます。

- 3 「録音」タブの「マイク」を右クリックし、表示されるメニューから「プロパティ」をクリックします。



(これ以降の画面は機種や状況により異なります)

- 「マイクのプロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 4 「レベル」タブをクリックします。
- 5 音量を調節したい項目で、スライダーを左右にドラッグして、適切な音量に調節します。



- マイクで録音します。
- マイクで録音しないようにします。

- 6 「OK」をクリックします。

「マイクのプロパティ」ウィンドウが閉じます。

- 7 「OK」をクリックします。

「サウンド」ウィンドウが閉じます。

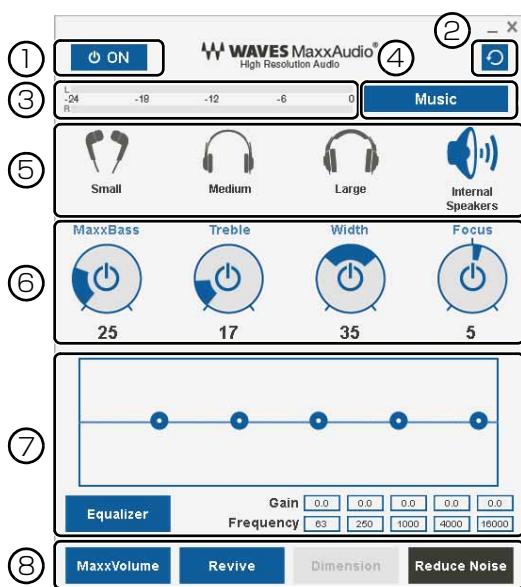
■スピーカーの音質を調節する

パソコンに内蔵されているスピーカーの音質を、より詳細に調節することで、クリアで広がりのあるステレオ感や、重厚感のある低音を実現します。

重要

- Waves MaxxAudio の音質の調節は、内蔵スピーカーとヘッドホンが対象となります。
- お使いの機種や状況によって、調節できない項目もあります。
- サンプルレートを 192000Hz に設定する場合は、192000Hz の音源を忠実に再生するためには、Waves MaxxAudio を OFF にしてお使いください。

- 1 □を右クリックし、表示されたメニューから「コントロールパネル」をクリックします。
- 2 「ハードウェアとサウンド」▶「Waves MaxxAudio」の順にクリックします。
- 3 好みの音質になるように、設定を変更します。



- ① MaxxAudio機能のON／OFFを切り替えます。
- ② 各設定を初期値に戻します。
- ③ レベル・メーター
- ④ 「Music」「Movie」からコンテンツのジャンルを選択できます。
- ⑤ ヘッドホンを使用するときは、「Small」「Medium」「Large」から選択します。
内蔵スピーカーを使用するときは「Internal Speakers」が選択されています。
ここで選択した出力デバイスと④のコンテンツのジャンルの組み合わせごとに音質を調節できます。
- ⑥ ドラッグして青い部分を増減させ、各種音質の調節ができます。
 - MaxBass 音響心理学に基づいた倍音再生技術により、低音を充分感じ取れるようにします。
 - Treble 高域の小さな音は大きくして聞き取りやすくする一方、高域の大きな音はやかましくならないよう一定レベル以下に抑えます。
 - Width 左右スピーカーの向く角度だけを擬似的に変えて、ステレオ感を広げます。ヘッドホン使用時はOFFになります。
 - Focus 映画のセリフなどを強調し、聞き取りやすくなります。
- ⑦ Equalizer
 - をドラッグすることで、好みの周波数特性を設定できます。
「Gain」と「Frequency」の5つの入力欄に直接数値を入力して設定することも可能です。
「Equalizer」ボタンをクリックしてグレーになると、この機能のみOFFになります。

- ⑧ 各機能のON／OFFを切り替えます。ONのときは青、OFFのときは濃いグレーになります。
 - MaxxVolume ONのときは音声レベルを監視し、大きな信号は歪まないように抑え、小さな信号は聞きやすいように大きくします。
 - Revive mp3等の低ビットレート・ソースで失われがちな音を復元することで音質を改善します。この機能はサンプルレートを96000Hz以上に設定すると音質を損ないます。サンプルレートを96000Hz以上に設定する場合は、Waves MaxxAudioをOFFにしてお使いください。
 - Dimension ヘッドホン使用時、スピーカーで聞いているような自然な広がりのステレオ感を得られます。スピーカー使用時はONが選択できません。
 - Reduce Noise 背景から聞こえる定常的なノイズを除去します。通常はOFFでお使いください。この機能はサンプルレートを96000Hz以上に設定すると音質を損ないます。サンプルレートを96000Hz以上に設定する場合は、Waves MaxxAudioをOFFにしてお使いください。

兼用端子の機能切り替え

お使いの機種に搭載されている兼用端子は、複数の機能を兼用しています。必要に応じて機能の切り替えを行ってください。

オーディオの入出力端子の種類と場所については、「各部の名称と働き」(→ P.77)をご覧ください。

ご購入時の端子は次のように機能します。

- マイク・ラインイン・ヘッドホン・ラインアウト・ヘッドセット兼用端子：ヘッドホン

設定を変更するには、次の手順を行ってください。

重要

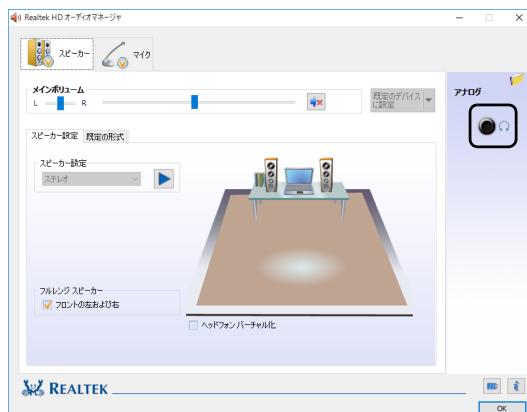
- ▶ 次の端子に機器を接続するときは、接続した機器の音量を小さくするか、出力を停止してください。
 - ・マイク・ラインイン・ヘッドホン・ラインアウト・ヘッドセット兼用端子

1 機能を切り替えたい端子に外径 3.5mm のミニプラグに対応した機器を接続します。

機器を接続していないときは、切り替えられません。

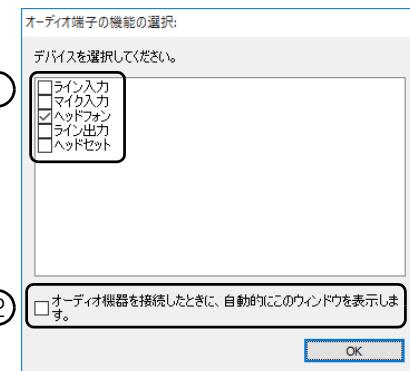
2 通知領域の ▲ をクリックし、◀ (Realtek HD オーディオマネージャ) を右クリックし、「サウンドマネージャ」をクリックします。

3 「Realtek HD オーディオマネージャ」ウィンドウが表示されたら、切り替えたい端子のアイコンをダブルクリックします。



(これ以降の画面は機種や状況により異なります)

4 「オーディオ端子の機能の選択：」ウィンドウが表示されたら、①使用するデバイスをクリックして にします。



機種や状況により、表示される項目は異なります。

・「ヘッドフォン」：ヘッドホン出力として動作します。

内蔵スピーカーから音が出なくなります。

・「ライン出力」：ライン出力として動作します。内蔵スピーカーからも音が出ます。

・「マイク入力」：マイク入力として動作します。

・「ライン入力」：ライン入力として動作します。

・「ヘッドセット」：マイク入力、およびヘッドホン出力として動作します。

内蔵スピーカーから音が出なくなります。

Point

②をクリックすると、各端子に機器を接続したときに、「オーディオ端子の機能の選択：」ウィンドウが自動的に表示されるか、されないかを切り替えることができます。

：自動的に表示されます。

：自動的に表示されません。

5 「OK」をクリックし、すべてのウィンドウを閉じます。

重要

- ▶ インターネットに接続すると、コンピューター ウィルスや不正アクセスなどさまざまな脅威にさらされます。必ずセキュリティ対策をしてください。
- 新たな脅威を防いでパソコンを安全に使うため、パソコンを最新の状態にアップデートしてください。またセキュリティソフトも最新の状態にしてお使いください。

有線 LAN

ここでは、LAN（有線 LAN）を使うために必要となるものや LAN ケーブルの接続方法、ネットワークの設定方法について説明しています。

無線 LAN をお使いになる場合には、「無線 LAN」(→ P.156) をご覧ください。

■必要なものを用意する

LAN を利用してインターネットに接続するには、次のような機器が必要です。

●ネットワーク機器

ネットワーク接続の目的に合わせて、このパソコンで使える LAN のスピードを確認してから必要なものをご用意ください。ネットワーク機器には次のようなものがあります。

- ・ダイヤルアップルーター
- ・ブロードバンドルーター
- ・ブロードバンドモデム
- ・ハブ

●LAN ケーブル

ストレートタイプとクロスタイプがあります。また、お使いになるネットワークのスピードに合ったものが必要です。接続するネットワーク機器のマニュアルをご覧になり、必要なものをご用意ください。

●ネットワーク機器のマニュアル

お使いになるネットワーク機器によって、接続や設定の方法が異なります。必ずネットワーク機器のマニュアルや、プロバイダーや回線事業者から提供されるマニュアルもご覧ください。

■LAN ケーブルを接続する

⚠ 警告



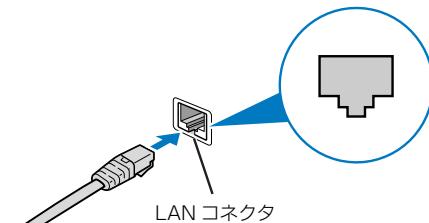
- 雷が鳴り出したときは、落雷の可能性がなくなるまでパソコン本体やケーブル類に触れないでください。ケーブル類の接続作業は、落雷の可能性がなくなるまで行わないでください。
落雷の可能性がある場合は、あらかじめパソコン本体の電源を切り、その後電源ケーブルをコンセントから抜き、ケーブル類を取り外しておいてください。
落雷による感電、火災の原因となります。

⚠ 注意



- LAN コネクタに指などを入れないでください。
感電の原因となることがあります。
- LAN ケーブルを接続する場合は、必ず LAN コネクタに接続してください。
接続するコネクタを間違えると、故障の原因となることがあります。

- 1 LAN コネクタに、LAN ケーブルの一方を接続し、もう一方を、お使いになるネットワーク機器のコネクタに接続します。



LAN ケーブルをコネクタの向きに合わせてしっかり差し込みます。

Point

- ▶ スリープ／休止状態の解除をお勧めします
LAN 機能を使ってネットワーク（インターネットなど）に接続中は、スリープや休止状態にしないことをお勧めします。お使いの環境によっては、ネットワーク（インターネットなど）への接続が正常に行われない場合があります。
なお、ご購入時の状態では、一定時間パソコンを操作しないとスリープになるよう設定されていますので、前述のような不都合がある場合には、「スリープ／休止状態の設定変更」（→ P.128）をご覧になり、自動的にスリープにしない設定に変更してください。
- ▶ 有線 LAN 機能を使ってネットワーク（インターネットなど）に接続する場合は「ステータスパネルスイッチ」で「有線 LAN」を「OFF」にしないでください。有線 LAN が使用できず、通信を行うことができません。詳しくは、「ステータスパネルスイッチ」（→ P.132）をご覧ください。
- ▶ LAN ケーブルを取り外すときは
LAN コネクタから LAN ケーブルを取り外すときは、プラグのツメを押さえながら引き抜いてください。ツメを押さえずに無理に引き抜くと破損の原因となります。

無線 LAN

無線 LAN でインターネットに接続する方法については、「インターネットに接続する」（→ P.29）をご覧ください。

また、無線 LAN の電波を発信／停止する方法については、「無線通信機能の電波を発信する／停止する」（→ P.164）をご覧ください。

■無線 LAN をお使いになるうえでの注意

ここでは、無線 LAN をお使いになるうえで注意していただきたいことについて説明しています。

□無線 LAN 製品ご使用時におけるセキュリティに関する注意

■重要

- ▶ お客様の権利（プライバシー保護）に関する重要な事項です。

無線 LAN では、LAN ケーブルを使用する代わりに、電波を利用してパソコンやタブレットなどと無線 LAN アクセスポイント（ワイヤレス LAN ステーション、ワイヤレスプロードバンドルーターなど）間で情報のやり取りを行うため、電波の届く範囲であれば自由に LAN 接続が可能であるという利点があります。その反面、電波はある範囲内であれば障害物（壁など）を越えてすべての場所に届くため、セキュリティに関する設定を行っていない場合、次のような問題が発生する可能性があります。

●通信内容を盗み見られる

悪意ある第三者が、電波を故意に傍受し、

- ・ ID やパスワードまたはクレジットカード番号などの個人情報
- ・ メールの内容

などの通信内容を盗み見られる可能性があります。

●不正に侵入される

悪意ある第三者が、無断で個人や会社内のネットワークへアクセスし、

- ・ 個人情報や機密情報を取り出す（情報漏洩）
- ・ 特定の人物になりすまして通信し、不正な情報を流す（なりすまし）
- ・ 傍受した通信内容を書き換えて発信する（改ざん）
- ・ コンピューターウイルスなどを流しデータやシステムを破壊する（破壊）

などの行為をされてしまう可能性があります。

本来、無線 LAN アクセスポイントやパソコンに搭載されている無線 LAN は、これらの問題に対応するためのセキュリティのしくみをもっています。

そのため、別途ご購入された無線 LAN アクセスポイントなどの無線 LAN 製品の、セキュリティに関する設定を正しく行うことで、これらの問題が発生する可能性を少なくすることができます。

しかし、無線 LAN アクセスポイントなどの無線 LAN 製品は、ご購入時の状態ではセキュリティに関する設定が施されていない場合があります。

上記のようなセキュリティ問題が発生する可能性を少なくするためにには、無線 LAN アクセスポイントなどの無線 LAN 製品に添付されている取扱説明書に従い、これらの製品のセキュリティに関するすべての設定を必ず行ってください。

なお、無線 LAN の仕様上、特殊な方法によりセキュリティ設定が破られることもあり得ますので、ご理解のうえ、ご使用ください。

セキュリティの設定などについて、お客様ご自身で対処できない場合には、「富士通パーソナル製品に関するお問い合わせ窓口」までお問い合わせください。

当社では、お客様がセキュリティの設定を行わないで使用した場合の問題を充分理解したうえで、お客様ご自身の判断と責任においてセキュリティに関する設定を行い、製品を使用することをお勧めします。

セキュリティ対策を施さず、あるいは、無線 LAN の仕様上やむを得ない事情によりセキュリティの問題が発生した場合、当社は、これによって生じた損害に対する責任を負いかねます。

□ 5GHz 帯のチャンネル（周波数帯）の種類

5GHz 帯を利用した無線 LAN には、W52、W53、W56 という 3 種類のチャンネル（周波数帯）があります。これは、2007 年 1 月 31 日および 2005 年 5 月 16 日に総務省により発表された「電波法施行規則の一部を改正する省令」により、5GHz 帯のチャンネル（周波数帯）の変更と、新チャンネルの追加が行われたためです。

● IEEE 802.11a/b/g/n/ac 準拠

IEEE802.11b/g/n

IEEE802.11a/n/ac

J52 W52 W53 W56

Point

▶ IEEE 802.11n では、2.4GHz/5GHz 両方の周波数帯のチャンネルを使用します。

□ 電波放射の環境への影響

● このパソコンは、他の高周波デバイス同様に、高周波エネルギーを放出していますが、このパソコンが放出するエネルギーのレベルは、例えば携帯電話のような無線デバイスが放出する電磁エネルギーよりはるかに低く抑えられています。

● このパソコンは、高周波安全基準および勧告のガイドライン内で動作するため、本製品の使用者に対し、安全性を確信しています。本基準および勧告は、科学界の統一見解を反映しており、研究班の審議および広範な研究文献を継続的に調査し解釈する科学者たちの委員会を根本としています。

● ある状況や環境において、このパソコンの使用は、建物の所有者や団体の責任ある代表者により制限されることがあります。例えば、下記の場合です。

・ 他のデバイスやサービスに対し干渉の危険がある環境での使用

● 特定の団体や環境（例えば空港）で無線デバイスの使用に適用される方針が明確にわからない場合は、機器の電源を入れる前に本製品の使用許可について各団体などへ問い合わせをしてください。

□ 電波放射の人体への影響

このパソコンから放射される出力パワーは、例えば携帯電話が放射する電波のレベルよりはるかに低くなっています。それでも、このパソコンは、通常の動作中に人間の接触に対し電位が最小限にとどめられるように使用されなくてはなりません。使用中はこのパソコンのアンテナ部分に極力触れないでください。無線 LAN アンテナの場所については、「各部の名称と働き」(→ P.77) をご覧ください。

□ 無線 LAN による通信を行うための注意

● 電波法の定めにより W56 のチャンネルは屋外でご利用になれます、W52、W53 のチャンネルは屋外でご利用になれません。このパソコンに内蔵の無線 LAN を 5GHz 帯でご利用になる場合、特定のチャンネルの電波の発信を停止することはできないため、屋外ではご利用になられません。

- このパソコンは、日本国内での無線規格に準拠し、認定を取得しています。日本国内でのみお使いいただけます。また、海外でご使用になると罰せられることがあります。
 - 航空機内での使用は、各航空会社に事前にご確認ください。
 - IEEE 802.11gとIEEE 802.11bが混在する環境では、IEEE 802.11gはIEEE 802.11bとの互換性をとるため、IEEE 802.11g 本来の性能が出ない場合があります。IEEE 802.11g 本来の性能が必要な場合は、IEEE 802.11gとIEEE 802.11bを別の無線 LAN ネットワークにし、使用しているチャンネルの間隔を5チャンネル以上空けてお使いください。
 - このパソコンの使用中、特に無線 LAN で通信中はアンテナ部分に極力触れないでください。通信性能が低下する場合があります。
また、このパソコンを設置する場合には、周囲が金属などの導体（電気を通しやすいもの）でできている場所を避けてください。通信性能が低下し、設置環境によっては通信できなくなることがあります。
無線 LAN アンテナの場所については、「各部の名称と働き」(→ P.77) をご覧ください。
 - このマニュアルに従わずに設定したり使用したりすると、無線通信に有害な干渉を生じることがあります。
 - このパソコンがラジオ、テレビの受信機に有害な干渉を与える原因となっている場合は（このパソコンの電源を入／切することで原因となっているかが判別できます）、次の方法で干渉を取り除くようにしてください。
 - ・このパソコンと受信機の距離を離す
 - ・受信機を接続しているコンセントと別系統回路のコンセントにこのパソコンを接続する
 - ・経験のあるラジオ／テレビ技術者に相談する
 - このパソコンの不正な改造は行わないでください。不正な改造により発生した、ラジオやテレビへの干渉についての責任は負いません。
 - 近くに他のチャンネルを使用している無線 LAN 機器がある場合、干渉により本来の性能が出ない場合があります。この場合、他のチャンネルを使用している無線 LAN 機器と使用しているチャンネルの間隔を空けるように変更して、干渉の影響が最小となるチャンネルでお使いください。それでも解決しない場合は、他のチャンネルを使用している無線 LAN 機器から3m以上離して干渉の影響が最小となる場所でお使いください。
- 良好な通信を行うために
- パソコン本体と通信相手の機器との推奨する最大通信距離は、次のとおりです。
- | 無線 LAN の種類 ^[注] | 推奨する最大通信距離 |
|-----------------------------------|--------------|
| IEEE 802.11a 準拠 | 見通し半径 15m 以内 |
| IEEE 802.11b、 IEEE 802.11g 準拠 | 見通し半径 25m 以内 |
| IEEE 802.11n、 IEEE 802.11ac 準拠 | 見通し半径 50m 以内 |
- 注 お使いの機種により搭載されていない種類もあります。
- ただし、無線 LAN の特性上、ご利用になる建物の構造・材質、障害物、アプリ、設置状況、電波状況などの使用環境により通信距離は異なります。また、通信速度の低下や通信不能となる場合もありますのであらかじめご了承ください。
- パソコン本体は、他の電気機器から離して設置してください。パソコン本体と電源が入った電気機器を近づけていると、正常に通信できなかったり、電気機器の障害になったりすることがあります。正常に通信できない場合は、使用するチャンネルや使用場所を変更してください。特に、電子レンジなどの強い高周波エネルギーを出す機器の使用時は、影響を受けやすく、正常に通信できないことがあります。
 - 放送局や無線機などが近く、正常に通信できないときは、パソコン本体の設置場所を変えてみてください。周囲の電波が強すぎると、正常に通信できないことがあります。
 - このパソコンの無線 LAN は、Bluetooth ワイヤレステクノロジー機器と同じ周波数帯（2.4GHz 帯）を使用するため、パソコン本体の近辺で Bluetooth ワイヤレステクノロジー機器を使用すると電波干渉が発生し、通信速度の低下や接続不能になる場合があります。

●Bluetoothワイヤレステクノロジー機器との電波干渉を防ぐには、次の対策を行うと、電波の干渉を防ぐことができる場合があります。

- ・Bluetooth ワイヤレステクノロジー機器とパソコン本体との間は 10m 以上離して使用する。
- ・Bluetooth ワイヤレステクノロジー機器の電源を切るか、電波を停止する。

Bluetooth ワイヤレステクノロジー機器のマニュアルをご覧になり、電源を切るか、電波を停止してください（単独で電源を切れないものを除く）。

- ・無線 LAN の 5GHz 帯を利用する（ただし利用できるのは屋内のみ）。

●5GHz 帯チャンネルの W53 (52 ~ 64ch)、W56 (100 ~ 140ch) では、無線 LAN アクセスポイントの DFS 機能が作動した場合、W53/W56 の通信はいったん切断されます。DFS 機能により、その無線 LAN アクセスポイントが再起動した場合は、W53/W56 以外のすべての通信もいったん切断されます。

■無線 LAN の仕様 (IEEE 802.11a/b/g/n/ac 準拠)

| 項目 | 仕様 [注 1] |
|--------------|---|
| ネットワークの種類 | IEEE 802.11a 準拠、IEEE 802.11b 準拠、IEEE 802.11g 準拠、IEEE 802.11n 準拠、IEEE 802.11ac 準拠 (5GHz 帯のチャンネルは W52/W53/W56 です) (Wi-Fi® 準拠) [注 2] |
| 転送レート | IEEE 802.11b 準拠 : 11 ~ 1Mbps (自動切り替え) IEEE 802.11a 準拠、IEEE 802.11g 準拠 : 54 ~ 6Mbps (自動切り替え) IEEE 802.11n 準拠 : 300 ~ 6Mbps (自動切り替え、HT20/40 対応) [注 3] [注 4] IEEE 802.11ac 準拠 : 867 ~ 6Mbps (自動切り替え、VHT20/40/80 対応) [注 5] [注 6] |
| 使用周波数 | 2,400MHz ~ 2,483.5MHz 5,150MHz ~ 5,340MHz 5,460MHz ~ 5,740MHz |
| チャンネル [注 8] | IEEE 802.11b 準拠、IEEE 802.11g 準拠 : 1 ~ 13ch IEEE 802.11a 準拠 : W52 (36/40/44/48ch) /W53 (52/56/60/64ch) /W56 (100/104/108/112/116/120/124/128/132/136/140ch) IEEE 802.11n 準拠 : 2.4GHz モード 1 ~ 13ch 5GHz モード W52 (36/40/44/48ch) /W53 (52/56/60/64ch) /W56 (100/104/108/112/116/120/124/128/132/136/140ch) IEEE 802.11ac 準拠 : W52 (36/40/44/48ch) /W53 (52/56/60/64ch) /W56 (100/104/108/112/116/120/124/128/132/136/140ch) |
| セキュリティ [注 9] | SSID (ネットワーク名) WEP (セキュリティキー (WEP キー) : 64/128 ビット) [注 7] WPA- パーソナル (WPA-PSK) (TKIP/AES) WPA2- パーソナル (WPA2-PSK) (TKIP/AES) WPA- エンタープライズ (WPA) (TLS/PEAP) (TKIP/AES) WPA2- エンタープライズ (WPA2) (TLS/PEAP) (TKIP/AES) IEEE 802.1X (TLS/PEAP) |

注 1 アドホック通信には対応していません。

注 2 Wi-Fi® 準拠とは、無線 LAN の相互接続性を保証する団体「Wi-Fi Alliance®」の相互接続性テストに合格していることを示します。

注 3 IEEE 802.11n では HT20/40 に対応しています。HT40 を利用するには、無線 LAN アクセスポイントも HT40 に対応している必要があります。

注 4 IEEE 802.11n を使用するときの無線 LAN アクセスポイントの設定で、HT40 の機能を有効にする場合には、周囲の電波状況を確認して他の無線局に電波干渉を与えないことを事前に確認してください。万一、他の無線局において電波干渉が発生した場合には、ただちに HT40 の機能を無効にしてください。

注 5 IEEE 802.11ac では VHT20/40/80 に対応しています。VHT80 を利用するには、無線 LAN アクセスポイントも VHT80 に対応している必要があります。

注 6 IEEE 802.11ac を使用するときの無線 LAN アクセスポイントの設定で、VHT40/80 の機能を有効にする場合には、周囲の電波状況を確認して他の無線局に電波干渉を与えないことを事前に確認してください。万一、他の無線局において電波干渉が発生した場合には、ただちに VHT40/80 の機能を無効にしてください。

注 7 WEP による暗号化は上記ビット数で行いますが、ユーザーが設定可能なビット数は固定長 24 ビットを引いた 40 ビット / 104 ビットです。

注 8 このパソコンに搭載されている無線 LAN の IEEE 802.11b では、無線チャンネルとしてチャンネル 1 ~ 13 を使用しています。無線 LAN アクセスポイントのチャンネルを、1 ~ 13 の間で設定してください。設定方法については、無線 LAN アクセスポイントのマニュアルをご覧ください。

注 9 IEEE 802.11n、IEEE 802.11ac で接続するためには、パスフレーズ (PSK) を AES に設定する必要があります。

Bluetooth ワイヤレステクノロジー

ここでは、Bluetooth ワイヤレステクノロジーを使用する方法について説明しています。

■Bluetooth ワイヤレステクノロジーとは

Bluetooth ワイヤレステクノロジーとは、ヘッドセットやモデム、携帯電話などの周辺機器や他の Bluetooth ワイヤレステクノロジー搭載のパソコンやタブレットなどに、ケーブルを使わず電波で接続できる技術です。

重要

- ▶ Bluetooth ワイヤレステクノロジーをお使いになる場合は、セキュリティの設定をすることをお勧めします。
セキュリティの設定をしないと、通信内容を傍受されたり、ネットワークに侵入されたりする危険があります。

■Bluetooth ワイヤレステクノロジーを使うための設定をする

パソコンと Bluetooth ワイヤレステクノロジー対応機器を接続するためには、「Bluetooth デバイスの管理」を使用します。

- 1 (設定) ▶ 「デバイス」の順にクリックし、「デバイス」ウィンドウ左の「Bluetooth」をクリックします。
「Bluetooth デバイスの管理」の画面が表示されます。

Point

- ▶ Bluetooth ワイヤレステクノロジー機器のマニュアルもあわせてご覧ください。それらのマニュアルに設定方法が記載されている場合は、そちらの手順に従って設定してください。

■Bluetooth ワイヤレステクノロジーの特長

このパソコンの Bluetooth ワイヤレステクノロジーの主な特長は、次のとおりです。

なお、すべての Bluetooth ワイヤレステクノロジー機器に接続可能なことを保証するものではありません。

規格：Bluetooth v4.1 [注 1]

出力：Class 1

最大通信速度：2.1 Mbps [注 2]

与干渉距離：80m

注 1：これ以前の規格に準拠した機器と接続が可能です。

注 2：実際の通信速度はお使いの環境により異なります。

■必要なものを用意する

●Bluetooth ワイヤレステクノロジー機器

Bluetooth ワイヤレステクノロジーを利用してパソコンと接続する機器です。お使いのパソコンに搭載されている Bluetooth ワイヤレステクノロジーの規格に対応したものをご用意ください。なお、Bluetooth ワイヤレステクノロジー機器には次のようなものがあります。お使いになる目的に応じてご用意ください。

- ・キーボード
- ・マウス
- ・プリンター
- ・ヘッドセット
- ・携帯電話

●Bluetooth ワイヤレステクノロジー機器のマニュアル
お使いになる Bluetooth ワイヤレステクノロジー機器によって設定方法が異なる場合があります。必ず Bluetooth ワイヤレステクノロジー機器のマニュアルもご覧ください。

■重要

- ▶ ペアリングコード（PIN またはパスコード）について

パソコンと Bluetooth ワイヤレステクノロジー機器の接続（ペアリング）設定をするときには、機器によっては「ペアリングコード（PIN またはパスコード）」が必要になる場合があります。「ペアリングコード（PIN またはパスコード）」については、後述の「Windows ヘルプとサポート」および Bluetooth ワイヤレステクノロジー機器のマニュアルをご覧ください。

- ▶ プロファイルについて

Bluetooth ワイヤレステクノロジーには「プロファイル」という仕様があり、同じプロファイルをもつ Bluetooth ワイヤレステクノロジー機器どうしを接続し、そのプロファイルの機能を使用することができます。

このパソコンには、このパソコンがサポートしているプロファイルに対応した Bluetooth ワイヤレステクノロジー機器を使用することができます。このパソコンがサポートしているプロファイルは次のとおりです。

- ・ HID、HCRP、DUN、SPP、OPP、PAN、A2DP、AVRCP、HFP、HOGP

■Bluetooth ワイヤレステクノロジーをお使いになるうえでの注意

ここでは、Bluetooth ワイヤレステクノロジーをお使いになるうえで注意していただきたいことについて説明しています。

□Bluetooth ワイヤレステクノロジーご使用時におけるセキュリティに関する注意

■重要

- ▶ お客様の権利（プライバシー保護）に関する重要な事項です。

Bluetooth ワイヤレステクノロジーでは、電波を利用して周辺機器や他のパソコンやタブレットとの間で情報のやり取りを行うため、電波の届く範囲であれば自由に接続が可能であるという利点があります。

その反面、電波はある範囲内であれば障害物（壁など）を越えてすべての場所に届くため、セキュリティに関する設定を行っていない場合、以下のような問題が発生する可能性があります。

●通信内容を盗み見られる

悪意ある第三者が、電波を故意に傍受し、ID やパスワード、その他の個人情報などの通信内容を盗み見る可能性があります。

●不正に使用される

悪意ある第三者が、無断で個人や会社内の周辺機器やパソコンへアクセスし、次の行為をされてしまうおそれがあります。

- ・個人情報や機密情報を取り出す（情報漏洩）
- ・特定の人物になりすまして通信し、不正な情報を流す（なりすまし）
- ・傍受した通信内容を書き換えて発信する（改ざん）
- ・コンピューターウイルスなどを流しデータやシステムを破壊する（破壊）

このパソコンおよび一部の周辺機器や他のパソコンやタブレットに内蔵されている Bluetooth ワイヤレステクノロジーは、これらの問題に対応するためのセキュリティのしくみをもっています。

そのため、別途ご購入された Bluetooth ワイヤレステクノロジー搭載の周辺機器や他のパソコンやタブレットがセキュリティのしくみをもっている場合、セキュリティに関する設定を正しく行うことで、これらの問題が発生する可能性を少なくすることができます。しかし、Bluetooth ワイヤレステクノロジー内蔵の周辺機器や他のパソコンやタブレットは、ご購入時の状態ではセキュリティに関する設定が施されていない場合があります。上記のようなセキュリティ問題が発生する可能性を少なくするためにには、周辺機器や他のパソコンやタブレットに添付されている取扱説明書に従い、これらの製品のセキュリティに関するすべての設定を必ず行ってください。

なお、Bluetooth ワイヤレステクノロジーの仕様上、特殊な方法によりセキュリティ設定が破られることもあり得ますので、ご理解のうえ、ご使用ください。セキュリティの設定などについて、お客様ご自身で対処できない場合には、「富士通パーソナル製品に関するお問い合わせ窓口」までお問い合わせください。

当社では、お客様がセキュリティの設定を行わないで使用した場合の問題を充分理解したうえで、お客様ご自身の判断と責任においてセキュリティに関する設定を行い、製品を使用することをお勧めします。

セキュリティ対策を施さず、あるいは、Bluetooth ワイヤレステクノロジーの仕様上やむを得ない事情によりセキュリティの問題が発生した場合、当社は、これによって生じた損害に対する責任を負いかねます。

□Bluetooth ワイヤレステクノロジーによる通信を行うための注意

●このパソコンのBluetooth ワイヤレステクノロジー用アンテナは、パソコン本体に内蔵されています。このパソコンの使用中、特に Bluetooth ワイヤレステクノロジーの通信中はアンテナ部分に極力触れないでください。通信性能が低下する場合があります。また、パソコン本体を設置する場合には、周囲が金属などの導体（電気を通しやすいもの）でできている場所を避けてください。通信性能が低下し、設置環境によっては通信できなくなることがあります。Bluetooth ワイヤレステクノロジー用アンテナの場所については、「各部の名称と働き」（→ P.77）をご覧ください。

●パソコン本体と通信相手の機器との推奨する最大通信距離は、見通し半径 10m 以内です。ただし、Bluetooth ワイヤレステクノロジーの特性上、ご利用になる建物の構造・材質、障害物、アプローチ、設置状況、電波状況などの使用環境により通信距離は異なります。また、通信速度の低下や通信不能となる場合もありますのであらかじめご了承ください。

●パソコン本体は、他の電気機器から離して設置してください。パソコン本体と電源が入った電気機器を近づけていると、正常に通信できなかったり、電気機器の障害になったりすることがあります。正常に通信できない場合は、使用場所を変更してください。特に、電子レンジなどの強い高周波エネルギーを出す機器の使用時は、影響を受けやすく、正常に通信できないことがあります。

●放送局や無線機などが近く、正常に通信できないときは、パソコン本体の設置場所を変えてみてください。周囲の電波が強すぎると、正常に通信できないことがあります。

●Bluetooth ワイヤレステクノロジーは IEEE 802.11b、IEEE 802.11g や IEEE 802.11n の 2.4GHz 帯規格の無線 LAN と同じ周波数帯の電波を使用します。そのため、ご使用の状態によっては無線 LAN と Bluetooth ワイヤレステクノロジーの電波が干渉し、他のパソコンやタブレットなどとの通信速度が低下したり、Bluetooth ワイヤレステクノロジーで接続したワイヤレスヘッドホンなどの音質が悪くなったりする場合があります。

●無線 LAN 機器との電波干渉を防ぐには、次の対策を行うと、電波の干渉を防ぐことができる場合があります。

- ・無線 LAN 機器とパソコン本体との間は 10m 以上離して使用する。
- ・無線 LAN 機器の電源を切る。
- ・無線 LAN 機器の電波を停止する。
- ・無線 LAN の 5GHz 帯を利用する（ただし利用できるのは屋内ののみ）。

●このパソコンに USB アダプタ型などの他の Bluetooth ワイヤレステクノロジー機器を取り付けて、同時に使用しないでください。

□電波放射の環境への影響

●このパソコンは、他の高周波デバイス同様に、高周波エネルギーを放出していますが、このパソコンが放出するエネルギーのレベルは、例えば携帯電話のような無線デバイスが放出する電磁エネルギーよりはるかに低く抑えられています。

●このパソコンは、高周波安全基準および勧告のガイドライン内で動作するため、このパソコンの使用者に対し、安全性を確信しています。本基準および勧告は、科学界の統一見解を反映しており、研究班の審議および広範な研究文献を継続的に調査し解釈する科学者たちの委員会を根本としています。

●ある状況や環境において、このパソコンの使用は、建物の所有者や団体の責任ある代表者により制限されることがあります。例えば、下記にあげる場合です。

- ・他のデバイスやサービスに対し干渉の危険がある環境での使用

●特定の団体や環境（例えば空港）で無線デバイスの使用に適用される方針が明確にわからない場合は、機器の電源を入れる前にこのパソコンの使用許可について問い合わせをしてください。

□電波放射の人体への影響

- このパソコンから放射される出力パワーは、例えば携帯電話が放射する電波のレベルよりはるかに低くなっています。それでも、このパソコンは、通常の動作中に人間の接触に対し電位が最小限にとどめられるように使用されなくてはなりません。使用中はこのパソコンのアンテナ部分に極力触れないでください。

□干渉に関する注意

- このマニュアルに従わずに設定したり使用したりすると、無線通信に有害な干渉を生じことがあります。
- このパソコンがラジオ、テレビの受信機に有害な干渉を与える原因となっている場合は（このパソコンの電源を入／切することで原因となっているかが判別できます）、次の方法で干渉を取り除くようにしてください。
 - ・パソコン本体と受信機の距離を離す
 - ・受信機を接続しているコンセントと別系統回路のコンセントにこのパソコンを接続する
 - ・経験のあるラジオ／テレビ技術者に相談する
- このパソコンの不正な改造は行わないでください。不正な改造により発生した、ラジオやテレビへの干渉についての責任を負いません。

無線通信機能の電波を発信する／停止する

パソコンに搭載されている無線LANやBluetoothワイヤレステクノロジーなどの無線通信機能の電波を発信／停止する方法について説明します。

病院や飛行機内、その他電子機器使用の規制がある場所では、あらかじめ無線通信機能の電波を停止してください。

無線通信機能の電波の発信／停止には、次の2つの方法があります。

- すべての無線通信機能の電波を発信／停止する
パソコンに搭載されている、すべての無線通信機能の電波を発信／停止します。
- 特定の無線通信機能の電波だけを発信／停止する
すべての無線通信機能の電波が発信されている状態で、特定の無線通信機能の電波の発信／停止だけを切り替えます。
例えば、無線LANの電波は発信したまま、Bluetoothワイヤレステクノロジーの電波を停止したいときなどに便利です。

■すべての無線通信機能の電波を発信／停止する

パソコンに搭載されている、すべての無線通信機能の電波を発信／停止します。
ワイヤレス通信ランプについては、「各部の名称と働き」（→ P.77）をご覧ください。

Point

- ▶ 特定の無線通信機能の電波を停止する設定にしている場合は、発信する設定に変更してください。詳しくは、「特定の無線通信機能の電波だけを発信／停止する」（→ P.165）をご覧ください。

□電波を発信する（機内モード オフ）

[Fn] + [F5] を押して、電波を発信します。電波の発信が開始すると、ワイヤレス通信ランプが点灯します。

Point

- ▶ ワイヤレス通信ランプについて
機内モードがオフのときに点灯します。
機内モードは、パソコンに搭載されている無線通信機能の電波を停止する機能です。機内モードをオンにすると電波が停止します。
機内モードがオフ（ワイヤレス通信ランプ点灯時）でも電波が停止している場合があります。
電波の発信／停止の状態は、「特定の無線通信機能の電波だけを発信／停止する」（→ P.165）の手順で表示される画面で確認できます。

□電波を停止する（機内モード オン）

[Fn] + [F5] を押して、電波を停止します。電波が停止すると、ワイヤレス通信ランプが消灯し、通知領域に  が表示されます。

■特定の無線通信機能の電波だけを発信／停止する

- 1 通知領域の□をクリックします。
- 2 「アクションセンター」が表示されたら、発信／停止したい機能をクリックします。
1列しか機能が表示されていないときは、「展開」をクリックするとすべての機能が表示されます。「折りたたむ」をクリックすると1列のみ表示になります。
停止されているときはグレーになり、発信されているときはアクセントカラーになります。



(画面は機種や状況により異なります)

- ① 無線 LAN を発信／停止したいときにクリックします。
- ② Bluetoothを発信／停止したいときにクリックします。
- ③ クリックすると機内モードのオン／オフを切り替えられます。①②も連動して発信／停止が切り替わります。

Point

- ▶ アクセントカラーは、□▶(設定)▶「パーソナル設定」の順にクリックし、「パーソナル設定」ウィンドウ左の「色」をクリックすると確認や変更ができます。

アプリ

このパソコンには、あらかじめたくさんのアプリがインストールされています。

一度削除したアプリをもう一度使いたいときや、アプリの動作がおかしくなったとき、アプリをインストールし直すことができます。

Windows 10 には、Windows ユニバーサル アプリと、デスクトップアプリの2種類があります。

Windows ユニバーサル アプリ

Windows 8 以降の Windows で動作する新しいアプリです。

■インストール

ストアからインストールします。ストアの利用には Microsoft アカウントでサインインする必要があります。

- 1 □▶「ストア」の順にクリックします。
- 2 インストールしたいアプリをクリックします。

インストールしたいアプリは画面下側に隠れている場合があります。画面を上にスクロールしてください。

Point

- ▶ 画面右上にある入力フォームから検索することもできます。検索したいアプリの名前を入力して、○をクリックします。

この後は画面の指示に従って操作してください。

■更新プログラム

インターネットに接続していると、インストール済の Windows ユニバーサル アプリが最新のバージョンでなかった場合、自動的に更新されます。

□自動更新を無効にする

- 1 「ストア」画面右上の○をクリックし、表示されたメニューから「設定」をクリックします。
- 2 「アプリ更新」の「Wi-Fi 接続時にアプリを自動的に更新する」の○(オン)をクリックして○(オフ)にします。

■アンインストール

「スタート」メニューの操作でアンインストールできます。アンインストールした Windows ユニバーサルアプリはストアから再インストールすることができます。

1 □をクリックしアンインストールしたいアプリを右クリックします。

「スタート」メニューにピン留めされてないときは、アプリ一覧の下の方に隠れているのでスクロールして表示してください。

2 「アンインストール」をクリックします。

3 次の画面が表示されたら「アンインストール」をクリックします。

このアプリとその関連情報がアンインストールされます。

アンインストール

デスクトップアプリ

Windows 7、Windows 8.1 で使用していたものがほとんどそのまま使用できます。

■デスクトップアプリをインストール／アンインストールするうえでの注意

●デスクトップアプリをインストールする前には、必ずアプリのマニュアルなどを読んで、インストールの方法を確認する

●インストールし直す場合は、元のアプリを削除する

●管理者アカウントでサインインする

ユーザー アカウントの種類が、「標準アカウント」、「Guest アカウント」の場合はアプリの削除ができません。管理者アカウントでサインインしてください。ユーザー アカウントの種類は、次の手順で確認できます。

1. □を右クリックし、表示されたメニューから「コントロールパネル」をクリックします。
2. 「ユーザー アカウント」をクリックします。「ユーザー アカウント」ウィンドウが表示されます。
3. 画面右のアカウント名の下に表示されている、アカウントの種類を確認します。
「Administrator」は、管理者アカウントであることを意味します。

●起動しているデスクトップアプリをすべて終了する他のアプリが起動していると、エラーが発生する場合があります。アプリの削除をする前に、次の作業を行ってください。

- ・起動しているアプリをすべて終了する
- ・タスクバーに常駐するタイプのアプリをすべて終了する
- ・スクリーンセーバーを「なし」に設定する
 1. デスクトップの何もないところを右クリックし、表示されたメニューから「個人用設定」をクリックします。
 2. ウィンドウ左の「ロック画面」▶ ウィンドウ右下の「スクリーンセーバー設定」の順にクリックします。
 3. 「スクリーンセーバー」を「(なし)」にして、「OK」をクリックします。

●共有ファイルは削除しない

アプリの削除中に、「共有ファイルを削除しますか?」というメッセージが表示されることがあります。

共有ファイルは削除しないことをお勧めします。共有ファイルを削除すると、インストールされている他のデスクトップアプリが影響を受け、正しく動作しなくなる場合があります。

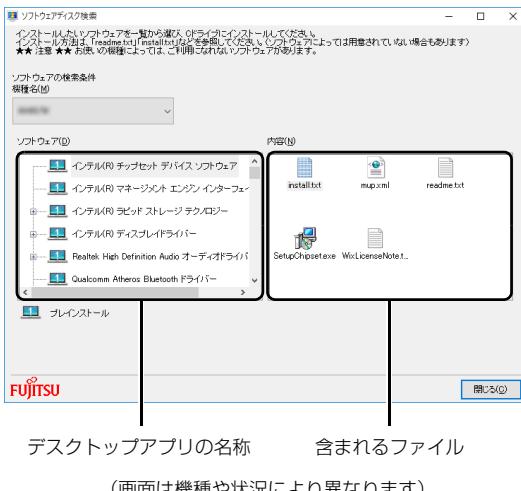
■インストール

□搭載デスクトップアプリをインストールする

次の手順で、ハードディスク内のデータからアプリをインストールすることができます。

- 1 □▶ 「FUJITSU - ソフトウェアディスク検索」▶ 「ソフトウェアディスク検索 (ハードディスク)」の順にクリックします。
- 2 「ユーザー アカウント制御」ウィンドウが表示されたら、「はい」をクリックします。
- 3 「ソフトウェアディスク検索 (ハードディスク)」ウィンドウが表示されたら、「OK」をクリックします。
- 4 「機種名」欄の右側の ▾ をクリックし、表示されたリストからお使いの機種名（品名）をクリックして選択します。

- 5 「ソフトウェア一覧」からインストールするアプリの名称をクリックしてインストールします。**
デスクトップアプリの名称をクリックすると、アプリに含まれるファイルが画面右側に表示されます。



- 6 デスクトップアプリのインストール方法は、各デスクトップアプリによって異なります。それぞれの「readme.txt」、「install.txt」などでインストール方法を確認してください。**

□「Office」をインストールし直す 「Office」搭載機種のみ

「Office」搭載機種をお使いの方で、「Office」のみインストールし直したい場合は、マイクロソフト社のホームページからダウンロードしてインストールしてください。インストール方法については次のホームページをご覧ください。

<http://www.office.com/jppipcsetup/>

□ドライバーをインストールし直す

サウンドの再生や画面表示などが正常に行われないとき、ドライバーを更新すると問題が解決できる場合があります。

□お使いのパソコンに搭載されているドライバーについて

●各ドライバーは、改善のため事前連絡なしに変更することがあり、ご購入時に添付されているものよりも新しいバージョンのドライバーが、サポートページ (<http://azby.fmworld.net/support/>) の「機種別サポート情報・ダウンロード」で公開されている場合があります。

サポートページ (<http://azby.fmworld.net/support/>) の「機種別サポート情報・ダウンロード」に最新のドライバーがない場合は、ドライバーを削除し、再インストールしてください。

Point

- ▶「富士通アドバイザー」でドライバーが最新のものになっているか確認できます（→ P.47）。
- 「アップデート情報」の「更新する」をクリックしてください。最新のドライバーでない場合は、画面の指示に従って更新してください。

- ドライバーの削除や、再インストール手順については、各ドライバーのフォルダー内にある「readme.txt」、「install.txt」などのファイルをご覧ください。
- ドライバーの格納されているフォルダーは、次の手順でご確認ください。

- ▶「FUJITSU - ソフトウェアディスク検索」▶「ソフトウェアディスク検索（ハードディスク）」の順にクリックします。
2. 「ユーザー権限制御」ウィンドウが表示されたら、「はい」をクリックします。
3. 「ソフトウェアディスク検索（ハードディスク）」ウィンドウが表示されたら、「OK」をクリックします。
「ソフトウェアディスク検索」ウィンドウが表示されます。
4. 「機種名」欄の右側の▼をクリックし、表示されたリストからお使いの機種名（品名）をクリックして選択します。
5. 「ソフトウェア」の一覧から更新したいドライバーをクリックして選択します。
選択したドライバーが格納されているフォルダーの内容が表示されます。

Point

- ▶ プリンターなど、このパソコンに添付されていない周辺機器のドライバーについては、お使いの周辺機器のマニュアルをご覧ください。

■アンインストール

□デスクトップアプリのアンインストール機能を使う
Windows に対応したデスクトップアプリには、アンインストール機能（デスクトップアプリを削除する機能）が用意されているものがあります。

デスクトップアプリによって操作方法が異なります。詳しくは、デスクトップアプリのマニュアルまたはヘルプをご覧ください。

□「プログラムのアンインストール」機能を使う

- 1 起動しているデスクトップアプリをすべて終了します。
- 2 □を右クリックし、表示されたメニューから「プログラムと機能」をクリックします。
- 3 一覧から削除したい項目をクリックします。
- 4 「アンインストールと変更」（または「アンインストール」）をクリックし、画面の指示に従ってアプリを削除します。
- 5 デスクトップアプリの削除が終了したら、「プログラムと機能」ウィンドウで、× をクリックします。

Point

- ▶ 「プログラムのアンインストール」機能で削除できないデスクトップアプリについては、デスクトップアプリのマニュアルまたはヘルプをご覧ください。
- ▶ 「いくつかのファイルは削除されませんでした」と表示されても、削除が完了していれば通常問題ありません。

BIOS の設定

電源を切って作業しますので、この内容を印刷しておくか、「富士通アドバイザー」（スマートフォン版）を使って本書をご覧いただくことをお勧めします。「富士通アドバイザー」（スマートフォン版）について詳しくは、「「富士通アドバイザー」を活用する」（→ P.47）をご覧ください。

BIOS セットアップの操作

■BIOS セットアップとは

BIOS セットアップとは、パソコンの環境を設定するためのプログラムです。パソコンご購入時は、すでに最適なハードウェア環境に設定されています。通常の使用状態では、BIOS セットアップで環境を設定（変更）する必要はありません。

BIOS セットアップの設定は、次の場合などに行います。

- 特定の人だけがパソコンを使用できるように、パスワード（暗証番号）を設定するとき
- 起動時の自己診断テストで BIOS セットアップに関するエラーメッセージが表示されたとき

BIOS セットアップの操作は、キーボードで操作します（タッチでは操作できません）。

Point

- ▶ BIOS セットアップの設定項目については、BIOS セットアップ画面の「項目ヘルプ」をご覧ください。
- ▶ BIOS セットアップ画面の表示について
HDMI 出力端子に接続したテレビやディスプレイには BIOS セットアップ画面は、表示されません（HDMI 出力端子搭載機種のみ）。
- ▶ 起動時の自己診断テスト (POST (ポスト))
パソコンの電源を入れたときや再起動したときに、ハードウェアの動作に異常がないか、どのような周辺機器が接続されているかなどを自動的に調べます。これを「起動時の自己診断テスト」(POST : Power On Self Test) といいます。
 - ・起動時の自己診断テスト中は電源を切らないでください。
 - ・POST の画面は、液晶ディスプレイのみに表示されることがあります。また、HDMI 出力端子に接続したテレビやディスプレイには表示されません（HDMI 出力端子搭載機種のみ）。

■ BIOS セットアップを起動する

BIOS セットアップは、完全に電源が切れた状態から操作を始めてください。

「パソコンの電源を完全に切るには」(→ P.68)

Point

▶ BIOS セットアップの画面ではなく Windows が起動してしまった場合は、起動が完了するのを待ってから、パソコンの電源を切り、もう一度手順 1 からやり直してください。

- 1 AC アダプタを接続し、[F2] を押しながら、パソコンの電源を入れます。
- 2 短いビープ音が鳴るか、BIOS の画面が表示されたら、[F2] から指を離します。
BIOS セットアップ画面が表示されます
(→ P.169)。

■ BIOS セットアップ画面の各部の名称と役割

BIOS セットアップ画面の各部の名称と役割は、次のとおりです。



設定フィールド
各メニューで設定する項目名と設定値が表示されます。
(画面は機種や状況により異なります)

項目ヘルプ
カーソルを合わせた項目の説明が表示されます。

キー一覧
設定時に使うキーの一覧です。

■ 設定を変更する

重要

▶ BIOS セットアップの設定を間違えると、パソコンが起動できなくなったり、正常に動作しなくなったりすることがあります。

このような場合には、変更した設定値を元に戻すか、ご購入時の設定に戻してパソコンを再起動してください。

- 1 [←] または [→] でカーソルを移動し、設定したいメニューを選びます。
選択したメニュー画面が表示されます。
- 2 [↓] または [↑] でカーソルを移動し、設定したい項目を選びます。
項目名に「▶」が付いている項目にはサブメニューがあります。
項目名にカーソルを移動して [Enter] を押すと、サブメニューが表示されます。元のメニュー画面に戻るときは [Esc] を押します。
- 3 【Space】キーまたは [二段] を押して、選択している項目の設定値を変更します。
続けて他の設定項目を変更する場合は、手順 1 ~ 3 を繰り返してください。
- 4 設定を保存して終了します。

Point

▶ 設定時によく使用するキーは、次のとおりです。

- ・ [↓]、[↑]
設定する項目にカーソルを移動します。
- ・ [←]、[→]
メニューを切り替えます。
- ・ [Enter]
「▶」印が付いた項目のサブメニュー画面を表示します。また、「終了」メニューなどでは、各項目の処理を行います。
- ・ 設定する項目で押すと、設定値が一覧で表示されます。
- ・ 【Space】キー
キーボード手前中央にある、何も書かれていない横長のキーのことです。各項目の設定値を変更します。

この他、使用するキーの案内が画面に表示されます。

■変更内容を取り消す

設定した内容を取り消すには、保存してある変更前の設定値を読み込みます。

1 [Esc] を押します。

「終了」(「Exit」) メニューが表示されます。サブメニューを表示しているときは、「終了」(「Exit」) メニューが表示されるまで、[Esc] を2~3回押してください。

2 [↓] または [↑] を押して「変更前の値を読み込む」(「Discard Changes」) を選択し、[Enter] を押します。

「変更前の値を読み込みますか?」(「Load previous configuration now?」) というメッセージが表示されます。

3 [↙] または [→] で「はい」(「Yes」) を選択し、[Enter] を押します。

BIOS セットアップのすべての設定項目に変更前の値が読み込まれ、すべての変更が取り消されます。

Point

▶ 設定した内容を保存せずに BIOS セットアップを終了する

1. 「終了」(「Exit」) メニューの「変更を保存せずに終了する」(「Exit Discarding Changes」) を選択し、[Enter] を押します。設定値を変更していないときは、これで BIOS セットアップが終了します。
設定値を変更しているときは、「設定が変更されています！変更した内容を保存して終了しますか?」(「Setup Warning」) というメッセージが表示されます。

2. [↙] または [→] で「いいえ」(「No」) を選択し、[Enter] を押します。
すべての変更が取り消されて、BIOS セットアップが終了します。

■BIOS セットアップを終了する

変更した設定を有効にするためには、設定内容を保存しておく必要があります。

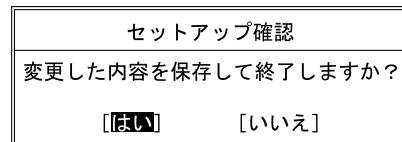
次の操作を行って、設定内容を保存してから BIOS セットアップを終了してください。

1 [Esc] を押します。

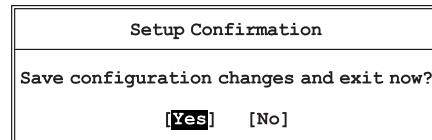
「終了」(「Exit」) メニューが表示されます。サブメニューを表示している場合は、「終了」メニューが表示されるまで、[Esc] を2~3回押してください。

2 [↓] または [↑] を押して「変更を保存して終了する」(「Exit Saving Changes」) を選択し、[Enter] を押します。

次のいずれかの確認メッセージが表示されます。



または



(画面は機種や状況により異なります)

3 [↙] または [→] で「はい」(「Yes」) を選択し、[Enter] を押します。

すべての設定値が保存された後、BIOS セットアップが終了し、このパソコンが再起動します。

Point

▶ BIOS セットアップを終了せずに設定内容を保存する

次の操作をすると、いったん設定内容を保存した後、続けて他の項目を設定できます。

1. 「終了」(「Exit」) メニューの「変更を保存する」(「Save Changes」) を選択し、[Enter] を押します。

「変更した内容を保存しますか?」(「Save configuration changes now?」) というメッセージが表示されます。

2. [↙] または [→] で「はい」(「Yes」) を選択し、[Enter] を押します。

■BIOSをご購入時の設定に戻す

ここでは、設定を変更した BIOS を、ご購入時の状態に戻す手順について説明しています。

1 BIOS セットアップを起動します。

2 [Esc] を押します。

「終了」(「Exit」) メニューが表示されます。

3 [↓] または [↑] を押して「標準設定値を読み込む」(「Load Setup Defaults」)を選択し、[Enter] を押します。

確認のメッセージが表示されます。

4 [←] または [→] で「はい」(「Yes」)を選択し、[Enter] を押します。

BIOS セットアップの設定項目に、標準設定値が読み込まれます。

5 [↓] または [↑] を押して「変更を保存して終了する」(「Exit Saving Changes」)を選択し、[Enter] を押します。

確認のメッセージが表示されます。

6 [←] または [→] で「はい」(「Yes」)を選択し、[Enter] を押します。

読み込んだ標準設定値が保存された後、BIOS セットアップが終了し、このパソコンが再起動します。

BIOS のパスワード機能

このパソコンでは、不正使用を防止するために BIOS パスワードを設定することができます。パスワードを設定すると、正しいパスワードを知っている人以外はこのパソコンを使用できなくなります。

BIOS のパスワードは Windows が起動する前の設定なので、Windows のパスワードよりもさらにセキュリティを高めたいときに有効です。

■BIOS のパスワードを設定するとできること

BIOS のパスワードを設定すると、次の場合にパスワードの入力を要求され、パスワードを知っている人のみこのパソコンを使用できるようになります。

●パソコンの電源を入れたとき

●パソコンを再起動したとき

●BIOS セットアップを始めるとき

●休止状態からレジュームすると

また、ハードディスク用のパスワードを設定すると、このパソコンのハードディスクを他のパソコンに取り付けても使用できないようにすることができます。

■BIOS パスワード機能をお使いになるうえでの注意

このパソコンの BIOS パスワード機能を使うときは、次の点に注意してください。

●パスワード設定時に必ず行うこと

管理者用パスワードやハードディスク用パスワードを忘れると、パスワード機能が解除できなくなり、修理が必要となります。

そのため、パスワードを設定したら、次のことを行ってください。

- ・「パスワードを変更する」(→ P.173) および「パスワードを削除する」(→ P.174)を印刷しておく
- ・設定したパスワードを忘れないよう、書き留めておく

また、これらは安全な場所に保管しておいてください。

管理者用パスワードやハードディスク用パスワードを忘れてしまった場合は、「富士通パーソナル製品に関するお問い合わせ窓口」またはご購入元までご連絡ください。なお、保証期間にかかる修理は有償となります。

●パスワードを忘れるとすべてのデータが消えてしまいます

ハードディスク用パスワードは、盗難などによる不正な使用を防止することを目的としています。これは強固なセキュリティであるため、もしもパスワードを忘れてしまうと、たとえ修理をしても、パスワードの解除やハードディスク内のプログラムやデータの復元ができず、これらのデータは完全に失われてしまいます。

パスワードの管理には充分注意してください。

■パスワードの種類

このパソコンで設定できるパスワードは次の3つです。

●管理者用パスワード (Supervisor Password)

このパソコンをご購入になった方などが使用するパスワードです。パスワード機能を使用するときは必ず設定してください。

●ユーザー用パスワード (User Password)

「管理者」以外でこのパソコンをお使いになる方（ご家族など）が使用するパスワードです。BIOS セットアップで変更可能な項目に制限があります。

●ハードディスク用パスワード (Drive [ドライブ番号] Password)

このパソコンのハードディスクを、他のパソコンでは使用できないようにしたいときに使用するパスワードです。ハードディスクを他のパソコンに取り付けて使用する場合に認証が必要となるため、ハードディスクが盗難にあったときなどに情報漏洩や不正使用を防止します。

■パスワードを設定する

管理者用パスワード／ユーザー用パスワード、ハードディスク用パスワードを設定する方法を説明します。

□管理者用パスワード／ユーザー用パスワードを設定する

1 BIOS セットアップを起動します。

2 「セキュリティ」(「Security」)メニューの「管理者用パスワード設定」(「Set Supervisor Password」)または「ユーザー用パスワード設定」(「Set User Password」)を選択して **[Enter]** を押します。

パスワード入力用のウィンドウが表示されます。

3 パスワードを入力します。

- ・入力できる文字種は半角英数字 (a-z, A-Z, 0-9)、半角スペース、半角記号 (〔〕〔¥〕を除く) です。
- ・入力した文字は表示されず、代わりに「■」や「*」が表示されます。

4 パスワードを入力したら **[Enter]** を押します。

パスワードの再入力を求められます。

5 手順 3 で入力したパスワードを再度入力して

[Enter] を押します。

「セットアップ通知」(「Setup Notice」)と書かれたウィンドウが表示されるか、「変更が保存されました。」(「Changes have been saved.」)というメッセージが表示されます。

6 **[Enter]** を押して、設定を終了します。

再入力したパスワードが間違っていた場合は、「セットアップ警告」(「Setup Warning」)と書かれたウィンドウか、「パスワードが一致しません。もう一度パスワードを入力して下さい。」(「Passwords do not match. Re-enter password.」)というメッセージが表示されます。

[Enter] を押して、手順3からやり直してください。パスワードの設定を中止するときは、**[Esc]** を押してください。

7 「セキュリティ」(「Security」)メニューの「起動時のパスワード」(「Password on Boot」)を「使用しない」(「Disabled」)以外に設定します。パソコンを起動したときに、BIOS のパスワードを求めるウィンドウが表示される設定になります。

□ハードディスク用パスワードを設定する

1 BIOS セットアップを起動します。

2 「セキュリティ」(「Security」)メニューの「ハードディスクセキュリティ (Hard Disk Security)」
▶「ドライブ [ドライブ番号] 用パスワード設定 (Set Drive [ドライブ番号] Password)」([ドライブ番号] には機種により異なる数字が入ります。) を選択して **[Enter]** を押します。

パスワード入力用のウィンドウが表示されます。

3 パスワードを入力します。

- ・入力できる文字種は半角英数字 (a-z, A-Z, 0-9)、半角スペース、半角記号 (〔〕〔¥〕を除く) です。
- ・入力した文字は表示されず、代わりに「■」や「*」が表示されます。

4 パスワードを入力したら **[Enter]** を押します。

パスワードの再入力を求められます。

5 手順 3 で入力したパスワードを再度入力して **[Enter]** を押します。

「セットアップ通知」(「Setup Notice」)と書かれたウィンドウか、「変更が保存されました。」(「Changes have been saved.」)というメッセージが表示されます。

6 **[Enter]** を押して、設定を終了します。

再入力したパスワードが間違っていた場合は、「セットアップ警告」(「Setup Warning」)と書かれたウィンドウか、「パスワードが一致しません。もう一度パスワードを入力して下さい。」(「Passwords do not match. Re-enter password.」)というメッセージが表示されます。**[Enter]** を押して、手順3からやり直してください。パスワードの設定を中止するときは、**[Esc]** を押してください。

■パスワード機能を使う

パスワードを設定すると、設定状態によって次の場合にパスワードの入力が必要になります。

- パソコンの電源を入れたとき
- パソコンを再起動したとき
- BIOS セットアップを始めるとき
- 休止状態からレジュームするとき

パスワードの入力を求めるウィンドウが表示されたら、パスワードを入力し、**[Enter]** を押してください。

●設定したパスワードと違うパスワードを入力すると、「パスワードが正しくありません。」(「Invalid Password」)というメッセージが表示されます。その場合は、**[Enter]** を押し、正しいパスワードを入力してください。

●誤ったパスワードを3回入力すると、「システムは使用できません。」(「System Disabled」)というメッセージが表示され、警告音が鳴り続けます。その場合は、電源ボタンを押してパソコンの電源を切ってから10秒ほど待って、もう一度電源を入れます。その後、正しいパスワードを入力してください。

□パソコンの電源を入れたときなどのパスワード入力
パソコンの電源を入れたときやパソコンを再起動したとき、BIOS セットアップを始めるとき、休止状態からレジュームするときには、パスワードの入力を求めるウィンドウが表示されます。パスワードを入力し、**[Enter]** を押してください。

□ハードディスク用のパスワードについて

ハードディスク用のパスワードを設定すると、パソコンを起動するときにパスワードの入力が必要になります。

設定状態によっては、管理者用またはユーザー用パスワードと、ハードディスク用パスワードの入力が必要になります。



- ▶ 管理者用またはユーザー用パスワードと、ハードディスク用パスワードが同じ場合は、パスワードの入力は1回になります。

■パスワードを変更する／削除する

□パスワードを変更する

設定したパスワードを変更するときは、次の操作を行ってください。

- 1 BIOS セットアップを起動します。
- 2 「セキュリティ」(「Security」)メニューで変更したいパスワード設定を選択して**[Enter]** を押します。

- ・管理者用パスワード設定 (Set Supervisor Password)
- ・ユーザー用パスワード設定 (Set User Password)
- ・ハードディスクセキュリティ (Hard Disk Security) ▶ ドライブ*用パスワード設定 (Set Drive * Password)

(*には機種により異なる数字があります。)
パスワード入力用のウィンドウが表示されます。

- 3 設定してあるパスワードを入力し、**[Enter]** を押します。

新しいパスワードの入力を求められます。

- 4 新しく設定したいパスワードを入力し、**[Enter]** を押します。

新しいパスワードの再入力を求められます。

重要

- ▶ パスワード設定時に必ず行うこと
管理者用パスワードやハードディスク用パスワードを忘れると、パスワード機能が解除できなくなり、修理が必要となります。
そのため、パスワードを設定したら、次のことを行ってください。

- ・解除する手順が書かれたこのページを印刷しておく
- ・設定したパスワードを忘れないよう、何かに書き留めておく

また、これらは安全な場所に保管しておいてください。

管理者用パスワードやハードディスク用パスワードを忘れてしまった場合は、「富士通パーソナル製品に関するお問い合わせ窓口」またはご購入元までご連絡ください。なお、保証期間にかかる修理は有償となります。

- ▶ パスワードを忘れるべくしてデータが失われます

ハードディスク用パスワードは、盗難などによる不正な使用を防止することを目的としています。これは強固なセキュリティであるため、もしもパスワードを忘れてしまうと、たとえ修理をしても、パスワードの解除や、ハードディスク内のプログラムやデータの復元ができず、これらのデータは完全に失われてしまいます。

パスワードの管理には充分注意してください。

5 手順 4 で入力したパスワードを再度入力して

〔Enter〕を押します。

「変更が保存されました。」(「Change has been saved」)というメッセージが表示されます。

6 〔Enter〕を押して、設定を終了します。

再入力したパスワードが間違っていた場合は、「セットアップ警告」(「Setup Warning」)と書かれたウィンドウか、「パスワードが一致しません。もう一度パスワードを入力して下さい。」(「Passwords do not match. Re-enter password.」)というメッセージが表示されます。〔Enter〕を押して、手順4からやり直してください。パスワードの設定を中止するときは、〔Esc〕を押してください。

Point

- ▶ 誤ったパスワードを3回入力すると、「システムは使用できません。」(「System Disabled」)というメッセージが表示され、警告音が鳴り続けます。その場合は、電源ボタンを4秒以上押してパソコンの電源を切ってから10秒ほど待って、もう一度電源を入れます。その後、正しいパスワードを入力してください。

□パスワードを削除する

設定したパスワードを削除するときは、「パスワードを変更する」の手順を最初から行い、手順4～5で何も入力せずに、〔Enter〕を押してください。

BIOS が表示するメッセージ一覧

パソコンを起動した直後に、画面上にメッセージが表示される場合があります。これらのメッセージは「BIOS セットアップ」という、パソコンの環境を設定するためのプログラムが表示しています。

■メッセージが表示されたときは

パソコン本体や周辺機器に問題があると、パソコンを起動したときにエラーメッセージが表示されます。エラーメッセージが表示された場合は、次の手順に従って処置をしてください。

1 BIOS セットアップの設定値を確認します。

BIOS セットアップに関するエラーメッセージが表示された場合は、BIOS セットアップを起動して各項目の値が正しいか確認してください。

また、BIOS セットアップの設定値をご購入時の設定に戻して再起動してください。

それでもメッセージが表示される場合は、手順2に進んでください。

2 周辺機器を取り外します。

別売の周辺機器の拡張カードや、メモリ交換可能な機種でメモリなどを取り付けている場合には、パソコンの電源を切ってからそれらを取り外し、再びパソコンを起動して動作を確認してください。

それでも同じメッセージが表示される場合には、「富士通パーソナル製品に関するお問い合わせ窓口」またはご購入元にご連絡ください。

「富士通パーソナル製品に関するお問い合わせ窓口」のご利用については、「お問い合わせ窓口のご紹介」(→P.59)をご覧ください。

3 取り外した周辺機器を、1つずつ取り付けます。

取り外した周辺機器を1つずつ取り付け、パソコンを再起動して動作を確認してください。

このとき、各周辺機器のマニュアルや、ユーティリティソフトがある場合にはそれらのマニュアルも、あわせてご覧ください。

上記のように処置してもまだ同じメッセージが表示される場合や、次の「メッセージ一覧」に当てはまるメッセージがない場合は、パソコン本体が故障している可能性があります。「富士通パーソナル製品に関するお問い合わせ窓口」またはご購入元にご連絡ください。

■メッセージ一覧

このパソコンが表示するメッセージの一覧は、次のとおりです。メッセージ中の「n」には数字が表示されます。また、メッセージは機種により異なります。

| エラーメッセージ | 対処方法 |
|---|---|
| < F1 >キーを押すと継続、< F2 >キーを押すと BIOS セットアップを起動します。 (Press <F1> to Continue or <F2> to Enter Setup または Press <F1> to resume, <F2> to Enter Setup) | 起動時の自己診断テストでエラーが発生したとき、OS を起動する前にこのメッセージが表示されます。 [F1] を押すと発生しているエラーを無視して OS の起動を開始し、[F2] を押すと BIOS セットアップを起動して設定を変更することができます。 |
| リアルタイムクロックのエラーです。日付と時刻の設定を確認してください。 (Real Time Clock Error - Check Date and Time settings) | 日付と時刻の設定値が正しくありません。 設定値を確認し、正しい値を設定し直してください。 |
| 前回の起動中にファンエラーが発生しました。 (Fan Error occurred during previous boot.) | 前回の起動時の自己診断テスト中に、ファンエラーが発生していたことを示します。 再起動してください。なお、再起動しても同じメッセージが表示される場合は、「富士通パーソナル製品に関するお問い合わせ窓口」またはご購入元にご連絡ください。 |
| ファンエラー。システムの電源が切れます。 (Fan Error has occurred) | 冷却用ファンのテストでエラーが発生したことを示しています。 「富士通パーソナル製品に関するお問い合わせ窓口」またはご購入元にご連絡ください。 |
| NVRAM データが正しくありません。 (Invalid NVRAM Data) | NVRAM データのテストでエラーが発見されたことを示しています。 再起動してください。なお、再起動しても同じメッセージが表示される場合は、「富士通パーソナル製品に関するお問い合わせ窓口」またはご購入元にご連絡ください。 |
| 起動可能なデバイスが見つかりませんでした。 (Bootable Device was not found) | 起動可能なデバイスが見つからなかった場合に表示されます。[Enter] を押すと起動メニュー (Boot Menu) が起動しますので、起動可能なデバイスが表示されているかどうかを確認してください。 起動可能なデバイスが表示されていない場合は、「富士通パーソナル製品に関するお問い合わせ窓口」またはご購入元にご連絡ください。 |

BitLocker ドライブ暗号化

Windows 10 Pro 64 ビット版は BitLocker ドライブ暗号化機能を搭載しています。この機能を利用するにパソコンのハードディスクを暗号化してデータを安全に管理できますが、修理などを行うとパソコンが起動しなくなる場合があります。

このようなことが起きないよう、BitLocker ドライブ暗号化機能をご利用になる場合には次のことに注意してください。

「回復キー」の保管

BitLocker ドライブ暗号化を設定するときに「回復キー」が作成されます。「回復キー」は非常に重要です。

- ・修理から戻って来たときに、「回復キー」の入力を求められることがあります。
- ・「回復キー」がないとパソコンが起動しなくなったり、データを消失したりする場合があります。

「回復キー」は紛失しないよう安全に保管してください。

●管理の方法の例：

- ・USB メモリなどに保存する（他のパソコンなどで参照できるようにしてください）
- ・紙に印刷する

修理をするときの注意事項

BitLocker ドライブ暗号化を設定したパソコンを修理する場合の注意事項です。

■修理前に

●「回復キー」を確認してください。USB メモリなどに保存した場合は、他のパソコンなどで参照できるか確認してください。

見つからない場合は再度作成して紛失しないようにしてください。

●BitLocker ドライブ暗号化機能を一時的に無効にするために「保護の中止」を行ってください。

■修理から帰ってきたら

●「回復キー」の入力画面が表示された場合

- ・「回復キー」を入力してください。
- ・パソコンが起動したらいったん「保護の中止」を行い、その後「保護の再開」を行ってください。

●「回復キー」の入力画面が出ない場合

- ・「保護の再開」を行ってください。

■商標および著作権について

Intel、インテル、Intel Core は、アメリカ合衆国および / またはその他の国における Intel Corporation の商標です。
Corel、Corel パルーンロゴ、PaintShop、Roxio、Roxio のロゴ、Roxio Creator、WinDVD は、カナダ、アメリカ合衆国および / またはその他の国の Corel Corporation および / またはその関連会社の商標または登録商標です。
McAfee、マカフィーは、米国法人 McAfee, Inc. またはその関係会社の米国またはその他の国における登録商標または商標です。
デジタルアーツ /DIGITAL ARTS、ZBRAIN、アイフィルター /i- フィルターはデジタルアーツ株式会社の登録商標です。
デジブックは株式会社ルクレの登録商標です。



SDXC ロゴは、SD-3C, LLC. の商標です。 ExpressCard™、ExpressCard™ ロゴは、Personal Computer Memory Card International Association (PCMCIA) の商標で、富士通へライセンスされています。

MaxxAudio は、Waves Audio Ltd. の米国およびその他の国における登録商標です。

HDMI、High-Definition Multimedia Interface、および HDMI ロゴは、米国およびその他の国における HDMI Licensing, LLC の商標または、登録商標です。

Bluetooth® のワードマークおよびロゴは、Bluetooth SIG, Inc. が所有する登録商標であり、富士通株式会社はこれらのマークをライセンスに基づいて使用しています。

Google、Google ロゴ、Android は、Google Inc. の商標または登録商標です。

その他の各製品名は、各社の商標、または登録商標です。

その他の各製品は、各社の著作物です。

その他のすべての商標は、それぞれの所有者に帰属します。

Copyright FUJITSU LIMITED 2016

LIFEBOOK

取扱説明書＜スタートガイド＞<活用ガイド＞

B5FK-8151-01 ZO-00

発行日 2016年12月

発行責任 富士通株式会社

〒105-7123 東京都港区東新橋 1-5-2 汐留シティセンター

- このマニュアルの内容は、改善のため事前連絡なしに変更することがあります。
- このマニュアルに記載されたデータの使用に起因する第三者の特許権およびその他の権利の侵害については、当社はその責を負いません。
- 無断転載を禁じます。

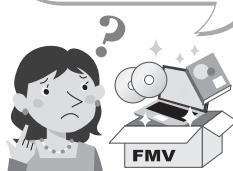
パソコン操作に困ったら、**お電話ください。**
プロがご自宅にお伺いし、解決します！

富士通パソコン出張サービス (有料)

PC家庭教師



セットアップって
むずかしそう…
やってくれないかな。



ネットにつながらない!
もしかして**ウイルス感染?**
うちに見に来てほしい



デジカメの写真、
プリントだけでなく
もっと活用したい!



パソコン基本設定 ・有線インターネット接続パック

めんどうなパソコンのセットアップは、お任せください！

17,800円(税込)～

かけつけ診断

原因がわからないトラブルも
プロが解決に導きます！

11,000円(税込)～*

ITチャレンジ

お客様の「したい」ことを
丁寧にご説明します！

14,300円(税込)～

(注)メニュー名、料金は、予告なく変更することがあります。あらかじめご了承ください。

*診断の結果、トラブル解決に必要な作業が発生した場合、別途費用がかかります。

通話料
無料

みんな つなぐよ
0120-37-2794

■受付時間：10時～19時（年末年始、当社指定の休日を除く）

■訪問時間：10時～20時（有料サービス）

*携帯電話、PHSからも通話可能です。システムメンテナンスのため、休止させていただく場合がございます。

「PC家庭教師」は富士通が提供する有料の出張サービスです。電話での技術相談をご希望の場合は、「富士通パーソナル製品に関するお問い合わせ窓口」へお問い合わせください。

PC家庭教師について、メニューの内容や価格など詳細を知りたい方は
ホームページをご覧ください。

富士通 家庭教師

検索



このマニュアルはリサイクルに配慮して印刷されています。
不要になった際は、回収・リサイクルにお出し下さい。

